

り。北の萬年塔は堂嶺の墓、南のものは... 其の夫人の墓なり。堂嶺は永祿三年越後...

その麓に没すといひ、その遺骸なりと稱... する屍骸を安置せり。〔北山原内教遺蹟〕...

【米澤盆地】 奥羽山脈西側の一盆地。一... に置賜盆地ともいふ。海拔二五〇米、南...

には、周囲より土砂を搬入する水系なき... ため自然の凹地を成し、湖底乾涸未だ全...

【米澤村】 長野縣信濃郡諏訪郡の北部... 上諏訪町の東約四軒。東は北山村、南に...

代に至る間の北方の羽後・陸奥國境山地... 秋田の杉の美林地帯に發する岩瀬川・...

その本堂は桁行七間、梁間七間、四柱造... 本瓦葺の大字にして、室町時代のもの...

紫に赴き、この地に頓死せるをこの森に... 葬る。彼のなきげをかけし女、慕ひ来り...

【米澤寺】 大字上ノ庄にあり。曹洞... 宗。草創年次不詳。阿彌陀如来坐像一軀...

【米田村】 兵庫縣播磨國加東郡の中央東... 偏。社町の東北隅に接す。北・東・南の三...

【米田村】 熊本縣肥後國鹿本郡の中央西... 偏。菊池川中流の左岸に沿ひ、北境中央...

【米之庄村】 三重縣伊勢國一志郡の東部。松阪市の西北... 約一軒にあり、東南部は飯南郡に界す。

【米山村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北... 隅。柿崎町の東北に接し西北は日本海に...

【米丸】 石川縣石川郡にありし村。昭和十年に金澤市に編入す。

【米田村】 兵庫縣播磨國加東郡の中央東... 偏。社町の東北隅に接す。北・東・南の三...

海岸は断崖をなし、奇巖形勝に富む。東南境の米山丘陵に出づる三小流ありて流域に多少耕地を見るも他は概ね山林をなす。米・満の産あり。海岸集落は漁業に、山地の部落には林業行はる。越後油田の南西端部に属し、二三の石油鑛區ありて現在のところ何れも振はず。又夏季は東北海岸の青海川海水浴場を以て賑はふ。北陸道及び省線信越本線を以て海岸を走り、後者の鉢崎驛(明治三十年設置、青海川驛(明治三十二年設置)を置く。この地は藩政の頃、關橋設けられ、高田侯の番所ありき。もと鉢崎といふ。大字上輪は北陸街道にかゝり、その山中に龜坂といふ大切所あり。即ち上杉謙信が一族の政を破りたる所とす。この地は古くより「行こまららんしよか米山の妻師ひとア身のためサメのしのため」の米山甚句を以て著名なり。靈峯米山は消火山にして圓錐形を成し標高九九三米、高からざるも海岸に直ちに聳立せるを以て夙に名高し。山頂に謂ゆる米山薬師あり。泰澄大師の遺蹟を説す。長くも明治天皇には明治十一年北陸東海道御巡幸の御この地にて御小休遊ばさる。宛裏紀行「あくれば米山へ志しぬ、蓋々とよち上りて、絶頂より瞻望するに、煙水茫茫として山また天涯に連る『雲のはのきゆければ山もかさなる波の千里に秋かぞぞ吹く』漸うよろほひ下り侍るに、雲の底に舊寺の鐘の聲埋れ消えて夕の雨もいと身にしみかへり、打拂ひゆく袖も

しほたるれば、漸う麓の旅館に蘇息し侍れども、あくる夜の空さへ残雨なほ晴うして、また立出侍る。東遊記「北地の人越後を二つに分ち、上越後、下越後といふ、上越後は高田領糸魚川領等をいふ、其東に米山といふ高山ありて、其西の麓に關所あり、其所を鉢崎と云、糧米山といふは登り下りにて三里の山にて、此あたり第一の高山なり、誠に越後を二つに分けたる山也、此山高しといへども奇妙の山にて、山上七八分までも山中に田作して水かゝりよしと也、故に米山と名付ると云、余は只通り道一筋の事にて、山中に入らざれば、委しきことば見及ざりしかど、高山にて米穀の生ずるは珍敷事也、西國にては肥前の雲仙嶽、三里登りて絶頂に水田ありて農家あり、其外はいまだ聞ざることなり、誠に是等をや賣山といふべき。〔明治天皇の青海川行在所〕指定史蹟。明治十一年北陸東海道御巡幸の際、九月十三日及び還幸の御同月二十四日御養養を召されたる處にて舊規模よく保存せらる。〔明治天皇上輪新田御小休所附貯水〕指定史蹟。天皇上輪新田にあり。明治十一年北陸東海道御巡幸の際九月十三日及び、還幸の御同日二十四日御小休所となりたる處にして、舊規模よく保存せらる。附近に御貯水の泉あり。〔胞脈神社〕村社。祭神、譽別別尊・息長足姫尊外二神。俗に源義経没落の時、夫人此處にて産胞衣を埋むと傳へ、安産を祈る者多し。〔大泉寺(大清水観音)〕

大字大清水にあり。新義源宗豊山。東山と號し、俗に大清水観音といふ。白鳳元年泰澄の草創。永祿二年雷火に炎上せしむる爲景これを復興す。天正七年上杉景勝出羽米澤移封の初、寺僧多く之に従ひて寺運衰へしも、著名なる觀音靈場とし賽者多し。本尊觀世音菩薩。觀音堂は岡寶。城内に名木燈籠あり。ヨノ 與野町 埼玉縣武蔵國北足立郡の南部。浦和市の西北隣、大宮町の西南隣にあり。荒川は西方約三軒の所を南流し、全町平地にして畑地多く、一部水田をなす。農業行はれて、米・麥を産し、養蠶も盛なり。また製糸業盛にて、生糸の産額大なり。縣道よく發達し浦和市・大宮町等に通じて交通便なり。省線東北本線は東北部をかすめて北走し、與野驛(大正元年設置)は浦和市内にあり。主要集落は町の中央に發達す。古くは和名抄足立郡種田郷の内とす。近世、民戸密集して小市街を成し、附近諸村を總べて與野郷と稱せしものゝ如し。城内に與野公園ありて樹樹頗る多し。その老木は享保年間、大和の吉野より移植せしものにして、稚木はその後に補植せしものとす。〔與野の大榎〕指定天然記念物。日通幹圍約七米、主幹は地上・七米の處より二支幹に分れ樹勢旺盛、榎の巨樹として有数のものなり。ヨノズ 米納津村 新潟縣越後國西蒲原郡の中央南部。吉田町の東に接し、大通川東部を北流し全村肥沃なる

田野をなす。米の主要なる産地なり。南北・東西に貫走する縣道村内に交錯し、省線越後線の吉田驛及び彌彦線の燕驛に近くバスの便あり。ヨノズ 米水津 大分縣豊後國南海部郡の東部。佐伯町の東約八軒。東は海に臨む。北部は長く東に突出して鶴見崎となり、南にまた丸研ノ鼻の斗出ありて中央に一灣を抱く。村内には山岳起伏して海岸に向ひて急斜し海崖をなすところ多し。地形上農業を行ふもの少なく住民は専ら漁撈に従事す。西隣の本立村にはバスの便あるも概して陸上交通は不便にして、概ね船便による。〔粟島神社〕大字小浦字本小浦に鎮座。郷社。祭神、大名持神外一神。社傳に據れば村上天皇貞治五年の創建なりと。例祭、十月十一日。ヨノモリ 夜ノ森 省線常磐線の一驛(大正十年設置)。福島縣雙葉郡上岡村本岡にあり。ヨビツキ 呼嶺 愛知縣愛知郡にありし町。大正十年名古屋市に入る。ヨビト 呼人 北海道北見國網走郡網走町の大字。省線網走本線の呼人驛(大正十三年設置)を置く。ヨビマツ 呼松 岡山縣児島郡にありし村。明治三十七年外二箇村と共に廢されて福田村を置く。ヨフコ 呼子町 佐賀縣肥前國東松浦郡の北部。東松浦半島の北端に位置して玄海灘に臨み、海岸に沿ひて東西に稍々

長く、南西の加部島・小川島等を含む。全村丘陵地にして、中部には北方より約一軒ばかり南方へ突入する狭長なる小灣あり、市街地は其東岸に並び、一軒たらずの西北海上に横はる俗塵を離れたる神仙境の加部島に對し、こゝに呼子港が發達し、湖水の如く美しき海に臨める有名な漁港なり。東隣の溝村には七ツ釜の奇勝あり。其附近の土器時より呼子港に至る三海里の沿岸は又すばらしき玄武岩の峭壁が連りて一壯觀をなす。北方海上には白鳥・鷹島(燈臺あり)等を隔てて小川島・平瀬・屋形瀬等が横はる。西部は隣村との間に南方へ深き切りこみをなせる名古屋浦に面す。呼子港は捕鯨の中心地にて鯨の軟骨を粕漬にしたる名産「松浦漬」の本場は即ち此地なり。麥・米・滿等の農産もあり。東南方の唐津市より呼子港へ縣道通じ自動車の便あり。近海路線汽船出入し海路交通便なり。海底電線は豊岐・對馬へ通ず。昭和三年に町制を布く。呼子港は支那圖書編に肥前州雄姿哥とあるは、この呼子港が事なり。また國花萬葉記に呼名の浦とあるもこれとす。古來、良港として知られ、内外航路の要衝に當れり。吉野朝時代に九州探題、今川了俊の弟仲秋は兵船を率ゐて肥前に進入すべく上陸せしこの地なり。その他日本砂路記・海路記・江海風帆草・名處小鏡・海東諸國記などにも呼子の名は記され、海路記には「松浦呼子は日本第一の港なり、上下の舟東西の風に出帆する

に、何れの海よりも勝れたり云々」と見ゆ。〔田島神社〕加部島に鎮座。國幣中社。祭神、多紀理毘賣命・市杵島比賣命。多岐都比賣命。延喜の制式内名神大社に列す。然し祭神は三座なれど式には一座とす。蓋し三神中何れか一神を主祀せるものならんも今詳かならず。創建年代は詳かならざるも、田島神社由緒書に「祭神湯津姫尊、田心姫尊、市杵島姫尊、相殿稚武王命・大山祇命(中略)、田島大明神と申奉るは、天照大神宮の御弟、素戔鳴尊御子三女神、神代より鎮り坐すに依りて姫神と稱し、異國降伏の爲、西北に向ひ鎮座し給ふ」とあり。神名帳頭注・和漢三才圖會等に當社祭神を稚武王とせるは、相殿と混同したるものなること勿論にして、社傳に據れば、聖武天皇天平三年の配祀に係る。歴代天皇の崇敬厚く源滿仲亦深く崇敬し祭田を寄進せしが、其子頼光肥前守に任ぜられて當國に下るや社殿を造營し石鳥居一基を建つ。當時の石額いま尚ほ存し田島の二字は佐理卿の筆なりといふ。また豊臣秀吉征韓の役を起すに際し數度參拜し神領百石を寄進せり。社寶中太刀(銘、備中國住人吉次)は國寶なり。例祭、九月十六日。ヨベツ 余別 北海道後志國後志支廳積丹郡の西部。積丹半島の西北端に位置し、西及び北は日本海に面す。東は入舂村、南は古宇都に接す。面積八三・八一平方軒。村内悉く山地に蔽はれ、東南境に余別岳

(一・二九八米)、西南境に瑞内岳(一〇九一米)等聳え餘々に海岸に向つて傾く。余別川・梶内府川等山間を北流し海に注ぐ。河口に余別港ひらけ、沿岸に小耕地存す。北海岸は小屈曲ありて漁業集落をなす。西北端の神威岬は日本海中に突出し燈臺あり。近海は柔魚・鱈等の産地なり。準地方道海岸を走り、省線函館本線余市驛(バスの便あり。松浦氏地圖にこの地をレホナイと載す。即ち三支川の義なりと。〔大網津見神社〕大字東岸に鎮座。郷社。祭神、大網津見命。明治三年の創立にして、地方の總鎮守とせらる。例祭八月五日。ヨボト 四保戸 大分縣北海部郡にありし村。明治二十五年に廢されて、新たに保戸島村・四浦村を建つ。ヨボノ 丁野 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に淺井郡丁野郷あり、與保乃と訓す。その地今の東淺井郡小谷村の邊に當り、大字丁野はこの遺稱なり。ヨホロ 與保呂 京都府加佐郡にありし村。昭和十三年に中舞鶴町・新舞鶴町・倉梯村・志樂村と共に東舞鶴市を新

置す。ヨニ 夜見 鳥取縣伯耆國西伯郡の西部。夜見ヶ濱半島中部にあり、東は米子市に隣り、西は富益村に、南は彦名村に界し北は美保灣に面す。日野川デルタの西北方に延びたる夜見ヶ濱半島の砂濱地を占め、南部に米川貫流す。北岸は低平單調なる海岸線をなし砂松林あり。全村農業盛にして水田耕作よく行はれ、また桑園發達し繭の産多し。中央部を東西に境街道・省線境線貫しその北側に街村開く。村名はこの地古く一島を形成し夜見島と稱せしより起るといふ。ヨニク 夜見ヶ濱 鳥取縣の西北端に突出する砂嘴。之に依りて中海と美保灣を距つ。尖端に開港場あり、基脚部には米子市あり。地形的成因は、中國山地と島根半島との間に、東西に長き突進湖地溝帯あり、そこに日野川の運搬せる土砂が、東より西に流るゝ沿岸潮流により搬ばれ、こゝに形成されしものなり。砂嘴上に松林の列状をなす地點は、天橋立と類似せるが、砂嘴の幅廣きため景觀を異にす。砂嘴の方向に沿うて、中央に人工灌漑用水路を通じ、若干の水田化を行ひ、二列の砂丘および砂堆によりて二列の集落列決定せられ、畑地の利用として最も卓越す。ヨミカキ 讀書村 長野縣信濃國西筑摩郡の南部。木曾谷にあり。村の中央を木曾川流れ、東は下伊那郡上飯田町、

南は香妻村・田立村、西は岐阜縣惠那郡川上村、北は大桑村なり。木曾谷の南端坂下町(西南約六軒)にして達す。村の東部山地は木曾山脈の南木曾岳(一六七七米)・掛古木山(二二六九米)・高曾根山(一一一九米)等聳立し、木曾川の西部は飛騨山脈の南部にして奥三界岳(一八一

ヨミス 譽水村 香川縣讚岐國大川郡の北部。三本松町の背後にあり、北は丹生村及び瀬戸内海に對し、東は白鳥村に界す。西及び南は三十四百米の丘陵連なりして起伏し、西北部にも丘陵峙ちて何れも中央に傾斜し低地をつくる。北東部は平坦にして海岸は單調なる砂浜地をなす。用水池ありて灌漑を助く。低地は農業を營み米・麥を産したる穀類・菜菔盛なり。丘陵は畑草を産す。沿岸には漁業行はる。東北部に省線高徳本線及び縣道東西に貫通し二本松驛は約二軒。和名抄、大内郡與泰郷の内にして村名は郷名の遺稱なるべし。大字水主に延喜式内記、大内郡水主社あり。虎丸城址は虎丸山上にあり、水主社丹後守元勝の要害なり。元勝は讚岐朝臣の族にして、世々大内・赤川二郡を領し、永正の初めは大内義興に屬す。(水主神社)大字水主にあり。神社、祭神、倭迹迹日百襲命。式内社。神位、天慶三年正五位下。もと大水主大明神と稱す。例祭、十月十五日。

ヨミタンザン 讀谷山村 神懸縣琉球國中頭郡の北西端。北谷村の北に隣り、北東は國頭郡恩納村の西南部と界し西より北西一帯は海に面す。面積三七方軒餘。隆起珊瑚礁より成る丘陵性臺地に於て、東南部には比呂川流れその川筋より南西部には低平の地帯あり。北西部は半島狀をなしその先端は突出して斷崖峭立する殘波岬となり、古來風波荒く帆船の難所として知らる。甘藷・甘蔗・米その他農産あり。郡名、名護間の縣道中部を南北に通じ、縣警署の縣道中部は南境に近く交通不便ならず。中央部の崖喜味集落は村の主邑にして、その北方一軒餘の丘上に護佐丸盛春の居城たりし座喜味城址あり。

ヨモキ 蓬峠 土樽越とも云ふ。上州より越後に至る山道にして、群馬縣利根郡水上村と新潟縣南魚沼郡土樽村との境上に最高點を置く。清水越の一分岐路にして、水上村土合にて清水越路より分れ利根川上流湯掛川に沿ひて北走し、武館の西方高地にて清水越路に交叉し、再び分れて北登し、七ヶ小屋山(一六七五米)の南西鞍部にて上越國境清水山塊を越え、それより北西方に降り、遂に土樽村中里驛に達す。この峠より南方茂倉岳(一九七八米)・谷川岳(一九六三米)への巖走は興味深し。近時この附近のスキーアに備へ、峠の中腹に多くのヒュッテ建設せられ、スキーヤー集ひ來る。

ヨモキ 蓬田村 青森縣陸奥國東津輕郡の西北部。津輕半島の東斜面に屬し、青森市より西北約二〇軒、西は北津輕郡に隣接し、東は青森灣に面す。七城に持腰岳(六二八米)・大倉岳(六七七米)聳え東方に傾斜し、東部は海に面して平坦なり。北より小川平澤・蓬田湖・阿彌陀川は各西部に發して東流し、青森灣に注ぐ。村の生業は農業・水産業を主とし米・馬鈴薯・魚類等を産し、他に木材の産あり。道路は海岸を南北に通じ南方青森市へはバスの便あり。また林用機關軌道南北に通ず。

ヨモキ 代々木 東京府澁谷區の地名。代々木町以下十町に分る。代々木練兵場あるを以て知られ、明治神宮の神域もまた代々木に屬す。地名の起原をなす大木の枯死せるものが參照に存す。大東京市實現以前は西に隣る幡ヶ谷と合併して代々幡町と稱し、豊多摩郡に屬せり。省線山手線の代々木驛(明治三十九年設置)は澁谷區千駄ヶ谷大谷戸町にあり。

ヨモキ 嫁島 東京府小笠原島の舞島諸島に屬する一島。舞島の南に位し、東西約二軒、南北は之より長く、周圍約

ヨモキ 寄島町 岡山縣備中國境口郡の西南海岸。水島灣に南面し、北に六條院町、東に黒崎村、西に大島村を接す。面積六・六八平方軒。地形海岸に沿うて東西に延び、南北に短し。北境を山脈連りて龍玉山(二九〇米)聳ゆ。町内概してその斜面地に屬し、山地多きも、南方に低くなり、河岸に平地を有す。市街地は海に面し東西に伸び、前面に寄島・三郎島浮ぶ。米・麥・繭・生絲・海苔・酒類等を産す。縣道貫通し省線山陽本線鴨方驛に近く、自動車の便あり。明治三十四年町制を布く。(龍城院)天台宗。福井山寺と號し承和五年圓仁の開創。初め境内西方高丘上にあり後焚上せしを現地に再興す。現に二千餘の檀家を有し近郊の巨剎たり。

ヨモキ

ヨモキ 蓬田村 青森縣陸奥國東津輕郡の西北部。津輕半島の東斜面に屬し、青森市より西北約二〇軒、西は北津輕郡に隣接し、東は青森灣に面す。七城に持腰岳(六二八米)・大倉岳(六七七米)聳え東方に傾斜し、東部は海に面して平坦なり。北より小川平澤・蓬田湖・阿彌陀川は各西部に發して東流し、青森灣に注ぐ。村の生業は農業・水産業を主とし米・馬鈴薯・魚類等を産し、他に木材の産あり。道路は海岸を南北に通じ南方青森市へはバスの便あり。また林用機關軌道南北に通ず。

ヨモキ 代々木 東京府澁谷區の地名。代々木町以下十町に分る。代々木練兵場あるを以て知られ、明治神宮の神域もまた代々木に屬す。地名の起原をなす大木の枯死せるものが參照に存す。大東京市實現以前は西に隣る幡ヶ谷と合併して代々幡町と稱し、豊多摩郡に屬せり。省線山手線の代々木驛(明治三十九年設置)は澁谷區千駄ヶ谷大谷戸町にあり。

ヨモキ 嫁島 東京府小笠原島の舞島諸島に屬する一島。舞島の南に位し、東西約二軒、南北は之より長く、周圍約

ヨモキ 寄島町 岡山縣備中國境口郡の西南海岸。水島灣に南面し、北に六條院町、東に黒崎村、西に大島村を接す。面積六・六八平方軒。地形海岸に沿うて東西に延び、南北に短し。北境を山脈連りて龍玉山(二九〇米)聳ゆ。町内概してその斜面地に屬し、山地多きも、南方に低くなり、河岸に平地を有す。市街地は海に面し東西に伸び、前面に寄島・三郎島浮ぶ。米・麥・繭・生絲・海苔・酒類等を産す。縣道貫通し省線山陽本線鴨方驛に近く、自動車の便あり。明治三十四年町制を布く。(龍城院)天台宗。福井山寺と號し承和五年圓仁の開創。初め境内西方高丘上にあり後焚上せしを現地に再興す。現に二千餘の檀家を有し近郊の巨剎たり。

ヨモキ

ヨモキ 蓬田村 青森縣陸奥國東津輕郡の西北部。津輕半島の東斜面に屬し、青森市より西北約二〇軒、西は北津輕郡に隣接し、東は青森灣に面す。七城に持腰岳(六二八米)・大倉岳(六七七米)聳え東方に傾斜し、東部は海に面して平坦なり。北より小川平澤・蓬田湖・阿彌陀川は各西部に發して東流し、青森灣に注ぐ。村の生業は農業・水産業を主とし米・馬鈴薯・魚類等を産し、他に木材の産あり。道路は海岸を南北に通じ南方青森市へはバスの便あり。また林用機關軌道南北に通ず。

ヨモキ 代々木 東京府澁谷區の地名。代々木町以下十町に分る。代々木練兵場あるを以て知られ、明治神宮の神域もまた代々木に屬す。地名の起原をなす大木の枯死せるものが參照に存す。大東京市實現以前は西に隣る幡ヶ谷と合併して代々幡町と稱し、豊多摩郡に屬せり。省線山手線の代々木驛(明治三十九年設置)は澁谷區千駄ヶ谷大谷戸町にあり。

ヨモキ 嫁島 東京府小笠原島の舞島諸島に屬する一島。舞島の南に位し、東西約二軒、南北は之より長く、周圍約

ヨモキ 寄島町 岡山縣備中國境口郡の西南海岸。水島灣に南面し、北に六條院町、東に黒崎村、西に大島村を接す。面積六・六八平方軒。地形海岸に沿うて東西に延び、南北に短し。北境を山脈連りて龍玉山(二九〇米)聳ゆ。町内概してその斜面地に屬し、山地多きも、南方に低くなり、河岸に平地を有す。市街地は海に面し東西に伸び、前面に寄島・三郎島浮ぶ。米・麥・繭・生絲・海苔・酒類等を産す。縣道貫通し省線山陽本線鴨方驛に近く、自動車の便あり。明治三十四年町制を布く。(龍城院)天台宗。福井山寺と號し承和五年圓仁の開創。初め境内西方高丘上にあり後焚上せしを現地に再興す。現に二千餘の檀家を有し近郊の巨剎たり。

ヨリソ 寄磯崎 宮城縣牡鹿半島の中央東方に突出する一牛島。北方の女川浦と南方の野々濱浦とを区分し、標式的キヤス式海岸の地形を示す。崎の沖合に足島・江ノ島・貝島等の江ノ島列島あり。牛島と地質を異にして始原層より成る。江ノ島は海猫の群棲地として有名にして、また舊幕時代の漁人島なり。孤島として特殊なる風俗を残す。

ヨロイ 鏡

【鏡】 兵東縣城崎郡餘部村の大字。省線山陰本線の鏡驛(明治四十五年設置)を置く。

【鏡岳】 松阪市の西方約四〇軒前後、奈良縣宇陀郡曾爾村に峙ち標高八九三米。噴出岩より生成せられ、巨大なる岩塊の山にして、側面の岩壁は三段の柱状節理の縱溝を織出し、恰も鏡の成し目の如くに見ゆるにより山名出づ。この岩壁上に金盞神社の社殿あり。福徳利財の神として地方の人の信仰厚し。この山の北方兜岳(九二〇米)と同型なるを以て兜岳を唯岳、鏡岳を唯岳ともいふ。

ヨロイ 鏡郷村

【鏡郷村】 香川縣木田郡庵治村の屬島。五劍山半島の突端、御殿の北方二軒の海上にあり、東に稻木島、北に兜島、西には大島(龜嶽所あり)、これ等の諸島は屋島、或は五劍山上よりの展望に景趣を添ふ。周囲約一・五軒、高さ四二米。

ヨロイ 鏡郷村

【鏡郷村】 新潟縣越後國西蒲原郡の中部。鏡海の北岸を占め東北を曾根町に西南を巻町に挟まる。

ラ

ライ 内社

【ライ内社】 臺灣高雄州潮州郡の番社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイラン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ 雷山

【ライ 雷山】 雷公計島 千島列島中部の活火山島。南は古老仁海峽を隔てて松輪島に、東北は牟知海峡を隔て、牟知列島に各々對す。北緯四八度一七分、東經一五三度一五分に位し、直徑二・五軒、規則正しき圓錐火山(海拔五五一米)にして山頂に直徑五〇〇米の摺鉢形火口を有す。最近に於ては大正十三年に噴火す。

ライゴージ 來迎寺村

【ライゴージ 來迎寺村】 新潟縣越後國三島郡の東南部。信濃川と澁海川の會流點の三角地帯を占め、東は信濃川を境に古志郡に界し、長岡市の西南約八軒の地なり。西南隅僅かに傾斜地ある外、土地一般に平坦にして沃田多し。信濃川は東境を網流し、澁海川は西境より北へかけて曲流し東北隅にて會流す。主産物は米にして藪を副産す。省線信越本

ライ—ライテ

全村平地にして西川は村内を北へ貫流し沃田開かる。米を主産し、鏡海には養魚行はる。略南北に省線越後線貫流し、越後曾根驛(大正元年設置)を置く。曾根・巻町間には縣道通じバスの便あり。

ヨロイ 與論

【與論村】 鹿兒島縣大隅國大島郡奄美群島の南端の與論島を占む。東西六軒餘、南北約五軒の島にして中央は丘陵地をなし四周に稍々低地あり。海岸は稍々屈曲し西部には一牛島突出し北に赤佐港、南に供利港あり、四圍に珊瑚礁を繞らす。米・麥・菓等の農産及び林産・畜産・工業あり。また水産もあり。人口密度は三九四人なり。交通は赤佐港東岸の茶花を主とし、沖水良部島と交通す。(高千穂神社)大字足戸に鎮座。郷社。祭神、天津彦火命・杵尊。明治三年の創建。例祭、九月十九日。

ヨワラ 榎原村

【ヨワラ 榎原村】 宮崎縣日向國南那珂郡の中部。飯肥町の西南方にて、東は細田、南は南郷、西は大東、北は酒谷の諸村に接し、南北に長く約十軒、東西は約四軒あり。南那珂山塊の中部にて西北境に近く男鈴山(七八三米)、西境上に鹿久山(四八五米)、西南界に御取山(三六七米)等あり、東方に傾き概れ山地草野なるも、南部と北部とに小低地ありて多少の耕地拓く。省線志布志線は村の南部を東西に走り榎原驛(昭和十年設置)を置く。戦國時代以前よりこの地一帯を飯肥

ライサン 雷山

【ライサン 雷山】 福岡縣筑前國糸島郡の南部。前原町の南に接し、南に長く延びて南境は山脈を隔てて佐賀縣小城郡に界す。南境には春振山塊の一峯雷山(九五五米)聳えて北へ傾斜す。西部には之より延びる丘陵連る。東部北半は低平なる廣き平野をなす。田畑よく拓けて米麥を産し、山地は薪炭を供給す。前原町へバスの便あり、古くは和名抄、怡土郡雲治郷の地にや。村名は蓋し雷山に因みしものか。

【雷山神籠石】 指定史蹟。雷山觀世音の西方にあり、筒城と呼ばれる。雷山後山および筒原より長糸村飯原等に亘りて、山腹に南北に長く不規則なる輪廓を描きて列石あり。この内に取圍まれたる盆地の上下二箇所に水流を挟み、大きな形状は高良山に在るものと殆ど同形切石の列石にて、密接して直線狀に並列す。上流の山頂に近く存するは長さ約二七米、下流に存するは約七八米あり、列石の中央に存する水門は、上流の方は既に大部分破壊せられたるが、下流の水門は左右に連る列石と共に、築造當時の遺構を良く存し、高さを異にせる大小三箇の水門は儼然たる石壘の間に構築せられ、溪水これより奔流し、水流の排出を調節する構造

郷といひ、永祿年間より飯肥藩伊東氏の領地となれり。明治に至り飯肥南郷の一部を割きて本村を建つ。(榎原神社)郷社。祭神、大日靈貴尊・天忍穗耳尊外數神。舊稱、榎原山大權現。例祭、十月九日。

等よく見らる。(雷神社)大字雷山にあり。縣社。祭神、火雷神・彦火・出見尊外三神。古來この地は大足姫命の神蹟なりと傳へ、上下の崇敬を蒙む。殊に舊藩主黒田家は社地若干を寄進せりといふ。例祭、陰曆九月十六日。(大慈王院)古義眞言宗。千如寺と號す。高野末。俗に雷山觀音と稱す。聖武朝以前の草創。醍醐天皇以來歷朝の勅願寺なり。源賴朝は怡土庄を寺領として寄せ、北條・足利二代また深く歸依す。豊臣秀吉・小早川隆景・黒田氏等みな朱印を寄す。千手觀音立像・清上人立像は國寶。

【雷山】 筑紫山脈春振山塊の一峯。主峯春振山(一〇五五米)の西方約一四軒に當り。北面は福岡縣糸島郡雷山村に、南面は佐賀縣小城郡北山村に屬す。標高九五五米。往古、山頂に雷電の神を祀ると云ひ、いま山麓に縣社雷神社鎮座す。山上部は草地にして眺望に勝れ、高さ二米程の巨岩あり、遠見岩と稱す。神功皇后は應神天皇の皇居の地を相し給はんとてこの山頂に立ち給ひ、箱崎の地を御治定ありたりと傳ふ。山腹に神籠石あり、北麓に大慈王院あり、この山は古へ佛教の靈場として盛なりしと云ふ。今は冬季スキー場として知らる。登山は北方の糸島郡前原町より自動車にて雷山村三坂部落に至り、更に四軒にて山麓に宿し、ついで神社を經て達す。

ライジョー 來城面

【ライジョー 來城面】 朝鮮黄海道海州郡の東部。郡邑海州の東南方約一

五軒。地は東西に長く約一〇軒、南北は約五軒あり。御史川東境を劃し、北境は把川により泳泉面に界し西方と西南方は海州灣に面す。謂ゆる海州沃野の一部を成し、地味肥沃なるも灌溉水利充分ならざれば水田・畑地相半ばす。住民は農を主業とし沿海の梧風里・八鶴里等にては牛農半漁なり。産物は米・小麥・大豆・大麥・小豆・粟等にて其他に梨・栗等の果實、鶏卵・蕎麥等あり。木産物に石首魚・鱈・鰻・鯛・鱈・貝類・食鹽等を主なるものとす。社線朝鐵黃海線と開城より来る二等道路は北境近く海州邑に向ひ西方に並走し、前者に來城驛(昭和六年設置)あり。本面より泳泉面・秋花面に亘る地域は鶴の渡來するもの多く、海州鶴渡來地として、天然記念物に指定せらる。

【ライチシ 來知志湖】 樺太の西海岸の鶴城山の西南にある鹹湖、面積四五・九八平方軒、湖岸は三四・七七軒。深度は三・七米あり。

ライハイ——ラクシ

ライハ 禮羽村 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の中。加須町の西隣にて、北は不動岡町と隣し、面積二・九九平方軒の小村なり。全村平地にして南は水田をなし、北は畑地をなす。農業行はれて米を主産し、藁の産も多し。藁道は北部を横走して加須町と西方の忍町方面に通じ自動車便あり。社線東武鐵道伊勢崎線は中央を西北に走るも、村内に隣なく、加須驛に近し。

ライハイ 禮拜 新潟縣刈羽郡内郷村の大字。省線越後線の禮拜驛(大正二年設置)あり。

ライファン 社 臺灣高雄州屏東郡の蕃社。隘寮北溪の上流右岸の山地にあり、標高約一〇〇〇米、高砂族の部落にてバイラン族に属す。戸數五四、人口三〇八(昭和十二年末)。

ライマ 來馬嶺山 黒松内村(北海)道。

ラウシ 良牛山 千島火山帯に属する一火山。北海道本島の東北端、根室・北見の國境をなせる知床半島の分水嶺に聳ゆ。コニーテ型を呈し海抜一六六一米、その東南麓に羅臼の部落あり。

ラウス 羅臼村 北海道根室國根室支庁日東郡の北部。知床半島東南部を占め、根室海峡に東面す。西は北見國、南は標津村に接す。面積四〇〇・一九平方軒。地形南北に細く伸び、知床半島南麓山脈南北に西境を歴して羅臼岳(一六六一米)・遠音別岳(一三三一米)を屹立せしむ。

の穀類も大なり。住民は多く農業を主業とし、傍ら養蠶・採薪・製炭を行ふ者あり。物産の主なるは大豆・粟・稗・大麦・米・麻・燐草等にして、また明輪の産あり、蠶産も出す。道路は郡邑伊川より来る三等道路に城内中部を横斷して西部黄海岸との境に近き主邑支下里に達し、バス通ずるも交通一般に便ならず。葉落は渓谷に沿ひて發達し、支下里に陰曆二・七の日に開く市場あれども、その位置山間に偏在せるを以て商圏頗る小にして取引頗大ならず。

ラクセー 洛西面 朝鮮慶尙南道宜寧郡の東北隅。郡邑宜寧の東北方約二五軒にあり。洛東江の蛇曲部を占め、北東境及び東南境は洛東江を以て昌寧郡遊漁面・南面と相對す。花崗岩の露巒による老年期の丘陵地帯を成し、緩斜面を開墾して、耕地よく發達す。ただ河岸を除く外は灌溉の利に乏しく畑作農業卓越す。住民は一般に浮朴にして農業を主なる生業とす。産物は米・大豆・大豆、其他の穀穀および棉等にして、東部の河岸地帯に於ては棉を原料として製紙業の行はる。葉落は丘陵の麓に多く分布す。洛東江には水運の便あるも、城内の道路は何れも里道にして、交通は概して不便なり。

ラクセー 樂生面 朝鮮京畿道廣州郡の西南部。廣州邑の西南方約一五軒。全城三四〇〇米の丘陵性山地を成し、東部には漢江支流の炭川北流し洛岸

ラクセー——ラクト

しむ。村内概し高峻なるも海岸に於て稍低くなり狭長なる平野を有す。海岸は出入乏しきも葉落概し此處に集り漁業を營む。特産に大鯿・昆布・蟹・鮭・鱒・鱈の産あり。中部山中の羅臼川上流の河畔に羅臼温泉あり。南海岸に準地方道通じ自動車便あり。また羅臼港は根室港に定期航路を有す。昭和五年に植別村を改稱す。植別村は安政年間既にあり、明治九年、藤田四郎兵衛なるもの渡來、漁業を營みたるを以て開發の端をなす。

ラクシ 羅漢

【羅漢山】 廣島市の西方約三六軒に當る山にして、西面は山口縣玖珂郡秋中村・高根村・本郷村に、東面は廣島縣佐伯郡四和村に属す。標高一〇九米。冬季山腹の廣大なるスロープは廣島附近隨一のスキー場となり、夏季も登山に適し、來り遊ぶ者多し。

ラカンガイモン 羅漢外門 臺灣高雄州高雄郡旗山郡の舊里名。旗山街の中、楠梓仙溪西岸の流域全部と、その北に接する内門庄の葉子坑・溝坪二大字を合したる地域に相當す。清領時代に建てられ、我が領臺後も依然これを襲用せしが、大正九年、地方制度改正により廢せらる。

ラカンナイモン 羅漢内門 臺灣高雄州旗山郡の舊里名。内門庄の東北部にて葉子坑・溝坪二大字を除きたる偏餘

は灌溉の利に富み水田よく發達すも、西部は灌溉不便にして主に畑作農業行はる。氣候は概して寒暑共に酷烈にして晝夜寒暖の差大なり。住民は農を生業とすれども生活一般に豊かなり。産物の主なるものは米・小麦・大豆・生牛皮・薪炭・燐草等にして、また砂金の産あり。京城より来る三等道路は面の東部を南北に縱走し、南方の社線京東鐵道新葛驛へバス通ずるも、其他は何れも等外路線にして交通概して便ならず。葉落は東部に多く分布し、北部の板橋里に面事務所を置く。

ラクトー 洛東

【洛東江】 朝鮮慶尙南北道を流る、河。朝鮮半島部に於ける第二の長江にて、その上流は禮安江と稱され、源を江原道三陟郡の大白山(五四九米)と、大徳山(三〇四米)との間に發し、慶尙北道奉化郡を経て安東郡内を南北に縱貫し、安東邑を中心にして求心的に支流半邊川・吉安川・眉川その他の諸流を併せて深入蛇曲流をなして西流し、更に咸昌附近にて再び求心的に乃城川・眞江・淵川等の諸流を合せ河幅大に、水量愈々加はり流路を南に轉じ、洛東里に至り始めて洛東江と稱され、善山・俊館を経て大邱盆地に入り、東方より来る琴湖江を合せて南流し、慶尙南道に入り、昌寧西方に於て黃江を合せ、南面に至りて西南方より来る南江の支を併せ流路を東方に轉じ流る、こと凡そ四〇軒、三浪津に於て

の地域に相當する地。清領時代に立てられ、我が領臺後もこれを襲用せしが、大正九年地方制度改正に廢せらる。

ラカンモン 羅漢門 臺灣南部、東

は楠梓仙溪(下淡水溪の一大支流)を以て境を隔切り、西は鳥山嶺を障壁とする一帶の往時に於ける總稱。清領當初に於ては東界の關門をなせり。

ラク 樂山 下川津村(鳥根縣)

ラクアン 樂安面 朝鮮全羅南道順天郡の南部西隅。順天邑の西方約一〇軒にして、西南は寶城郡茂橋邑に接す。南北に稍々長く約一〇軒、東西は最大約八軒あり。東部及び西部は何れも南北に連る山地にして、東境は五峰山(五九二米)・帝釋山(五六三米)聳え、西境には伯夷山(五八四米)屹立す。五峰山の西北に火峙(最高點二九二米)の鞍部を隔てて金錢山(六六七米)聳え以て西方山地と相連り、これによりて小分水嶺が構成せられ、以北の水は東北流して伊沙川に入り汝自灣に注ぎ、以南の水は南流し茂橋邑を経て同灣の北西支灣に注ぐ。後者の流域は即ち興安平原にて地味肥沃、農業盛なり。米・粟・大豆・棉花・繭・蠶の産多し。道路は樂安邑を核として四方に通じ、特に茂橋邑に出づる道路は平坦にて、交通・運輸に便なり。樂安邑は金錢山南麓に位置しとも慶安郡境の置かれし地なり。

ラケグツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横はる二十餘の諸島嶼を包括せる海面上東西五〇軒、

北方より来る瀾陽江を合せて南流し、釜山の西に於て朝鮮海峡に朝す。流程延長五二五軒(全流域二二、八〇〇餘平方軒)に達す。流域には平野多く上流に於ては江の本支流に沿うて狭長なる河岸平野が掌狀に發達し、耕地は主として畑作が行はる。農産の主要物は粟・粟・大豆、その他の穀類にて住民の生活程度も亦低し。物資集散の大中心地なく、南州・開慶・醴泉・安東等の小市邑が河流の各一支流づみの中心地として散在的にあり、中流に於て支岩琴湖江を合流する地點にて大邱盆地の一大沃野噴出し、灌溉の便を得て水田耕作大に行はれ、米・粟・大豆の主産地となし、其他、果樹園相連りて苹果・梨・葡萄の産多し。殊に大邱華果は有名にて、物資はすべて大邱に集り大邱府に實に盆地内一國一郡の觀あり。これより下流は廣潤なる洛東の沃野相連り、灌溉の利と相俟ち朝鮮地方に稀なる米作地域をなせり。これらの物資に富める洛東江流域地帯を後背地として河口を近く、朝鮮第一の商工都市釜山の發達あり。その傾斜の緩と水深の大とは舟運に利すること大にして、河口より三五〇軒の安東まで通航の便あり。されど流域林野は古來林政の不備、山林の濫伐によりて殆ど荒廢し、毎年雨季には河水の氾濫によりて流域住民は積年の苦を嘗め、近くは昭和八年の如き再三の氾濫水害により莫大の人命財産を失ひ慘狀甚だしかりしが、昭和十年以來、十箇年に亘り總事

五岳

南北約四〇軒の廣大なる面積を占む。鞍馬島を最大とし松耳島・上洛月島・下洛月島・角耳島等これに次ぎ、其他、無居住島の大六島・既給島・角瓦島・小角耳島・大角氏島・小角氏島・納徳島・小老因島・大老因島・七山島等より成る。各島何れも海崖よく發達し良泊に乏し。住民は牛農牛漁にて産物には陸稻米・大豆・粟・小麦・棉花等あり、また海産物は石首魚の盛産区たる七山灣を擁し、漁期には遠く内地方面より出漁する者多く、石首魚・鮫・烏賊・其他の魚貝・海藻等の産あり。葉落は大なるものなく上洛月島の上下月面に事務所を置く。

ラクサン 樂山嶺山 樂道面

ラクサンジ 洛山寺 朝鮮慶尙府鐵道東海北部線の一驛(昭和十二年設置)。江原道襄陽郡隆鏡面にあり。謂ゆる關東八景の一、著名なる古刹洛山寺に近し。

ラクジョー 樂境面 朝鮮江原道伊川郡の西端。郡邑伊川の西北方約二〇軒。略三角形を成し、馬息嶺山脈中にあるを以て三面山地を以て圍繞す。即ち東境には長徳山(七五二米)、北境には長七峰(七一五米)、太乙山(六八二米)、西境には栗木山(六九一米)・角後峰(五七七米)聳立して城内山岳重疊し、北部を禮成江支流の支石川西流しその沿岸僅に河成段丘平地を見、この地域に比較的耕地よく發達す。ただ河水乏しく灌溉の水

利に恵まれざるを憾とし、主に畑作農業行はる。氣候は寒暑共に酷烈にして晝夜寒暖の差大なり。住民は農を生業とすれども生活一般に豊かなり。産物の主なるものは米・小麦・大豆・生牛皮・薪炭・燐草等にして、また砂金の産あり。京城より来る三等道路は面の東部を南北に縱走し、南方の社線京東鐵道新葛驛へバス通ずるも、其他は何れも等外路線にして交通概して便ならず。葉落は東部に多く分布し、北部の板橋里に面事務所を置く。

ラクセー 洛東

【洛東江】 朝鮮慶尙南北道を流る、河。朝鮮半島部に於ける第二の長江にて、その上流は禮安江と稱され、源を江原道三陟郡の大白山(五四九米)と、大徳山(三〇四米)との間に發し、慶尙北道奉化郡を経て安東郡内を南北に縱貫し、安東邑を中心にして求心的に支流半邊川・吉安川・眉川その他の諸流を併せて深入蛇曲流をなして西流し、更に咸昌附近にて再び求心的に乃城川・眞江・淵川等の諸流を合せ河幅大に、水量愈々加はり流路を南に轉じ、洛東里に至り始めて洛東江と稱され、善山・俊館を経て大邱盆地に入り、東方より来る琴湖江を合せて南流し、慶尙南道に入り、昌寧西方に於て黃江を合せ、南面に至りて西南方より来る南江の支を併せ流路を東方に轉じ流る、こと凡そ四〇軒、三浪津に於て

の穀類も大なり。住民は多く農業を主業とし、傍ら養蠶・採薪・製炭を行ふ者あり。物産の主なるは大豆・粟・稗・大麦・米・麻・燐草等にして、また明輪の産あり、蠶産も出す。道路は郡邑伊川より来る三等道路に城内中部を横斷して西部黄海岸との境に近き主邑支下里に達し、バス通ずるも交通一般に便ならず。葉落は渓谷に沿ひて發達し、支下里に陰曆二・七の日に開く市場あれども、その位置山間に偏在せるを以て商圏頗る小にして取引頗大ならず。

ラクトー——ラクロ

り。東境に近く洛東江に臨みて洛東里ありて郵便局・金融組合及び除肺三・八の日に開く市場ありて織物・雑穀類・繭・日用品等の取引活況に行はる。

ラクトー——樂道面

長淵郡の東北に、郡邑長淵の東に接す。南北に長く約一四軒、巾は平均五・六軒あり。佛陀山脈の首峰佛陀山(六〇八米)西南境に屹立し、餘勢域内に及びて丘陵となり、其間に斷層に伴ふ小盆地の發達を見る。即ち樂興盆地・三川盆地・五雲盆地等にして、南大川の上支これに瀆流す。住民は農業に従事する者多く、北部には樂山鎮山あるを以て樂山労働者として日稼りする者少からず。産物は米・大豆・小麦・大豆・粟・烟草等あり。社線朝鐵黃海線は北西部を穿ち、樂山・樂道の兩驛(共に昭和十二年設置)あり、道路は西方長淵より来る二等道路ほぼ中部を横斷して東南部の若灘に通じバスの便あり。他、北部に長淵より来る三等道路ありて鎮山地域を過ぎ水橋里を経て松木に至格す。(樂山鎮山)鎮山は松木郡蓮井面に跨る。鎮山は金銀銅鐵礦。日本鐵業會社の採行に係り、昭和十年には金四、五二二瓦、銀七七、七〇四瓦、金銀鐵五五五一噸(この總價額約三九萬圓)を産出し同年六月末の従業員は五九七人なり。現に重要鎮山に列す。

ラクトー——洛東江

【洛東江】朝鮮總督府鐵道慶全南部線の一驛。明治四十一年設置。朝鮮慶尚南道

ラクトー——社

密陽郡三浪津面三浪里にあり。【洛東江】↓洛東江

ラクマ

樂磨 樺太廳鐵道西海岸線の一驛(大正十年設置)。舊四郡瀨泊村にあり。

ラクラク

社 臺灣臺東廳關山郡の舊社。シンプラ溪上流地方にあり、標高約七三〇米より一二四〇米の地に點在す。高砂族部落にしてアモン族シプアン蕃に屬す。戸數一六、人口一五四(昭和十二年末現在)。

ラクロー

樂浪郡 朝鮮半島に於ける漢の五郡の一。樂浪郡は前漢の武帝が元封三年(前一〇八)に牛島北部の衛滿朝鮮を滅し、その故地と附近の小國とを合せ漢の直轄領土となせる時の四郡の一にて、他は臨屯郡・玄菟郡・遼東郡とし、この頃以後の朝鮮歴史はほゞ明確となる。樂浪郡は古朝鮮の土地にて即ち凡そ今の平安南道・黃海道・京畿道の地方に當り、住民は北部は漢族、南部は韓族にて、その治所は朝鮮語即ち今の平壤附近に當る。この四郡制は僅に三十年許りにて廢され、昭帝の始元五年(前八二)に、樂浪郡は臨屯・遼東二郡の殘部と玄菟郡の一部とを合せて二十五縣を含む大郡となる(尤も遼南方面に從へば其地は樂浪郡に合併されし)。その東部、南部の僻遠の地には各郡尉を置き、東部郡尉は嶺東の七縣、即ち今の咸興以南江原道に至る日本海に面する地方を治め、南部郡尉は漢江流域以南の地方を治む。

沿革

而して約百年を経て、後漢の光武帝の時に至り、その建武六年(三〇)に樂浪郡に内亂ありしため、東南郡尉を廢止し、東部郡尉の治めし嶺東の七縣を全く拋棄せられ、南部郡尉の治めし地を郡の直轄とせしめ二十五縣に減じて十八縣となり、日本海沿岸の地は漢の屬縣を脱せり。更に後漢末に至り、遼東太守公孫度といふもの出でて、漢の衰微に乘じ自立して樂浪・玄菟を統制することとなり、また一方、玄菟の一部たりし地方にも前漢以來の高句麗王國漸く強大となり、二者攻争する状態に至る。こゝに於て樂浪の民は多く韓地に入り込み、公孫度の子公孫康は樂浪の南を割きて今の京畿・黃海二道に當る地方に新に帶方郡を置き、漢の勢力の恢復を計れり。やがて後漢滅亡し三國時代に至りて魏が公孫氏を滅し、牛島の郡治は魏に屬するに至れり。更に晉が三國を統一するに及び高句麗は玄菟郡と共に樂浪郡を滅せり(三一三)。所謂漢の四郡のうち樂浪郡のみが長く漢民族の支配を受け、その年数は武帝の時より四百二十一年なり。此間に於ける郡縣の大勢は、物質的方面に於ては平壤郊外に當時築かれし古城等より出土する遺物によりても推知される如く華かなるものなりしならず、政治的方面に於ては必ずしも然らず、それを論的に示すものは、四郡創置後、百十年頃の記録と考へらるる前漢書地理志、その後更に百四十年を経たる記録とさるる後漢書郡國志、また樂浪滅亡直前の頃の記録と考へらるる晉書地理志の戸口・縣數にして、即ち前漢書地理志に樂浪郡の戸口は六二、八一二戸、四〇六、七四八口、二十五縣と記され、後漢書郡國志には六一、四九二戸、二五七〇五〇口、十八城とあり、更に晉書地理志に據れば樂浪郡は三、七〇〇戸、六縣、また帶方郡は四九〇〇戸、七縣と記載せらる。次に樂浪郡地方に漢の文化が輸入せられ周囲の諸民族に感化影響を及ぼし、その生長を促したる事は頗る著しきものにて、その遺蹟遺物はその後永く世人の記憶より去りしが、明治四十二年關野貞その他によりて平壤府外にある同古墳の發掘調査行はれしを以て、爾來樂浪遺蹟の調査は大いに進歩し、同古墳群を始め、同郡治址と推定せらるる土城の發見となり、またその所屬なりし縣碑の古碑並に土城發見せられ、其他、帶方郡太守の墓場、同郡の土城も知らるるに至る。一方、樂浪古墳群の調査は一層組織的に學術的發掘が續けられ、その出土品にて漢文化の實相を如實に示し、從來文獻のみによりし同文化の眞相は始めて明白にさるるに至る。郡治址は平壤府の西南約六軒、大同江左岸の平安南道大同郡大同江面土城里に遺存し、その土城址は郡治址たると同時に朝鮮語治址ありと認めらる。土城址は小丘上に位し東西約七百米、南北五百米餘。土壘を以て築らし、その内より當時の古瓦・埴土器等の残片を始めとして、「樂浪太守」

ラサン

羅山面 朝鮮全羅南道咸平郡の東部。郡邑咸平の北東方約一〇軒。東西約一〇軒、南北五・六軒。嶺南山脈中に位置すれども高峻なるものなく、丘陵諸所に起伏し波狀平野を成す。中部に古羅川南流す。地味肥沃にして農業に適するも灌溉水利に乏しく、主として農業に依る。産物は米・大豆・小麦・小豆・明納・棉花を主とし、織物には陶土を産す。道路は中央の羅山里を中心として四通し、西南方咸平邑、南方湖南鎮古羅院驛等へハ通過し、交通便なり。本面は昭和七年十一月、もと平陵面一帯及び食知面一帯を合併新設せしものなり。

ラシュー

羅州 朝鮮全羅南道二府二十一部一島の一。道の中部西偏に位し、北は長城郡、東は光山郡・和順郡、西は咸平郡・務安郡、南は靈巖郡に接す。面積約七〇一平方軒。嶺南山脈の餘脈北方より蜿蜒として羅州邑の背後に迫り玉山(三九五米)・錦城山(四五二米)等を起し、一方東南端に最高四百米程度の丘陵山地の起伏を見るも、概して老年期の地貌を呈し高峻ならず。從つて羅州邑を中心とする東南及び北東一帯は沃野連なり謂ゆる羅州平野をなし、加ふるに氣候溫和にして農業に適し、その耕作景觀には内地と相似たる所あり。梁山江は東境近くにて黃龍江・砥不江等を穿れ、中部の平野を灌溉すること三〇軒にて咸平郡界に至り古羅院川・咸平川等の水を含せてより南流

ラコ

に轉じ、曲流して南海側に至る。下流の夢灘津より上流約四〇軒の梁山浦までは發着機船・帆船等の航行可能にして、運轉上資する處大なり。産物は米・麥・棉花を主とし、其他豆類・繭、並に竹器・竹蓐・籐等の竹細工、綿布等あり。商工業は交通運輸の關係上、梁山浦を中心として物資の集散最も盛に行はれ、羅州・南平は之につぐ。鐵道湖南本線は郡のほぼ中部を東北・西南に横斷し、羅州・梁山浦・多侍・古羅院等の各驛あり。羅州より東は南平を経て光州府に、西は木浦府へ通する一等道路、南方靈巖に至る二等道路等を出し、其他北部にも光州・靈光間二等道路通じ、慶全西部線また東北部を穿れ南平驛あり、梁山江の水運の便と相俟つて、交通便利なり。行政上、羅州・梁山浦の二邑及び十六鎮面に分ち郡廳を羅州邑に置く。人口約一八萬、聚落の發達普遍的にして、一方軒密度は二五一人を示し、光山郡に次ぎ第二位あり。本郡は古く發羅郡・通義郡・錦山郡、又は錦城郡などと稱し、高麗朝成宗の時節度使を置き嶺海郡と稱し海陽道(いま全羅南道)に屬せしむ。次で顯宗王の九年に陞して州となし牧使を置き、また右營將を併置して軍備を掌理せしむ。その管轄區域廣大にして、嘗て湖南第一の雄州巨郡と稱せらる。明治二十八年(李朝開國五百四年)牧使・右營將を廢し觀察府を設け、牧使郡と改む。翌二十九年觀察府を廢し、管内の一部を以て智島郡を建

ラコ

て、また一部を靈巖郡・咸平郡・光州郡・長城郡・務安郡等に移屬し、大正三年に至り南平郡一帯と咸平郡・光州郡の各一部を編入、次で面の廢合を行ひて十九ヶ面となし、昭和四年四月に羅州・羅新兩面を合併、次で同六年十一月羅州面を、同十二年六月梁山面を夫々羅州邑・梁山浦邑と改め、現在に至る。【羅州邑】朝鮮全羅南道羅州郡の略中央に位し、道政の中心光州府の西南方約三〇軒。羅州平野の中心を成し、西北境に低山性の錦城山(四五二米)を控へ、東方に梁山江流れて附近沃野を灌溉し農産豐富にして、附近には内地人の經營にかゝる農場多し。此地は往昔全南の首邑にして全州に對立せし一大市邑なりしが、中世より首邑が光州に移り、邑内には現在郡廳の存するのみ。されど規模なほ當時の盛大を見るべく五重塔、丈餘の石塔等の古建造物は今なほ存し、市内には内鮮人の商賈相比し、商業頗る盛なり、また竹細工・繭の特産あり。附近に産する梨は品質優秀かつ産額多く、羅州梨の名は市場に名高く近時内地にも移出さるるに至る。其他、苹果・桃等の集散は年類二〇餘萬圓の多きに達す。邑の西方三軒の錦城山中腹に一千餘年前の建立にかゝる古刹多寶寺あり。境内極めて幽邃なり。邑内には警察署・地方法院出張所・金融組合・養蠶傳習所・機業傳習所・工藝品製作所等あり。本邑は郡内各面への道路の起點たるのみならず、光州・木浦連絡

ラコ——ラシユ

の一等道路の中間に位置し、鐵道湖南線  
羅州驛ありて、此地を起點として東方の  
南平・光州、南方の梁山浦その他の要地  
に乘合自動車を通じ交通便なり。

【羅州群島】 朝鮮全羅南道の西部海上に  
羅布する一大群島。北は洛月島附近より  
南は五骨群島附近に至る一五〇餘軒の間  
に南北に並び、その主要なる島に、北よ  
り荏子島・智島・在遠島・後智島・前智  
島・慈恩島・巖奉島・梅花島・押海島・  
八高島・飛高島・都草島・牛耳群島・荷  
衣島・加沙島・鳥島等あり。その間に八  
口浦その他の良漁地少からず。近海には  
鯖・石首魚・鯛・太刀魚・鱈・鱈・鱈・  
鰻等の漁獲多く、また海苔・牡蠣・淺網  
等の養殖に適する漁所少からず。

ラシヨウ 羅處和

【ラシヨウ】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラシヨウ】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラシヨウ】 羅處和 ↓ラスリー(千島)

奥行また之に略等しく、謂は本草・小草  
の二島を天然の防波堤とし、水深く朝鮮  
風指の良港なり。なほ東部山地の餘賦は  
東に延びて郭端に移りその南に芻以借海  
を抱く。市街地は海奥の平地に發達し、  
東北境前嶺を踰えて羅基邑との間に二  
等道路通じ、また鐵道北鮮線はその西側  
に隣道を穿ちて來り羅津驛(昭和十年設  
置)設けらる。此地はもと新安面と稱し  
一寒村に過ぎざりしが、昭和七年日滿運  
路の鐵道京國線終端港と決定して以來、  
吞吐能力三百萬石、人口三十萬を擁する  
大都市計畫の下に滿鐵に於て諸施設あ  
らる。従つて市況は頗る活氣を呈し、昭  
和九年四月に邑制を施行せられ羅津邑と  
なり、人口は昭和五年に五九六六なりし  
ものが、同十一年末には二三、六九五八  
(うち内地人四五五三人)となり、十一年  
十月一日を以て府に昇格せり。府廳・陸  
軍運輸出張所・海港検査所等の諸官衙  
あり。また近年開港場となり、昭和十一  
年中の貿易額は輸出三三三萬七千圓、  
輸入六六三萬八千圓を示し、滿洲國の  
進展に伴ひ逐年激増の趨勢にあり。羅津  
港は前述の如く朝鮮北部に於ける水陸交  
通の中心にして、新得・敦賀・門可・神  
戸、並に清津・羅基・浦項斯徳との間に  
定期航路ひらけ、北日本汽船・日本海汽  
船兩社の航路は羅津港に於て接続し、之  
より新京に直通列車を出し、以て表日本  
諸港より新京に至る最短経路となり、其

ラスリー

【ラスリー】 千島列島の一。中部千島  
にあり、また羅處和島とも、ラシヨウ・  
ラスワともいひ、土人はラスコケと云  
ふ。松輪島と宇志知との間にあり、新加  
郡に屬す南北約一五軒、東西約九軒。火  
山島にして數峰に分れ最高は一千米を越  
ゆるものあり。

【ラスリー海峽】 千島列島中のラスリー  
島と松輪島との間の海峽。古くはナアク  
ク海峽ともいふ。幅約六八軒。ラスリー  
島の北端及び松輪島の南端の進展とを除  
けば航海危険なし。

ラッタ

【ラッタ】 社 臺灣高雄州潮州郡  
の舊社。東港溪平番境界地點の北方約三  
五軒、標高約四五〇米の地、高砂族部落  
にして、パイワン族に屬す。戸數四五、  
人口一五七(昭和十二年末現在)。

ラトロー

【ラトロー】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラトロー】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラトロー】 羅處和 ↓ラスリー(千島)

地形をなす。羅東街の外、三星・五結、  
冬山の三庄及び街庄を置かざる舊地に分  
割せられ、郡役所を羅東街に置く。街庄  
は主として東北端、濁水溪流域の平野に  
置かれ、舊地に同流上流の峡谷を中心と  
する山地にして、高峰峻嶺重疊として起  
伏連続し、西北境に拳頭母山・樓閣山・  
バローケル山・ゴンホン山・シフキヌ  
山・桃山、東南境に舊寮山・鳥帽山・大  
元山・十六分山・三星山・カラサン山・  
タリロー山・パドフフ山・南湖大山等  
聳え、南境をなすものは即ちピヤナン鞍  
部なり。平野は地味肥沃、水利の便に恵  
まれて水田廣く展開し、また近時濁水溪  
の河川整理並に護岸工事の完成に伴ひ廣  
大なる新生地を浮現して農耕地面積著し  
く擴大せられ、農業の盛なること蘭陽三  
郡に冠絶す。米・甘蔗・甘藷・落花生・  
芋麻・黄麻・檳榔・薯蕷・柑柿を著名な  
る農産物となし、殊に芋麻はその産出多  
く、本島に於ける屈指の産地なり。一年  
の農産總額五百五十五萬圓に達す。畜産  
は農産に次いで經濟上重要な地位を占  
む。勞役用の水牛・黄牛を除き豚・鶏・  
鴨・鵝等の家禽・家畜頗る多く一般家庭に  
副業として飼育せらる。三星庄方面にて  
は濁水溪沿岸の廣大なる草生地に大牧場  
設置を企圖し、郡下牧畜業の新生面を打  
開するものとして注目せらる。林産に於  
ては太平山は臺南州の阿里山、臺中州の  
八仙山と並び稱せられ、地府府殖産局營  
林所經營の伐採事業地にして、扁柏類の

ラトク

【ラトク】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラトク】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラトク】 羅處和 ↓ラスリー(千島)

ラトロー

著積量に實に二千五百萬石に上ると稱せ  
られ、新式なる新伐法によりて伐採せら  
る。年産額に針葉樹・潤葉樹合計十萬圓  
に達す。また一般に竹材及び薪炭の産出  
あり。東部沿岸にては漁業行はれ、年に  
三萬餘圓を漁獲す。工業は製糖(昭和製  
糖株式會社、五結庄)・製紙及びグアイヤキ  
ス製造(臺灣製紙株式會社、臺灣製糖株式  
會社、五結庄)・製材(管林所、羅東街、  
カーパイト製造(臺灣電力の電化工場、  
羅東街)等最も著名にして、外に煤掘精  
米・製菓・木工品・農産品・麵類・煉瓦  
製造の小工場散在す。小学校三、公學校  
十二を有し、本島人學齡兒童の就學歩合  
は四五〇程度なり。社會教化機關として  
青年訓練所または教習所・國語講習所・  
圖書館(羅東街のみ)等を設置す。地府府  
鐵道宜蘭線は北隣の宜蘭郡より來りて南  
北に貫通し、南隣蘇澳郡に入り、二結・  
羅東・冬山の三驛を設置す。羅東驛より  
西方の冬山・三星二庄を経て舊地に入り  
濁水溪南岸に沿ひて土場に在る管林所の  
森林鐵道あり、木材輸送の外、貨客の取  
扱をなす。輕便鐵道(手押車)は宜蘭植  
産の經營にて羅東より小南澳・天送埤そ  
の他に通す。道路は宜蘭線に沿ふ宜蘭・  
蘇澳道路を始めとし、羅東―三星道路・  
羅東―利澤簡道路等の主要線をなし、産  
業道路よく發達して羅東より天送埤・蘇  
澳・利澤簡・宜蘭等の各地との間にバス  
の便を有す。郡下はもと宜蘭廳管下の羅  
東・叭哩沙二支廳管轄に屬し、大正九年

ラトロー

制度改正により廳及び支廳を廢せられ、  
二支廳の舊管轄地を合して羅東郡となり  
臺北州に編入せらる。

【羅東街】 臺灣臺北州羅東郡一街三庄中  
の一なり。郡の中心にして郡下平野の中  
央に位し、北及び東を五結庄、南及び西  
を冬山・三星二庄によりて圍繞せらる。  
一小區域にして、郡下に於ける商業・交  
通の中心地たるのみならず、蘭陽地方に  
於て宜蘭に次ぐ市街として重きを爲し、  
市街の外縁にては農産行はれ、諸種の農  
作物を産出す。羅東驛の北東約一軒の地  
に太平山より搬出せらる材の貯水池あ  
り、面積八甲餘にして僅に貯材十萬石を  
容るべく、特殊作業と相俟つて壯觀を呈  
し、また同驛の北方約六〇〇米の所には  
臺灣電力經營のカーパイト工場ありて、  
本島唯一の工場として知られ、カーパイ  
ト年産二百六十萬圓に達し、本島の需要  
を充たせる外、更に南支の厦門方面に供  
給す。郡役所・街役場・郵便局等の官公  
署を始め、小公學校・信用組合・臺灣商  
工銀行支店・公會堂等あり。地府府鐵道  
宜蘭線羅東驛(大正八年設置)を中心とし  
て道路は四通八達し、郡内外各地との間  
に軌道または乘合自動車を通ずる外、舊  
地土場に在る森林鐵道の起點となり、  
交通の便備はる。管内は北西の北成・至  
子歪の二大字がもと清水溝驛に屬したる  
を除けば、總て羅東郡に屬し、清の嘉慶  
十一年、新に移來せる平埔蕃族アライサイ  
(阿里山)等の社番により此の地方一帯を

ラトク

開きしが(阿里山の地名現存す)、同十四  
年、圓の漳州人襲ひて之を侵略し、今の  
市街のある所に一村落を建つ。爾後、平  
野の開拓進歩するに従ひ、漢人の移住す  
る者著しく増加して隨所に部落を建設し  
今日の基礎をなす。明治二十八年帝國領  
臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九  
年十月に至り地方制度の根本的改革と共  
に、清領時代より存続し來りし堡を廢せ  
られ、羅東堡より一街六庄、清水溝堡よ  
り二庄を割きて合計九六字に改め、之を  
一括して羅東街となる。

【羅東】 臺灣臺北州羅東郡の舊堡名。羅  
東街の中、北成・至子歪の二大字を除き  
たる堡餘と、冬山庄の中、三堵を除きた  
る堡餘を合したる地域に相當す。清領時  
代に立てられしより、我が領臺後も之を  
堡用せしが、大正九年に地方制度改正に  
至りて廢せらる。

ラトク

【ラトク】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラトク】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラトク】 羅處和 ↓ラスリー(千島)

ラナン

【ラナン】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラナン】 羅處和 ↓ラスリー(千島)  
【ラナン】 羅處和 ↓ラスリー(千島)

### ラハウー—ランシ

於ける一主要都市として、その繁榮盛況を述べに預けり。

#### ラハウ

【ラハウ社】 臺灣臺北州文山郡の客社。淡水河上流なる南勢溪の上流にあり、標高三五〇米、アヤマ族に属する高砂族の部落。戸数一三、人口七五(昭和十二年現在)。臺北より新店を経て入山するを便とす。

#### ラフラン

【ラフラン社】 臺灣臺中州新高郡の客社。濁水溪上流奥地にあり、アマム族に属する高砂族部落。戸数二八、人口三一(昭和十二年現在)。集落水裡坑より入山するを便とす。

#### ラホ

【ラホ社】 朝鮮全羅北道清津郡の客社。錦江の南岸に位置し、群山府の東北約一〇軒にあり。江岸の洪積地を成し、一般に低平なれども東境には一〇〇—二〇〇米の丘陵横たわす。住民は一般に賃村にして農を主業とし、また群山地に労働者として出稼する者多し。産物は米・大豆を主として工業品には炭素・布帛等あり。また焼酎の醸造行はる。道路は何れも外路路にして車を走せざるも、錦江には舟運の便ありて貨物の運輸に便なり。業務は丘陵と低地の交通線に沿ひて分布す。西浦里・羅浦里に

何れも江岸に位する津場にして對岸忠清南道韓山方面との交通に便す。

#### ララチ

【ララチ社】 臺南州嘉義郡の客社。阿里山塔山の西方、標高約八五〇米の地にあり、高砂族部落にしてアヤマ族に属す。戸数二五、人口一六四(昭和十二年現在)。阿里山鐵道、十字路下車を便とす。

#### ラロー

【ラロー社】 朝鮮全羅南道高興郡の島。高陽中島の東南に横たわす。蓬萊面の主部を成す。南北二島に分れ、北なるを内羅老島、南なるを外羅老島と稱す。二島間は僅に輻二軒餘の水道によりて隔てられ、外羅老島や大なり。小白山脈の南部末端部の沈降の結果を生ぜし陸地にて、何れも丘陵起伏し平地に乏しく従つて耕地面積に乏し。本島近海は鯛・鱈・鰻・鱈等の好漁場にして水産の利に富むも、住民概れ農業に従事し副業として盛に牧羊をなし、多きは一家五〇餘頭を飼養するものあり。従つて漁利は主として内地人の手に歸し、羅老邑は殆ど内地人の移住者によりて形成され、製米工場その他農業に關する設備をなし、漁期五・六・七月頃は山口・廣島・愛媛・香川、又は北九州等の諸島の通漁船來集し盛賑を呈す。また海産・海苔・和布等の漁利に富み、これ等採獲の利は済州島出稼海女に占められ、羅老は麗水・濟州間航路の寄港地をなす。

#### ラン

【ラン社】 朝鮮咸鏡北道慶興郡西水羅港の西南方約六軒に位する小島。夏半

には島上に多数の水鳥棲す。郡島燈臺(大正四年設置)あり、燈質は閃白光にして毎三秒に一閃光を發す、光達距離一四哩。

#### ランカトン

【ランカトン社】 臺東州大連民政署管轄の南西部。東は大連市の西南部に接し、北は西山屯會、南は小平島會に隣り、東南の西部は黄海に面す。北境東部に大頂山、西境に翠頭山ありて北半部は概れ丘陵性の山地をなし、南境中央にも磨礮山あるも東南半部には平坦地ありて農耕行はる。高粱・大豆・落花生・野菜等の産あり。旅順・大連を連ぬる旅大南道路は南東部を掠め、西隣の沈陽會に通ずる道路また南部を東西に通じ大連市に近く交通便なり。

#### ランコ

【ランコ社】 臺灣臺中州臺中市及び其の東南に接する一帯の舊堡名。臺中市に大里・霧峰・太平の三庄全部と、烏日庄の中、九張寮・五張寮・阿密哩・頭前厝・潭竹湖の五大字を合したる地域に相當す。清の康熙六十年代には諸堡據保に屬し、雍正十二年、諸堡據保(後の棟東上堡)に屬せしが、光緒元年一堡を分立す。初め此の地方は雍正年間に関人なる藍天秀・張嗣徵等の合同開墾により成れるを以て、當時、藍張二姓の新興の地なる意に依り、藍張興庄と稱せしより、乃ちその堡名となしたるなり。我が領臺後これを襲用し、大正九年、地方制度改正に至りて廢せらる。

#### ランコク

【ランコク社】 朝鮮江原道淮陽郡の西南隅に位置し、郡邑淮陽の南に隣接す。郡中第一の大面にして、東西二五軒、南北三〇餘軒に及ぶ。大白山脈中に位置し、南境に白易山(一一〇九米)・嵐眉峰(九九二米)・蕪子山(八〇二米)・東境には白牙山(九三三米)、西境には白峰(一〇九五米)・白岩山(一一〇米)・長岩山(一〇五二米)等聳立し、餘勢域内に及びて山岳重疊し、峻峻にして平地極めて乏しく、ただ北漢江支流の間東洞川沿岸に數段の段丘發達を見、沿岸僅に耕地の發達を見る。中部の開東洞川流域なる高原は放牧に適し、もと總督府牧馬支場置かれ、昭和四年以來は李玉璠管理の牧馬場となり優良馬を産す。また愛知産業會社の經營する粟谷農場あり、機械耕作法により内鮮人が作業に従ひ牛乳・馬鈴薯・肉加工品・羊毛等を産す。其他、産物に大豆・大豆・麻布・蜂蜜等あり。礦産には金・銀・マンガステン等あり。縣里に面事務所を置き、陰曆一・六の日に開く市場ありて薪炭・日用品等の取引行はる。道路は淮陽より來る鐵道京元線の沈陽驛に出づるものありてバスを通ずると、域内の交通は便ならず。

#### ランコシ

【ランコシ社】 北海道後志國磯谷郡南尻別村の大字。省線函館本線の蘭越一驛(明治三十七年設置)を置く。

#### ランザン

【ランザン社】 嵐山(京都市)の異稱。

#### ランシマ

【ランシマ社】 北海道後志國磯谷郡蘭谷村の大字。省線函館本線の蘭島一

【蘭泊村】 樺太真岡支廳管下真岡郡の北部。真岡町の北隅にて、南東は清水村、北東は川上村、北は野田郡小能登呂村に接し、西は開宮海峽に面す。東部には北西流する列丹川上流の山地。西半は西流する羽母舞川・富内岸川等の斜面に屬し、中部に女ノ子山(五七三米)屹立す。沿海と河川沿には農耕地拓げまた製材行はれ、沿海には鰻・鮭の漁利に惠まる。本町に起る瀧西海岸線北上し、輪泊・樂磨・蘭泊・藻白帆・羽母舞の諸驛(樂磨は大正十二年、其他は同十年設置)を置き交通不便ならず。蘭泊に役場、樂磨には樺太廳中央試驗所水産部あり。また樂磨温泉あり、泉質鹽類泉・加熱浴用とす。

#### ランポ

【ランポ社】 朝鮮忠清南道保寧郡の西部。郡邑大川の南に接し、西は海山(六〇二米)嶽々たる山骨を露ぼして嶺山面との境を劃し、急斜面を以て西方に下り、低平となりて遂に海岸に達す。海岸は干潟地多く、出入に富み粟・竹島を産す。産物は米・大豆・苧麻・大麻等にして、水産物には鱈・比目魚・

#### ランダイ

【ランダイ社】 臺灣臺中州新高郡の客社。濁水溪上流奥地にあり、アマム族部落に属する高砂族の住地にして、戸数三六、人口三九一の大客社(昭和十二年現在)。集落水裡坑より特大山を越えて至る。

#### ランドマリ

【ランドマリ社】 樺太真岡支廳管下真岡郡の北部。真岡町の北隅にて、南東は清水村、北東は川上村、北は野田郡小能登呂村に接し、西は開宮海峽に面す。東部には北西流する列丹川上流の山地。西半は西流する羽母舞川・富内岸川等の斜面に屬し、中部に女ノ子山(五七三米)屹立す。沿海と河川沿には農耕地拓げまた製材行はれ、沿海には鰻・鮭の漁利に惠まる。本町に起る瀧西海岸線北上し、輪泊・樂磨・蘭泊・藻白帆・羽母舞の諸驛(樂磨は大正十二年、其他は同十年設置)を置き交通不便ならず。蘭泊に役場、樂磨には樺太廳中央試驗所水産部あり。また樂磨温泉あり、泉質鹽類泉・加熱浴用とす。

#### ランヨ

【ランヨ社】 臺灣臺北州宜蘭郡の東部。宜蘭・羅東・蘇澳三郡の地境。此の三郡を蘭陽三郡とも稱す。蘭は宜蘭より陽は太陽より出で、即ち日出づる地の意なり。

#### ランル

【ランル社】 蘭陽地方の北海道石狩國上川郡比布村の大字。省線宗谷本線の蘭留驛(明治三十一年設置)あり。

ランタ—ランル

### 五二〇



リ

リアン 利安面

朝鮮慶尙北道尙州郡の北部に位置し、郡邑尙州の北方凡そ二〇軒にあり。小白山脈に属する芍薬山(七六〇米)西坂に聳え、餘勢城内に及びて西北部は一帯に山地を成せども、東南部は低平にして耕地發達す。住民は農を主業とし、傍ら蚕蠶・機械に従ふ者甚だ多し。農産物の主なるものは米・大麦・大豆・雜穀・棉花・繭・干柿等あり。山下成昌邑嶺山の嶺區は富みおび成昌面・恭儉面に跨る。即ち富面の南東方に當り、山下黒鎗鐵業會社の採行に係る。昭和十年には土狀黒鎗二、五四二延(價額五萬餘圓)を産出す。社線朝鐵慶北線は東南部を縦貫すれども停車場なく、隣接の成昌に停車場ありて之より三等道路により連絡す。城内道路の改修未だ充分ならずして、特に北部の山地區は交通・運輸共に不便なり。

リキコー 力合村

熊本縣肥後國鹿託郡の南部。白川の南岸に對し對岸は熊本市なり。全村地形平坦にして北境に沿ひて白川が西流す。田畑よく發達して米・麥類・粟・甘藷・植其他の農産物を産す。鹿兒島街道が東境を縱走し、東部には省線鹿兒島本線が南北に通過して川尻驛(明治二十八年設置)あり(川尻驛

リキヒル 力晝

北海道天鹽國苫前郡苫前村の大字。省線羽幌線の力晝驛(昭和六年設置)あり。

リキホ 力浦

朝鮮平安南道大同郡龍淵面の主邑。總督府鐵道京義本線の力浦驛(明治四十一年設置)あり。

リキョト 鯉魚頭

臺灣臺中州竹山郡の舊堡名。竹山庄の東邊、清水溪(濁水溪支流)流域一帯の地。勞水坑・桶頭・山坪頂・福興・田子・鯉魚尾の六大字を合したる地域これに相當す。清領時代に立てられしより我が領臺後も依然之を襲用せしが、大正九年地方制度改正に至りて廢せらる。

リキリキ 陸羽

陸羽街道 陸羽街道の別名。↓奥州街道

リクセ 陸前

陸前國 東山道十三國の一。往時の陸奥國の中部に位置し、明治元年十二月陸奥國を五箇國(陸前・陸中・陸奥・羽前・羽後)に分割せし時これを置く。國內は仙臺・石巻の二市及び柴田・名取・宮城・登米・黒川・加美・志田・玉造・遠田・栗原・桃生・牡鹿・本吉・氣仙の十四郡に分れ、氣仙郡の岩手縣の管轄に屬するほか宮城縣の所管なり。この國の地は往昔は蝦夷の根據地の南部に當り、奈良時代に於ては蝦夷討伐の第一線はこの邊にありて諸城柵の設けらるるもの多く、玉造・新田・色麻・桃生・伊治等國史に表はれたる城柵は概ね國內にあり、後には陸奥の國府も多賀城に移され、多賀城は陸奥の中心となる。平安時代に至れば對蝦夷討伐の前線は進んで北上川に至りしも、なほ當國の重要性は失はれざりき。後三年の役後は平泉の藤原清衡の領内となる。源頼朝の藤原氏を滅ぼすや、葛西清重がこの地を領す。建武中興の時に北畠顯家が鎮守府將軍兼陸奥守として義良親王を奉じて多賀國府に在りしが、のち命を奉じて西上、和泉の石津に戦死するに及び、この地は足利氏の手に歸す。戰國の頃には國內は葛西・大崎二氏これを分領せしが、豊臣秀吉天下を統一するや二氏の地を木村秀俊に與ふ。然るに民これに悦服せざるに及び之を奪ひ、更に伊

リクセ 陸前

を開山とす。天明四年炎上せしも其後再建せらる。本尊藥師如來。寺寶多し。

リクセ 陸前

二年七月に國內に置かれたる鹽澤・江朝の二縣と共に廢せられ更に一縣となり、ついでこれを水澤縣と改稱す。明治八年十一月に五縣に、水澤縣は更に磐井縣と改稱して一縣に治し、陸前國北部五郡と陸前國の南部の鹽澤・江朝・磐井の三郡を管せしが、翌九年四月には磐井縣を廢してこれを岩手縣に併せ、陸前の五郡はこれを宮城縣に移管す。而して氣仙郡のみは翌五月に至り岩手縣に復歸す。なほこの時北方陸奥國の二戸郡も同じく岩手縣の管轄となり、國の西北隅なる鹿角郡は古くより南部領なりし關係を以て陸前國に入りしも、地勢上よりは羽後國に屬すべきものなるを以て、この時また秋田縣の管下に入り大體今日の形勢をなす。而して明治十三年巖手郡を分けて、南北二郡とし、閉伊郡を分けて東・西・南・北・中の五郡とし、九戸郡を南北二郡に、和賀郡を東西二郡に、磐井郡も同様東西二郡とし、一時は國內十八郡を數ふ。同二十二年四月には盛岡市南巖手郡より獨立す。ついで同二十九年四月に至り大いに郡を併合し、南北巖手郡を合して巖手郡とし、西・南の二閉伊郡を合して上閉伊郡とし、東・中・北の三閉伊郡を合して下閉伊郡とし、南北九戸郡を合して九戸郡に復し、東西和賀郡を合して(一村を除く)和賀郡となし、これに秋田縣に屬する鹿角郡を加へて一市十二郡となる。

リクセ 陸前

【陸前東線】 省線陸羽線の一部。宮城・山形二縣に互る。東北本線小牛田驛より分岐し中新田驛・界田驛等を経て奥羽本線新庄驛に至る。全長九四・一軒。新庄驛にて陸羽西線と接続し、中新田驛にて社線仙臺鐵道に接続す。

リクセ 陸前

【陸前西線】 省線陸羽線の一部。山形縣最上・東田川の二郡に互る。奥羽本線新庄驛より發し津谷驛・清川驛等を経て羽越本線の余目驛に終る。全長四三・〇軒。新庄驛にて陸羽東線と接続す。

リクセ 陸前

【陸前國】 東山道十三國の一。往時の陸奥國の中部に位置し、明治元年十二月陸奥國を五箇國(陸前・陸中・陸奥・羽前・羽後)に分割せし時これを置く。國內は仙臺・石巻の二市及び柴田・名取・宮城・登米・黒川・加美・志田・玉造・遠田・栗原・桃生・牡鹿・本吉・氣仙の十四郡に分れ、氣仙郡の岩手縣の管轄に屬するほか宮城縣の所管なり。この國の地は往昔は蝦夷の根據地の南部に當り、奈良時代に於ては蝦夷討伐の第一線はこの邊にありて諸城柵の設けらるるもの多く、玉造・新田・色麻・桃生・伊治等國史に表はれたる城柵は概ね國內にあり、後には陸奥の國府も多賀城に移され、多賀城は陸奥の中心となる。平安時代に至れば對蝦夷討伐の前線は進んで北上川に至りしも、なほ當國の重要性は失はれざりき。後三年の役後は平泉の藤原清衡の領内となる。源頼朝の藤原氏を滅ぼすや、葛西清重がこの地を領す。建武中興の時に北畠顯家が鎮守府將軍兼陸奥守として義良親王を奉じて多賀國府に在りしが、のち命を奉じて西上、和泉の石津に戦死するに及び、この地は足利氏の手に歸す。戰國の頃には國內は葛西・大崎二氏これを分領せしが、豊臣秀吉天下を統一するや二氏の地を木村秀俊に與ふ。然るに民これに悦服せざるに及び之を奪ひ、更に伊

リクセ 陸前

原武則戰功あり、よつてその地を賜ふ。のち、清原氏の内訌は延いて後三年役となり、藤原清衡等功あり、平泉に據りて榮華を極め堂塔を建築し、今も尙ほ藤原三氏の榮華を思はしむるものあり。藤原氏の滅後葛西清重が平泉にありて之を鎮む。建武中興の時北畠顯家が義良親王を奉じて多賀國府に鎮せし時に其の成この國に及ぶ。戰國の頃は葛西氏、國の南部を領し、北部は陸奥の隸部にありし南部氏の威力布く。豊臣秀吉の天下を統一するに及び、國の南部は伊達政宗の領となり、北部は南部氏これを領し、慶長の初に至り南部氏は居を盛岡に移す。江戸時代に至り、國の北部に於ける南部氏の領地は變更なきも、南部の伊達領に於ては天和年間伊達氏の一族なる田村氏一團に來りて三萬石を食み、盛岡・一關二藩を以て明治維新に至る。明治戊辰の役起るに及び、朝命に抗せし隙により一旦盛岡藩主南部氏の封を奪ひしが、のち特にこれを赦して磐城白石十三萬石に封す。然るに舊封の民、舊主を慕ひて止まざりしを以て、明治二年七月には之を盛岡に復し、盛岡藩知事に任ず。翌三年七月に至れば藩知事上表して職を辭せしを以て盛岡藩を廢してこれを盛岡縣とし、陸前國の閉伊・和賀・稗貫・紫波・巖手・九戸の六郡を管す。翌四年正月には郡名によりてこれを岩手縣と改稱す。一關藩は四年七月一般廢藩置縣の際には一關縣となり、同年十一月には之より先、明治

リクセ 陸前

【陸前白澤】 省線仙山東線の一驛(昭和六年設置)。宮城縣宮城郡廣瀬村上愛子にあり。

リクセ 陸前

【陸前高田】 省線大船渡線の一驛(昭和八年設置)。省線大船渡線の一驛(昭和八年設置)。宮城縣宮城郡廣瀬村上愛子にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクセ 陸前

【陸前古川】 省線陸羽東線の一驛(大正二年設置)。宮城縣志田郡古川町にあり。

リクチー——リケン

年設置。岩手縣和賀郡湯田村にあり。
【陸中折井】省東北本線の一驛(昭和三年設置)。岩手縣陸奥郡湯田村中野にあり。
【陸中川井】省山田線の一驛(昭和八年設置)。岩手縣下閉伊郡川井村にあり。
【陸中川尻】省横濱線の一驛(大正十一年設置)。岩手縣和賀郡湯田村にあり。
【陸中門崎】省大船渡線の一驛(大正十四年設置)。岩手縣東磐井郡門崎村にあり。
【陸中中野】省八戸線の一驛(昭和五年設置)。岩手縣九戸郡中野村にあり。
【陸中夏井】省八戸線の一驛(昭和五年設置)。岩手縣九戸郡夏井村にあり。
【陸中花輪】省花輪線の一驛(大正十二年設置)。秋田縣鹿角郡花輪町下中島にあり。
【陸中松川】省大船渡線の一驛(大正十四年設置)。岩手縣東磐井郡松川村にあり。
【陸中八木】省八戸線の一驛(大正十四年設置)。岩手縣九戸郡種市村にあり。
【陸中山田】省山田線の一驛(昭和十年設置)。岩手縣下閉伊郡山田町にあり。
リクンベツ 陸別村 北海道釧路支庁釧路町足寄郡の西部。利別川上流山中に位し、支庁西北端の地を占む。北は釧路支庁に、東南は足寄村、西南は十勝支庁に界す。面積五〇・二平方町。村内は絶て山地をなし、西南の細走・十勝、釧路國境に東三國山(一二三〇米)聳ゆ。

地勢徐々々東南に低下せるも河川沿岸を除けば五〇米を下らず。利別川山中を南流し中央にて陸別川と合す。合流低地上に陸別市街地あり。附近は土地肥沃、農耕に適し大豆・小豆・蕎麥・燕麥・大麥・馬鈴薯を産す。山地は美林多く、木材及び其の加工製品は本村主要産物なり。省線湖走本線利別河畔を走り小利別(明治四十四年設置)・川上(大正九年設置)・陸別(明治四十四年設置)の三驛を有し、また北見國に通ずる地方道あり。この地は明治三十四年開闢又一が固有未開地三百五十ヘクタールの貸付を受けて入地開拓に着手、和人士の嚆矢をなす。其後漸次開拓の歩進められ、大正十二年遂に一村を成して陸別村と稱すに至る。

梨月面 朝鮮忠清北道領川郡の北部に位置し、郡邑領川の北に相隣接す。車嶺山脈に屬する武帝山(五七四米)・玉女峰(四五六米)等西境に連なり餘勢域内に及びて山地を成せども、東部は土地低平にして美湖川その間を灌溉し地味肥沃にして大麥・大豆・其他雜穀・棉花・烟草・庭蓆等を産す。道路は南方嶺川より東三郡道路、面の略中を北方竹山里へ縦走し兼合自動車の便あり。其他は等外路線にして改修未だ充分ならず。寒落は東半部に多く分布し、美湖川右岸の中山里を主邑とす。その西方老院里は鶯の渡來するもの多きを以て著はれ、いまた天然記念物に指定せられ、また本面を中心として萬升面・徳山面、並

に陸奥郡大所面に互る地域はマナツカ波來群棲地として知られ、同じく天然記念物に指定せらる。

梨峴面 朝鮮平安北道龜城郡の南部に位置し、郡邑龜城の西南約二〇軒、宜川の東方一五軒に在り。南境には佳人峯(五三六米)、東部に吉祥山(五九五米)等聳え、城内四〇〇乃至五〇〇米内外の低山性山地を成し、北東の雲川江沿岸に稍平地を見る。また西部には東江流れ南方に至る。これ等の流域並びに山脚の緩斜面を開墾し以て耕地となせり。後者は水利を缺き畑作農業を主とし、水田に乏し。住民は賃賃勤勉にして大部分農業に従事し、又行商に従ふ者あり。産物は米・小麥・粟・稗・大小豆・玉蜀黍・蕎麥・大麻等にして殊に東南部の地域には金・砂金・黒鉛等の産あり。中央より偏在せるを以て、交通極して便ならざるも、北部には龜城・宜川間を結ぶ自動車道路通ず。(吉祥嶺山)面の南部、吉祥洞にあり。朝鮮鐵業開發株式會社の經營にして、鐵種は金・黒鉛。昭和十年中の産額は金一〇、五六二元、銀九、七七五元、金銀鐵三、〇〇〇元、この價額計六五萬餘圓なり。同年六月末現在使役人員六八二名。

利原 朝鮮咸鏡南道二府十六郡の一。利原郡の東北部に位し、北は嶺川郡に、西は北青郡に隣接し、東南は日本海に面す。ほぼ三角形をなし、面積四五〇・五平方

五岳

利原郡の最小郡なり。東南面を除きては完全に山地を以て圍繞せられ、北境には鶯徳山(一〇〇一米)・鶯峰(八七〇米)、西境には鶯嶺(最高點五六二米)・鶯徳山(一四〇八米)・鶯峰(九三一米)等聳立し一支脈は南部海岸に三―四百米の山地を起し、官山(四一三米)ありて海崖をつくる。河は西北境の鶯嶺に發する南大川、鶯徳山に出づる東大川等あり何れも東南流して海に入り、殊に南大川流域を中心として廣き平地がらる。海岸は水平的散節に富み、利原泊地並に遼湖に最も良港にて船舶の繫泊に適す。島嶼は全椒島・鶯島等數島あり、全椒島のほかは絶て無人島なり。氣候は地形及び海洋の關係上、同緯度の土地に比して比較的溫暖なり。産業は農業・水産業・工業いづれも盛にして、昭和十年中の生産總額は農産一二七萬圓、水産二二二萬圓、工業二四七萬圓を示し、その他林産二二萬圓、礦産六八萬圓等を合し、生産總額七百萬圓に近く、一戸當り生産額は八〇二圓に上り、各郡中の上位に居る。農産物は米(二萬石)・大豆(一・五萬石)・大麥・馬鈴薯・大麻、その他雜穀にして、苹果・梨等の栽培行はる。大豆は特に良質を以て開え郡外に移出せらる。漁業は群仙・遼湖を根據地として鱈・明太魚・鱒・鱈・鱈・鱈等の漁獲多く、その他若布・帆立貝・鮑・うに等を出し、鰻油(八七萬圓)・鰻(四〇萬圓)を始めとし、鹽干魚・鱈油類の水産製菓盛なり。農産は利原最

出の鐵を最とし、其他滑石・珪石・磁砂等を出す。工業は魚油製菓の外は大規模のものなしと雖も尙ほ鐵製品(二三五萬圓)を始めとし、機械器具・織物・木製品等の工業あり。鐵道咸鏡本線海岸に沿うて通じ、西より羅興・曾山・鹽盆・松嶺・群仙・双岩・谷石等の各驛あり、羅興驛より利原嶺山へ支線嶺山線を出し、曾山驛より遼湖港へ支線遼湖線を通じ、嶺石運搬に便す。道路は一等道路西方より東り利原邑を經、東嶺の摩雲嶺(最高點四一八米)を越えて嶺川邑に至る外、利原邑より南大川を河り北青郡に出づるもの、群仙より北走し城嶺(最高點四五二米)を越え嶺川郡西部に通ずるもの等あり、海路は遼湖・群仙兩港に近海航路都が寄港し、水陸ともに交通便なり。行政上、西面・東面・南面の三箇面に分ち、郡廳を西面の利原邑に置く。人口五萬餘、一方軒密度は一一一人(昭和十年)にして、咸鏡道につき人口稠密なり。本郡は往昔、時觀城と稱し、高麗朝には福州(嶺川)に屬せしが、李朝世宗の時、嶺川郡摩雲嶺以南及び北青郡東部の地を割きて利城縣を置き、のち利原縣と改め、その後郡となし、以て今日に至る。

朝鮮咸鏡南道利原郡の首邑。郡のほぼ中央、西面の東部。西面。重要嶺山。嶺川は利原郡南面を主要部分となすも一部は北青郡居山面にも跨り、利原嶺山株式會社の經營にかゝる。嶺石

は赤鐵礦にして、鐵區數凡そ五、いま元山及び西山等に於て採掘せられ、昭和十年中の産額は二七、七八三圓、その價額一二七萬餘圓、同年六月末現在使役人員一、四二一人を算す。利原嶺山會社は大正四年の創業にて、當時世界大戰の財源好況時代に事業を擴張し、年産三〇萬圓を採出せり。嶺石はその目的の爲に敷設せられたる嶺山線の利原嶺山驛(昭和四年設置)より同線及び遼湖線によりて遼湖港に搬出し、同港より内地へ輸送せらる。

里港庄 臺灣高雄州屏東郡下五庄の一。郡の西北部、下淡水溪の上流東岸に位置す。東は高樹庄に、西は下淡水溪を隔てて鳳山郡に、北は下淡水溪の支流たる老濃溪を隔てて旗山郡に、南は九塊庄に夫々隣接す。管内は概して平坦なるも地勢は東部高く、西方に向ひて傾斜す。本庄下住民の大部分は福建築にして、主として農業に従事す。管内は純然たる農村にて、近年、下淡水溪沿岸工事の完成と共に惡地化して良田となるもの多く、農業著しく盛となり、其の生産額も亦増加せり。本庄下農業戸數は總戸數の約七割を占め、農産額年約百萬圓に達し、米・甘蔗・甘藷・芭蕉・豆類を主産物とす。また庄下の武洛には常盤村・千歲村等内地人移民部落ありて、専ら黄色種葉煙草の栽培に従事し、地方産業上一偉觀をなす。また農家に於ては、副業として牛・豚・家禽等の飼育をなす者多く、

是が生産は本庄下農民の重要な財源をなし、管外輸出多し。商業は、管内が純然たる農村なるも、近くに屏東市を控ゆるを以て、商取引は不活潑にして、單に日常必需品に限つて取引せられ、農産物及び其加工品は概れ屏東市に於て取引せらる。金融機關としては、僅に信用組合を有するのみ。教育狀況を瞥見するに、學校教育に於て當管内には、小學校三、公學校一、分教場一を有し、小學校中の二校は移民村の兒童を收容す。また社會教化機關としては、青少年團・住民風作會・農業實行組合あり。特に本庄には里港神社ありて、里港住民の敬神崇祖の浮俗を振作し、青年子女の精神教化上好影響を齎しつつあり。交通は未だ便なりとは稱すべからざるも、屏東市よりは九塊庄を經て本庄に達する大道あり、自動車の運行自由なるを以て管内貨客の運搬に事少く事少し。本庄の地往時は平埔蕃族マカオ部族のメアラウ(搭樓)社及びゲラウ(武也)即ち大澤機社の所在地に屬し、現大字搭樓及び武洛は其據地とす。清の康熙年間、閩粵人の足跡を及ぼし、同五十年代には阿里港(現里港)地方に建庄を見、港西上里なる行政區劃内に入れり。雍正年間楊・王の二姓魁首と爲り、里内の大部を拓成し、乾隆初年には阿里港街成り。平地族武洛社が漢族の爲に故土を侵佔せられて、東方山蕃界に移住地を開きしは、康熙年間中に在り。當初、山蕃と屢々衝突せしが終に威

リケン——リシユ

五岳

朝鮮咸鏡南道三府二〇郡の一。道の東南部に位し、北は楊平郡、西より西南は廣州郡・利川郡に面し、東は江原道原州郡、東南は忠清北道忠州郡に界す。南北に稍々長く、面積約六四三平方町あり。北部に低山性の山地東西に連り、楊平郡との境に嶺山(五四三米)・注邑山(五八三米)・楊子山(七〇四米)など聳え、廣州郡との境には天徳山(六三四米)等あり、南東境にては楊甲山(六〇九米)著はれ、其他域内にも老年性の丘陵起伏するも、これ等丘陵地帯間には平地、調く拓く。漢江は南方より東り江原道との境にて嶺江の長支を容れ、西南部の平地を灌溉する清美川・楊花川・福河川及び北部山地に發する金塘川等を合しつつ、東南西北に貫流し、灌溉、舟運に便す。農業を主産業とし、耕地面積大にして(約二萬ヘクタール)、水田には一部に二毛作

力を以て是を服し、拓地定住せり。康熙末年臺灣御史黃叔象の番俗六考に「武洛社、性魯悍、逼近僞偏山、先是僞偏生蕃、聚其社小人數、欲滅之、土官糾集社蕃、往圍大敗生蕃、戮其衆無算、由是僞偏僞服、不敢窺境……」と、以て其勇を知るべし。港西上里は我が領臺後其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月一日地方制度改正に際し、本里下の一街六庄(現大字)の地を割きて、里港庄なる一庄を建て、高雄州屏東郡の管下に歸せしめたり。

驪州 朝鮮京畿道三府二〇郡の一。道の東南部に位し、北は楊平郡、西より西南は廣州郡・利川郡に面し、東は江原道原州郡、東南は忠清北道忠州郡に界す。南北に稍々長く、面積約六四三平方町あり。北部に低山性の山地東西に連り、楊平郡との境に嶺山(五四三米)・注邑山(五八三米)・楊子山(七〇四米)など聳え、廣州郡との境には天徳山(六三四米)等あり、南東境にては楊甲山(六〇九米)著はれ、其他域内にも老年性の丘陵起伏するも、これ等丘陵地帯間には平地、調く拓く。漢江は南方より東り江原道との境にて嶺江の長支を容れ、西南部の平地を灌溉する清美川・楊花川・福河川及び北部山地に發する金塘川等を合しつつ、東南西北に貫流し、灌溉、舟運に便す。農業を主産業とし、耕地面積大にして(約二萬ヘクタール)、水田には一部に二毛作

力を以て是を服し、拓地定住せり。康熙末年臺灣御史黃叔象の番俗六考に「武洛社、性魯悍、逼近僞偏山、先是僞偏生蕃、聚其社小人數、欲滅之、土官糾集社蕃、往圍大敗生蕃、戮其衆無算、由是僞偏僞服、不敢窺境……」と、以て其勇を知るべし。港西上里は我が領臺後其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月一日地方制度改正に際し、本里下の一街六庄(現大字)の地を割きて、里港庄なる一庄を建て、高雄州屏東郡の管下に歸せしめたり。

力を以て是を服し、拓地定住せり。康熙末年臺灣御史黃叔象の番俗六考に「武洛社、性魯悍、逼近僞偏山、先是僞偏生蕃、聚其社小人數、欲滅之、土官糾集社蕃、往圍大敗生蕃、戮其衆無算、由是僞偏僞服、不敢窺境……」と、以て其勇を知るべし。港西上里は我が領臺後其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月一日地方制度改正に際し、本里下の一街六庄(現大字)の地を割きて、里港庄なる一庄を建て、高雄州屏東郡の管下に歸せしめたり。

行はる。昭和十一年統計に據るに、農産物は米八萬一千石、大豆一萬七千石、大豆一萬四千石、棉花六三萬斤等の收穫あり。其他、小麦、小豆、粟、苧草、楮、甘藷、馬鈴薯等を産す。副業には養蠶、養鶏又は牛、豚の飼育行はれ、工業物としては織物、陶磁器、加工品、履物、酒等あり。鑛産は金を主とし、銅、水金山や著はれ、また良質の磁石を出す。鐵道は社線京東鐵道驛水線が西方利用より來り、梅柳を経て漢江を穿つ驛水邑に達し、驛水邑を中心として西北方揚平を経て京城へ、西方利用、東方原州、南方長湖院へ、何れも良路を通じ、漢江の水運と相俟つて交通に便利なり。行政上、十箇面に分ち、郡廳を州内西の驛州邑に置く。本郡はもと高句麗の骨及縣にして、新羅朝に至り黃驪、號、高麗の始め黃驪縣となす。のち水義、驪興と稱し、江原道原州に移されしめられしことあり。李朝太宗王の時、除竹縣の北部を併せて忠清道より京畿道に移屬し、睿宗王元年に始めて驛州と名付け收を置きしが、のち復た郡守を置きて現在に至る。
【驛州】朝鮮京畿道驛州郡の主邑。※州内面

リシリ 利尻

【利尻郡】北海道北見國宗谷支廳の西海上。利尻島一島を占む。支廳管下四郡の一。稚内町の西南海上に横はり、四週日本海に圍まる。西北方約一〇軒の海を隔てて禮文島あり。面積一八四・一九平方

軒。人口一六、四四四。郡は鷺沼、香形、仙法師、鬼島、四ヶ村を含む。略々圓形の火山島にして中央にコニテ火山の利尻山(一七一・九米)聳ゆ。四周に放射狀の傾斜をなして島内概ね山地に占められ、その裾に海岸平野連れり。灌溉の便乏しく地味肥沃ならざれば、耕地少し。島内は利尻山を中心し約四分に分ちて村内の區劃とせり。各村とも海岸に概ね海岸に存し漁業を主となす。一體に海岸線の出入乏しき北に鷺沼の勢入を有し、鷺沼港あり。鷺沼左岸のハシ岬は燈臺を有す。熊、昆布、蟹、鮭、鱈等の漁獲多く鷺沼、香形は本郡に於ける主要漁港なり。海上交通便にして、各村より天鹽港・稚内港に至る汽船の便あり。

【利尻島】 ↓利尻郡

【利尻島】北海道北西岸の沖合、日本海に浮ぶ利尻島の中央に峙つ山。利尻島全島はこの山を以て構成せられ、山裾は海岸より起り、周圍約六〇軒に達す。幾頭圓錐形の噴火山にして一に利尻富士また北見富士と稱され、鑛脈なる富士形をなす。標高一七一・九米。山頂部には男性的なる岩壁峙り、岩登りを樂み得らる。山上部は樺松を以て掩はれ、その間に多種多様の珍奇なる高山植物吹き亂れ、特にヘイマタマ、エゾノイキトラフナ等の珍草ありて植物學上注目し値す。登山は昔より島民によりて行はれしが、近時植物研究者及び一般人にして登山する者を増すに至れり。この山に登るには小

樽または稚内より海路によりこの島の南東端鬼島に至り、それより登高す。また島の北岸鷺沼より登山可能なり。冬季登山も興味あれども四〇〇米以上はシュータイゲアイセンを要す。

リシユ 梨津灣

朝鮮咸鏡北道富寧郡東部の灣。東角は花嶺山の山腹のなす花嶺、西角は非所嶺にして、灣口の幅凡そ九軒、奥行五軒餘。ほぼ半圓を描きて南に開口し、水深くして碇泊に適す。灣内北岸は低砂濱をなし、ここに素清川流入し、河口の東方に潟湖發達す。灣の東北隅に梨津港あり、沿岸航路の寄港地にして、又漁港をなす。

リシユ 里仁面

朝鮮咸鏡南道豊山郡にありし面。いま豊山面と改稱さる。

リシユ 利仁金山

朝鮮忠清南道公州郡にある金山。鐵道は海川面と木洞面とに跨る。東洋拓殖會社の採行に係り昭和十年には金六、二六二瓦、銀六、〇一一瓦、金銀銅二三六兩(この總價額五萬五千餘圓)を産出す。

リセー 東西面

朝鮮平安北道江界郡の北嶺部に位置し、郡邑江界の北方約二五軒にあり。狼林山脈の北嶺部に位置し、東境近くは月起嶺、南境に梨嶺(一〇〇八米)、西境に駒嶺山(八八三米)、北境に月起嶺(二二三八米)など一千米内外の高峰を以て圍繞し、餘勢域内に及びて山岳連綿し、高峻にして平地に乏しく唯僅かに秀魯江支流乾浦川の沿岸に河成段丘の發達を見る。耕地は水利に乏しく

畑作農業卓越す。農産物は粟、豆類にして大豆の産額に道中の首位にあり。また蜂蜜、薪炭等を出し燒酎の醸造行はる。道路は中央の面邑松鶴洞を中心として東北方軍山嶺、西南方滿浦嶺に各二等道路、南方江界に三等道路を通じ、前者は比較的坦路にして自動車の便あり。

リセン 利川

【利川郡】朝鮮京畿道三府二郡の一。道の東南部に位置し、北は廣州郡、東は驛州郡、西は龍仁郡、安城郡に隣接し、南は忠清北道陰城郡と界す。南北に長く三〇軒に餘り、東西は平均一〇軒前後にして、面積四六一平方軒餘あり。地勢は西南より北東に向つて緩傾斜し、城内は老年性の丘陵性臺地をなす。従つて山岳として、北境の天徳山(六三三米)・羊角山(三八一米)、西境の乾芝山(四二二米)・南境の馬耳山・林島山(三四四米)等をやや著しきものとし、而も城内には二百米を越ゆるものすら少し。北部には福江川、中部に梅花川、南部に清美川の三川あり、何れも北又は東北に流路をとりて驛州郡に入り漢江に注ぐ。之等諸川の流域には田圃沃野ひろく相連り、灌溉の利に富む。氣候は寒暑ともに酷烈なれど、全道に比較すれば中位にして、京城よりやや温暖なり。耕地は約一萬七千ヘクタールに及び、その七割弱は水田にして、一部には二毛作行はる。昭和十一年統計によれば、農産物は米一六萬七千石に達し、大豆一萬三千石、大豆一萬四千石、

棉花九五萬斤、苧草三萬六千貫等これにつき、其他小麦、小豆、大麻、苧、胡麻及び甘藷、白菜、甜瓜等の蔬菜並に果實を産す。副業としては養蠶(産繭高、四萬七千疋)、牛豚の飼育、養鶏、加工等行はる。また工業には醸酒、織物、窯業製品、金屬器、植物性油脂等あり。北部を社線京東鐵道東西に貫走し平川、西山、利用等の驛あり、道路は利用邑を中心として西方水原、東南方長湖院に各一等道路通するを始めとし、東方は驛州、北西は京安里を経て京城に二等道路通じ、何れもバスの便あり、また南部に長湖院を終點とする社線京南鐵道通じ、交通便利なり。行政上、十一箇面に分ち、郡廳を利用川面に置く。人口約七萬、一方軒密度は一四八人を算す(昭和十年)。本郡は高句麗太祖始めて利川郡となし、高宗王の時、永昌と稱し、恭讓王の時南川となし、李朝太祖名を利用川に復して縣とし、世宗王の時に都護府となせしが、のち郡に改め大正三年三月陰竹郡の大部分を併合し現在に至る。

【利用面】朝鮮京畿道利用郡の北部。社線京南鐵道終點驛長湖院と廣州郡の郡邑京安里の中間にあり。西境に雪峰山(三〇四米)聳え山腹南に延びるも、中部以東は土地低平にして地味肥沃、農産豊なり。東境には福河川北流す。米は品質・量共に優れ、其他大豆、小麦、苧草、黍等あり。特用産物には棉花、煙草、大麻等あり。社線京東鐵道東部に通過して利用

驛(昭和五年設置)あり。道路は利用邑を中心として西方水原、東方江原道江陵、北方京城、南方釜山への一、二等街道出で、邑は交通上の要衝を占む。邑内の市場は其取引額を活動にして年取引額十數萬圓の多きに達す。邑内には郡廳、地方

リタクカン 利澤簡

臺灣臺北州東部の舊堡名。郡の東南海岸帯よりその南に接する蘇澳郡蘇澳庄に互る一帯の地。即ち蘇澳庄全部に五結庄(蘇澳東部)の

リタクカン 利澤簡

富山縣越中中新川郡の西部。常願寺川の右岸。五百石町の西北に接し、西は常願寺川を以て上新川郡に界す。富山平野の中央部に近く、三郷用水その他の水波により灌溉され全村沃田拓く。米を主産し、麥を僅に出す。村の南部を穿る縣道あり、富山・五百石までのバス通ず。また社線富山電鐵越中舟橋その他の驛に近し。

リタクカン 利澤簡

臺灣臺北州東部の舊堡名。郡の東南海岸帯よりその南に接する蘇澳郡蘇澳庄に互る一帯の地。即ち蘇澳庄全部に五結庄(蘇澳東部)の

リタクカン 利澤簡

富山縣越中中新川郡の西部。常願寺川の右岸。五百石町の西北に接し、西は常願寺川を以て上新川郡に界す。富山平野の中央部に近く、三郷用水その他の水波により灌溉され全村沃田拓く。米を主産し、麥を僅に出す。村の南部を穿る縣道あり、富山・五百石までのバス通ず。また社線富山電鐵越中舟橋その他の驛に近し。

リタクカン 利澤簡

臺灣臺北州東部の舊堡名。郡の東南海岸帯よりその南に接する蘇澳郡蘇澳庄に互る一帯の地。即ち蘇澳庄全部に五結庄(蘇澳東部)の

五十二甲・利澤簡・成興・頂清水・下清水の五大字及び雪山庄の三塔を合したる地域これに相當す。清領時代に立てられしより我が領臺後も依然之を襲用せしが大正九年、地方制度改正によりて、廢せらる。

リチユー 利中面

朝鮮咸鏡南道端川郡の東端。郡邑端川の北東方凡そ一〇軒。摩天嶺山脈に屬する連花山(九五二米)北境に聳え、西南境には雲住山(四二二米)、東北境には洞谷峰(二九二米)等聳えて西北部及び東部は山地を成せどし、中部には北大川南流して日本海に朝し、沿岸及び東南の海岸地帯には砂濱連り、其の内側に稍々廣き耕地横はる。住民の多くは農業に従事し、漁業及び製鹽業に従事する者あり。産物は農産物に大豆、粟、蜀黍、麥、米、大麻等あり、殊に大豆は良質を以て著はる。水産物には明太魚、鮭、昆布等、鑛産には金銀、砂金、雲母、玉石等あり。鐵道咸鏡本線海岸に沿ひ東西に横斷し、汝海津驛(大正十三年設置)あり。道路は西南方端川より來る咸鏡一等街道中央を斜走し、乘合自動車の便ありて交通比較的便なり。汝海津は沿岸に於ける良泊を成し、漁港たると共に郡邑端川の門戸にも當り沿海航路船寄港す。昭和十年に於ける同港の貿易額は移出一四萬六千圓、移入八萬六千圓、計二三萬餘圓を示す。

リツ 立田

朝鮮全羅南道谷城郡の北部。谷城面の西隣にて、西北は玉果面、

リツ 立田

西南は釜面に接し、北は東西に曲流する汝津江を距て全羅北道南原郡帶江面と相對す。東境に動梁山聳え山腹北に南に延び、南走するものは兄弟峰(七五六米)に達し、東部と南部とは山地を成せども、北部と西部に平地ひろく。米・大豆・稗麥・小麥・棉花・雜穀等を出し、また機械・製紙業行はる。道路は何れも等外路線にして交通の便よろしからず。

リツ 栗

【栗面】朝鮮黄海道新溪郡の南部。郡邑新溪の南方約五軒。東南境に鶴峰(四〇一米)の聳立せる他に著しき山なきも、城内一般に丘陵起伏し、平地極めて少なく、鶴成江は西部を南流し、支流古新恩川をばじり幾多の支流は流入蛇曲流を成して、峽谷美に富み紅葉・雜樹その間に点在せる風光推獎に値するものあり。住民の多くは農業に従事し、副業として養蠶、機械をなす者少からず。産物は米・大豆・小麦・粟・玉蜀黍・棉花・煙草・人参・蔘・明神等あり。東部に平壤・議政府間二等道路通じ、西南方の南川店より來る二等道路と會し、北方新溪邑に至り、新溪・南川店にはバス通するを以て交通不便ならず。

リツ 立田

朝鮮全羅南道谷城郡の北部。谷城面の西隣にて、西北は玉果面、

て西北に流路をとり西界を流るる清美川に合流す。住民は農業を主とし、婦女は副業として機械の業に従事する者多からず。産物は米を第一とし、其他大麥・大豆・玉蜀黍・稗等にして、特用作物には棉花・煙草・大麻等あり。道路は何れも等外線にして車を通ぜず、交通・運輸便ならず。

【栗島】朝鮮全羅南道西南部の島。珍島の西北端を距る西約四軒に位し、北に足島、南に龜島の小島あり。島内に栗島燈臺(大正五年設置)を置く。燈台は四白光にして、毎三秒に一閃光を發し、先達距離一二哩。

**リッソ** 栗於面 朝鮮全羅南道寶城郡の東北部。郡邑寶城の北東凡そ一〇軒あり。東南端には谷帝山(七〇四米)屹立し、山脚数條に分岐して東南端を劃し、東南部は山地を成せども、西北部は盆地となり盆地を低平にして地味肥え、農業に適す。住民は農業を主とし、傍ら採薪・製炭の業に従事し、また近年養蠶を爲す者漸く増加を見るに至り、産物には米・小麥・大豆・粟・煙草・繭・蕎麥等あり。また七音嶺山等より金銀を採掘す。道路は何れも等外路線にして、且つその位置偏在せるを以て、東方の筏橋邑より列加峠を経て面邑栗邊に通ずるもの漸く改修を見るに過ぎず。他は河れも交通運輸不便なり。粟落は盆地周縁の山麓線に沿ひ分布す。

**リッカイ** 栗界面 朝鮮黄海道延安郡

りて、穀類・海産物・薪炭等の取引行はる。(安州炭田・栗嶺)立石面を中心として安州平野を領する炭田、之を安州炭田といふ。當炭田は朝鮮には稀なる第三紀夾炭層にして、炭層は凡そ五層。層にして、第一層は之に次ぐ。炭質は低濃度青炭又は褐炭なるが、有煙燃料に乏しき西朝鮮に於ては資き存在ナリ。當炭田の代表的なる山は安州炭嶺にして、現在、明治鐵業會社の經營に係る。昭和十年の産額には有煙炭五二、三六九萬(價額二七萬餘圓)にして、同年六月末の従業員は四三二人とす。

**リッセキ** 立石里 朝鮮總督府鐵道平康炭礦の一驛(昭和九年設置)。平安南道江東郡曉邊面あり。

**リッソン** 栗村面 朝鮮全羅南道麗水郡の西北端。麗水半島の咽喉を扼する重要な位置を占め、麗水邑と順天邑との中間にあり。東は光陽郡に、西は汝白郡に臨む。東南端に黃鶴山(三九六米)の聳ゆるほか著しきものなきも、城内一般に山地を形成し、海岸に僅に低地を見るに過ぎず。住民は山地の緩傾斜面を開墾して農業を營み、また漁業及び船員等を爲す者比較的多し。産物は大麥・小麥・粟・大豆・陳稻・麻布等にして、海産物に鱈・鮓・鯖等あり、また淺草海苔を産し内地方面に出す。鐵道全線は順天より來り、東海岸を経て東南の徳陽・麗水に通ず。北境近く栗村驛(昭和五年設置)、南

の西南端。郡邑延安の西方約一〇餘軒。馬息嶺山脈に屬する觀峰山(八七九米)・五峯山(七八二米)・國士峰(六六四米)等相連なりて西境を劃し、東境には慈恩山(五七三米)、また南境には甘朴山(六二六米)等聳え、餘勢城内に及びて山岳重疊し、之等周縁山地に發源せる諸流は、西流す。之等諸川の沿岸に僅かに耕地の點在するを見るに過ぎず。従つて農業に乏しく米・大麥等は移入の状態にあり、最近他地方に出稼する者多し。産物には薪炭・木材・紙等あり。粟落は溪谷に沿ひ分布し、南境に偏在する主邑芝石里を中心として延安・黃州間の道路を通じ、黃州へバスを通ずる外、北方平安南道中和郡内へも道路通る。

**リッカン** 立館面 朝鮮平安北道江界郡の南部。郡邑江界を距る南方約四〇軒。狼林山脈中に位置せるを以て周縁山地により圍繞せる。即ち東境に雲岩山(二五九米)・橋谷山(一六二四米)等、南境には麥亭山(一五七八米)・廣之巖山(六四四三米)等、また北境には非三峯(一八三三米)、西境には公徳山(一一三四米)など相連り、餘勢城内に及びて山岳重疊し、殆ど平地なく、寒暑江中部を蜿蜒蛇曲流を成して西北方に流れ、沿岸に美事なる河段段丘の發達を見、耕地は丘上に僅に點在するに過ぎず。産物は大豆を第一とし、粟・蕎麥・馬鈴薯・玉蜀黍・蕎麥・朝鮮酒・薪炭等あり。鐵道滿浦本

部に新驛驛(昭和七年設置)あり。順天・麗水間二等道路これに並走しバスを通じ交通・運輸比較的便なり。粟落は多く海岸に沿ひて分布す。  
**リッリ** 栗里 朝鮮平安南道大同郡の東南部。平壤府の東南約五軒に位す。大同江平野の東南部を占め、五〇米乃至七〇米前後の小丘陵起伏し波狀平野を成す。大同江支流成川の間を灌漑し、地味亦肥沃にして農業盛んに行はれ、住民は勤勞にして一般に富裕なり。米・大豆・大麥・楮皮・生牛等を産し、また製紙・製織の業行はれて明綉・綉布の産あり。海軍省所管の有名な平壤炭礦の鐵道は富面にも踰る(平壤炭礦參照)。道路は北境に沿ひ平壤より議政府に通ずる二等道路ありてバスを通ずるの外、南境に近き主邑成辰場を核として里道放射状に出で、西方の京義本線力浦驛(龍淵面)との間にもバス通じ、交通便なり。成辰場には陰曆三八の日に開く市場ありて栗里面及び南隣の中和郡東頭面を商團とし、年取引額四萬圓に達し郡中第六位にあり。  
**リッヒョ** 梨坪 朝鮮黄海道福山郡の中央より稍北に位置し、郡邑福山の北方約一〇軒にあり。車輪嶺山脈に屬する鉄嶺山(六五二米)・羅將山(六九一米)等西境に聳え、東境には夫人堂山(六八五米)など嶺嶽なる山を成して屹立し、餘勢谷内に及びて殆んど山地をなし、南部溪谷沿岸に小低地を見る。産物の主なるものは小

綏西部を通じ雲松驛(昭和十一年設置)あり。道路は面政の中心雲松驛を起點として禿魯江に沿ひ横行して東方平南嶺に出づるもの、江に沿ひ下る江界街道、南下する煙川街道等あり、近時、交通の便漸く加はるに至り。  
**リッガン** 立巖面 朝鮮慶尙北道英陽郡の西南部。郡邑英陽面に南隣す。西部には嶺巖山(五〇七米)屹立し、餘勢西部を壓して山地を成し、東部は稍低平にして牛邊川の間を灌漑す。ただ周縁山地が花崗岩より成れる爲に砂礫層の發達著しく、地味瘠せ、河運は多く潤滑流を爲し水利に恵まれること比較的乏し。住民は専ら農業を業とし副業として製紙及び採薪に従事する者多し。産物は大麥・粟・大豆・蕎麥の外、麻布・紙・松茸・薪炭等あり。道路は北方英陽より南方眞寶に通ずる三等道路の中を横貫せる外は何れも等外路線にして交通・運輸便ならず。粟落は河岸に沿ひ分布す。  
**リッキン** 栗金嶺山 朝鮮忠清南道にある金銀山。鐵道は牙山郡屯浦面と天安郡成歡面に跨り、昭和十年の産額は金二六、二七四瓦、銀二、一七七瓦、金銀鑛一七萬(この地價額九萬餘圓)を示し、同年六月末現在の従業員は一一八八なり。  
**リッコク** 栗谷面 朝鮮慶尙南道陝川郡の北部。郡邑陝川の北東方に隣接す。西北の慶尙北道高靈郡界には萬代山(六八八米)、南境には清溪山(五九一)相

對峙し、南北より緩傾斜を以て中央に下り、其の緩合線に沿ひ洛東江支流の黃江峽入蛇曲流して東流し、沿岸僅かに河岸段丘を見る。耕地は緩傾斜面を利用し、畑作農業卓越す。住民は農業を主とし、産物には大豆・粟・甘藷・棉花・紙・麻布・金礦等あり。道路は西方陝川より來る二等道路は南部を横斷して東方草溪に通じ、北部には陝川邑及び北方高靈とを結ぶ三等道路ありて、各乗合自動車を通じ、交通・運輸比較的便なり。粟落密度は比較的疎にして、主として黃江の蛇曲帯に分布す。  
**リッセキ** 立石面 朝鮮平安南道安州郡の西南端に位置し、郡邑安州の西南方約二五軒にあり。謂ゆる安州平野の一部を成し、土地頗る低平にして地味膏腴、水利に便にして重要農業地帯を成す。住民は農業を主とし、傍ら養蠶を行ふ者あり、沿海地帯の老江鎮・元北里等に於ては漁業に従事する者多からず。農産物には米に質・量共に優れ、其他大麥・大豆・棉花・煙草・牛皮・生牛等、水産物には石首魚・鯖・貝類等あり。また安州炭礦ありて石炭を出すこと多し。三等道路は西北端の老江鎮を起點として略中部を東走し、鐵道京義線萬城驛に連絡し乗合自動車あり。立石里より更に安州に三等道路を岐ち、交通比較的便なり。粟落は西部及び東南部に最も多く分布す。立石里は交通の要衝に位置し、面事務所あり、また陰曆二・七日に開く市場あり。

て車を通ぜず交通運輸便ならず。  
**栗里** 朝鮮平安南道大同郡の東南部。平壤府の東南約五軒に位す。大同江平野の東南部を占め、五〇米乃至七〇米前後の小丘陵起伏し波狀平野を成す。大同江支流成川の間を灌漑し、地味亦肥沃にして一般に富裕なり。米・大豆・大麥・楮皮・生牛等を産し、また製紙・製織の業行はれて明綉・綉布の産あり。海軍省所管の有名な平壤炭礦の鐵道は富面にも踰る(平壤炭礦參照)。道路は北境に沿ひ平壤より議政府に通ずる二等道路ありてバスを通ずるの外、南境に近き主邑成辰場を核として里道放射状に出で、西方の京義本線力浦驛(龍淵面)との間にもバス通じ、交通便なり。成辰場には陰曆三八の日に開く市場ありて栗里面及び南隣の中和郡東頭面を商團とし、年取引額四萬圓に達し郡中第六位にあり。  
**栗坪** 朝鮮黄海道福山郡の中央より稍北に位置し、郡邑福山の北方約一〇軒にあり。車輪嶺山脈に屬する鉄嶺山(六五二米)・羅將山(六九一米)等西境に聳え、東境には夫人堂山(六八五米)など嶺嶽なる山を成して屹立し、餘勢谷内に及びて殆んど山地をなし、南部溪谷沿岸に小低地を見る。産物の主なるものは小

栗村面 朝鮮全羅南道麗水郡の西北端。麗水半島の咽喉を扼する重要な位置を占め、麗水邑と順天邑との中間にあり。東は光陽郡に、西は汝白郡に臨む。東南端に黃鶴山(三九六米)の聳ゆるほか著しきものなきも、城内一般に山地を形成し、海岸に僅に低地を見るに過ぎず。住民は山地の緩傾斜面を開墾して農業を營み、また漁業及び船員等を爲す者比較的多し。産物は大麥・小麥・粟・大豆・陳稻・麻布等にして、海産物に鱈・鮓・鯖等あり、また淺草海苔を産し内地方面に出す。鐵道全線は順天より來り、東海岸を経て東南の徳陽・麗水に通ず。北境近く栗村驛(昭和五年設置)、南

北部を縦走して北方全境に通じ、聯合自動車の便あり。

リフ

利府村 宮城縣陸奥國宮城郡の北部。仙臺市の東北約一軒。北は黒川郡、東南は鹽釜町に接し、東北は鹽釜湾に面す。七北田丘陵の南斜面に属し、北境に龜山、北部に香ヶ森山(二一七米)聳え、北部は丘陵ななすも、南部は仙臺平野に属して平坦なり。村の生業は農業を主とし、米・麥・蕎麥を産し、利府梨の名産あり。道路は村の中部を西南より東北に通じ、西南方仙臺市へは自動車の便あり。省線東北本線利府驛(明治十七年設置)及び社線宮城電鐵濱田驛(昭和二年設置)を置く。菅谷外八郡藩は古く宮城三十二邑に属せし各々その一なり。然し加瀬・森郷・赤沼は一に高城本郷に属せしことありといふ。中世、伊達家管、源朝朝に従ひて東征の役に功あり。即ち奥州の留守を命ぜられて此地に城く。のち其一族この地を領すと。明治天皇、明治九年奥羽御遊幸の御、この地にて御小休遊ばさる。

リホク

梨木 朝鮮總督府鐵道京元線の一驛(昭和十一年設置)。江原道平康郡縣内面にあり。

リモカン

社 臺灣臺北州文山郡の善社。淡水溪の上流、南勢溪流域にあり、標高約四五〇米、高砂族部落にしてアマム族に属す。戸數三二、人口一五一(昭和十二年現在)。臺北市より新店を経て至るを便とす。

リユー

利柳面 朝鮮忠清北道忠州郡の南部。忠州邑の西方に隣る。西南境に顯慶峰(四八三米)・倉山(四八五米)等四百米内外の諸峰相連りて周徳面及び槐山郡佛頂面との境を劃し、餘勢城内に及びて丘陵起伏すれども緩傾斜にして耕地よく發達す。北部を建川の支流なる莞波川東流し沿岸は低平なり。住民は農業を主とし、副業として養蠶を爲す者多し。産物は大豆・大麥を主とし、其他穀類・棉花・大麻・苧等あり。珠に標章に米國種の黄色標章の栽培盛にして、郡中に於ける優秀標章の産地をなす。社線鐵道忠北線は莞波川に沿ひ東西に通じ、西に大召院驛(昭和三年設置)、東に建川驛(昭和三年設置)あり。京城・釜山間一等道路これに並走し、大召院より西方陰城へ二等道路を敷ち、何れも聯合自動車の便あり。聚落は沿沿に多く分布し、大召院に面事務所・市場等あり。

リヘー

梨坪面 朝鮮慶尙南道昌寧郡の西北部に位置し、郡邑昌寧の西方凡そ一〇軒にあり。西境は洛東江を隔てて陝川郡都谷面・青徳面等に相對し、東境は龍湖・木浦・牛浦等の河跡湖相連なる。城内丘陵起伏して平地乏しきも、緩傾斜面よく利用され畑地よく發達し、地味肥沃にして郡中の重要農業地帯を成遊ばさる。

リユー

龍安面 朝鮮全羅北道益山郡の北部。郡邑龍安の北方約二五軒にあり。北境には錦江西流し、南部の湖水は松亭江に入りて錦江に注ぐ。江景平野の一部を成し、沃野遠く連り、郡中主要の農産地を形成す。産物の主なるものに米・大麥・大豆・大麻・苧麻・棉花等あり。鐵道湖南本線は北方江景を経て來り南部を横斷して南方成徳・裡里に通じ、道路は面邑龍安を軸として北方江景、東南方成徳驛及び西南方成徳等に通じ、一方、錦江に舟楫の便ありて水陸共に交通・運輸便なり。主邑龍安は大正三年まで龍安郡廳の置かれし地なり。

リユー

柳營庄 臺灣臺南州新營郡二街四庄中の一。郡の南部中央に位置し、新營街の東に隣る。東北は香社庄、西北は新營街によりて圍繞せられ南は曾文郡下の六甲・下營二庄に接す。北西南三面には急水溪の本支流が境界を流れ、東南端の一部が丘陵をなす外は、土地總て平坦にて田畑廣く展開し、純然たる農村を形成す。灌溉水利の便不十分の爲め農耕地は看天田及び畑多し。米・甘蔗・甘藷等を主要農産物とし生産額少からず。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏・鴨・鵞等の家畜多く一般家庭に副業として普く飼育せられ、農産に次ぐ經濟上の重要な地位を占む。鐵道

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

西方廿三軒前後に當り、東面は三重縣員辨郡石神村に、西面は福井縣愛知郡東小松村に屬す。標高一〇〇米。山腹以下は開墾樹繁茂し山頂部は被にて掩はる。

リユー

龍ヶ岳 大嶽山脈の一峯。主峯山上ヶ岳の南東方約一軒に連り、奈良縣吉野郡天川村の東嶺たり。標高一五六米。この山の北西側面に小笹の宿あり。

リユー

朝鮮全羅南道潭陽郡の北端。都邑潭陽の北方約一五軒にあり。東境には小白山脈に屬する金城山(六七三米)・廣徳山(五六三米)等連り、西境には秋月山(七二〇米)等聳立し、餘勢城内に及びて山岳重疊し、之等山地に發源せる溪谷は榮山江の上流をなして南流し、其兩岸に僅少の耕地を見るに過ぎず。住民は農業を主とし副業として竹細工、女子は織績に従事す。農産物は大豆・大麥を主とし其他棉花・大麻等あり。又米を産すれども糧食として二箇月を支ふるに過ぎず。工産品には綿布・絹布・麻・繭・笠類・扇子等あり。道路は淳昌より來る三等道路は面の北部を横斷して西方井邑に通ずる他は何れも等外路線にして船坂多く交通便ならず。金城山の頂に山城址あり、李朝時代に於ける陸軍御守地にして、内外石城を以て繞らし、その延長内城は約四百米、外城は千五百米に近く、嚴然たる城郭をなす。城内建造物は往時三十餘棟ありしも、制度の改革と東學黨の亂に於ける火災により多く毀壞し、現に基

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

リユー

龍淵 朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地總て低平にて地味奇麗、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農業を主とし傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし米、その他、雜穀・棉花・棉花・楮皮・栗・繭・柞蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富面と大

見國教別郡生田原村にある金銀銅山。該區九七萬餘坪。その地質は第三紀に屬する頁岩及び凝灰岩にて一部に安山岩の露頭を見る。鐵床は安山岩を運搬岩とし頁岩・凝灰岩を母岩とする含金銀石英脈にして主なるもの二條あり、走向何れも北七〇度東、傾斜七〇度内外、脈幅約一〇—三〇米、平均品位略十萬分の三とす。昭和九年の試掘に於て金銀一・一五兩を出せしが、同十年金銀一・二〇四兩、價額約九萬圓を産出し、一躍重要礦山に列す。

リユー

隆尼鎮山 北海道北見國紋別郡生田原村にある金銀銅山。該區九七萬餘坪。その地質は第三紀に屬する頁岩及び凝灰岩にて一部に安山岩の露頭を見る。鐵床は安山岩を運搬岩とし頁岩・凝灰岩を母岩とする含金銀石英脈にして主なるもの二條あり、走向何れも北七〇度東、傾斜七〇度内外、脈幅約一〇—三〇米、平均品位略十萬分の三とす。昭和九年の試掘に於て金銀一・一五兩を出せしが、同十年金銀一・二〇四兩、價額約九萬圓を産出し、一躍重要礦山に列す。

リユーカ

龍王 龍王 龍王... 龍王村 龍王村... 龍王村 龍王村...

龍王村 龍王村... 龍王村 龍王村...

リユーカ

龍化面 龍化面... 龍化面 龍化面...

リユーカ

龍華山 龍華山... 龍華山 龍華山...

リユーカ

龍ヶ崎町 龍ヶ崎町... 龍ヶ崎町 龍ヶ崎町...

リユーカ

龍ヶ崎町 龍ヶ崎町... 龍ヶ崎町 龍ヶ崎町...

龍ヶ崎町 龍ヶ崎町... 龍ヶ崎町 龍ヶ崎町...

リユーカ

龍ヶ崎町 龍ヶ崎町... 龍ヶ崎町 龍ヶ崎町...

北道星州郡の東南部に位し、星州面に南隣す。北境には星山(三九〇米)・七峰山(五一七米)等、南境には俄風山(五五二米)等、東境には山をなし、中部もまた一般に低山性の丘陵地帯を成し、洛東江小支の流域にやや廣き平地ひらく。灌溉水利や不便にして、畑作農業卓越す。住民は農を主要とし、工業品として綿布・麻布・蘿蔔等もあるも何れも副業になるものにして産額多からず。農産物には米・大豆を主とし、其他、大麻・煙草・落花生等あり。道路は面の中部なる松亭洞を起點とし、北方星州邑、南方高靈に三等道路を通じ乗合自動車便ある他は何れも等外路線にして交通運便ならず。葉落密度比較的疎にして龍亭洞には陰曆一・六の日に開く市場あり城内は勿論、東隣の高靈郡茶山面、北の龍南面一部等を函圖とし市日には股股を早し郡中有数の取引市場をなす。本面は昭和九年四月、もと龍巖面及び龍頭面を合併、新設せしものなり。

**リユーガン** 龍巖山 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新興郡東上面の北部、赴龍湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

**リユーガンボ** 龍巖浦 朝鮮平安北道鴨綠江口に臨む開港場。龍川面。

**リユーキュー** 琉球 琉球列島。本面は大島等を含む奄美群島より西南に列なる沖繩群島・先島群島

を稱せり。この内、奄美群島は鹿児島縣の、其他は沖繩縣の管下に屬す。

【琉球國】西海道十二箇國の一。九州の南方海上臺灣に至る間に浮ぶ大小數十の島嶼を總稱す。最大なる島を沖繩島とし大島・徳之島・西表島・石垣島これに次ぐ。これを大別して沖繩群島・奄美群島・先島群島に分つ。琉球とは我が國の命名に非ず。隋・唐の頃、支那人により與へられたるものにて、即ち隋書に琉球と見え、唐書には琉球に作り、明史以後琉球の字を用ふ。而して國人はこれを阿兒奈波に作りオキナワと稱す。蓋し阿兒奈波は阿史奈波の譯ならんと云ふ。國史に此國の記事を見たるは夙く推古天皇の朝にはじまり慶長我が國に朝せり。我が國にてはこれを南島と稱す。元明天皇の朝、南島奄美、信賢(石垣)・球美(久米)島人五十二人來朝す。その他、我が國史に見ゆる故久・益久・多爾・多嶺と稱するもまた此の國を云ひしものにして、鎌倉時代に本土と盛に交通せしことは琉球古語の證する所なり。室町時代に至り我が朝貢し方物を獻す。永享の頃、將軍義隆琉球を島津氏に與ふ。是より先、琉球は明に通じ又その封冊を受く。此に於て我が國及び明に兩屬せるが如し。爾後琉球は國亂れ修政を怠る。是に於て慶長十四年島津家久これを征服し、琉球は永く島津氏の附庸となる。明治の初、一國を建て鹿児島藩に隸屬す。明治五年琉球藩を置き直にこれを朝廷に隸せしめらる。嗣

十二年琉球藩を廢し沖繩縣を置くに及び大島・喜界島・徳之島・沖ノ水島等島嶼を以て大島郡を建てこれを鹿児島縣の管下に移す。國內を那覇・首里の二市及び島尻・中頭・國頭・宮古・八重山の五郡に分ち以て今日に至る。沖繩縣

【琉球庄】臺灣高雄州東港郡下一街五庄の一。郡の西南約一哩の海上に浮ぶ琉球嶼を管轄す。琉球嶼は一に小琉球島と稱し、また割腹山嶼とも稱し、歐米人の謂ゆるラムレイ(Lambay)島にして、西曆十七世紀初より本島に占據せし和蘭人は、本嶼を Yonke Iskane Eyland と命名せり。島形は不整形圓形にして、北東に走り、島の中央には割腹山と稱する一丘陵あり、四方に支出起伏して、島内殆ど平地なく、また海岸には珊瑚礁排列す。從つて船舶の假泊すべき良灣を有せず、僅に小舟を碇繋せしめ得べき所四ヶ所を有するのみ。然して漢民族の多くは是等海岸に部落を形成し、主として漁業に従事す。上記四ヶ所の小舟碇繋すべき所は、北に在るを白沙尾澳、東に在るを大寮澳、南に在るを天寮澳、西に在るを杉板路澳と稱す。本庄下の農業は上記の如き地勢よりして到底その發達を望むべからず、隨つて庄下産業の主なるものは漁業を第一とし牧畜業これに次ぐ。漁業は發動船機による沿海漁業を主とし、特産物として夜光貝・章魚・伊勢蝦を出す。畜産に於ては、高原地帯を利用する黄牛・鹿の集團飼育地設けられ、大に將來

性を有す。かくて漁・畜・農業に於ける年生産は約四十萬圓なり。教育機關に於ては公學校一を有し、其他、社會教化機關として、青年團・國語講習所・簡易國語講習所等設けらる。また近時庄下に國旗掲揚臺四ヶ所を設置して、庄下本島人をして日本人たるの認識を深め、天恩の深きを體得せしめつゝあり。本島が小琉球と云へる名稱を附せられしは、古く明末鄭氏の時代に在り、當時の流寓者沈光文の平臺序中に既にこの文字を載す。またラムレイなる名稱は平埔蕃族なるツライヤ部族が、本島を呼びてラムレイと云へるに基きしなるべし。本島はもと平埔蕃族ツライヤ部族の根據地なりしもの如く、黃叔瓚の蕃俗考に「新港、蕭城、麻豆各蕃は昔小琉球に住す」と記せしは即ち是なり。漢族の初めて定住せしは清朝領臺の後に在りて、東港に在りし泉州人が、小舟に乗じて往來し、北方なる白沙尾澳に草寮を營みしに始まると云ふ。臺海使槎録(黃叔瓚著)に「小琉球社、對東港、地廣約二十餘里、久無蕃社、同郡地卑南夏、皆邑令代檢、山多林木、探番者乘小艇登岸、水深難於維繫、將舟牽拽岸上、結寮而居、近因偵緝餘孽、所司經其往來」と云へる、以て當時の情景を察知し得べし。されど、宋一時漢族の往來杜絶せしもの如く、再び漢民族の偷渡せしは乾隆中葉以來の事にして、末年には、既に各澳には部落の建設を見たりと云ふ。即

**リユーケ** 龍花・龍華 京都府愛宕郡大原村と滋賀縣滋賀郡伊香立村の境にある時。往昔に龍華園置かる。伊香立村

【龍華町】大阪府河内國中河内郡の中央南端。大阪市東南部より東方約一軒にあり。東北部は八尾町に接す。地形平坦にして東部及び西部には大和川の支流が東南流す。米・麥・蔬菜その他の農産物多く畜産もあり、また工業地帯の一部を成して工業頗多し。縣道は東西に走り東部には北走するものあり。八尾町へバスを通じ、關西本線は八尾驛(明治二十二年設置)・久寶寺驛(明治四十三年設置)を置く。昭和二年町制を布く。和名抄に滋谷郡跡部郡あり。蓋し本村ならん。また用明天皇の朝に、物部守屋大連の別業のありし阿都もこの地ならん。また放達天皇の朝、日羅の居りし阿刀桑市館、推古紀のある阿斗河邊館も亦この地にありしものにて河邊館は龍華寺地の地ならんといふ。(滋川神社) 植松に鎮座。郷社。祭神、天忍穗耳命・能遠日命外三神。式内社。例祭、十月十六日。(勝軍寺) 大字太子堂にあり。眞言宗。檀樹山と號す。南河内郡磯長村の飯福寺を上ノ太子と稱するに對し、本寺をまた下ノ太子と稱し太子堂と稱す。聖德太子の創建に係ると稱し、太子の御影(世に精製像と稱す)を安置す。

**リユーケー** 龍溪 朝鮮咸鏡北道鍾城郡の東部に在り。

**リユーケツ** 龍月面 朝鮮平安南道龍岡郡の西北部。郡邑龍岡の西方に隣接す。北・東・南の三面山地を以て圍繞し西方に向ひて開く。即ち北には廣東山(三九六米)、東境に雙嶽山(三〇五米)東南境には鳥石山(五六五米)等屹立す。之等の山地に發源せる諸水は中部低地を灌溉し、のち流路を西北方にとり西朝鮮灣に注ぐ。産物は米を第一位とし粟・大豆・大麦・棉花・綿布・煙草等あり。道路網はよく發達し、北部には廣梁・龍山間二等道路南北に縱走し、又東方江西に三等道路を分岐し、平地部は交通便なり。

位置し、郡邑鍾城の南方約一五軒にあり。南北に長く三〇余軒、幅は平均一〇軒あり。東境に鹿頭山・東京山、西境に甲胃山其他の諸峰相連なり餘勢城内に及びて山岳重疊し、東部を五龍川及びその支流鹿野川等東北流して後、豆滿江に合流し沿岸低地をなす。住民は農業を主とし又採薪に従ひ日稼に従事する者あり。産物は大豆・麥・大麻・棉布・鳥類等あり。また木材を産す。道路は鐘山洞を核として北方の慶源、西方の行營、南方の富寧に通じ、慶源・會寧へ乗合自動車の便あり。聚落は散村式形態のもの多く集村は少なし。

**リユーケン** 龍見面 朝鮮慶尙南道泗川郡のほぼ中央。泗川川の東岸中央、泗川・三千浦の中間に位す。臥龍山の西北斜面にて、東南部は山地をなし最高約五百米に達するも、西部と北部は概ね低平なり。海岸は中部に小岬角西南方に突出し、その北側に船津港あり。産物は農産物に米・大豆・棉等あり、養蠶・養豚盛にて、漁獲物は牡蠣・淺網等多し。海岸に近く晉州・三千浦間二等道路南北に通じバスの便あり、船津には沿岸航路船寄港す。船津には慶長年間、島津義弘の築造せる新築城址あり、島津軍が明の大軍を撃破せし古戰場なり。

**リユーケン** 龍峴 朝鮮咸鏡北道鍾城郡朱乙温面にある石炭山。日鮮礦業會社の稼行に係り、昭和十年には有煙炭三三、三四四

通(價額一八萬餘圓)を産出す。  
【龍興】朝鮮成鏡北道鏡城郡朱乙温面の洞名。總督府鐵道成鏡本線の龍興驛(大正十三年設置)あり。

リユーケン

龍源面 朝鮮成鏡南道洪原郡の東南端に位置し、北青の西南方二〇軒余。蓋馬岩臺地の東端部背後に迫り北部一帯は山地を成し、南方海岸に近づくと低地となる。西北境に墨坊山(一〇一〇米)聳え、山腹南に延びて南部中央に蓋馬山(三三七米)を起し、海岸低地を東西の二區に分つ。東部低地は比較的廣く地味肥え、東大川を以て灌漑し農業行はる。海岸地帯は漁業に従事する者多し。産物中最も著名なるものは明太魚にして、年産二〇餘萬圓の多きに達す。其他大豆及び蠶・絹・蠟等の魚類、生牛・麻布等の産あり。鐵道成鏡本線海岸に沿ひ東西に横斷し、東に雲武驛、西には雲浦驛(共に大正十三年設置)あり、北部に洪原・北青間一等道路通じて交通便なり。東南部の雲武里は漁業村落にして道内屈指の大市場あり。本面は昭和十一年四月もと龍源面に雲浦面及び龍川面の各一部を編入して成れるものとす。

リユーゲンリ

龍源里 朝鮮龍興府鐵道滿浦本線の二驛(昭和七年設置)。平安南道价川郡中南面にあり。

リユーコ

龍湖 朝鮮平安南道平原郡の西部。郡邑永柔の西約一〇軒にあり。五〇米前後の小丘陵起伏すれども土地概して低平

にて、西方西朝鮮海に向ひて傾斜し海岸一帯は沃野相連なる。北部海岸の臥龍山(七四米)は殘丘として稍々著はれ、その南方に深き入江ありて東より来る中龍江これに注ぐ。海岸線延長三〇軒に及ぶも沿海は干潮時に泥濘遠く連るを以て良泊地を缺く。住民は多く農を業とし、海岸地方の梅田里・魚塘里・安浦里等に於ては漁業に従事し、西南端の雲鳳里・板橋里に於ては農業及び製鹽業に従事する者あり。産物の主なるものは米・大豆・小麦・粟・小豆・黍等にして、其他麻・草鞋の産あり、また水産物には石首魚・鯛・鮎・貝類等あり。道路網比較的密なるも中央より遠ざかれるを以て改修未だ充分ならず、車を通ずるものなし。

リユーコー

龍岡 朝鮮平安南道三府十四郡の一。道の西南部に位し、南に鎮南浦府を抱擁す。北および東北は江西郡に接し、東南は大回江を距てて黄海道黃州郡と、南は同じく大同江を距てて安岳・殷栗の二郡と相對し、西は黄海に面す。面積七四四・八平方軒。東北より来る妙香山脈の末端部が城内に及び、中央北偏の烏石山(五六五米)著しき注意を惹く。その北麓には雙嶺山(三〇五米)・廣東山(三九六米)あり、南方にも凡そ二條の支脈は並行して出で、東のものを黃龍山(一五一米)等ありて末端は鎮南浦府の城内に及び、西のものは神徳山(四一〇米)・女兒峰(二

七九米)・牛山(五〇七米)・雲雨山(二三九米)等を起し、同じく大同江畔に達す。之に反し西部は海岸に至るまで廣漠たる大平野を成す。城内河川の大きなものなく、灌溉の便に乏しくして、耕地は畑作をなすところ多し。沿海地帯は遠淺にして船舶の繫泊に適せず、大部分草生地をなし、その間所々に鹽田の發達を見、殊に西南部の廣鹽湖は官營の天日製鹽場として有名なり。大同江岸は東南部に國士峰(二四米)の末嶺長く突出して牛島をなし、大同江を曲流せしむる外、また岬角頗る多く、その中央に鎮南浦の良港あり。農業盛にして、米・麥・大豆・粟・棉花・繭の産多く、水産には食鹽最も著はる他、大同江には蝦・蟹・鱈等の漁獲少からず。鐵道平南線は東北方平壤府より來り中部を南走し眞池洞・葛川の諸驛を経て鎮南浦港に達し、これと並走する一等街道あり、西部には江西郡の假山方面より来る二等道路通じ廣鹽湖を経て鎮南浦府に達し、中部の郡邑龍岡を核として、また道路四通し、陸上交通便なるに加へて、海路は鎮南浦港に内外航路船寄港し、また大同江に汽船を通じ、交通運輸の便甚だ大なり。行政上、十三箇面に分ち、郡廳を龍岡面に置く。人口一一萬餘。一方軒人口密度は一五四人(昭和十年)にして、大同郡につき稠密なり。本郡は眞子朝鮮時代の黃龍國の地にして烏石山上の黃龍城に都せり。高句麗これを併せ黃龍城、又は軍防と稱へ、今を龍

きしが、のち龍岡と改め、李朝に至り郡となす。明治四十一年、北方の成鏡郡を廢してその一部を本郡に合せ、大正三年注記現在の境域を定め、今に至る。

リユーコク

柳谷 朝鮮黄海道延吉郡の東端。郡邑延安の東方約一五軒にあり。東境は體成江によりて京畿道開豊郡を距て、北境は玉山江により銀川面と界す。西境には鬼尾山(二五〇米)聳ゆる他著しきものなく、一般に波狀平野をなして農業よく行はる。産物は米・小麦・大豆を主とし、礦産物に金・砂金等あり。金坑は主として東南部の金谷里を中心とする地域にあり。道路は延安・開城間の二等道路が面の南部を東西に横斷し東方七軒の土城里に於て鐵道京義線に連絡し、乗合自動車の便あり、また社社朝鮮鐵道海線は面境に近く走り西北端の紅峴市に近く紅峴驛ありて交通便利なり。聚落は玉山江沿岸に多く發達す。

リユーコク

柳谷 朝鮮慶尙南道宜寧郡の中央より稍北に位置し、郡邑宜寧の北方約一〇軒にあり。城内高峻なる山嶽を見ざるも丘陵起伏して平地に乏しく、耕地は概ね丘陵上の平坦面及び其の緩傾斜面に分布し、中部を新反川東北流し、また水利組合の恩恵によりて灌漑の利よるし。住民は一般に浮朴勤勉にして農業に精勵し、副業として蓬蓆製造・製紙・機械に従事する者あり。産物には小麦・大豆・米・黍・繭・棉花・甘藷・糖及び工産品として蓬蓆・紙・麻布・綿布等あり。道路は南方宜寧より来る三等道路、面の東部を横貫し、北方草溪に達して乗合自動車

リユーコー

龍興 朝鮮成鏡北道會寧郡の東部。郡邑會寧の東方約一五軒にあり。南北二

〇軒餘、東西一〇軒餘あり。周縁山地を以て圍繞し、低地極めて少なく、中部を流る鹿野川に沿ひ葉落發達するも耕地頗る少なし。住民は農業を主とし日糧に従事する者あり。物産は大豆・粟・黍・稗・生牛・木材・石炭等あり。道路は南方富寧より来る二等道路河沿ひに北方に縱走せるも輪坂多く、車を通ぜず、交通運輸不便なり。

リユーコク

龍興江 朝鮮成鏡南道南部の河。平安南道との界に近き高原郡雲谷面の南部山中に發源し、北流すること凡そ五〇軒、永興郡横川面大坪里附近に於て北境山地より来る立石川を併せ東流し、宜明面鎮南村に於て北方より来る鎮南川を合し、河口に近く、德池江・雲澤江を寄れ、文川郡との境を劃しつつ永興湖の支洞松田湖に注ぐ。流域凡そ一三五軒、流域面積約三四〇〇方軒。河口と永興湖三〇軒は舟運の便あり。流域の水興平野は地味肥沃にして大豆・米・麥・粟・繭・糖草等の農産に富む。

リユーコー

龍岡 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の二驛(昭和二年設置)。成鏡南道鎮南郡龍興面にあり。

リユーコー

龍郷村 英城縣管陸國郡河郡の西北隅。北より西は楊木縣郡須郡馬頭町その他と隣す。八溝山脈中の一部を占め、全村山地連りて、北境には尺丈山(五一二米)・雙子山(四〇三米)等あり。山地一帯森林多く、木材・椎茸の産多し。南部を東流する緒川の流域に

リユーコー

リユー——リユー

は狭き平地ありて、畑・水田をなし、農業行はれて葉落草・米・麥を産し、製材・酒造・醬油製造等の工業行はる。縣道は南部を横走し、西は楊木縣に入り、那須郡烏山町に通じてパスの便あり。大字高部は佐竹の一族高部五郎景義の城塞のありし處。また大字雙子に中世、常陸介奉宗の末族島子四郎これを領す。大字小田野は中世、佐竹氏の支族小田野氏の所居し。雙子山上神社)大字雙子の鎮座。神社、祭神、天日靈命。大己貴命・少彦名命を祀す。大同二年の創建と傳ふ。領主佐竹・江戸氏崇敬す。江戸時代末印領二十石を有せり。例祭日、八月二日。(善徳寺)大字雙子にあり。眞宗本願寺派。額光寺と號し、親覺門弟久慈善念の遺跡。寺基はもと那珂郡本崎村大字門部に在りしが、後年現地に移る。(照願寺)大字雙子にあり。眞宗大谷派。昆沙輪山と號す。親覺門下、眞宗念信の創建。法統連綿今日に至る。

リユーコク

龍蛟潭 臺灣南州東石郡の舊縣名。清領當時、雍正十年に建置されし行政区劃の一にして、我領臺後も引續き其行政区劃として用ひられたり。いま義竹庄下の大字東後寮・新庄・龍蛟潭・安溪寮・埤子頭・頭竹園・牛欄底・義竹・角帶園・新庄・北港子・後鎮・過路子・亭子寮・西後寮の地に當る。

リユーコー

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

平安南道安州郡東面にあり。

リユーコク

柳谷 朝鮮黄海道延吉郡の東端。郡邑延安の東方約一五軒にあり。東境は體成江によりて京畿道開豊郡を距て、北境は玉山江により銀川面と界す。西境には鬼尾山(二五〇米)聳ゆる他著しきものなく、一般に波狀平野をなして農業よく行はる。産物は米・小麦・大豆を主とし、礦産物に金・砂金等あり。金坑は主として東南部の金谷里を中心とする地域にあり。道路は延安・開城間の二等道路が面の南部を東西に横斷し東方七軒の土城里に於て鐵道京義線に連絡し、乗合自動車

リユーコク

柳谷 朝鮮慶尙南道宜寧郡の中央より稍北に位置し、郡邑宜寧の北方約一〇軒にあり。城内高峻なる山嶽を見ざるも丘陵起伏して平地に乏しく、耕地は概ね丘陵上の平坦面及び其の緩傾斜面に分布し、中部を新反川東北流し、また水利組合の恩恵によりて灌漑の利よるし。住民は一般に浮朴勤勉にして農業に精勵し、副業として蓬蓆製造・製紙・機械に従事する者あり。産物には小麦・大豆・米・黍・繭・棉花・甘藷・糖及び工産品として蓬蓆・紙・麻布・綿布等あり。道路は南方宜寧より来る三等道路、面の東部を横貫し、北方草溪に達して乗合自動車

の便あり。一方、面の南部に在る新村里を核心として道路放射狀に通じ、頗る密なるも面界に桂嶺(七二米)・月峴(一一五米)等の峙あり、改修充分ならずして車を通ぜず、運輸は多く馬背に據る。

リユーサン

龍山 朝鮮平安北道寧邊郡の東部。郡邑寧邊の東凡そ二〇軒にあり。妙香山脈に屬する龍門山(一一八〇米)東南境に屹立し、東部は山岳重疊し、西北境には耳山(五四二米)聳ゆるも、その東方を清川江貫流して沿岸に稍々廣き低地あり。産物は大豆最も多く道内屈指の産地をなし、其他小豆・粟・玉蜀黍・棉花の産出多く、養蠶最も盛にして明細の産額多く質亦良好なり。また南部には龍登炭礦ありて良質の無煙炭を出し、蘇民洞嶺山より亞鉛を採掘す。鐵道滿浦本線清川江左岸に沿ひて走り、球場(昭和八年設置)・新興洞(昭和九年設置)の二驛あり、球場より支線龍登線が東南に分岐し、龍龍窟・龍登(共に昭和九年設置)あり、龍龍窟・妙香山の探採にも便なり。球場は交通の要衝に位置し、陰曆一・六の日に開く市場あり薪炭・大豆・生牛・日用雜貨品等の取引行はる。此處は又、龍登炭礦・龍龍窟(至る門戸をなす。(龍龍窟)球場の東南約四軒に位する大鍾乳洞。龍龍窟より一軒餘、龍門山南麓にその入口あり。平安南北道の境を中心とするこの附近には龍龍窟の外、人物窟・佳珠洞等大小幾多の鍾乳洞あれど、現今発見さる

リユー

リユー——リユー



ものにては鍾窟最も大きく、世界一と稱せらるる北米ケンタッキー州のマンモス鍾乳洞及び山口縣秋芳洞と比較するに...

流し、灌漑水利の便に富む。米・麥・大豆・棉花・繭などを産す。鐵道平南線と平壤・鐵南浦間の一等道路とは東部に走り、前者の趙村驛(昭和九年設置)あり、同驛附近より西部の主要全村里を経て漢川方面にもバスを通ずる道路ありて、交通便利なり。

農産の中部にあり。京釜本線の龍山驛より起り北西方の西江を経て唐人里に至る線及び西江より分れて東方の京義本線新村驛に至る線を含む。京城市街の西北部郊外を迂回する循環線にして、龍山・唐人里・京城間に直通運行はる。

明輪・製菓製品・薪炭等あり。また金銀を出す。道路は何れも等外路線にて改修未だ充分ならず交通運輸や不便なり。雄嶺山に發し村谷湖に入る溪谷に黄溪瀑布がある。此地には白鳥の渡來するものも多く、鴨川白鳥渡來地として天然記念物に指定せらる。(首領嶺山)當面の内製里にあり。黃江に沿ひ龍洲里より嶺山事務所までは四軒にて道路平坦なり。嶺山は片麻岩中に脈せる合金銀石英脈にて黄鐵礦・方鉛礦・閃鉛礦・藍銅礦などを伴伴す。合金乏しきも銀分に富む。昭和十年には金銀四七八兩(價額七萬餘圓)を産出す。

Table with columns: 山名, 礦區所在地, 産, 價額, 従業員. Lists various mines and their locations and outputs.

山地を成せども、漸次北西に向つて傾斜し、西半部は稍低平にして安城川これを灌漑す。住民の多くは農業に従事し、また南部地方に於ては嶺山労働に従ふ者からず。農産物に米・小麥・大豆、その他雜穀・蔬菜等あり。當面或は隣接の他面に於て多くの金屬礦山あり、主なるものは別表の如くなるが、そのうち、硃山砂金礦は最も有名にして、大正六年砂金浸漬にドレフヤキを用ひたるは本邦新業界に於ける先驅なりといふ(産額は昭和十年の年産、價額は同額、従業員は同年六月末現在)。社線京南鐵道京畿線は西の略中部を貫貫し、中央に笠場驛(大正十四年設置)あり、南方一四軒にして鐵道京釜天安驛に、北方一四軒にして安城邑に各連絡し、道路は笠場より西方成嶺へ、東方忠清北道領川邑(各三等道路を出し、何れもバス通じ、交通運輸便なり。聚落密度は大にして、特に中央部に多く集中す。

リユー——リユー

南は羅南邑及び梧村面、西は富寧郡西上面、北は富寧郡富寧・石峯・青岩の三面及び清津府に接し、東は日本海に面す。西北より東南に長く、面積四〇〇方軒に近き大面なり。西北部には小長山脈連互し、郡界には高城山(一七五六米)・古城嶺(最高點一〇九五米)・大連谷山(一五五〇米)等聳え、漸次東南に低夷して北境には龍司嶺(一三二〇米)・高嶺臺(六〇八米)・南境には北寶峰(一三六八米)等を連ぬ。河川は北には輪城川、南には羅北川あり、特に前者の流域は謂ゆる輪城平野にして廣闊、且つ地味肥え、農耕に好適なり。輪城川アキタの西方は緩き弧を描く砂漠にして、小湯湖の發達を見る。産物に大豆・米・麥その他雜穀を主とす。鐵道成義本線は平野の西邊を南北に走り、南に康徳驛(大正十一年設置)、北には輪城驛(大正五年設置)あり、後者に於て北鮮西部線に接續す。平野部は清津府と羅南邑とに挟まれるを以て道路長く、バスの往來も繁し。鐵道に沿ひては元山・會寧間の一等道路通じ、康徳

東部は山地を成せども、中部は小丘陵の起伏を見るに過ぎずして謂ゆる全州平野に相違り、萬頃江支流所陽川これを灌漑し、地味肥沃にして農業盛に行はる。産物に米・穀類・薪炭・花・胡麻油・牛皮・竹細工等あり。道路は全州より来る二等道路面の南部を横斷して東方所陽を経て鎮安方面に通じ、三等道路は全州より西縁を経て北方高山邑と結び交通比較の便なり。聚落は西部に多く分布す。西方山下に風樓寺あり、新羅聖德王の時、國師惠徵の創立せし古刹にて、展望に勝れ境内幽邃なり。

リユー

RRR



志の名蹟文に記し、雲潭は乾隆十三年(皇紀二四〇八年)菅裡の通事知母六なる者、佃(小作人)を招きて置く所をなす。相傳ふ、昔早せし時莊佃雨を此に禱りしに即ち應ず、即ち名づく、桃園縣志には「今尙庄佃相傳へて池中に泉あり、富中に白石あり、白石現はれば必ず降雨す、蓋し白石乾けば雨を呼ぶなりと言ひ近在人民早に偵へば來りて雨を禱る」との記を記せり。後に雲潭を改めて龍潭と稱ふる因に就きては桃園縣志に、一夕風雨晦冥、波濤大いに起り雲龍の出没を見る、依て改めて龍潭と稱すと記せり。然れども是れ龍潭の文字に拘泥し、且つ潭の靈威を誇張せんが爲めの附會に過ぎず、雲潭と龍潭とは福建語の發音が近き爲め、自然の轉訛を推移したるものなるべし。爾來漸時修築を加へ、光緒二十一年業主林本源等重て改修し、現在の大龍潭を爲せしものにして、田園百數十甲に灌漑す。人口一八、八二六(昭和十一年末調査)。

【龍潭】朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接続點。成鏡南道文川郡都草面にあり。  
【龍潭嶺】北道(平安南道价川郡)郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)、約峰(六〇九米)、烽火山(六七〇米)、城峙山(六七三米)等連り、東境には智藏山(七

七三米)聳ゆ。龍江は南より北に侵入蛇曲流し、西より朱子川同じく蛇曲しつづれり之に合し、沿岸に低地や拓く。産物は米・麥・雜穀・煙草・木炭・乾柿等なり。朱子川左岸に在り龍潭邑を中心として道路四通するも坂路多く、北方鎮山、南方鎮安の兩邑に幸じて自動車を通ずるのみ。

リユーチ

【龍池】龍潭邑の東に在り。龍潭邑の東北にあり、西に北嶺村、北に中嶺村、東に雲田郡廣源村、岩田村あり。天龍川の右岸の地に在りて村の東部は同川の細流流路中において砂礫河原地なり、西部は砂礫土壌にして、桑園・畑・木田多く、米・蕎麥・西瓜・絲瓜等を産す。この地は往昔の池田庄の一部にして、天正の頃まで天龍川の氾濫により區域俄然とせり。然し元禄年間堤塘を築き區域明らかとなれり。  
【龍池面】朝鮮全羅北道全堤郡の東北部。全堤邑の東北方凡そ八軒。面積は約三八平方軒。全北平野中に在り、中部に二〇一三〇米の丘陵が波狀に起伏するに過ぎず。萬頃江支流東部と西境とを北流し、また水利組合の恩恵により灌漑の便よろしく、農業盛なり。米・麥・大豆・棉花・吹等を産す。西部を鐵道南本線南北に通じ、北は芙蓉驛、南は全堤驛に近く、南部には全州・全堤間道路、北境近くには全州・裡里間道路通じ何れもパスの便あり、交通便利なり。

リユーチン

龍池院(りゆうちん) 朝鮮總督府鐵道元線(大正二年設置)。成鏡南道安邊郡文山面にあり。  
【柳等面】朝鮮全羅北道淳昌郡の東南境に在り、郡邑淳昌の東方に隣接す。城内丘陵起伏し、山地を成せる所あれども、中部は鎭津江北より南へ貫流し、沿岸には耕地比較的廣く相連なる。地味肥沃にして水利良好郡中重要なる農業地帯を形成す。産物は米・大麥・大豆・棉花・煙草・麻・苧麻等に於て、河岸地帯に於ては朝鮮紙の製造行はる。道路は郡邑淳昌より東方南原に通ずる二等道路は北線を東西に通じ、乗合自動車あり。其他は等外道路にして運輸は今尙馬背に據る。乘落は南部に多く分布す。

リユート

【龍登】朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和九年設置)。平安北道寧邊郡龍山面にあり。  
【龍登嶺】朝鮮全羅北道全堤郡の東北部。全堤邑の東北方凡そ八軒。面積は約三八平方軒。全北平野中に在り、中部に二〇一三〇米の丘陵が波狀に起伏するに過ぎず。萬頃江支流東部と西境とを北流し、また水利組合の恩恵により灌漑の便よろしく、農業盛なり。米・麥・大豆・棉花・吹等を産す。西部を鐵道南本線南北に通じ、北は芙蓉驛、南は全堤驛に近く、南部には全州・全堤間道路、北境近くには全州・裡里間道路通じ何れもパスの便あり、交通便利なり。  
【龍登嶺】朝鮮全羅北道全堤郡の東北部。全堤邑の東北方凡そ八軒。面積は約三八平方軒。全北平野中に在り、中部に二〇一三〇米の丘陵が波狀に起伏するに過ぎず。萬頃江支流東部と西境とを北流し、また水利組合の恩恵により灌漑の便よろしく、農業盛なり。米・麥・大豆・棉花・吹等を産す。西部を鐵道南本線南北に通じ、北は芙蓉驛、南は全堤驛に近く、南部には全州・全堤間道路、北境近くには全州・裡里間道路通じ何れもパスの便あり、交通便利なり。

リユーチン

道延白郡の西端。郡邑鎮安の西方約一五軒にあり。東北境には丘陵起伏するも其他は概して低平にて、中部及び西部の花陽江沿岸には稍廣き耕地横ばり延海水利組合の灌漑地たり。南部の海岸地帯は砂質土にして畑地卓越す。海は遠淺にして干潮時には淺堆露出し船舶の出入繁留不便なり。近時花陽江口に堰堤を築きて延海水利組合の大貯水池となし、また南部沿岸は鮮滿開拓農場によりて手拓せられたり。農産物は米・小麥・大豆を主とし、海産物には鱈・蝦・白魚・石首魚・章魚・烏賊・牡蠣等あり。北部に社稷朝鐵道海線東西に通じ天台・深桂の二驛(昭和六年設置)あり、道路は之に沿ひ延安・海州間の街道ありて車馬の往來繁く、更に面の中心天台里より放射狀に支線を分岐し交通便なり。從つて天台里には面事務所を始め、金融組合、陰曆二・七日に開く市場ありて穀類・薪炭・海産物等の取引行はれ、取引年額七萬餘圓にして郡中第三位にあり。

リユート

【龍登嶺】朝鮮全羅北道全堤郡の東北部。全堤邑の東北方凡そ八軒。面積は約三八平方軒。全北平野中に在り、中部に二〇一三〇米の丘陵が波狀に起伏するに過ぎず。萬頃江支流東部と西境とを北流し、また水利組合の恩恵により灌漑の便よろしく、農業盛なり。米・麥・大豆・棉花・吹等を産す。西部を鐵道南本線南北に通じ、北は芙蓉驛、南は全堤驛に近く、南部には全州・全堤間道路、北境近くには全州・裡里間道路通じ何れもパスの便あり、交通便利なり。  
【龍登嶺】朝鮮全羅北道全堤郡の東北部。全堤邑の東北方凡そ八軒。面積は約三八平方軒。全北平野中に在り、中部に二〇一三〇米の丘陵が波狀に起伏するに過ぎず。萬頃江支流東部と西境とを北流し、また水利組合の恩恵により灌漑の便よろしく、農業盛なり。米・麥・大豆・棉花・吹等を産す。西部を鐵道南本線南北に通じ、北は芙蓉驛、南は全堤驛に近く、南部には全州・全堤間道路、北境近くには全州・裡里間道路通じ何れもパスの便あり、交通便利なり。

リユー

【龍潭】朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接続點。成鏡南道文川郡都草面にあり。  
【龍潭嶺】北道(平安南道价川郡)郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)、約峰(六〇九米)、烽火山(六七〇米)、城峙山(六七三米)等連り、東境には智藏山(七

七三米)聳ゆ。龍江は南より北に侵入蛇曲流し、西より朱子川同じく蛇曲しつづれり之に合し、沿岸に低地や拓く。産物は米・麥・雜穀・煙草・木炭・乾柿等なり。朱子川左岸に在り龍潭邑を中心として道路四通するも坂路多く、北方鎮山、南方鎮安の兩邑に幸じて自動車を通ずるのみ。

リユー

【龍潭】朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接続點。成鏡南道文川郡都草面にあり。  
【龍潭嶺】北道(平安南道价川郡)郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)、約峰(六〇九米)、烽火山(六七〇米)、城峙山(六七三米)等連り、東境には智藏山(七

【龍潭】朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接続點。成鏡南道文川郡都草面にあり。  
【龍潭嶺】北道(平安南道价川郡)郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)、約峰(六〇九米)、烽火山(六七〇米)、城峙山(六七三米)等連り、東境には智藏山(七

リユー

【龍潭】朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接続點。成鏡南道文川郡都草面にあり。  
【龍潭嶺】北道(平安南道价川郡)郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)、約峰(六〇九米)、烽火山(六七〇米)、城峙山(六七三米)等連り、東境には智藏山(七

【龍潭】朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接続點。成鏡南道文川郡都草面にあり。  
【龍潭嶺】北道(平安南道价川郡)郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)、約峰(六〇九米)、烽火山(六七〇米)、城峙山(六七三米)等連り、東境には智藏山(七

リユー

【龍潭】朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接続點。成鏡南道文川郡都草面にあり。  
【龍潭嶺】北道(平安南道价川郡)郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)、約峰(六〇九米)、烽火山(六七〇米)、城峙山(六七三米)等連り、東境には智藏山(七

年小松内大臣重盛領國の時、當寺を建立してその新願所とす。寺門隆盛となりしも天正十六年、小西行長寺社焼打の災に遭ひ寺寶鳥有に歸す。寶永八年加藤石馬允正方一字を再建、爾來修繕を加へ今日に至る。本尊千手觀音(彌勒太子作)。毘沙門天立像二軀のうち丈高四尺七寸二分のものは國寶なり。

リユーマ

龍馬 赤石山脈の峰。静岡市の北西方凡そ三七軒に當り、静岡縣周智郡無切・氣多の二村境上に峙つ。標高一五〇一米、山麓古生層より成る。東斜面並に北方部は奥山御料林をなす。東斜面より發する杉川は南西流して天龍川の支流氣田川に落つ。

リユーモン

龍門 奈良縣大和國吉野郡の北部。吉野川の右岸にあり、上市町の東北に接し北は高市郡・磯城郡・宇陀郡に界す。北境には龍門山脈東西に連り、東北隅には龍門岳(九〇四米)聳ゆ。地形は南斜面地をなし東南部は土地西南に傾斜す。吉野川は西南境を西流し東南部及び中部には西南流する河川ありて之に合す。低地少きも藁・米・麥を産す。河岸に沿ひて縣道が走り上市町へ通ず。古くは和名抄の寶美郷の地にして、中世は龍門庄と稱せらる。(鉢山御妻)指定天然記念物。大字河原屋宇味山に屬し、山は吉野川の北岸に屹立し、海拔二九〇米なり。古來山麓大名持神社の社叢として伐採を禁止され、深山樹林鬱蒼と繁り、天台鳥巢その他

暖地性植物を産し、殊に山頂に於けるクマシロキの純群落、山腹に於けるクマシロキの純群落の如きは稀に見る所なり。(大名持神社) 祭神、大名持御魂神・須勢理比咩命・少彦名命。式内名神大社。神位、貞觀元年從一位より正一位に果進せり。社地の鉢山は萬葉集その他の歌集に名高し。例祭、九月十日。(高峯神社) 大字山口に鎮座。郷社。祭神高皇產靈神。例祭、三月三日・十七日・十一月七日。

【龍門岳】 吉野山の北方約九軒、奈良縣吉野郡龍門・中龍門の二村境上に峙つ山にして、北麓は宇陀郡戸村に互る。標高九〇四米。魁大なる山容を有す。山中に二條の澗かかり、龍門ノ澗・白倉ノ澗と稱す。吉野川の上流は南流を西流す。日本名勝誌に、山上に城址及び龍門寺の舊蹟ありと見ゆ。いま頂上に木造の小祠立つ。

【龍門村】 和歌山縣紀伊國那賀郡の中部。紀ノ川の左岸に沿ひ粉河町の南に接す。南部に龍門山(七五七米)一帶の山地が東西に連りて北境を紀ノ川西流す。低地は米・藁の産多し南部の斜面地は蜜柑栽培地にして農産額中首位を占む。礦産も多し外に畜産・工業あり。省報和歌山縣那賀郡に北方約一軒にあり。古くは和名抄、那賀郡龍門の地なり。墓木の儒者にして學識者たりし森田節齋(附從四位)は此地の人、今その墓村内にあり、

不便ならず。【リユーリユー】 嶺々嶺々(三組) 嶺(臺灣臺北州基隆郡) 柳林面(朝鮮慶尙南道咸陽郡の東部。咸陽面の東南隣にして、東は山清郡生草面と界す。面積約二八平方軒。西北部に花長山(五八七米)屹立し、その支脈東北に延びて三〇〇米臺の丘陵を起伏せしめ、また東部・南部にも二一三米の丘陵起伏す。北方兜率峯(一一一四米)に發する洛東江支流漢川は東部を南流し、西北部山地に出づる支谷これに合し、流域は低平なり。米・麥・大豆・棉・繭等を産す。醴泉邑に近きも、城内の交通は未だ便ならず。北部山中には古刹龍門寺あり。

【龍門岳】 朝鮮京畿道楊平郡のほぼ中央。郡邑楊平の東方凡そ一〇軒。南北に稍々長く約一四軒、東西は五一一〇軒あり。北境に龍門山(一一五七米)聳え山腹東方と南方とに延び、南走するものは白雲峯(九三七米)を起して西境を限り、漸次南東に緩傾斜す。南境には注色山(五八三米)聳ゆ。之等山地の水は墨川となり西南に流れて漢江に注ぎ、この流域に平地は多く、産物は米・麥・大豆等を主としまた養蠶・牧牛行はる。墨川に沿うて楊平邑と江原道洪川を結ぶ三等道路通じパスの便あり。之に沿ふ東部の廣海里より南方に出て漢江を岸に建する道路にもパス通じ、南半部の交通は便なり。廣海里の西方、墨川右岸の馬龍里は主邑にして、金融組合あり。龍門山中の龍門寺は銀杏の巨樹あるを以て知られ、樹はいま天然記念物に指定せらる。

【龍門金礦】 北二面(朝鮮忠清北道清州郡) 【龍門面】 朝鮮慶尙北道醴泉郡の北部西偏。醴泉邑の西北に隣る。東西約一二軒、南北約一〇軒あり。小白山脈の支脈城內に延び來りて中部以北は山地を成し、北

【飯盛嶺山】 富村と麻生津村とに跨る飯盛山にあり、飯盛は兩村に跨りて九二萬餘坪、その地質は太古紀の結晶片岩系に屬し、飯盛は含銅硫化鐵礦の層狀鐵礦にして隕泥片岩中に賦存す。富嶺山は明治十一年の發見にて、同二十年より採掘せしが鐵床連綿として盡きず、現に重要鐵山に列す。現在は古河鐵業合名會社の採行に係り、昭和十年の産額は含銅硫化鐵礦四六、三二六噸、比價銀一二四萬八千餘圓(七九萬餘圓)にして、同年六月末の鐵夫數二六一人。

【龍門山】 和歌山市の東方約二〇軒、和歌山縣那賀郡龍門村と奥安樂用村との境上に峙つ山。標高七五七米。一に勝神山とも云ふ。山頂に無廢池あり。山上より東方に高野山を眺め、北方脚下に西流する紀ノ川を下瞰し、その彼方に葛城山脈の連嶺對峙し、風景佳なり。形状によりて紀州富士の名あり。この山は正平十四年吉野朝廷の時、四條隆俊が紀州の兵三手を以て之に據り、畠山義深の三萬の兵と激戦ありし所なり。

【龍門岳】 山口市の北方約八軒、山口縣吉野郡宮野村と阿武郡徳生村・佐々並村との境上に峙つ。標高六八八米、山麓石英粗面岩より成る。

【龍門村】 熊本縣肥後國那賀郡の北部。限府町の東北約一・五軒にあり、西境北半は鹿本郡に接し、東北境は大分縣日田郡に界す。東・北・西の三面は山脈を繞らし西北境に八ヶヶ嶺(一〇五二米)聳ゆ。

【龍門面】 朝鮮全羅南道和順郡の東南部。綾州と寶城との中間に位置し、北は寒泉面に、西は清豐面、東は寶城郡福内面、南は蘆洞面及び長興郡長平面に接す。東西約九軒、南北一〇軒餘。北境には寶巖山(五四五米)・馬頭峙・牛峰山(六三〇米)など連り、牛峰山は南に延びて桂堂山(五八〇米)を起し、城內に北に博龍山、南に月山等四〇〇米以下の山あり、殆ど山地を成せど、西境を北流する砥不江及び東部山地に發して西流し之に注ぐ支谷の沿岸に狭長の平地は多く、産物は米・麥・麻・繭等を主とす。鐵道慶全西部線北方より來り砥不江に沿ひて梨陽驛(昭和五年設置)より東南に轉じ、道林驛(昭和六年設置)を経て古時驛

【梨陽面】 朝鮮全羅南道和順郡の東南部。綾州と寶城との中間に位置し、北は寒泉面に、西は清豐面、東は寶城郡福内面、南は蘆洞面及び長興郡長平面に接す。東西約九軒、南北一〇軒餘。北境には寶巖山(五四五米)・馬頭峙・牛峰山(六三〇米)など連り、牛峰山は南に延びて桂堂山(五八〇米)を起し、城內に北に博龍山、南に月山等四〇〇米以下の山あり、殆ど山地を成せど、西境を北流する砥不江及び東部山地に發して西流し之に注ぐ支谷の沿岸に狭長の平地は多く、産物は米・麥・麻・繭等を主とす。鐵道慶全西部線北方より來り砥不江に沿ひて梨陽驛(昭和五年設置)より東南に轉じ、道林驛(昭和六年設置)を経て古時驛

【龍門面】 朝鮮全羅南道和順郡の東南部。綾州と寶城との中間に位置し、北は寒泉面に、西は清豐面、東は寶城郡福内面、南は蘆洞面及び長興郡長平面に接す。東西約九軒、南北一〇軒餘。北境には寶巖山(五四五米)・馬頭峙・牛峰山(六三〇米)など連り、牛峰山は南に延びて桂堂山(五八〇米)を起し、城內に北に博龍山、南に月山等四〇〇米以下の山あり、殆ど山地を成せど、西境を北流する砥不江及び東部山地に發して西流し之に注ぐ支谷の沿岸に狭長の平地は多く、産物は米・麥・麻・繭等を主とす。鐵道慶全西部線北方より來り砥不江に沿ひて梨陽驛(昭和五年設置)より東南に轉じ、道林驛(昭和六年設置)を経て古時驛

道(延長一軒)を通過して麗水へ至る。綾州・寶城間二等道路は之に並走しパスの便ありて、西部と南部とは交通便利なり。本面はもと松石面及び道林面の區域にして、昭和七年十一月に両面を合併して梨陽面となす。

リョーカ 良化面

道扶餘郡の西南部。郡邑扶餘の南方一五軒餘。錦江の右岸に沿ひ南北に長き地を占め、東北は林川面、西北は忠化面、西は舒川郡嶺山面に接し、東は江を距てて全羅北道益山郡熊浦面と相對す。北部に百里程度の丘陵あり餘脈南方へ波状に起伏するも到る處農耕適地に乏しからず。産物は米・麥・棉花・苧麻・叭等を主とし、中部に扶餘・韓山を結ぶ三等道路通じパスの便あり、錦江の舟運の便と相俟ちて、交通便なり。釜浦里はこの街道に沿ひ、且つ對岸の熊浦・龍安等に至る要津にして、また附近物資の集散地として著はる。

リョーカ 良家

朝鮮總督府鐵道北青線の一驛(昭和四年設置)。咸鏡南道北青郡新北青面にあり。

リョーカ 兩花面

道平原郡の南部。西北より東にかけて鶯池面・永柔面・東岩面・順安面と界し、南は大同郡在京里面に接す。西北一東南に長く一〇軒餘、巾は五十七軒あり。西北部に紫華山(一名金落山、二三〇米)・金剛山(二五三米)・松林山(二二〇米)等あり、山脈東南に走り中部に峰巒山(二

〇三米)を起すも、中部以南は概ね低平なる原野、農耕地多し。紫華山南麓に普通江上支河項川發し東北境を劃し、順安邑に近く本流と合し東境を南流す。また西部にも普通江一支東南流し、沿岸の平地は地味肥沃にして各種の農産に富む。農産物は米を第一とし、麥類・大豆・粟・棉花等あり、東南部はまた順安砂金地帯の西縁に當る。東境に近く鐵道京義本線走り、また順安より西南走して大同郡院場里に出づる自動車道路は面の南部を過ぎり、交通不便ならず。

リョーカ 兩嘉面

博川郡のほぼ中央に位置し、博川面の西部と大寧江を距てて相對す。昭和十年三月もと嘉東面一團及び嘉南面のうち大寧江右岸の區域を合併、新設せし面にして、東西約一〇軒、南北五十六軒あり。西北方鳳頭山の山脈のび来り西部に低き丘陵地あり、東北部にも玉女峰(一一一米)を最高とする丘陵起伏するも、其他は概ね低平なり。大寧江は始め東境を劃し次に南流し西方に流れ、沿岸に廣き平地横ばる。米・麥・大豆・棉花等の産多し。南部に京義本線東西に走り嶺峯(明治四十四年設置)あり、同驛より北方奉川邑に通ずる道路にパスの便あり、大嶺洞・嶺山・榮津等へも通じ、また北部を博川・納清亭を結ぶ更に定州邑に至る道路東西に走り、大寧江の水運の便と相俟ちて交通頗る便利なり。

リョーカイ 兩開村

福國縣筑

リョーカワ 兩川村

新海縣中浦原郡

驛より日向大谷を経て至り、ここより山頂迄約八軒なり。また三峯口驛より中津川を廻り、落合・中雙里を経て建頂し得らる。

リョーカ 領家村

廣島縣備後國甲奴郡の東北隅。北は比婆郡に、東は神石郡に界し、南は吉野村、西は田村に接す。面積四五・九六平方軒。靈志風呂山(七〇八米)の西麓に位し、村内概して海拔六七十米の山地をなせるも、稍々西方に低くなる。中部山間低地及び西境山麓にかけて耕地拓け、他大部は山林地をなす。米・麥・繭・木炭・用材・清酒等の産あり。縣道西部を貫通し省線備後庄原驛に約一二軒にして自動車通す。古く田村郷の内にし、明治維新前は石見國大森代官所に屬したり。大正二年上領家・中領家・五箇・龜谷・日黒の五村を以て本村を置く。

リョーゲン 良元村

兵庫縣攝津國武庫郡の東部。武庫川の西岸に位して、西宮市の東に隣り、北は有馬郡に、東は川を距てて川邊郡に界す。西部は六甲山塊東端の山地にて標高(四六一米)・讀樂峰(四八九米)など聳えて東方へ傾斜す。東部は大阪平野西北隅の一部を占むる平坦地にして、武庫川東境に沿ひて東南流す。寶塚のある地にして六甲山の東麓の武庫川が山峽を出でて、まさに攝津平野に落ちんとする邊の川邊にあり。産

リョーカ 兩替町

後國山門郡の西部。矢部川の一分流鹽塚川河口の右岸に位して有明海に臨み、柳河町の西南約二軒にあり。全村地形平坦にして一望の沃野をなし、米・麥等を産す。北隣の西宮永村に出づれば柳河町へ自動車の便あり。

リョーカエマチ

京都の町名。鳥丸通の西に隣接し、それと並行し南北に通ずる町。西は室町通、北は丸太町に接す。好色一代男・一・世をわたる男爵とて、兩替町に春日屋とて母かたの所縁あり、此もとへ銀見習ふためとて、つかばし置けるに、はやしにばい三百日の借り手形いかに、欲の世中なれば逆、かす人もおとなげなし。長町女殿切・上・兩替町の銀作り、御池の町の縁頭、小川通りのせかいらぎ、今日明日に持たしてやれし同・中・はれよい男、江戸元結にしゆす契、入雷つきは兩替町、内訥は曾我野、見せかけ力身おいてくれ、須磨郡平野路頭・二・私が親は兩替町に住みながら、貧を苦に病み相果てられ、おがねと申す母親一人、私が名をお銀と申すにせはばない。

リョーカノセ 兩鹿瀬村

新海縣後國東浦原郡の略々中央、津川町の北東に接す。阿賀川主流北東部より来り、南西流して村を自然的に二分し、左岸は大宇鹿瀬、右岸は大宇向鹿瀬なり。省線磐越西線また同じく村を横斷し向鹿瀬の地に鹿瀬驛(大正三年設置)を置く。南西部の阿賀川沿岸の平地ある外は北部

の土倉山(六二五米)、南部の餅倉山(四六六米)を初めとして山岳多し平地に乏し。従来の産業は農・林・蠶の三業にして村勢豊かなりしが、昭和五年向鹿瀬に昭和肥料會社の鹿瀬工場置かるゝに及び村勢を一新し、いま村の財政は彼の會社の税により餘りありて學校其他の改善に資する状態なりとす。なほ春工場は主として東信電氣會社の餘剰電力を利用して石炭窒素を製造するの意圖を以て設立せられしものなり。探て阿賀川の河道の變遷ありて今詳かならざれど、凡そ本村の地は古へ毘沙門島と稱せられ、吉見義廣此地を領し、其子忠治館驛城を築くに及び吉見と稱し、元中の頃鹿瀬と改稱せらる。この間の事情明かならざれど、一説に吉野の豪族、鹿瀬氏に關聯あるものといふ。下りて永祿の頃大江忠尚黒川より此地に來り、爾來その子孫は村の統率者として明治維新に至る。今に其族村内に存す。次に藩政時代鹿瀬組九村と云へるは現在の當村及び豊實・日出谷の兩村を含むものとす。〔三島神社〕郷社。延喜三年大江氏が伊豆國の三島神社の分靈を遷座して此地の産土神となすといふ。祭神は大山命・伊弉諾命・伊弉美命外四柱にして例祭は陰曆八月十八日。〔草倉嶺山〕村の北端、字角神の地にあり、嶺區は三川村にも跨りて、一〇五萬餘坪とす。元文頃の發見にて藩政時代會津藩金山役所の事業に屬す。明治九年古河市兵衛の所有となり、明治時代頗る盛況を呈

リョーカ 兩河内村

靜岡縣河國庵原郡の北部。興津川の上流水源地域にして、東は小島村、南は庵原村、西は安倍郡大河内村、北は山梨縣南五摩郡富河村に隣る。西境に眞富士山(一三四六米)、西南に文殊嶽(一〇四一米)など四周に山嶺ありて、僅かに東南の一部ひらく。興津川及びその支流中河内川に沿ひて若干の平地あり、聚落をみる。楡村・木山野・板井澤・炭焼・桑原等、産物に關係をもつ聚落名の地あり、木材・薪炭・茶・米等を産す。河内に安産石の跡あり。

リョーカ 亮甲店會

關東州普南郡民政署管區の南部。北は普南店會との間に土城子會を隔て、西と南は金州民政署管下の四道子・岱山・玉泉頂諸會に隣る。西境には西大山(一九一五米)をはじめ高度二百米内外の丘陵地延びずるも、其他は概ね平坦にして緩き起伏を

リョーカ 兩神

埼玉縣武藏國秩父郡の西北部。全村山地にして、北は兩神山(一七二四米)、南は御嶽山(一〇八一米)の峯によりて狹まれ、此の谷を小森川が西より東に流れ、東隣の小鹿野町方面に至る。繭・麥を主産とし、小鹿野・三峯口間の縣道村の東端を通じ自動車の便あり。

リョーカ 兩神

今に古河石炭業會社その標を有すと雖も、全く廢坑なりとす。〔湯浦(鹿嶋山)温泉〕大字鹿嶋字湯浦にあり。阿賀の清流脚下を流れ、これを隔てて赤崎山その他遠近の山々横ばり、背後には近隣の名山たる鹿嶋山屹立す。奥地の温泉にして、この地の如き廣闊なる眺望を有する所は蓋し稀なるべし。温泉の主成分はクロム化ナトリウムと硫酸ナトリウムなり。

リョーカ 兩神

埼玉縣武藏國秩父郡の西北部。全村山地にして、北は兩神山(一七二四米)、南は御嶽山(一〇八一米)の峯によりて狹まれ、此の谷を小森川が西より東に流れ、東隣の小鹿野町方面に至る。繭・麥を主産とし、小鹿野・三峯口間の縣道村の東端を通じ自動車の便あり。

リョーカ 兩神

地秩父山塊の一峯。埼玉縣秩父郡兩神・大瀧の二村境上に峙つ。標高一七二四米。秩父山塊の主脈を南に離れ、秩父盆地を南面に控へ、獨立する山峯にして、他の連峰の如く深林幽谷なれども、鋭齒狀の石灰岩の奇峯に富み、又岩より岩への荷尾根の縱走興味あり。山頂部剣ヶ峯に兩神神社奥ノ院あり、八日見龍神を祀り、本社は南の麓にあり。山上よりは北方上州の御荷鈴・赤久瀨の山々を望見し、また南東方遠く武州の山河を眺觀し、展望佳なり。近時この山に、登山者多くなれり。登山路は南東方秩父鐵道秩父三峯口

リョーカ 兩神

一に八日見山と云ふ。關東山地秩父山塊の一峯。埼玉縣秩父郡兩神・大瀧の二村境上に峙つ。標高一七二四米。秩父山塊の主脈を南に離れ、秩父盆地を南面に控へ、獨立する山峯にして、他の連峰の如く深林幽谷なれども、鋭齒狀の石灰岩の奇峯に富み、又岩より岩への荷尾根の縱走興味あり。山頂部剣ヶ峯に兩神神社奥ノ院あり、八日見龍神を祀り、本社は南の麓にあり。山上よりは北方上州の御荷鈴・赤久瀨の山々を望見し、また南東方遠く武州の山河を眺觀し、展望佳なり。近時この山に、登山者多くなれり。登山路は南東方秩父鐵道秩父三峯口

リョーカ 兩神

一に八日見山と云ふ。關東山地秩父山塊の一峯。埼玉縣秩父郡兩神・大瀧の二村境上に峙つ。標高一七二四米。秩父山塊の主脈を南に離れ、秩父盆地を南面に控へ、獨立する山峯にして、他の連峰の如く深林幽谷なれども、鋭齒狀の石灰岩の奇峯に富み、又岩より岩への荷尾根の縱走興味あり。山頂部剣ヶ峯に兩神神社奥ノ院あり、八日見龍神を祀り、本社は南の麓にあり。山上よりは北方上州の御荷鈴・赤久瀨の山々を望見し、また南東方遠く武州の山河を眺觀し、展望佳なり。近時この山に、登山者多くなれり。登山路は南東方秩父鐵道秩父三峯口

なし、青雲河の上流中部を南に流る。農  
業行はれ玉蜀黍・大豆・落花生・高粱等  
を産す。金州・貔子窩を繋ぐ道路、之  
り分れて北方普蘭店に至る道路あり、ま  
た金福鐵道の亮甲店驛南部に設けられ、  
交通不便ならず。

リョーコク 陵谷

鐵道京義本線の一驛(大正十二年設置)。  
京義道高陽郡知道面にあり。

リョーコク 兩國

【兩國】 愛知縣海部郡にありし村。明治  
三十九年、本村外二村を廢しその區域を  
以て銅田村を置く。

リョーサク 良策

鐵道京義本線の驛(明治四十一年設置)。  
平安北道龍山郡東上面にあり。

リョーサン 梁山

【梁山郡】 朝鮮慶尙南道二府十九郡の一。  
道の東部に位置し、東北は蔚山郡、西北  
は密陽郡、東南は東萊郡に隣接し、西南  
は洛東江を距てて金海郡と相對す。面積  
約四八六平方軒。大白山脈の末端の二脈  
が、密陽郡及び東萊郡との境を並行して  
南北に走り、ために全城は東北より西南  
へ緩傾斜す。東部山脈にては元曉山(九  
二二米)・金井山著はれ、西部山脈には驚  
樓山・香峰山・金方山・土谷山(八六五  
米)等あり。洛東江幹流は西南境をなし  
て流れ、これに注ぐ支流梁山川は驚樓山  
に發源して南流し、砥浦に於て本流に合  
し、之等の流域に狭長なる平地ひろく。

耕地面積七千ヘクタール餘のうち、水田  
は七割餘に當り、一部に二毛作行はる。  
産物は米約七萬石を最とし、大豆・小麦・  
大豆・棉花(約七〇萬斤)・繭(約二萬斤)・  
大麻等これにつき、牛・豚・鶏の飼育行  
はる。その他茶葉・木炭・松茸・桑苗・  
高嶺土・陶石等の産あり。洛東江岸に沿  
ひて鐵道京義本線走り勿禁・院洞の兩驛  
あり、道路は京釜一等道路が東部・西北  
に通ずる外、東部に釜山・蔚山間二等道  
路、中部に釜山・慶州間三等道路は並  
行して南北に通じ、交通不便ならず。行  
政上、七箇面に分ち、郡廳を梁山面に置  
く。人口四萬餘、一方軒密度は九一人(昭  
和十年)にて、道内各郡中最も稀薄なり。  
本郡は新羅眞德王の朝に良州と稱し、高  
麗の太祖梁州と改め、李朝太宗の時梁山  
と號し、郡となしたるもの。明治三十九  
年九月大上・大下の二面は金海郡に、左  
耳面は東萊郡に編入し、新たに熊上面を  
蔚山郡より併合し、大正元年四月外南面  
は蔚山郡に編入し、また同三年四月には  
中北面を上北面に併合、更に近年に至り  
上西・下西の兩面を廢合して、新たに院  
洞・勿禁の兩面を建て、以て現在に至り  
しものとす。

リョーサン 兩山

【兩山郡】 朝鮮慶尙南道梁山郡の中南部。  
釜山府の北方約二五軒。北は上北面に、  
東と南は東面、西は勿禁面に接す。面積  
三〇〇平方軒餘。元曉山の山脈延び來りて  
東部は山地なせど、西部の梁山川流域  
は平地ひろく拓く。この平地は梁山水利

リョーサン 靈師岳

【靈師岳】 阿蘇火山脈、  
靈師岳(一、〇〇〇米)は、

リョーシイウ 獵師岩

【獵師岩】 筑紫山  
脈香板山塊の一峯。早良郡岩山町の西方に  
連なり、北面は福岡縣早良郡岩山村に、  
南面は佐賀縣神埼郡三瀬村に屬す。標高  
八九三米。この山の東端は岩尾根をなし  
奇巖峙り、また凄然たる岩壁をなす。こ  
れを鬼ヶ鼻と云ふ。山頂よりは北方に玄  
海の波光を眺め展望佳なり。

リョーシユ 綾州

【綾州】 朝鮮慶尙南道梁山郡の中南部。  
釜山府の北方約二五軒。北は上北面に、  
東と南は東面、西は勿禁面に接す。面積  
三〇〇平方軒餘。元曉山の山脈延び來りて  
東部は山地なせど、西部の梁山川流域  
は平地ひろく拓く。この平地は梁山水利

東は寒泉面、西は道谷面、南は春陽面に

接す。南北に長く六軒餘、東西は約三軒  
あり。東境に南北に二百米程度の山連り  
最高約二九〇米を算し、支脈西に延び、  
西南境にも飛鳳山(二五六米)を最高とし  
る丘陵群あり、西部および東南部に平  
地ひろく。砥不江は南より來り、北より  
來る和順川を併せて西流に轉じ、瀧渡水  
利の便に富む。邑は南部砥不江左岸、飛  
鳳山の東麓に位し、鐵道慶全西部驛その  
東部を過り綾州驛(昭和七年設置)あり、  
北は萬水驛(昭和七年設置)を経て和順へ  
南は寶城方面に至り、和順・寶城間の二  
等道路これと並走するほか、邑より西北  
方南平へ三等道路を出し、何れもバスの  
便あり。即ち邑は麗州・同福方面との交  
通の要衝に當り、市街の發達、市況の盛  
盛、共に見るべきものあり。産物は米・  
麥・繭・果實等の農産の外、工業や多  
量あり。邑の附近には砥礫亭・三忠閣等の勝  
景あり、また多塔峰の佛蹟は西南約一〇  
軒に位す。

リョーセー 陵西面

道慶州郡の西部。東は州内面に、南は加  
南面、西北は興川面、西は利川郡夫鉢面  
に接し、東北は漢江を距てて大神面と相  
對す。南北に稍々長く、面積五三平方軒  
餘。東境に北城山(二七四米)あり、山脈  
域内に及んで東部は丘陵地を成せど、西  
部および南部には廣き平地ひろく棉花用  
これを灌溉しつつ北流して漢江に入る。  
産物は米・大豆・小豆・棉花・麥

リョーリョー

草・蔬菜等を主とす。中南部に社稷京東

鐵道東西に貫走し、梅峰驛(昭和六年設  
置)あり、その北方を麗州・利川間二等  
道路通じバスの便あり、漢江の舟運の便  
と相俟つて、交通便利なり。東北部、漢  
江沿岸に近く、交通・學陵あり、李朝世  
宗及び孝宗の墳墓なり。

リョーセン 靈仙山

【靈仙山】 靈仙山脈北端の一峯。靈  
寶驛坂田郡龍ヶ井村と大上郡芹谷村との  
境上に聳立す。標高一〇八四米。伊吹山  
と共に江州の双峯と稱せられ、古より名  
高し。山頂は三峯に分れ、北靈仙・中靈  
仙・南靈仙と呼び、南靈仙は最高峯をな  
し、標高一〇八四米。標高は伊吹山(一  
三三七米)に劣れどもその山麓の廣大に  
して靈巖幽邃なる點は悉に勝る。太古伊  
吹大明神と靈仙權現と互に山の高さを競  
ひ、空に架橋して高低を計りしが、双方  
互角なりしかば靈仙權現は根の下にかひ  
物をして高さを誇れりとの傳説殘る。往  
時この山一帯に靈仙寺百有餘坊の寺院あ  
りしが、今は寺院として松尾寺のみ殘  
り、他は龍ヶ井村の西隣なる鳥居本村に  
佛生・男鬼等の部落名として存す。東方  
に經ヶ塚あり、古の靈仙寺の經を埋めし  
所と傳ふ。この山の北方溪谷に靈仙遺か  
かり、南方に權現谷の深谷あり。

リョーゼン 靈山

【靈山村】 福島縣岩代國伊達郡の東部。  
掛田町の東北に隣り、東は宮城縣及び相  
馬郡に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し

組合の灌漑地にして、水田連り、農産に

富む。産物は米・麥・大豆・棉花・繭等  
の農産を主とし、工業には寒天あり。ま  
た良質の陶石を出す。梁山邑は川の左岸  
に位し、交通の要衝に當る。即ち釜山府  
より來る一等道路は邑を過ぎて西に去り  
龜浦・彦陽間の三等道路これと交叉し、  
京釜本線勿禁驛・彦陽・東萊・釜山の各  
地へ何れもバス通ず。邑には郡廳・釜山  
地方法院出張所・金融組合等あり。名刹  
通度寺は彦陽街道に沿ひ、北方約七軒に  
あり。

久住山塊の一峯。主峯久住山の西部に時

ち、大分縣玖波郡飯田村の南嶺。標高一  
四二三米。山は森林を以て掩はれ、山中  
鹿・猿等多し。※久住山

リョーシ 兩寺面

【兩寺面】 朝鮮京義道江  
華郡江華島の北端。南は松海面・河帖面  
に隣接し、西は喬桐島と相對し、北は漢  
江河口を隔てて開豊郡及び黃海道通白郡  
を望む。東西に長く八軒餘、巾は約三軒  
あり。南境に風天山(二九一米)・別立山  
(四〇〇米)等連なり、その北側にも一〇  
〇米台の丘陵東西に連るも、北部と丘陵  
間とに平地ひろく、水田發達す。米を主  
産し、また魚介の利あり。東部漢江左岸  
の鐵山里は主邑にして、對岸開豊郡大聖  
面との間に渡船あり、開城府に出づるに  
便なり。此處より道路一は南走して江華  
邑に至り、一は西南走して西端の寅火浦  
に通ず。寅火里は對岸喬桐島に至る要津  
にして、また東南方、江華邑へはバス通  
ず。北部海岸には鶴城墩臺・龜登墩臺を  
始め凡そ五箇の砲臺の地あり。

リョーシイウ 獵師岩

【獵師岩】 筑紫山  
脈香板山塊の一峯。早良郡岩山町の西方に  
連なり、北面は福岡縣早良郡岩山村に、  
南面は佐賀縣神埼郡三瀬村に屬す。標高  
八九三米。この山の東端は岩尾根をなし  
奇巖峙り、また凄然たる岩壁をなす。こ  
れを鬼ヶ鼻と云ふ。山頂よりは北方に玄  
海の波光を眺め展望佳なり。

リョーシユ 綾州

【綾州】 朝鮮慶尙南道梁山郡の中南部。  
釜山府の北方約二五軒。北は上北面に、  
東と南は東面、西は勿禁面に接す。面積  
三〇〇平方軒餘。元曉山の山脈延び來りて  
東部は山地なせど、西部の梁山川流域  
は平地ひろく拓く。この平地は梁山水利

つその靈山神社は靈山村に鎮座す。
【靈山】 京都府(二〇五頁)
【靈山】 大分市の南方、大分縣大分郡

リョーチク

兩筑産業線
設置。福岡縣中部、筑豊炭田南部にあり。朝倉郡秋月町の秋月より西南方の甘木町に通じ、甘木驛に於いて社線朝倉軌道・社線九州鐵道と連絡す。全長五・九

リョーチュウ

陵中面
安南道成川郡の南部。郡邑成川の南方約一五軒。東西に長く北部にて約二二軒、南部にて約一五軒あり、南北また一〇軒前後を有する大面なり。四面ともに山を以つて圍まれ、西南部の江東郡との境には烽火(四九八米)・太乙徳山(五二六米)等聳え、北境には四方山(八一九米)・鐵峰山(八三七米)・大峰山(八六六米)等連り、南境には三角山(六二二米)・角蛇山(六三一米)等あり。中東部に蟠居する光大山(七〇四米)を分水嶺として、東に清川の上支なる龍潭川南東に流入龍潭川流し、西には何川ありて、共に南江に入る。龍潭川上流その他に盆地狀に小平地みちり、主として畑作農業行はる。産物は黍・

豆類その他の雜穀多く、養蠶盛にして成川綿の原料となし、また美味の栗を出す。中部に成川・江東を結ぶ三等道路ありて溪間を縫ふも、交通未だ便ならず。
リョーツ
兩津町
新瀉縣佐渡國佐渡郡の中部。兩津灣に臨む。加茂河口を扼せる夷・濱の兩津を兩津橋によりて結びたる天然の良港にして冬季避難港として最も勝れ、佐渡の表玄関をなす町名は即ち夷と濱の兩津を合併して命名せしものなり。主産物は鰯魚を初め近海の水産物にして工業これに次ぐ。また佐渡の水産物の移出、各地よりの移入品の集散地として商業榮え、船舶の出入多し。新潟市を距る海上三二哩、汽船定期航路あり、三時間半を要す。島内各地への縣道の起點にして自動車の便よし。夷港は原油の荷揚場として水深く、一萬噸乃至二萬五千噸級の米國タンク船は自由に棧橋に着くことを得、冬季に於ける避難港として極めて重要な港なり。輸出品は内地米(約百五十萬圓)・鮮魚介(約百二十萬圓)を主とし、鐵石・瀝油・木炭・木材等にして、輸入品は外國貿易として原油(露瀝樟太及び北米合衆國より約六十七萬圓)・豆類(滿洲國より約一萬圓)・内國貿易として絹及綿織物(約四十八萬圓)・砂糖(約四十六萬圓)を主として肥料・菓子・大豆・金屬及同製品等なり。
【諏訪神社】 大字町町に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命・事代主命・蛭子命。創立年代詳かならず、信州諏訪より勧請

せりといふ。元祿十四年再建せらる。一に諏訪大明神とも云へり。例祭、六月十六日。
リョートー
遼東
遼東半島 Liaoning P. 滿洲國の南部に突出せる大半島。東側は黄海、西側は遼東灣に沿ひ、南は直隸海峽を隔て、山東半島に對す。内部には千山山脈(摩天嶺山脈)の延長西南方に延び、以て本半島の脊梁を形成し、更にその分枝せる小山脈亦少からず。河川は大津河・大莊河及び碧流河(界利河)等のほか大なるものなく、沿岸は相當屈曲出入に富み南面に大連灣、西面に金州灣の如き大なる灣入あり。島嶼には外長山列島・裏長山列島・海洋島が黄海方面に羅列し、長興島・西中島等は遼東灣内にあり。本半島は明治二十七八年の日露戰役に際しその戰場となり、我軍その全部を占領し、下關條約により、我國は西に遼河口の營口より海城・鳳凰城を経て東に鴨綠江の一支安平河口に至る一線以南の地割讓を受けしが、ロシアを主とする三國の干渉によりて帝國はこれを支那に還付せし歴史を有す。然るに、極東に野心を有するロシアはその南端、今の關東州の地域を支那より租借し、滿洲地方を併呑せんとし遂に明治三十七八年の日露戰役となり、此の地方は再び我軍の戰場の衝となり、我軍またこれを占領す。ギョーマス條約及び日清間の北京條約の結果、ロシアの有せし權利は舉げて我が國これを繼承し、從

つて關東州を租借すると共に州外に於ても遼平河より輪巖を経て大洋河口に至る一線以南は中立地帯とせられ、支那は我國の承諾なくしてはこれを第三國に割讓乃至租借するを得ず、また日支兩國はこの地帯に於て軍事上の施設及び行動をなし得ざることとなり、滿洲國成立の今日と雖も依然有效のものなり。本半島は氣温も滿洲に於ける最温暖地方に屬し、雨量もまた豊富なれども、地域狭小なる上にその大部分は準平原的高地にして、土壌も肥沃ならず、従つて農業は目下雜穀・柞蠶・棉花等を産すれども、將來に向つて大なる期待をかくる能はず、ただ米は將來なほ開發の餘地を有し、また礦物にはマグネサイト・滑石が豊富なる故開發宜しきを得ば將來好望なりと稱せらる。而して我が租借地たる關東州は我國が多額割苦經營を行ひし結果、大連灣・旅順市の如き現代的の都邑を始めてして關東州一圓は滿洲全土、經濟的にも文化的にも、これを州外に比して殆んど別天地の觀を呈す。
【遼東省】 Gulf of Liaoning 滿洲國奉天省と錦州省との間に入込める渤海の一部。その東北部分を占め、東は遼東半島、西は遼西に沿ひ、沿岸には葫蘆島・營口などの商港あり、大凌河・遼河これに朝し、沿岸には小屈曲多く、灣内には漁業行はれ、沿岸各地にては製鹽業また盛なり。
リョードー
良道面
朝鮮京畿

リョーナイ

領内
愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年本村外一町三村を廢して祖父江町を置く。

リョーナイ

領内
三重縣伊勢國多氣郡の西南部。宮川の左流に跨り、宇治山田市より約三四軒西南にあり、北半建郡長島町の北方八軒餘に當る。北部は飯南郡、南は度會郡に界す。北境には池ノ木屋山脈、南境には大臺ヶ原山脈、それより東北より西南に連りて村境を劃す。西北境には白倉山(一一二六米)・迷嶺(一三〇九米)等あり。中央には宮川が東北流し沿岸に積低地あり。低地は米・蕎麥を産するも山地は林産多し。東北方約一〇軒にある省線紀勢東線の三浪谷驛へパスの便あり。古く大杉谷と汎稱せられし地にて、古來神宮御造營の材木を伐採したり。

リョービフクヤマ

兩備福山
省線福山南線の一驛(大正三年設

リョーヘン

兩邊面
朝鮮江原道寧越郡の西部。郡邑寧越の西北方約二〇軒。南北に長く、北は長く伸びて平昌郡平昌面と界し、南は忠清北道堤川郡松鶴面と接す。面積一〇〇平方軒餘。北境に白徳山(一三五〇米)聳え山脈南に走りて北部は山地をなし、南部は堤川に松鶴山(八一九米)屹立し、西南部に概ね三―四百米の臺地をなす。中部に清川江が著しき蛇曲をなして東南流し、東北境を流る平昌江と東方城外にて合流す。清川江流域には稍々廣き平地あり、農業盛んに行はる。産物は米・大豆・小麥・ライ麦・大豆・粟・棉花・煙草・大麻・楮等の農産を主とし、特に煙草は寧越葉と稱せらるる優品にして、収量も多く、聲價高し。工業には製糖・朝鮮紙・酒・漆等あり。主邑酒泉は、清川江の左岸に發達せる山間部落にして、また交通の要衝に當り、西方原州、東北方平昌、南方忠清北道堤川の諸邑に何れも三等道路を通じ、パスの便あり。本面は昭和十二年酒泉面と改稱せられたり。

リョーホ

良浦面
朝鮮慶尙南道河東郡の中央より稍東に位置し、郡邑河東の東方約一〇軒にあり。東境近く峯ゆる理明山(五六九米)の餘勢域内に及び東部一帯は山地を成せども、西方に移るに従ひ漸次低夷となり小丘陵の僅かに起伏するに過ぎず、耕地は丘陵緩斜面をよ

リョーモ

兩毛線
省線東北線の一部。栃木・群馬二縣に互る。東北本線小山驛より分岐し、栃木驛・佐野驛・桐生驛・前橋驛等を経て高崎驛に終る。全長九一・七軒。猶ほ小山驛にて省線水戸線に、栃木驛・佐野驛・伊勢崎驛にて社線東武鐵道に、桐生驛にて省線足尾尾線に、前橋驛にて社線上毛電氣・同東武鐵道に、新前橋驛・日高驛・濱尻驛にて省線上越線に、高崎驛にて省線高崎線・同上越線・同信越本線・社線信電氣・同東武鐵道に夫々接続す。

リョーリ

綾里村
岩手縣陸前國氣仙郡の東部。盛町の東南約九軒。東北は越喜來灣、東は綾里灣、南は太平洋に面す。北上山地の東南部を占めて、西境には大坂山(六一二米)・綾里崎(四八三米)・八ヶ峯(二六三米)相連り、西北境に富士山(四七九米)・東南部には立石山(三五九米)あり。綾里灣は喇叭狀に灣入し、その北には脚崎、南には綾里崎の突出あ

リョクサン

茶山面
朝鮮慶尙南道金海郡の南端。郡邑金海の南方一〇餘軒に在り。東は洛東江口、南は朝鮮海峽に臨み、北及び西の兩境は寶蓋山を始め連嶺によりて完全に劃し、一地理區を構成す。西北部は山地を成せども、東南部は低平にして耕地發達す。住民は農を主とし、沿海地方は製鹽・漁業を營み、副業として産蔴・笠及び紙を製する者多し。産物は米を第一とし、大豆・大豆・小豆・粟等の穀物、棉花・大麻・煙草等の特用作物、桃・梨等の果實を産す。海産物としては食鹽の他、石首魚・鯖・烏賊・鰻等の産あり。金海邑より自動車道跡を通じ、南部海岸には鎮海より来る道路あり、渡船によりて鳴湖島を經、東方釜山府に達し、水上交通また比較的便利なり。

リョジュン

旅順市
關東州西南端の港市にて行政の中心地。東より北は水師營會に、西より南東は方家屯會によりて圍まれ、南東部は黄海に面す。方家屯

會の東南部は老虎尾半島となり、東北方に延びて市の南西部に迫り内側に旅順港を抱く。半島先端の東側の港口は市に二七〇米の狭水道なるも港内は深く、東西四軒、南北二軒を越え水深くして、白銀山・東島冠山・北境には松樹山・小案子山、西境には小東山等の丘陵を繞らし、南に港に臨み氣候温和にして風光に富む。市の中央は白玉山(一三〇米)の小丘ありて東の舊市街、西の新市街に分つ。市は關東州行政の中心にして關東州廳・高等法院・警察署・通信局・専賣局をはじめ、民政署・市役所、工科大学その他男女中等學校あり。また海軍の要港にしてその港務部・病院等設けらる。滿鐵連京線の支線旅順線の終驛旅順驛(明治三十八年開業)にあたり、大連・金州方面へ、また大連市との間に旅大南道路・旅大北道路を完成して自動車・荷馬車等の往來に便し交通便利なり。舊市街は商工業區なれども商工は共に盛ならず、貿易も輸出に石炭・鹽・磁石等、輸入に包米・綿等あるもその額多からず。人口三萬九百人(内地人約一萬二千六百人)。市はもと獅子口とよばれしが、明代に入り南方移民の渡來多く商賈船舶の來集繁く水陸行旅の賑路に當るより、旅順の地名出づと傳へらる。明代には金州の防備所となり、清興るに及び、北方水師營に屯營を設く。光緒年間には洋大臣李鴻章の建議によりて要塞を築きて軍港となし、

北洋水師の根據地となす。ついで遼寧衙門設かれ、商業も榮えて人口四萬を算するに至れり。日清戦役起るや、我軍は激戦二日にして全要塞を攻略せり。その後、露西亞はこれを租借し遼東經營の根據地とし軍事施設を完備し進攻不落と稱せらる。然るに日露の戦端開かるや、わが海軍は屢々港口閉塞を敢行し乃木將軍揮下の陸軍はこれを包圍し總攻撃を重むること前後四回、周圍の砲臺・堡壘を順次に攻略し、遂に明治三十八年一月一日、守將ステッセルを以て開城を乞はしむ。實に日露戦役史に輝かしき戦績なり。これより我國の經營に歸し海軍鎮守府を置きしが大正三年要港となし、同十一年これを廢し、昭和八年に至り再び要港部を置き關東州沿岸の防衛に任じ、且つ通商・航海・漁業の擁護に従事しつゝあるも、主として關東州の行政・教育の中心地をなす。(白玉山)市の中央部にあり。南嶺に新公園ありて園内に旅順日第三回閉塞隊將士の假埋地あり、その上方に日清戦役ありて境内に第九師團陣死者之墓あり。山頂は市街・港口・外洋、昔の諸砲臺の展望に良し。北嶺の納骨堂には旅順包圍戰に於ける戦死病死者二萬六百九十六名の遺骨を納めらる。また、南嶺には高さ二百八十八尺の大表忠塔建てり。(東部諸砲臺)舊市街の東北を繞らす丘陵に設けられ砲臺・堡壘にして、南より東爲冠山砲臺・東爲冠山第二砲臺・東爲冠山北砲臺・一ノ戸砲臺・望臺砲臺、

雙龍山砲臺・雙龍山西砲臺・雙龍山北砲臺(鉢巻山)・二龍山砲臺・松樹山砲臺・松樹山第四砲臺・クロボトキン砲臺(龍眼北方砲臺)等相連り、いづれも我が包圍軍の苦戰惡闘によりて占領せる戦蹟たり。(大案子山砲臺・小案子山砲臺)新市街の北境にあり。戰闘行はれずして開城せしため完全に原形遺存し、その規模の壯大を見るを得べし。(二〇三高地(衛壁山))方家屯會上太陽溝屯の北境にあり。旅順を繞る諸山中最高のものにして、この山の奪取は實に旅順陥落の主因となれるものなり。明治三十七年九月十九日の旅順の第二回總攻撃よりこれが攻撃を開始し、十二月五日これを占領するまで、内弾戦相つぎ、奪回さるゝこと五回に及びしも、我軍決死の力闘により遂に攻陥せるものにて、第三回總攻撃に於ける我軍の死傷は山本少將以下七千五百七十八人、敵は六千七百三十九人の多數に上れり。以後如何に攻防の激烈なりしかを察すべし。(博物館)新市街邊りにあり。もとの露國陸軍將校集會所を修築せるもの。滿洲・蒙古・支那の研究に資すべき各種の蒐集品を陳列す。

雙龍山砲臺・雙龍山西砲臺・雙龍山北砲臺(鉢巻山)・二龍山砲臺・松樹山砲臺・松樹山第四砲臺・クロボトキン砲臺(龍眼北方砲臺)等相連り、いづれも我が包圍軍の苦戰惡闘によりて占領せる戦蹟たり。(大案子山砲臺・小案子山砲臺)新市街の北境にあり。戰闘行はれずして開城せしため完全に原形遺存し、その規模の壯大を見るを得べし。(二〇三高地(衛壁山))方家屯會上太陽溝屯の北境にあり。旅順を繞る諸山中最高のものにして、この山の奪取は實に旅順陥落の主因となれるものなり。明治三十七年九月十九日の旅順の第二回總攻撃よりこれが攻撃を開始し、十二月五日これを占領するまで、内弾戦相つぎ、奪回さるゝこと五回に及びしも、我軍決死の力闘により遂に攻陥せるものにて、第三回總攻撃に於ける我軍の死傷は山本少將以下七千五百七十八人、敵は六千七百三十九人の多數に上れり。以後如何に攻防の激烈なりしかを察すべし。(博物館)新市街邊りにあり。もとの露國陸軍將校集會所を修築せるもの。滿洲・蒙古・支那の研究に資すべき各種の蒐集品を陳列す。

雙龍山砲臺・雙龍山西砲臺・雙龍山北砲臺(鉢巻山)・二龍山砲臺・松樹山砲臺・松樹山第四砲臺・クロボトキン砲臺(龍眼北方砲臺)等相連り、いづれも我が包圍軍の苦戰惡闘によりて占領せる戦蹟たり。(大案子山砲臺・小案子山砲臺)新市街の北境にあり。戰闘行はれずして開城せしため完全に原形遺存し、その規模の壯大を見るを得べし。(二〇三高地(衛壁山))方家屯會上太陽溝屯の北境にあり。旅順を繞る諸山中最高のものにして、この山の奪取は實に旅順陥落の主因となれるものなり。明治三十七年九月十九日の旅順の第二回總攻撃よりこれが攻撃を開始し、十二月五日これを占領するまで、内弾戦相つぎ、奪回さるゝこと五回に及びしも、我軍決死の力闘により遂に攻陥せるものにて、第三回總攻撃に於ける我軍の死傷は山本少將以下七千五百七十八人、敵は六千七百三十九人の多數に上れり。以後如何に攻防の激烈なりしかを察すべし。(博物館)新市街邊りにあり。もとの露國陸軍將校集會所を修築せるもの。滿洲・蒙古・支那の研究に資すべき各種の蒐集品を陳列す。

め、大橋農場・不二興業會社全北支場・右近商會社農場(以上何れも千ヘクタール以上)等あり。従つて官營の勸業施設また完備し、本府農事試験場南鮮支場・道農事試験場あり。其他、教育機關には公立農林學校・高等女學校等あり。邑の北一軒餘の至山に翠松金山を掩ひ景致に富み、其他附近の名勝としては馬鞍時代に建てられし王宮塔、裡里を中心として蒙利面積殆ど一萬ヘクタールに及ぶ益淡水利組合の大雅里貯水池等あり。この地は古く益州、のち益山と稱せし地方に屬し、近くは益山と稱せしが、昭和六年四月に至り邑制を施行、同時に益山を裡里と改めたり。(裡里神社)無格社。祭神、天照大神。大正六年の創建。例祭、五月十六・十七日。十月十六・十七日。社殿は神明造にして本殿・拜殿を備へ境内地積三六五九坪あり。

處に行はる。堯渡川に沿つて社縣領嶺北嶺と京城・釜山間一等道路並行して通じ、西境に近く周徳内到大召院驛、東境に連川驛(共に昭和三年設置)あり、南嶺山地にも忠州・槐山間道路通じ、交通不便ならず。

處に行はる。堯渡川に沿つて社縣領嶺北嶺と京城・釜山間一等道路並行して通じ、西境に近く周徳内到大召院驛、東境に連川驛(共に昭和三年設置)あり、南嶺山地にも忠州・槐山間道路通じ、交通不便ならず。

處に行はる。堯渡川に沿つて社縣領嶺北嶺と京城・釜山間一等道路並行して通じ、西境に近く周徳内到大召院驛、東境に連川驛(共に昭和三年設置)あり、南嶺山地にも忠州・槐山間道路通じ、交通不便ならず。

處に行はる。堯渡川に沿つて社縣領嶺北嶺と京城・釜山間一等道路並行して通じ、西境に近く周徳内到大召院驛、東境に連川驛(共に昭和三年設置)あり、南嶺山地にも忠州・槐山間道路通じ、交通不便ならず。



リンキー—リンコ

地を占め警察官駐在所、郵便所等あり。
リンキホ 林圪埔 また林圪埔・林
珠埔。→竹山(臺灣中州)

リンケイ 臨溪面 朝鮮江原道
旌善郡の東北端に位置し、郡邑旌善の東
北方約一五軒にあり。周縁山地を以て開
繞す。即ち東境には中峯山(一三五四米)
に属する諸峯相連り、北境には石屏山、
西北境には徳九山(一〇〇九米)・高飛徳
山(一〇二〇米)・西南境には高陽山(一
一五一米)等相連り、城内に山岳重疊し、
ただ漢江の支流昔只川が中部を蜿蜒蛇曲
流して西流し、その蛇曲帯に僅に耕地を
見るに過ぎず。一般に土地瘠せ收穫少な
けれども大豆・煙草・大麻等を産し、又
材木・生牛・蜂蜜・砂金等の産あり。道
路は面邑松溪里を中心に四通し、特に北
方江陵、東方三陟、西方旌善の諸邑には
各三等道路を通じ比較的坦路なるも、其
他は險坂多く交通不便なり。聚落は溪谷
に沿ひ發達し、面邑松溪里は面の略々中
央に位置して警察官駐在所あり、また陰曆
二・七の日に開く市場あれども購買力乏
しく市況振はず。

リンゲン 林原面 朝鮮平安南道大
同郡の東部。北は斧山面、西は西川面及
び平壤府の北部に接し、東は榮足面にし
て、南は大同江を距て秋乙美面・大同江
面と相對す。東西に稍々長く一〇軒餘、
南北は七七八軒あり。東部榮足面との境
上に大聖山(二七四米)聳え、山肢南に伸
びて高坊山(一四七米)を起し、西北部に

丘陵ありて銀嶺山(一五六米)著はる
り、城内の大部分は平地にして謂ゆる大
同江平野に属す。大同江は面の東南端對
岸にて南江の長支を流れ、大いに水量を
加へて南境を西方に曲流し、面の中部平
野を流流する合掌江を併せ、平壤府へと
流る。農業盛に行はれて米・麥・豆類・
棉花・粟・蕎麥・豌豆等を出し、東南部は
海軍省所管の有名なる平壤炭礦の鑛區に
屬し、無烟炭を出す。西境に近き西川面
にある京義本線西浦驛を起點とする平元
(昭和二年設置)あり。道路は西境に沿ひ
て京義一等道路通するを始めて、之より
分れて東方咸鏡南道に至る一等道路、
北方令人場を経て寧遠に至る二等道路等
あり、陽徳、咸川、徳川へ至るバス通じ、
また大同江には舟楫の便あり、對岸平壤
炭礦線美林驛(秋乙美面)に出づる便もあ
りて、交通頗る便なり。東境の大聖山に
は有名なる大聖山の古址を有し、また
廣法・頭陀の二寺あり、高句麗の平原王
が平壤より移りて居りし地と傳へ、或は
始東明玉の別宮なりしともいふ。山勢
雄壯、眺望絶佳にして春夏の節、遊覽者
頗る多し。

リンコイ 林口庄 臺灣臺北州
新莊郡の西北端。東は五股庄及び淡水郡
の八里庄、東南端は新莊街、南は新竹州
桃園郡龜山庄、西南は同じく蘆竹庄に夫
々地を接し、北は臺灣海峡に面す。觀音
地を起點として北方長城、南方羅州、東
方飛鶴里及び先州に各三等道路を通じ、
交通・運輸比較的便なり。

リンサン 麟山面 朝鮮黃海道平山
郡の西部。郡邑南川面の西南約三〇軒。
東西約一三軒、南北約一〇軒あり。南方
海州郡との境界上に雲達山(六〇〇米)聳
え、その東麓に主之峰(七二二米)あり、
餘勢域内中部に延びて負兒山(四五五米)
を起す。また北境には東より玉女峰(四
〇八米)・佛首山(三八〇米)・周峰(二五
三米)等あり。北部に東西に長き低地あ
り、東部に麟嶺川發し北流して銀波江に
入り、西部には曲川上支流れて載寧江に
入るも、灌溉の利に乏しく、耕地は概ね
畑に拓かる。産物は麥・大豆・棉花・蕎
麥等あり。北部低地に福川・青石頭里を
結ぶ三等道路通じバスの便あるも、南部
は險坂多く交通不便なり。主邑は麟嶺里
と稱し、同名の川の左岸に位す。

リンシン 臨津 朝鮮中部の河。朝鮮半島第七
位の大河。咸鏡南道徳源郡の北境なる馬
息嶺に發源し、南流して江原道伊川郡に
入り東方より来る古味香川を合せ、京畿
道に入りて更に平安川及び漢灘川の二支
を容れ、次で西南に流路を採り、著しき
蛇曲流をなして坡州・長湍兩郡の界をな
し、のち漢江に合流して江華灣に注ぐ。
流路延長二五四軒餘。河口より上流一二
四軒餘の間に舟楫を通じ得。灌溉の利ま
た夥からざるも、江原道伊川郡に瀕りて

は水量頗る減じ、舟運・灌溉の便なし。
下流坡州の平野は道内に於ける米の主産
地をなす。

リンセン 林川面 朝鮮忠清南道扶
餘郡の南部。郡邑扶餘の南方一〇軒餘。
北は揚岩面、東は世道面、西は忠化面・
良化面に接し、南は錦江を距てて全羅北

道益山郡龍安面・眞浦面と相對す。南北に
長く約九軒あり。北部には東に聖興山(二
六一米)・西に錦城山(二一五米)相對峙
し、聖興山の山肢延びて東境に太興山を
起す。その他西南部に丘陵起伏すれど
中部の錦江支流りと南部の江岸とは著しく
低平にて田畑みち、林川水利組合の灌
溉地にて農耕特に盛なり。また錦城山北
方の丘陵地には玄溪發して東南流し、こ
の流域にも水田よく發達す。産物は米を
第一に、麥・大豆・棉花・苧麻等の農産
ある外、礦産に金あり。扶餘より来る道
路は林川邑にて一は東南方江登へ、一は
西南方韓山へと岐れ、また西方鴻山にも
道路通じ、前記各地へ何れもバスの便あ
り。林川邑は錦城山・聖興山の中間鞍部
南麓に位し、大正三年まで林川郡廳のあ
りし地、いま金嶺組合・市場等あり、交
通の要衝に當るを以て附近物資の集散盛
んに、市況活潑なり。聖興山上には山城
址あり。

リンテ 麟蹄 朝鮮江原道二十一郡の一。道
の東部北端に位し、北は高城郡・淮陽郡、
東は襄陽郡、西は揚口郡、西南は洪川郡、
南は平昌郡に接す。南北に長く、面積は
二一五一平方軒あり、實に道中第一の大
郡にして、東京府全體の面積とは互等
し。東部には大白山脈の主脈南北に連互
し、その北端は金剛山の南段にして、そ
れより南方に孤山(一三二〇米)・香爐峰
(二二九三米)・圓峰(一三二二米)・七節

リンコ

なきも城内山地連る。西部には涓涓流雲
陽川(琴湖江上支)ありて其沿岸に稍低地
を見るも、砂礫質の土壤にして地味硬せ
灌溉不利の爲め水田乏しく收穫率低し。
産物は大豆・小麥・煙草等を主とし、ま
た麻布の産あり。道路網は比較的密に發
達せるも何れも等外路線にして峻坂多く
交通・運輸不便なり。聚落は地形の關係
上西部に偏在す。

リンコイ 梨郷村 山梨縣南前
國東置賜郡の西部。宮内町の西約四軒。
北境に若松山、西北境に酒松山、中部に
龍樹山(三三七米)聳え、西北部は山地を
なすも、東南部は米澤盆地に屬して平坦
なり。松川は村の西南境を西北に流る。
米・蕎麥・粟等の産あり。道路は村の中
部を東西に通ず。省線長井線通じ梨郷驛
(大正二年設置)あり。近世伊達氏の勢力
下にありし地にして、いまその將士の居
館址所々にあり。

リンコク 林谷面 朝鮮全羅南道光
山郡の西北端に位置し、先州府の西方約
一五軒にあり。東南端は三〇〇米内外の
山地連互し平地に乏しくも、中央は低平
にして地味肥え農業に適し、西部は黃龍
江によりて灌溉水利よく水田地帯を形成
す。生業は農業を主とし、家庭工業とし
て綿布・鉄・農具等の生産行はる。産物
は米・大豆・小豆・棉花・苧・麻等
あり。又礦産として錫を産す。鐵道湖南
本線は面の略々中部を南北に貫貫し中央
に林谷驛(大正三年設置)あり。道路は此

山嶽の東部に相當する高臺地を占め、平
野の見るべきものなく、北邊海岸附近に
僅かの平坦地散在するに過ぎず。臺地に
ては茶の栽培廣く行はれ、庄の主要農産
物として重きを爲し、茶葉傳習所・茶葉
組合等設けらる。茶に次いで柑橘等の果
樹園よく發達し、柑橘の産出少からず。
米・甘藷も亦主要農産物なるも他街庄に
比し産額甚だ少し。外に少量の竹材及び
薪炭を産出す。畜産は農産に次いで重き
をなし、勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・
鶏を主とする家畜畜類多く、一般家
庭に於て副業的に普く飼育せらる。工業
は製茶の外、見るべきものなし。庄役場
は大字青埔に置かれ、東南新莊より乗合
自動車を通ずる外は道路の大なるものな
く、且つ、隨所に峻坂ありて交通便なら
ず。管内にもと雖て八里盆嶺に屬し、東
隣八里庄に次ぎ清領の初め頃より閩・粵
人によりて開拓の緒に就き、爾後移住者
漸次増加して隨所に部落を建設せられ今
日の基礎となれり。明治二十八年帝國領
臺以來行政上の變遷を経て大正九年
十月に至り、地方制度の根本的改革と共に
清領時代より存續し來りし八里盆嶺を
廢し、之に屬せし六庄を割きて六大字に
改め、之を一括して林口庄となし新莊郡
に編入せられたり。

リンコク 麟蹄 朝鮮江原道二十一郡の一。道
の東部北端に位し、北は高城郡・淮陽郡、
東は襄陽郡、西は揚口郡、西南は洪川郡、
南は平昌郡に接す。南北に長く、面積は
二一五一平方軒あり、實に道中第一の大
郡にして、東京府全體の面積とは互等
し。東部には大白山脈の主脈南北に連互
し、その北端は金剛山の南段にして、そ
れより南方に孤山(一三二〇米)・香爐峰
(二二九三米)・圓峰(一三二二米)・七節

峰(一一七二米)・大開嶺・神仙峰(一一
八三米)・雪岳山(一七〇八米)・點風山
(二四四四米)・柯七峰(二二四〇米)・五
臺山(一五六三米)・桂芳山(一五七七米)
等の高峰を順次に起し、特に雪岳山・五
臺山は峻嶺雄大にして、また史蹟に富む
を以て名あり。西境には北より慶峰・加
七峰・大慶山(一三二六米)等、南境にも
鷹峰山・可得峰など何れも一千米以上の
山連り、城内にも明塔山・寒石山等聳ま
り、全城殆ど山地を成す。河川は南部山
地に發する内麟川・芳臺川等の諸流みな
集りて昭陽江となり、北部山地に發する
麟北川と、寒石山西麓に合して著しく水
量・河幅を増大し、西方に蛇曲流して春
川邑に至る。之等諸川流域の狭長なる平
地及び、山地の緩傾斜面、臺地等に耕地
發達す。耕地面積は郡の面積に比し少く
も、地味肥沃にして道内に於ける主要農
業地帯をなし、水田は少く、畑作を主と
す。農産物は米・大豆・大麥・蕎麥・粟・
棉花・大麻等を主とし、副業に養蠶・牧
牛・養蜂等行はれ、その他山地には木材・
藥草を出す。工業には麥粉・濁酒・麻布・
蕎麥加工品等、礦産には金銀あり。道路は
春川より日本海岸の杆城に出づる二等道
路西南へ東北に貫き、沿線の交通は稍々
便なり。行政上、六箇面に分ち、郡廳を
麟蹄面に置く。郡の人口七萬餘に過ぎず
人口密度は一方軒當り三六人にして、道
中に於て最も稀薄なり。本郡は新羅時代

道益山郡龍安面・眞浦面と相對す。南北に
長く約九軒あり。北部には東に聖興山(二
六一米)・西に錦城山(二一五米)相對峙
し、聖興山の山肢延びて東境に太興山を
起す。その他西南部に丘陵起伏すれど
中部の錦江支流りと南部の江岸とは著しく
低平にて田畑みち、林川水利組合の灌
溉地にて農耕特に盛なり。また錦城山北
方の丘陵地には玄溪發して東南流し、こ
の流域にも水田よく發達す。産物は米を
第一に、麥・大豆・棉花・苧麻等の農産
ある外、礦産に金あり。扶餘より来る道
路は林川邑にて一は東南方江登へ、一は
西南方韓山へと岐れ、また西方鴻山にも
道路通じ、前記各地へ何れもバスの便あ
り。林川邑は錦城山・聖興山の中間鞍部
南麓に位し、大正三年まで林川郡廳のあ
りし地、いま金嶺組合・市場等あり、交
通の要衝に當るを以て附近物資の集散盛
んに、市況活潑なり。聖興山上には山城
址あり。

リンテ 麟蹄 朝鮮江原道二十一郡の一。道
の東部北端に位し、北は高城郡・淮陽郡、
東は襄陽郡、西は揚口郡、西南は洪川郡、
南は平昌郡に接す。南北に長く、面積は
二一五一平方軒あり、實に道中第一の大
郡にして、東京府全體の面積とは互等
し。東部には大白山脈の主脈南北に連互
し、その北端は金剛山の南段にして、そ
れより南方に孤山(一三二〇米)・香爐峰
(二二九三米)・圓峰(一三二二米)・七節

峰(一一七二米)・大開嶺・神仙峰(一一
八三米)・雪岳山(一七〇八米)・點風山
(二四四四米)・柯七峰(二二四〇米)・五
臺山(一五六三米)・桂芳山(一五七七米)
等の高峰を順次に起し、特に雪岳山・五
臺山は峻嶺雄大にして、また史蹟に富む
を以て名あり。西境には北より慶峰・加
七峰・大慶山(一三二六米)等、南境にも
鷹峰山・可得峰など何れも一千米以上の
山連り、城内にも明塔山・寒石山等聳ま
り、全城殆ど山地を成す。河川は南部山
地に發する内麟川・芳臺川等の諸流みな
集りて昭陽江となり、北部山地に發する
麟北川と、寒石山西麓に合して著しく水
量・河幅を増大し、西方に蛇曲流して春
川邑に至る。之等諸川流域の狭長なる平
地及び、山地の緩傾斜面、臺地等に耕地
發達す。耕地面積は郡の面積に比し少く
も、地味肥沃にして道内に於ける主要農
業地帯をなし、水田は少く、畑作を主と
す。農産物は米・大豆・大麥・蕎麥・粟・
棉花・大麻等を主とし、副業に養蠶・牧
牛・養蜂等行はれ、その他山地には木材・
藥草を出す。工業には麥粉・濁酒・麻布・
蕎麥加工品等、礦産には金銀あり。道路は
春川より日本海岸の杆城に出づる二等道
路西南へ東北に貫き、沿線の交通は稍々
便なり。行政上、六箇面に分ち、郡廳を
麟蹄面に置く。郡の人口七萬餘に過ぎず
人口密度は一方軒當り三六人にして、道
中に於て最も稀薄なり。本郡は新羅時代

リンサ—リンテ

五七

リントー——リンヘ

に鳥足縣と稱し、のち奉州(、奉天)に属し瑞誠縣と改め、高麗朝に至り瑞誠縣と改め、李朝太祖の時始めて麟蹄縣と稱す。明治二十七年郡に改め、同四十二年奉天郡・江陵郡の各一部を併せ、大正三年面の廣合を行ひて現在に至る。

【麟蹄郡】朝鮮江原道麟蹄郡の中部。北は北面に、南は麟蹄面及び南面に接し、東は襄陽郡西面、西は楊口郡の南面と界す。東西に長く二五軒に餘り、面積四七〇方軒餘あり。大白山脈に屬する山地にして、中央に寒石山(一一一九米)聳り、北境に加里峰(一一一九米)、東境に點風山(一四二四米)、北西境には大巖山等聳えて、全境山岳重疊し、また處々に臺地狀地貌を表はす。昭陽江は南方より城内に入りて西北流し、麟蹄邑の北約二軒に於て北より来る麟北川を吞れ、次で南方に蛇曲流す。西部の流域に狭長なる平地ひらく。耕地はこの平地と、山間臺地又は緩斜面に發達し、米・麥・大豆・粟等を出し、其他蕎麥・生牛・蜂蜜・麥粉・麻布等の産あり。主邑麟蹄は昭陽江右岸に位し、邑を貫きて河沿ひに二等道路通じ、洪川・奉川・杆城・楊口等へハスの便あり、されど東部・西部の山地は里道を通ずるのみにて、途中船坂多く、交通便ならず。邑に郡廳・京城地方法院出張所・金融組合等あり。北方の昭陽江・麟北川の合流點には合江亭の勝地あり。

リントー——リンヘ

約半數は大森を奉養、教化状態概して良好なり。富田の交通機關は北部を東西に走る輕便鐵道ありて下交通の補助をなす。本庄の沿革としては往昔明末鄭氏時代、北方平原より驅逐せられたる平埔蕃アアカ社一名パンソアの退却地なりしが泉州人蔣・蔡の二姓の者加藤港より上陸、著地を開拓し現在の孫子口の地點に一庄を立て西勢庄と稱へたり。次で清領後、康熙年代より林邊溪流域を或は兼併し、或は侵佔して漸次田圃・林邊方面の開拓に従へり。後、粵人葉吉なる者數人の同志と共に渡來して七塊厝を開拓、次で閩人黃・李・傅・蔡等車路地を開き、竹仔脚方面に乾隆中葉に閩・粵人相前後して開拓に當り、次で乾隆の末年には林兄弟に依りて溪州が開かれ斯くて遠近風を聞き移住し來る者多く、林邊一帶は都ちにして街市を形成するに至れり。又南方に天然の良港(新打港)ありしより對岸との貿易盛に行はれ、一時は三百餘家の住民を有せしも、道光二十年林邊溪の氾濫に遭ひ、地の過半は没亡し、舟楫殆んど不能となり、商勢頓に衰へたるも農業は依然として發達し、人口も漸次増加したり。我が領臺後明治三十四年に至り官制改正の際林子邊と改め、庄内を林子邊・七塊厝の兩區に分ち居たるが、大正九年十月一日地方制度改正に伴ひ、七塊厝區内の三西和・下廓の兩大字を東港街の管轄にし、即ち往時の港東中里の一部分、林子邊(林邊と改稱)・田埔厝・孫仔

リンヘ——リンワ

北は禮安面、西は月谷・臨河の二面、南は吉安面に、東は英陽郡立巖面・青松郡眞寶面に接す。南北に長く約一八軒あり面積約九六平方軒。四面山を以て圍繞せられ、東境と南境とは稍々高峻にて、南部に雙峯山(五九一米)、東北境には六百米を越ゆる峰あり。之等山地に發する溪水は南境近くに流入蛇曲流する牛邊川に入り、沿岸に狭長なる平地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・蕎麥・牛等あり。南部平地に主邑觀音里あり、西方安東邑より来る二等道路これを過ぎ觀音里を踰えて眞寶に通じハスの便あり。その他同地を中心として四方に里道を出すも、以北の交通は不便なり。

リンヘ——リンワ

〇軒あり、面積約一八八平方軒。南境に大白山脈の主脈連互し、東南部には金剛山の北麓なる錦繡峰(一一一三米)あり、その西方には鷹山・笠峰等一千米以上の高峻聳え、之等の諸山は山峯秀拔にしてこの山地より北に向つて數條の山脈を出しつづつ低夷し、海岸に至る。河川は長大なるものなきも、流域と海岸平地とに耕地ひらく。海岸は概して低沙濱をなし、沖合に松島・穴島・卵島等の諸島あるも良泊を缺く。鹽産に米・粟・稗・蕎麥等あり、沿海は鹽の漁場として知らる。海岸に沿ひ鐵道東海北部線通じ、瀋城・登白の兩驛(共に昭和七年設置)あり。元山・襄陽間二等道路は之に沿ひて走り、ハスを通じ、登白驛附近より郡境を踰えて内金剛の末驛里に至る捷路あり、交通不便ならず。

【麟蹄郡】朝鮮全羅北道沃溝郡の東部。郡山府と禮里邑との中間にて、東北は瑞穂面、西北は羅浦面・聖山面に西南と南は大野面に、東は益山郡五山面に接す。面積約三七平方軒。城内には五〇一〇〇米の丘陵起伏するもその間に平地拓け、殊に東部は全北平野に連る沃野にして、臨盆水利組合の水路通じ、灌漑の便に富む。市内には合田農場・元昌農場等の大農場ありて、合理的農耕行はる。米・麥・大豆・棉花・叭等の産多し。南部に鐵道群山線、東西に走りて臨盆驛(大正十二年設置)あり、道路は北部の主邑臨盆を核として三等道路四方に通じ、

リンヘ——リンワ

きものなく、但し鹽田は極めてよく發達して古くより鹽の産地として知らる。以上諸島のうち内嶺島・外嶺島には棄落發達して島民は半農半漁の生活を營むも、殘餘の諸島は無人なり。而して觀城列島は北より臥島・長島・關島・鹽島・達陽島・大岡島・中島・大甘島・小甘島を経て南嶺の雲霧島(此島のみは葛山面に屬す)に至るまで大小二十餘より成り、小嶺列島は獨島を最大としその數また約二十あり。この兩列島は共に東側は險崖にして西方に傾斜し、且つ並列規則正しき點に極めて特異なり。本面の主産業は農業にして、米と黍頭に麥・粟・大豆・小豆・棉花・大麻・果實等を産し、その他、蕎麥・牛・食鹽及び魚介を出す。鐵道京義本線北部を通じ、東方定州驛(定州邑)西方郭山驛(郭山面)に近く、北西部の交通に比較的便利なり。凌漢山上には規模大なる古城址あり。

リンヘ——リンワ

西方群山府を始め、南方群山嶺地塊、東北方成悅等ハスの便あり、交通便利なり。臨盆は大正三年まで臨盆郡廳の置かれし地にして、金融組合・市場等あり、農産物の集散盛に行はる。

リンヘ——リンワ

【林邊庄】臺灣高雄州東港郡の略中央部に位し、東西約四軒、南北約一〇軒、面積約三一方軒なり。東は潮州郡新埤庄・佳冬庄、西は東港街、北は新園郡・潮州郡潮州庄に夫々隣接し南は海岸に臨む。往昔のパンソア(放棄)社所在地にして周圍を森林に蔽はれ居たり。本庄と佳冬庄の界を流る林邊溪は古の放棄溪(パンソア)にして、港東中里方面の山中に發源し、途中力力溪(リェクエク)を合せて南流し海に入る。現管内は農業盛にして、産物としては米・茶・甘蔗・甘藷を主として、芭蕉・蔬菜類等も産す。農家に於ては其の傍ら畜産業にも従事し、水牛・黄牛・豚・山羊・鶏・鴨・鵞等の飼育も行はる。水産業は殆ど見る可きもの無きも若干の漁獲あり。また住民の一部は工業にも従事し、製糖・精米・醬油・製麵・製菓・竹細工・木製品等を産出す。本庄に於ける初等教育の狀況は、溪州小學校、林邊・竹子脚・溪州の三小學校が設置せられ、兒童の就學率は四三%を示す。社會教化機關としては部落振興會・國語講習所・簡易國語講習所・青年團・少年團・社會教化聯合會等多類あり、庄内十數箇所國語講習場を有す。住民の

【林邊溪】臺灣高雄州下に流る一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峽に注ぐ。

リンヘ——リンワ

【林邊溪】臺灣高雄州下に流る一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峽に注ぐ。

リンヘ——リンワ

【林邊溪】臺灣高雄州下に流る一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峽に注ぐ。

リンヘ——リンワ

【林邊溪】臺灣高雄州下に流る一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峽に注ぐ。

【林邊溪】臺灣高雄州下に流る一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峽に注ぐ。

リンヘ——リンワ

【林邊溪】臺灣高雄州下に流る一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峽に注ぐ。

リンヘ——リンワ

【林邊溪】臺灣高雄州下に流る一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峽に注ぐ。

ル

ルストツ

留壽都村

北海道釧路支庁 留壽都郡 留壽都村 北海通釧路支庁 留壽都郡 留壽都村 北海通釧路支庁 留壽都郡 留壽都村...

ルタカ

留多加

留多加郡 留多加町 留多加村 留多加町 留多加村 留多加町 留多加村...

ルベツ

留別村

留別村 留別町 留別村 留別町 留別村 留別町...

ルモアン

留安

留安 留安町 留安村 留安町 留安村 留安町...

ルモイ

留崩

留崩 留崩町 留崩村 留崩町 留崩村 留崩町...

をなし、また沿岸よりは... 留壽都村 留壽都町 留壽都村 留壽都町...

ルベツ

留邊

留邊 留邊町 留邊村 留邊町 留邊村 留邊町...

Table with 3 columns: 産額 (Production Amount), 價額 (Value), 備考 (Remarks). Lists various agricultural products and their values.

田・留崩・濃越・濃受等を説く。留崩町 留崩町 留崩町...

留崩町 留崩町 留崩町 留崩町 留崩町 留崩町...



【嶺南寮】 臺灣總督府鐵道平溪線の一驛（昭和四年設置）。臺北州七尾郡平溪庄にあり。

**レーキン** 嶺南寮 朝鮮京畿道 遼川郡の東南部。郡邑遼川の南方約一〇軒にあり。南境に磨又山（五八七米）・福嶺山（六七五米）等聳え、その餘勢南部を壓して山地を成し漸次北方に緩傾斜して臨津江とその支流漢江に達し、之等の諸江は峡谷を成し至る所峡谷谷間に富む。産物は米・小麦・大豆を主とし、蕎麥・煙草・麻・綿布等もあり。また果實に栗・杏等あり。鐵道京元線は東部を南北に貫し全谷驛ありて此地を基點として、北方の遼川、南方の議政府に各二等道路を、西方の長湍、西南方の楸城、東方の永平に三等道路を通じ之等は何れも平坦路にして交通・運輸便なり。栗落は江に沿ひ分布し、漢川右岸の全谷里には面事務所と餘野一・六の日に開く市場ありて郡南面南部及び抱川郡の青山面・若水面等を商團とし取引活潑なり。

**レーケン** 嶺南寮 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛（大正十二年設置）。京畿道開陽郡北面にあり。

**レコー** 靈光 嶺南寮 朝鮮全羅南道二府二十郡一島の一。道の西北部に位置し、東は長城郡、南は咸平郡に接し、北は全羅北道高敞郡と接し、西方一帯は黄海に面す。西方海上の嶺島群島、洛月島・松耳島・鞍馬群島等を含み面積四三二平方軒餘あり。

（四五九米）等あり、西北境に伽倻山脈が前者に並行して走り伽倻山（六七八米）最も高く、これより東方へ向つて数條の小支脈を出す。平野は兩山脈の間に横ばり、西南より東北へ向つて緩傾斜をなす。従つて柳橋川の支流たる金馬川・無限川等は地形に従つて流路を探り、平野を灌漑す。産物は米を主とし、蕎麥・大豆等あり、特用作物たる麻・苧麻・煙草等の栽培も盛なり。また鐵産は金銀を主とし、豐産金銀・大衆金銀は産額特多し。社稷京南鐵道忠清線は中部を東北より西南へ貫き新院院・禮山・晋可・柳橋等の驛あり、道路は之と略々走向を同じくする天安・洪城間二等道路あり。南部には車嶺を踰えて公州・洪城間二等道路ある外、禮山・徳山・大興等を核として道路網の發達見べきものあり、交通便利なり。行政上、十二箇面に分ち、郡廳を禮山面に置く。人口約一萬、一方軒密度は二〇三人（昭和十年）にして、道平均一八八人に比して稍稠密なり。本部は大正三年三月、もと禮山・徳山及び大興の三郡を合併したるものなり。もと禮山郡は百濟朝には烏山縣といひ、新羅に至り孤山と稱し、高麗太祖二年禮山と改め、顯宗王九年天安府に隸し縣廳務を置き、李朝太宗王十三年縣廳となし、のち郡に改む。徳山郡はもと徳豐と伊山の二縣を合せたるもの。大興郡は百濟時代の任存城、一名今州にて、新羅朝に至り任城縣と改め、高麗の初期大興と稱へ、顯宗王

九の年遷州に屬し、明宗王二年縣廳を置き、李朝太宗十三年に至り縣廳となし、のち郡に改めたるものなり。

【禮山面】 朝鮮忠清南道禮山郡の東北部。東境に道高山・徳風山（四七三米）等聳えて、東部は山地を成せども、西半部は無限川これを灌漑し謂ゆる柳橋川平野の一部を成し、土地極めて低平且つ肥沃にして、氣候候して温和、重要な農業地域を形成す。産物は米を主とし、工業之に亞ぐ。産物は米を最とし、小麦・大豆及び特用作物たる麻・苧麻・煙草等の栽培も亦盛なり。農業には金・マンガステン等の許可礦區あり、現に採行中のものは大同里附近に金坑一所あるに過ぎず。社稷京南鐵道忠清線は西部を南北に縱貫し新院院（大正十一年設置）・禮山（大正十二年設置）の兩驛ありて、此地を基點として道路網四通す。殊に禮山郡よりは東北方天安邑、西南方洪城邑に各二等道路、西方徳山、南方新陽・大興に各三等道路を通じ、何れも坦路にして乗合自動車の便あり。禮山邑は郡中第一の大郡にして郡廳・公州地方法院出張所・公立農學校・興業銀行・金融組合等あり。市街の東方には東山公園あり。

**レーサン** 嶺南寮 朝鮮全羅北道益山郡の東北部。裡里邑の北方約一五軒にあり。東境に天靈山（五〇〇米）の聳ゆる他著しきものなく、殊に西北部一帯は江景平野の一部を成し、沃野拓げ地味肥沃にして、郡中の重要な農業地を成

り。商業は靈光邑・法聖浦・浦川を中心とし、特に靈光・法聖の兩市場は取引活潑なり。靈光邑を核として道路網よく發達し、東北方高敞、西方法聖浦、東南方松汀里、南方咸平、西方奉南里へは何れも二等道路を通じバスの便あり。行政上、十二箇面に分ち、郡廳を靈光面に置く。郡の人口約一〇萬、密度は一方軒當り二六六人（昭和十年）にして、道内の第四位にあり。本部はもと百濟の武尺伊郡にして、新羅時代に武寧郡と改め、高麗朝に靈光郡とし、李朝を経て今に至る。また真城・靜州などと稱せしことあり。

【靈光面】 朝鮮全羅南道靈光郡の北部に位置し、北は法聖浦の深き入江に臨む。靈光平野の中心を成し土地低平にして地味肥沃、郡中第一の農産地を成し、耕地は靈光水利組合の灌漑地にして頗る水利の便に富む。住民の多くは農業に従事し西北の沿海地方は牛養中漁を爲す。産物は米・大豆・小麦・蕎麥・棉花・苧麻・薄荷・甘藷・煙草等の農産を主とし、工業には酒・木綿・生糸・絹布・吹・植物性油脂・陶磁器・漆等あり。海産物には石首魚・鮫・烏賊、其他、魚貝・海藻等あり。道路は面の南端に位置せる靈光を核として放射狀に四通八達し、殊に東南方光州府、西北方法聖浦には二等道路を通じ、南方咸平、東北方高敞には各三等道路を通じ之等は何れも改修せられて往時の面目を一新し、交通・運輸極めて便なり。靈光は白鶴里・南川里・道東里を

含む地にして、高麗朝以來靈光郡政の中心たりし所。いま靈光郡廳・稅務署・穀物検査所・光州地方法院出張所・專賣局出張所・水利組合・金融組合・公立農業實習學校等あり。また市場は陰曆一・六の日に開き市況活潑にして穀類・海産物等の取引高は一年五十餘萬圓に上る。

**レコー** 靈興 嶺南寮 朝鮮京畿道宮川郡の一面。仁川府の西南方海上約二五軒に位置する靈興島を主島とし、その東の仙才島、西方の紫月島、及び徳積島の東方に連なる大伊作島・小伊作島等を以て構成せらる。靈興島は最大にして東西・南北とも各六軒前後あり、東は靈興水道を距てて仙才島並に大阜島（水原郡）と相對し、北に國恩峰、西に洞岩山聳ゆるも高峻ならず、島周は干出泥地によりて開闢さるるを以て良泊に乏し。紫月島は大きく前者に次ぎ東西約六軒、南北一・二軒にて東端に標高一五九米の峰あり。之等諸島の住民は多く牛養中漁にして、また牧牛を營む。沿海には蝦・淺網・鮑等の漁獲多し。交通は仁川港との間に發動機船の便あり。

**レーサン** 禮山 嶺南寮 朝鮮忠清南道一府十四郡の一。道の中部に位置し、北は唐津郡、東は牙山郡・公州郡、西は瑞山郡・洪城郡、南は青陽郡に接す。面積五四一・七平方軒。東南境には車嶺山脈が東北より西南に走りて鳳首山（五三五米）・車嶺・洪山

れも坦路にて交通・運輸便に、且つ洛東江の水路は物資の運搬に供せられ交通便なり。邑は嘗ての靈山郡廳の所在地にして北に靈鷲山を負ひ、西南一帯に廣野を控へ、水陸交通の要衝に位置して物資の集散活潑なり。陰曆三・八日の市は附近稀に見る股賑にして、その取引額は昌寧に亞ぎ第二位にあり。

含む地にして、高麗朝以來靈光郡政の中心たりし所。いま靈光郡廳・稅務署・穀物検査所・光州地方法院出張所・專賣局出張所・水利組合・金融組合・公立農業實習學校等あり。また市場は陰曆一・六の日に開き市況活潑にして穀類・海産物等の取引高は一年五十餘萬圓に上る。

**レコー** 靈興 嶺南寮 朝鮮京畿道宮川郡の一面。仁川府の西南方海上約二五軒に位置する靈興島を主島とし、その東の仙才島、西方の紫月島、及び徳積島の東方に連なる大伊作島・小伊作島等を以て構成せらる。靈興島は最大にして東西・南北とも各六軒前後あり、東は靈興水道を距てて仙才島並に大阜島（水原郡）と相對し、北に國恩峰、西に洞岩山聳ゆるも高峻ならず、島周は干出泥地によりて開闢さるるを以て良泊に乏し。紫月島は大きく前者に次ぎ東西約六軒、南北一・二軒にて東端に標高一五九米の峰あり。之等諸島の住民は多く牛養中漁にして、また牧牛を營む。沿海には蝦・淺網・鮑等の漁獲多し。交通は仁川港との間に發動機船の便あり。

**レーサン** 禮山 嶺南寮 朝鮮忠清南道一府十四郡の一。道の中部に位置し、北は唐津郡、東は牙山郡・公州郡、西は瑞山郡・洪城郡、南は青陽郡に接す。面積五四一・七平方軒。東南境には車嶺山脈が東北より西南に走りて鳳首山（五三五米）・車嶺・洪山

れも坦路にて交通・運輸便に、且つ洛東江の水路は物資の運搬に供せられ交通便なり。邑は嘗ての靈山郡廳の所在地にして北に靈鷲山を負ひ、西南一帯に廣野を控へ、水陸交通の要衝に位置して物資の集散活潑なり。陰曆三・八日の市は附近稀に見る股賑にして、その取引額は昌寧に亞ぎ第二位にあり。

**レージン** 靈仁面 嶺南寮 朝鮮忠清南道牙山郡の北部。郡邑靈陽の西北方の約一五軒にあり。車嶺山脈に屬せる靈仁山（三六三米）西南境に聳えて西南部は山地を成せども、北部一帯は安城川の沃野を成し、中央に平野の單調を破るが如く高峯峰（二九六米）屹立す。高峯峰はその形富士の如くピュウットの地形を成す。平野は灌漑の利に富み水田甚だ多し。氣候は温暖にして盛夏三四度を越えず嚴冬も零下一〇度を下ること稀にて農業に好適す。住民は専ら農業に従事す、副業として畜産・養蠶業は盛なり。産物は米・小麦・大豆・煙草・棉花・果實・鹽及び魚類等あり。道路は靈仁山北麓の牙山邑を中心として東北方平澤驛、東南方温泉里に各三等道路を通じて鐵道京釜線及び京南鐵道忠清線に連絡し、交通極めて便なり。牙山は大正三年に郡併合に至るまで舊牙山郡の首邑たりし所にして商取引は今なほ餘勢を存し、郡内温泉里に亞ぎ取引活潑なり。北岸の白石浦は牙山灣奥に位置する要津にして、對岸京畿道安城郡と西方唐津郡の雲井里・新茂里等との間に渡船

す。住民は農業に従事し、傍ら機械・蠶蠶を爲す者も少ならず。産物の主なるものは米・大豆・小麦・大麻・苧麻等にして、殊に米は品質・量ともに優れ群山を経て内地に移出せらる。また清酒醸造用として馬山地方に移出せらる。道路は礪山邑を中心として北方論山、南方木浦に一等道路を通じ、平坦路にして自動車の往來頻繁なり。礪山は大正三年まで礪山郡廳の置かれし地、金融組合・市場等ありて市況活潑にして、また交通の要衝に位置し、北方江景・論山、西方咸平、南方益山・裡里等へバスの便あり。

**レーサン** 靈山面 嶺南寮 朝鮮慶尙南道昌寧郡の南部。郡邑昌寧の南方約一五軒にあり。北境には靈鷲山（七四〇米）・宗岩山（五四六米）等聳えて北部は一帯に山地を成せども、南部は數多の湖沼分布し、西隣の丈麻面、東隣の都泉面と共に湖沼地域を形成す。南部は地味肥沃にして良田沃野遠く開け、本部の主要農産地を成す。住民は質朴にして多くは農業に従事し、工業は酒の醸造を除きては見るべきものなし。産物は米・小麦・大豆・大豆・粟を主とし棉花・大麻・煙草等あり。また朝鮮酒・焼酎の産あり。當地は大正三年三月昌寧郡に合併を見るまで、靈山郡の郡廳所在地たりし所にて、靈山を中心として道路網よく發達し、南方馬山・統營方面、北方昌寧・大邱へ通ずる二等道路に乘合自動車を通じ、更に東方釜谷、西方丈麻には三等道路を通じ何

れも坦路にて交通・運輸便に、且つ洛東江の水路は物資の運搬に供せられ交通便なり。邑は嘗ての靈山郡廳の所在地にして北に靈鷲山を負ひ、西南一帯に廣野を控へ、水陸交通の要衝に位置して物資の集散活潑なり。陰曆三・八日の市は附近稀に見る股賑にして、その取引額は昌寧に亞ぎ第二位にあり。

**レージン** 靈仁面 嶺南寮 朝鮮忠清南道牙山郡の北部。郡邑靈陽の西北方の約一五軒にあり。車嶺山脈に屬せる靈仁山（三六三米）西南境に聳えて西南部は山地を成せども、北部一帯は安城川の沃野を成し、中央に平野の單調を破るが如く高峯峰（二九六米）屹立す。高峯峰はその形富士の如くピュウットの地形を成す。平野は灌漑の利に富み水田甚だ多し。氣候は温暖にして盛夏三四度を越えず嚴冬も零下一〇度を下ること稀にて農業に好適す。住民は専ら農業に従事す、副業として畜産・養蠶業は盛なり。産物は米・小麦・大豆・煙草・棉花・果實・鹽及び魚類等あり。道路は靈仁山北麓の牙山邑を中心として東北方平澤驛、東南方温泉里に各三等道路を通じて鐵道京釜線及び京南鐵道忠清線に連絡し、交通極めて便なり。牙山は大正三年に郡併合に至るまで舊牙山郡の首邑たりし所にして商取引は今なほ餘勢を存し、郡内温泉里に亞ぎ取引活潑なり。北岸の白石浦は牙山灣奥に位置する要津にして、對岸京畿道安城郡と西方唐津郡の雲井里・新茂里等との間に渡船

す。住民は農業に従事し、傍ら機械・蠶蠶を爲す者も少ならず。産物の主なるものは米・大豆・小麦・大麻・苧麻等にして、殊に米は品質・量ともに優れ群山を経て内地に移出せらる。また清酒醸造用として馬山地方に移出せらる。道路は礪山邑を中心として北方論山、南方木浦に一等道路を通じ、平坦路にして自動車の往來頻繁なり。礪山は大正三年まで礪山郡廳の置かれし地、金融組合・市場等ありて市況活潑にして、また交通の要衝に位置し、北方江景・論山、西方咸平、南方益山・裡里等へバスの便あり。

**レーサン** 靈山面 嶺南寮 朝鮮慶尙南道昌寧郡の南部。郡邑昌寧の南方約一五軒にあり。北境には靈鷲山（七四〇米）・宗岩山（五四六米）等聳えて北部は一帯に山地を成せども、南部は數多の湖沼分布し、西隣の丈麻面、東隣の都泉面と共に湖沼地域を形成す。南部は地味肥沃にして良田沃野遠く開け、本部の主要農産地を成す。住民は質朴にして多くは農業に従事し、工業は酒の醸造を除きては見るべきものなし。産物は米・小麦・大豆・大豆・粟を主とし棉花・大麻・煙草等あり。また朝鮮酒・焼酎の産あり。當地は大正三年三月昌寧郡に合併を見るまで、靈山郡の郡廳所在地たりし所にて、靈山を中心として道路網よく發達し、南方馬山・統營方面、北方昌寧・大邱へ通ずる二等道路に乘合自動車を通じ、更に東方釜谷、西方丈麻には三等道路を通じ何

れも坦路にて交通・運輸便に、且つ洛東江の水路は物資の運搬に供せられ交通便なり。邑は嘗ての靈山郡廳の所在地にして北に靈鷲山を負ひ、西南一帯に廣野を控へ、水陸交通の要衝に位置して物資の集散活潑なり。陰曆三・八日の市は附近稀に見る股賑にして、その取引額は昌寧に亞ぎ第二位にあり。

**レージン** 靈仁面 嶺南寮 朝鮮忠清南道牙山郡の北部。郡邑靈陽の西北方の約一五軒にあり。車嶺山脈に屬せる靈仁山（三六三米）西南境に聳えて西南部は山地を成せども、北部一帯は安城川の沃野を成し、中央に平野の單調を破るが如く高峯峰（二九六米）屹立す。高峯峰はその形富士の如くピュウットの地形を成す。平野は灌漑の利に富み水田甚だ多し。氣候は温暖にして盛夏三四度を越えず嚴冬も零下一〇度を下ること稀にて農業に好適す。住民は専ら農業に従事す、副業として畜産・養蠶業は盛なり。産物は米・小麦・大豆・煙草・棉花・果實・鹽及び魚類等あり。道路は靈仁山北麓の牙山邑を中心として東北方平澤驛、東南方温泉里に各三等道路を通じて鐵道京釜線及び京南鐵道忠清線に連絡し、交通極めて便なり。牙山は大正三年に郡併合に至るまで舊牙山郡の首邑たりし所にして商取引は今なほ餘勢を存し、郡内温泉里に亞ぎ取引活潑なり。北岸の白石浦は牙山灣奥に位置する要津にして、對岸京畿道安城郡と西方唐津郡の雲井里・新茂里等との間に渡船

す。住民は農業に従事し、傍ら機械・蠶蠶を爲す者も少ならず。産物の主なるものは米・大豆・小麦・大麻・苧麻等にして、殊に米は品質・量ともに優れ群山を経て内地に移出せらる。また清酒醸造用として馬山地方に移出せらる。道路は礪山邑を中心として北方論山、南方木浦に一等道路を通じ、平坦路にして自動車の往來頻繁なり。礪山は大正三年まで礪山郡廳の置かれし地、金融組合・市場等ありて市況活潑にして、また交通の要衝に位置し、北方江景・論山、西方咸平、南方益山・裡里等へバスの便あり。

連絡あり。白石浦及び牙山附近は明治二十七八年戦役の際、大島混成旅團の一部これを占領し、成敗方面より敗走し来れ、敵軍を潰滅せし處なり。附近に文祿・慶長の役に於ける朝鮮水軍の將として有名な李舜臣の墳墓あり。

レースイ 麗水

【麗水金山】 朝鮮京畿道羅州郡金沙面にある金銀銅山。昭和十年には金二三、五九二瓦、銀二三、五九一瓦、金銀鐵七九萬の總價額約八萬圓を産出し、同年六月末の従業員は一五二人なり。

【麗水郡】 朝鮮全羅南道二府二十一部一島の一。道の南東部に位し、北は順天郡に連り、他は海に面す。順天の南に突出する麗水半島を以て主部となし、その南方の突山島・金鷲島・蓋島・所里島・狼島等、及び南西方の巨文島・草島・翼竹島等の諸島を含み、面積四八三平方軒あり。本郡は小白山脈の南部が沈降の結果生成せし地域にして、麗水半島部には靈鷲山(五一〇米)・虎狼山(五〇〇米)等を始め無数の丘陵起伏し、概して急傾斜にして平地に乏し。而して更に深く沈降せしものは島嶼となりて半島の前面に基布す。即ち本郡に属するものみにて有人島約三〇、無人島は一七〇に餘り、海岸線延長は九〇〇軒に及ぶ。河川は数條あるも、何れも短く舟楫の便を缺く。農産物には米・麥・大豆・粟等あり、棉花は頗る良質のものを出し産額また多し。水産業は本郡の生命にして、鱈・鯛・鱈・鱈・鰈・石首魚・鰻・太刀魚等の漁獲多く、牡蠣・海苔の養殖盛にして海苔は内地へ移出され、水産製造にありては煮乾鮑を大宗とす。工業は綿布・麻布・織物等を主とし麗水港にては精米・織綿・織工・造船等の工業行はる。礦産は磁石・金銀等あり。半島部には鐵道全羅線通じ北より栗林・新豊・徳陽・双鳳・美坪・萬聖・麗水の各驛を経て麗水港驛に達す。順天より来る二等道路は鐵道と並行して同じく麗水港に至りバスの便あり。麗水港より下關との間に毎日一往復の連絡船出で、其他、沿岸航路船の寄泊地をなし、交通頗る便なり。行政上、一邑九面に分ち、郡廳を麗水邑に置く。人口一二萬餘、一方軒密度は二四九人(昭和十年)を算し、道内に於て光山・羅州の兩郡に次ぎ稠密なり。本郡は百濟時代の狼村縣にして、新羅朝これを海邑縣と改め、高麗朝に至り麗水郡と改稱す。李朝太宗十三年水軍節度使を置き左水營と稱し、宣宗二十六年陞して忠清・全羅・慶尙の三道統制使を置きなほ節度使を兼らしめ、後七年を経て統制使を統營に移せり。英祖元年都護府と改め府使をして水使を兼らしめしが、翌年都護府を廢し、節度使のみを置き、明治二十八年遂に節度使を廢し、同三十年麗水郡となし郡守を置く。大正三年に突山郡の一部を本郡に合し以て今日に至る。

【麗水邑】 朝鮮全羅南道麗水郡の首邑。全羅南道の東南端、麗水半島の突端に位置し、前面に大嶺島を始め突山島その他無數の島嶼横はり風浪を防ぎ、港内水深頗る大にして天然の良港を成す。釜山・木浦の中間に位置する最も重要な商港なり。麗水は李朝太宗の十三年順天都護府管下に屬し、別に水軍節度使を置き左水營と稱せし事あり。其後、一六三年を経て宣宗二十六年十月、我が文祿二年の朝、豊臣秀吉自たりし當時、忠清・慶尙・全羅の三道に於ける水軍の統制營となし、統制使を置き節度使を兼ねしむ。當時の統制使李舜臣は、文祿・慶長の役(壬辰の亂)に於て龜船を使用し、我が水軍の北上を撃つせし古戰場にして日鮮史上を永久に飾るものなり。行政上の沿革は元呂水面と稱へ、建陽元年雙鳳面と改め、隆熙二年雙鳳面の一部を分轄し以て麗水内面と成し、大正三年四月に面の名稱區域變更に際し麗水面と改め、大正十二年四月指定面に昇格し、昭和六年四月に地方制度の改正に伴ひ、麗水邑と成る。市街は山容秀麗なる日光の男體山に比すべき鐘鼓山を中心として山麓より海岸通まで累々たる巒を連り、西南部は青市街にして、西は泰山寺、東は海雲臺に集團して、東町・西町に分れ、棧橋には釜山航路・河東・南海航路・下關・大阪・神戸等の諸航路・濟州航路・木浦航路等の諸航路網集して頗る股脈を極め、木浦を遙かに凌ぐ觀あり。東町の鐘鼓山中腹に郡廳舎あり。其前方の異色ある建築は鎮南館と稱し、慶長四年、統制使李舜

置し、前面に大嶺島を始め突山島その他無數の島嶼横はり風浪を防ぎ、港内水深頗る大にして天然の良港を成す。釜山・木浦の中間に位置する最も重要な商港なり。麗水は李朝太宗の十三年順天都護府管下に屬し、別に水軍節度使を置き左水營と稱せし事あり。其後、一六三年を経て宣宗二十六年十月、我が文祿二年の朝、豊臣秀吉自たりし當時、忠清・慶尙・全羅の三道に於ける水軍の統制營となし、統制使を置き節度使を兼ねしむ。當時の統制使李舜臣は、文祿・慶長の役(壬辰の亂)に於て龜船を使用し、我が水軍の北上を撃つせし古戰場にして日鮮史上を永久に飾るものなり。行政上の沿革は元呂水面と稱へ、建陽元年雙鳳面と改め、隆熙二年雙鳳面の一部を分轄し以て麗水内面と成し、大正三年四月に面の名稱區域變更に際し麗水面と改め、大正十二年四月指定面に昇格し、昭和六年四月に地方制度の改正に伴ひ、麗水邑と成る。市街は山容秀麗なる日光の男體山に比すべき鐘鼓山を中心として山麓より海岸通まで累々たる巒を連り、西南部は青市街にして、西は泰山寺、東は海雲臺に集團して、東町・西町に分れ、棧橋には釜山航路・河東・南海航路・下關・大阪・神戸等の諸航路・濟州航路・木浦航路等の諸航路網集して頗る股脈を極め、木浦を遙かに凌ぐ觀あり。東町の鐘鼓山中腹に郡廳舎あり。其前方の異色ある建築は鎮南館と稱し、慶長四年、統制使李舜

【麗水半島】 朝鮮全羅南道の東南部にあり。順天邑の東南方に於て約六軒の幅を以て始まり次で東南に擴がり、西南部には更に古突山半島を突出せしむ。半島基部より古突山半島の突端まで約三〇軒あり。東北は光陽灣に臨みて光陽郡との間に嶺島を始め松島・大勳島・三千島等を泛べ、東南は麗水海灣を距て南海島と相對し、南は駕妾洋に、西は汝自灣に臨む。東南端は狹隘なる麗水海峽を隔てて突山島・大嶺島・小嶺島あり、海峽に臨みて麗水港の良港を擁し、同海峽及び駕妾洋の南方には突山島を始め金鷲島・蓋島・白也島・狼島その他多數の島嶼群を望む。此の半島は南方諸島と共に小白山脈の末端が沈降の結果生ぜしものにて、多くは丘陵地をなすも、耕地よく拓げ、米・棉花等の産多く、沿岸には汝自灣の蝦を始めとし、魚介の利頗る多く、またその干潟地を利用して海苔の養殖行はる。

レースイ 麗水

【麗水郡】 朝鮮全羅南道の東南部にあり。順天邑の東南方に於て約六軒の幅を以て始まり次で東南に擴がり、西南部には更に古突山半島を突出せしむ。半島基部より古突山半島の突端まで約三〇軒あり。東北は光陽灣に臨みて光陽郡との間に嶺島を始め松島・大勳島・三千島等を泛べ、東南は麗水海灣を距て南海島と相對し、南は駕妾洋に、西は汝自灣に臨む。東南端は狹隘なる麗水海峽を隔てて突山島・大嶺島・小嶺島あり、海峽に臨みて麗水港の良港を擁し、同海峽及び駕妾洋の南方には突山島を始め金鷲島・蓋島・白也島・狼島その他多數の島嶼群を望む。此の半島は南方諸島と共に小白山脈の末端が沈降の結果生ぜしものにて、多くは丘陵地をなすも、耕地よく拓げ、米・棉花等の産多く、沿岸には汝自灣の蝦を始めとし、魚介の利頗る多く、またその干潟地を利用して海苔の養殖行はる。

レースイ 麗水

【麗水邑】 朝鮮全羅南道麗水郡の首邑。全羅南道の東南端、麗水半島の突端に位置し、前面に大嶺島を始め突山島その他無數の島嶼横はり風浪を防ぎ、港内水深頗る大にして天然の良港を成す。釜山・木浦の中間に位置する最も重要な商港なり。麗水は李朝太宗の十三年順天都護府管下に屬し、別に水軍節度使を置き左水營と稱せし事あり。其後、一六三年を経て宣宗二十六年十月、我が文祿二年の朝、豊臣秀吉自たりし當時、忠清・慶尙・全羅の三道に於ける水軍の統制營となし、統制使を置き節度使を兼ねしむ。當時の統制使李舜臣は、文祿・慶長の役(壬辰の亂)に於て龜船を使用し、我が水軍の北上を撃つせし古戰場にして日鮮史上を永久に飾るものなり。行政上の沿革は元呂水面と稱へ、建陽元年雙鳳面と改め、隆熙二年雙鳳面の一部を分轄し以て麗水内面と成し、大正三年四月に面の名稱區域變更に際し麗水面と改め、大正十二年四月指定面に昇格し、昭和六年四月に地方制度の改正に伴ひ、麗水邑と成る。市街は山容秀麗なる日光の男體山に比すべき鐘鼓山を中心として山麓より海岸通まで累々たる巒を連り、西南部は青市街にして、西は泰山寺、東は海雲臺に集團して、東町・西町に分れ、棧橋には釜山航路・河東・南海航路・下關・大阪・神戸等の諸航路・濟州航路・木浦航路等の諸航路網集して頗る股脈を極め、木浦を遙かに凌ぐ觀あり。東町の鐘鼓山中腹に郡廳舎あり。其前方の異色ある建築は鎮南館と稱し、慶長四年、統制使李舜

レースイ 麗水

【麗水郡】 朝鮮全羅南道の東南部にあり。順天邑の東南方に於て約六軒の幅を以て始まり次で東南に擴がり、西南部には更に古突山半島を突出せしむ。半島基部より古突山半島の突端まで約三〇軒あり。東北は光陽灣に臨みて光陽郡との間に嶺島を始め松島・大勳島・三千島等を泛べ、東南は麗水海灣を距て南海島と相對し、南は駕妾洋に、西は汝自灣に臨む。東南端は狹隘なる麗水海峽を隔てて突山島・大嶺島・小嶺島あり、海峽に臨みて麗水港の良港を擁し、同海峽及び駕妾洋の南方には突山島を始め金鷲島・蓋島・白也島・狼島その他多數の島嶼群を望む。此の半島は南方諸島と共に小白山脈の末端が沈降の結果生ぜしものにて、多くは丘陵地をなすも、耕地よく拓げ、米・棉花等の産多く、沿岸には汝自灣の蝦を始めとし、魚介の利頗る多く、またその干潟地を利用して海苔の養殖行はる。

レースイ 麗水

【麗水郡】 朝鮮全羅南道の東南部にあり。順天邑の東南方に於て約六軒の幅を以て始まり次で東南に擴がり、西南部には更に古突山半島を突出せしむ。半島基部より古突山半島の突端まで約三〇軒あり。東北は光陽灣に臨みて光陽郡との間に嶺島を始め松島・大勳島・三千島等を泛べ、東南は麗水海灣を距て南海島と相對し、南は駕妾洋に、西は汝自灣に臨む。東南端は狹隘なる麗水海峽を隔てて突山島・大嶺島・小嶺島あり、海峽に臨みて麗水港の良港を擁し、同海峽及び駕妾洋の南方には突山島を始め金鷲島・蓋島・白也島・狼島その他多數の島嶼群を望む。此の半島は南方諸島と共に小白山脈の末端が沈降の結果生ぜしものにて、多くは丘陵地をなすも、耕地よく拓げ、米・棉花等の産多く、沿岸には汝自灣の蝦を始めとし、魚介の利頗る多く、またその干潟地を利用して海苔の養殖行はる。

レースイ 麗水

【麗水郡】 朝鮮全羅南道の東南部にあり。順天邑の東南方に於て約六軒の幅を以て始まり次で東南に擴がり、西南部には更に古突山半島を突出せしむ。半島基部より古突山半島の突端まで約三〇軒あり。東北は光陽灣に臨みて光陽郡との間に嶺島を始め松島・大勳島・三千島等を泛べ、東南は麗水海灣を距て南海島と相對し、南は駕妾洋に、西は汝自灣に臨む。東南端は狹隘なる麗水海峽を隔てて突山島・大嶺島・小嶺島あり、海峽に臨みて麗水港の良港を擁し、同海峽及び駕妾洋の南方には突山島を始め金鷲島・蓋島・白也島・狼島その他多數の島嶼群を望む。此の半島は南方諸島と共に小白山脈の末端が沈降の結果生ぜしものにて、多くは丘陵地をなすも、耕地よく拓げ、米・棉花等の産多く、沿岸には汝自灣の蝦を始めとし、魚介の利頗る多く、またその干潟地を利用して海苔の養殖行はる。

レースイ 麗水

【麗水郡】 朝鮮全羅南道の東南部にあり。順天邑の東南方に於て約六軒の幅を以て始まり次で東南に擴がり、西南部には更に古突山半島を突出せしむ。半島基部より古突山半島の突端まで約三〇軒あり。東北は光陽灣に臨みて光陽郡との間に嶺島を始め松島・大勳島・三千島等を泛べ、東南は麗水海灣を距て南海島と相對し、南は駕妾洋に、西は汝自灣に臨む。東南端は狹隘なる麗水海峽を隔てて突山島・大嶺島・小嶺島あり、海峽に臨みて麗水港の良港を擁し、同海峽及び駕妾洋の南方には突山島を始め金鷲島・蓋島・白也島・狼島その他多數の島嶼群を望む。此の半島は南方諸島と共に小白山脈の末端が沈降の結果生ぜしものにて、多くは丘陵地をなすも、耕地よく拓げ、米・棉花等の産多く、沿岸には汝自灣の蝦を始めとし、魚介の利頗る多く、またその干潟地を利用して海苔の養殖行はる。

レースイ 麗水

邑、西北方順川に二等道路を通じ、西部には龍川・順安間道路通じて何れもバス

【靈泉寺】 朝鮮黄海道鳳山郡の西部に位置し、郡邑沙里院の西南に隣接す。載奉

南隣にて、東は老虎灘會に接し、南は黃海に面す。低き丘陵起伏し、西境に西大山

【靈泉寺】 朝鮮黄海道鳳山郡の西部に位置し、郡邑沙里院の西南に隣接す。載奉

【靈泉寺】 朝鮮黄海道鳳山郡の西部に位置し、郡邑沙里院の西南に隣接す。載奉

に薬用植物研究所あり、昭和十年四月に道費三萬五千圓を投じて開設したるもの

【靈泉寺】 朝鮮黄海道鳳山郡の西部に位置し、郡邑沙里院の西南に隣接す。載奉

【靈泉寺】 朝鮮黄海道鳳山郡の西部に位置し、郡邑沙里院の西南に隣接す。載奉

當る。浪花色八卦「靈符、此處はこぼん屋町より這入る門あつて、それより細き

【靈泉寺】 朝鮮黄海道鳳山郡の西部に位置し、郡邑沙里院の西南に隣接す。載奉

【靈泉寺】 朝鮮黄海道鳳山郡の西部に位置し、郡邑沙里院の西南に隣接す。載奉

レフン 禮文

【禮文郡】 北海道北見國宗谷支庁の西海上、禮文島一島を占む。支庁管内四郡の一。

【禮文島】 北海道宗谷支庁禮文郡の西海上、禮文島一島を占む。支庁管内四郡の一。

レンカ 蓮花山

【蓮花山】 朝鮮咸鏡南道西北部の山。長津郡東下面・北面・上南

【蓮花山】 朝鮮咸鏡南道西北部の山。長津郡東下面・北面・上南

レンコク 連谷面

【連谷面】 朝鮮江原道江陵郡の西北端に位置し、郡邑江陵の西北方

【連谷面】 朝鮮江原道江陵郡の西北端に位置し、郡邑江陵の西北方

レンサン 連山面

【連山面】 朝鮮忠清南道海山郡の中央より稍東北部に位置し、郡邑

【連山面】 朝鮮忠清南道海山郡の中央より稍東北部に位置し、郡邑

せる外は著しきものなきも、城内丘陵起伏し、耕地は丘陵斜面を開拓し、農業よく發達す。産物の主なるものは米・小麦・大豆・棉花・烟草等にして、麻布・明油を家庭工業に於て製行はる。また南部に金銀等の産あり。社經朝鮮黄海道中部を横断し松本温泉驛(昭和十二年設置)あり、道路は西部に二等道路ありて北方松本、南方長湍に、東部には三等道路ありて西南方長湍、東北方水橋里と何れもバスを以て連絡す。中部の温泉水を主色となし、ここに松本温泉あり。温泉泉として源泉温度四八度、放射能作〇・一二マクヘを算し、泉量豊富、且つ道内多数の温泉中、四圍の風光特に佳なるを以て知らる。(梁山温泉)温泉は富田と長湍郡界道南に跨る。同温泉の産物は金銀銅鐵炭なるが、昭和十年には金四、五二二瓦、銀七七、七〇四瓦、金銀銅五、五五一瓦(この總價額約三九萬圓)を産出し、同年六月末の従業員は五九七人、日本鐵業會社の稼行に係り、現に重要金山に列す。

レンセン 連川面

朝鮮咸鏡北道富寧郡の東南部に位置し、清津府の東北方約一〇軒にあり。三面山地を以て圍繞し東南は海灣に面す。即ち東北境には梁山、西境には散魯山(七四六米)、西南境には近く鐵嶺(五七一米)聳えて餘勢域内に重疊連立し、東南沿海地方は比較的低下にて、海岸は弓狀の砂濱相連なる。産物は農産に粟・稗・大豆・小豆・燕麥等、

レンセン 連川

【連川郡】朝鮮京畿道三府二十郡の一。道の北部に位置し、東は抱川郡、南は楊州郡、城州郡、西は長湍郡に接し、北は江原道鐵原郡と黄海道金川郡とに界す。面積八三・五平方軒。郡のほぼ中部を竹駕嶺地帯が南北に縦貫して、以て東は北部に金鶴山・寶蓋山の兩山相連する。寶蓋山境に北に地嶺(八七七米)、南に香

レンホ 蓮浦面

朝鮮咸鏡南道咸州郡の西南端に位置し、郡邑咸興の南方一〇軒にあり。城川江及び廣浦江・朱伊川等の下流三角洲上に位置せるを以て土地極めて低平、東部日本海に臨む所は砂濱相連なり、砂丘の發達を見る。農業は農を主とし砂丘地帯には果樹の栽培盛なり。産物は米・大豆・小豆・麥・黍・稗等に於て、梨及び桃は咸興梨及び咸興桃の名に於て市場に著はる。道路は西政の中心連浦を核として北方咸興、南方播春場、北東方西湖津に各三等道路を通じ咸興・西湖南津間に各合自動車の便あり。

レンホ 蓮芳面

朝鮮黄海道松本郡のほぼ中央に位置し、郡邑松本の東に隣接す。西部には小丘陵起伏すれども、東部一帯は土地頗る低平にして、地味肥沃、農産豊かなり。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に從事する者尠ならず。産物の主なるものは米・大豆・小豆・粟・棉花・烟草・綿布・麻布・燐粉等あり。富田内に温泉金銀あり、鐵種は金銀銅鉛なるが、昭和十年には金銀銅五八三瓦(價額五萬餘圓)を産出し、日本鐵業會社の稼行に係る。社經朝鮮黄海道海線は南境に走り、その水橋驛より松本へ至る三等道路は中部を縦貫してバス

年設置)あり。↓郡内面  
レンドイジ 蓮臺寺 ↓稻生澤村  
(第四區)

レノホ 連浦面 朝鮮咸鏡南道咸州郡の西南端に位置し、郡邑咸興の南方一〇軒にあり。城川江及び廣浦江・朱伊川等の下流三角洲上に位置せるを以て土地極めて低平、東部日本海に臨む所は砂濱相連なり、砂丘の發達を見る。農業は農を主とし砂丘地帯には果樹の栽培盛なり。産物は米・大豆・小豆・麥・黍・稗等に於て、梨及び桃は咸興梨及び咸興桃の名に於て市場に著はる。道路は西政の中心連浦を核として北方咸興、南方播春場、北東方西湖津に各三等道路を通じ咸興・西湖南津間に各合自動車の便あり。

入せらる。西は嶺南屯會に接し、東と南は黄海に面す。概ね低き丘陵性山地にして東岸に近く北に臺子山、南に大頂山あり、西部より南岸にかけては市狭き低地ありて農耕行はる。大連に通ずる道路の低地に通じ交通便なり。

ローサン 朗山面

朝鮮全羅北道益山郡の中部に位置し、清州邑の西方約五軒にあり。東南境に彌勒山(四三〇米)西境には石山(一〇五米)等聳ゆるも、中部は清州の江景平野の一部を成し土地低平にして地味肥え農業に適す。産物は米を第一とし大豆・小麦・雜穀・大麻・苧・麻・棉花等あり。道路の開發未だ充分ならず交通・運輸極めて不便なり。

ローアン 老安面

朝鮮全羅南道羅州郡の中央より稍北に位置し、羅州邑の北に隣接す。西境に玉山(三九五米)西南境に錦城山(四五二米)等聳立し、西南部一帯は山地を成せども、中部は梁山江の支流南流して謂ゆる羅州平野の一部を成し、地味肥え農業盛に行はる。産物は米・大豆を主とし其他、大豆・棉花・綿布並に諸種の竹細工品等あり。鐵道湖南本線は面の東部を南北に縦貫すれども、城内に疎なく、北の松行里、南方の羅州に

ローオン 老隱面

朝鮮忠清北道忠州郡の西部に位置し、郡邑忠州の西方約二〇軒に在り。北境に寶蓮山(七六四米)・國望山(七七〇米)・僧代山・遠通山(六五一米)等相連なり、西南境には車衣山(六七八米)等聳立し、之等山地に發達せる諸流は中央に集りて東西に長き谷を造り、東流してのち漢江に合流す。沿岸僅かに耕地拓け農業行はる。産物には米・大豆・小麦、其他の雜穀及び煙草・荳あり。また城内數箇所は梁山ありて金銀を産す。特に仰城面に於る奉昌嶺山は産額多く、昭和十年には金一七、三五一瓦、銀四、九三二瓦(この總價額五萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員四〇九人なり。道路は縱谷に沿ひ東西に幹線を通じ、これより南北に支線を岐つも、支線は何れも坂路多く且つ境界に峠ありて交通便ならず。葉落は何れも縱谷に沿ひて分布す。

ローコサン 老虎山會

關東州金州民政署管區の西北端。南は大魏家屯會に隣り、東は普蘭店民政署管下の三十里堡屯會と境し、西と北とは關東河に面す。高さ一五〇米内外の三條の丘陵性山脈あり、その一は南境を西南に走り、その二は中部を東西に連りて西半は海中に突出して牛島をなし、その三は東北部を北西に延びその先端は海岸に迫り、前面に浮舟島あり。これら丘陵の中間と東境とは平坦地ありて耕地拓け農産を産す。道路東半部に通ずるも西半の牛島部は改修未だ交通不便ならず。

ロージョー 琅城面

朝鮮忠清北道清州郡の東部に位置し、清州邑の東方約五軒。小白山脈に屬する局師峯(五六五米)・東南境に屹立し、仙到山(五四五米)西部に聳えて、城内概ね山地を成し、之等山地は東北方に向つて緩斜し其山麓に連川の溪谷を涵養して東流し、沿岸僅かに小低地を見る。氣候は適順にして、夏季最高三四度、冬季最低零下二三度、京城に比し夏・冬共に凌ぎ易し。住民は農業を主とし、副業として養蠶を爲す者尠ならず。産物の主なるものは大豆・棉花・麻・苧・麥等にして米と未は不足し、移入の状態にあり。其他、明油・漆等の産あり。鐵産には金銀多し。道路は槐山・清州を連る三等道路南部を横断しバスを通ずれども、其他は坂路凹凸

ローローシ

朝鮮全羅南道羅州郡の中央より稍北に位置し、羅州邑の北に隣接す。西境に玉山(三九五米)西南境に錦城山(四五二米)等聳立し、西南部一帯は山地を成せども、中部は梁山江の支流南流して謂ゆる羅州平野の一部を成し、地味肥え農業盛に行はる。産物は米・大豆を主とし其他、大豆・棉花・綿布並に諸種の竹細工品等あり。鐵道湖南本線は面の東部を南北に縦貫すれども、城内に疎なく、北の松行里、南方の羅州に

ローカン 龍岩面

朝鮮慶尙北道開慶郡の西南部。郡邑開慶の西南約二〇軒。小白山脈に屬する道藏山(八二八米)・西南部に嶺々たる山骨を露出して北方の青華山(九七七米)に相連りて西境を劃し、餘勢域内に及びて蓮葉山(八三〇米)・鳥項山(九五二米)等を崛起し、城内山岳重疊し、平地極めて乏し。住民は農業を主とし、傍ら採薪・製炭・養蠶等に從事せるも、生活程度低く富裕なる者尠なし。従つて近時滿洲方面に出稼する

ローコタン 老虎灘會

關東州大連民政署管區の南東端。大連市の東南隣にてその寺兒溝屯は近年大連市に編



甚だしく交通・運輸不便なり。東部は東北部に多く、信亭里に其の中心を成し、西事務所あり。(上雲山城址)面の西北隅、四州・北一兩面の境に城壁あり。百濟上黨城の古址にして、周回約四軒、城壁内に民家約三十戸あり。今の城壁は李朝肅宗の時に重修せるものなり。

ロドフ

運部の蕃社。中央尖山東南方の山地にあり、標高約一〇〇〇米の地、高砂族部落にして、アマヤル族の中タラサイ蕃に属す。戸数四一、人口二六三(昭和十二年末現在)。臨海道路よりタロコ峽を経て入山するを便利とす。

ローノ

老濃溪の源。下淡水溪本流の上流にして源を新高山南麓に發し、高雄州旗山郡の舊地を過ぎ六龜庄に入り、その中央を北より南に貫流し、流域各所に扇状地を形成しつつ大津附近にて屏東郡舊地を流下せる濁口溪と合し、西南流し旗山街碼頭附近に至り楠梓仙溪を合し、下淡水溪となりて直ちに南下す。延長八〇餘軒、雨期に至れば増水氾濫して交通を阻害し、流域の田圃に被害を與ふること尠からずとも、獅子頭別を始り、六龜・新成各別の水源となり、流域の田圃を灌漑し、農耕上裨益するところ頗る大なり。

ローアゴ

東勢郡の蕃社。大安溪の上流地方にあり、アマヤル族の北勢蕃に属する高砂部落。戸数五三、人口二二四(昭和十二年

末現在)。

ローヤビヨ

老爺廟會の別名。東州普蘭店民政署管區の西部。東は石河郡會に、南は三十里堡會に隣り、西と北は關東郡の一支部に面す。東境には高き二百米内外の丘陵性山地は南北に連り、その北支は西に延びて海岸に近き西台山(二〇八米)を起し、更にその餘脈は再び海中に起りて西岸に近き青島、北岸に近き前・後塔連島、後箕島等の小島となる。その他の地域は南隣三十里堡會に連る平野の一部にて、西流する三十里堡河によりて境せられ、耕地よく拓く。農産に玉蜀黍・大豆・高粱・落花生・蔬菜等あり。滿鐵連京線の三十里堡驛(三十里堡會東北部)に近く、交通不便ならず。

ローリン

狼林の別名。朝鮮北部の山脈。北朝鮮のほぼ中央を脊梁をなして南北に縱走する山脈にして、蓋馬臺地の北部に起り猛扶山(二二一四米)・大紅山(二二五二米)・小白山(二一八四米)・狼林山(二〇一四米)・東白山(二〇九六米)等何れも二〇〇〇米以上の高峯を起し、成鏡南道と平安南道の境界をなして漸次南に低夷し、酒水山(一七四七米)となり、江原道北境に於て終る。本地域は牛島中最も高峻なる地域にて交通不便のため、未だ斧鉞の入りざる原生林多し。

狼林山

朝鮮北部の脊梁をなす狼林山脈の主峰。平安北道熙川郡新豐面と平安南道寧邊郡大興面・成龍面の境上に跨り

標高二〇一四米。北枝は雄魚水山(二〇一九米)を経て成鏡南道・平安南道境界の小白山(二一八四米)に連り、西南方に向つては妙香山脈を走らしむ。山の南斜面に發する水は大同江の上源をなし、西南斜面より支流成龍江を出し、また西斜面の水は清川江上支をなす。

ロカ

路下。朝鮮平安北道宣川郡東面の別名。總督府鐵道京義本線路下驛(明治四十一年設置)あり。

ロカ

蘆花の別名。朝鮮全羅南道莞島郡の西部。道の西南端に突出する海南半島突端の南方約八軒の海上に基布する所安群島中の蘆花島・市吉島の二大島及び附近の長蛇島・老鷹島・石島・後長久島・西島・免金島等、その西北海上の竹島・長久島・魚龍島等、大小三十餘島を以て構成せらる。蘆花島は主島にして一に露兒島と稱し、南は蛇島水道によりて市吉島と分たれ、北は長久水道によりて横看島(所安面に屬す)と隔つ。西南部に於て標高約一五〇〇米を測るも概ね低平にて、海岸線は屈曲甚だしく、殊に東方の所安港に對する濱は二大深入り灣を成せども、その全面泥堆干出し、草魚多し。南部の都羅里を主邑となす。市吉島は所安島の西方に位し東西の二部に分る。西部は圓形をなし東西・南北とも各約六軒あり、中央は狭長の平地にて二四四米の山これを圍繞し、南には赤紫峰聳ゆ。西部の東端は長さ約三哩、幅は僅かに〇・二五哩の

沙灘地によりて東部に連る。東部は岩嶮不規則にして、その北側は總て干出泥堆なり。赤紫峰の東麓海岸なる體松里には常磐樹の美林ありて、天然記念物に指定せらる。之等の諸島は平地極めて少きを以て耕地は丘陵緩斜面を開墾し、急斜面は階段的に耕地化する等、耕地擴張に對する努力の歴然たるものあり。住民の大部分は農を業とし、漁業に従事する者は比較的尠なし。近海は鱈・鰈・鳥賊等の好漁場を成し春夏の交、内鮮漁船の來集を以て賑ふ。近海漁獲物には鱈・鰈・鮭・石首魚・太刀魚・海鼠・てんぐさ・海苔・和布等あり。主要農産物には麥・粟・大豆等あり。水陸交通共に便ならず。

ロカイ

蘆海面。朝鮮京畿道楊州郡の西南部に位置し、京城府を距る東北方約一〇軒、議政府の南方約五軒にあり。北境には水落山(六三八米)・道華山(七一七米)等聳え、東境には佛岩山(四二〇米)屹立し、西北部及び北東部は一帶に山地をなせども、中部は漢江の支流漢川の構造谷ありて南北に貫く廣き沃野開け、京城府北部に於ける重要農業地帯を成す。農産物の主なるものは米・小麦・大豆・粟等にして、また蕎麥及び生牛・木炭等あり、木炭は特に京城府を商園として近年その生産増加の一途にあり。鐵道京元線は中部低地を南北に縱走し、倉洞驛(明治四十四年設置)あり、京元一等街道も之と併走し京城より自動車の便あり交

通・運輸頗る便なり。墾拓は殆んど中央低地に分布し、倉洞里はその中心集落にして交通の要衝に位置し西事務所・警察官駐在所等あり。西北境に聳立する北漢山は山容秀拔にして、その麓に牛耳洞あり、京城近郊に於ける櫻の名所として著はれ、花季には遊客雜沓す。

ロクエ

六榮村の別名。熊本縣肥後國玉名郡の西南部。小代山の西南麓に位し、西南隅は長洲町の東南隅と接し、約一軒にて有明海岸に出づ。東北部は約三〇米程度の高度を有する山麓部なれども西部と南部は地形低平にて、西境に栗切川が南流す。東部に一湖沼あり。農業を主産業とし米・麥を主とし特産物には煙草・西瓜等あり。富村の地は三池炭田の一部にして、現に富村一部の地は三池炭礦業區の部分となす(三池炭礦業區)。此外多くの石灰質土層を有するが、現在どのころ何れも振はず。南部を省線鹿兒島本線が横斷し、西方の長洲驛(清里村内)に近し。

ロクカ

六家庄。臺灣新竹州新竹郡七庄の一。鳳山溪・頭前溪のなす三角洲の中流地帯を占め、新竹市の東部に當る。東は竹東郡竹林庄に接し、西は舊港庄に北は新埔庄に、南は新竹市に、各々隣接す。管内は概ね平坦地にして、地味肥沃且つ上記兩溪による灌漑の便また良好なるを以て、管内區域の大部分は良質の水田にして、山林・原野等は皆無に近し。従つて本庄下住民の大半は、農を産業と

ロクエ

し、米作を主とする純農村にして、富局また熱心に是が指導をなし、品質の改良増産に就て施設を圖りたるを以て近年六家米の聲價大に高まりつゝあり、其の年産約五二萬圓に達す。其他、甘藷・甘蔗・蔬菜・落花生を産し、また柑橘類等の園藝作物若干を出す。本庄下に於ける畜産は主として農家に於て副業的に營ふるものにして、豚・牛・山羊・家高等を飼育し一年十數萬圓の生産あり。東部原野より若干の薪炭材を出す。金融機關には一の信用組合を有し庄下農村金融の圓滑を計る。教育施設に於ては公學校一を有し、別に社會教化機關として家長會・主婦會・國語講習會・國語講習所・公民講習所・青年團等の設けあり、時局下本島人の皇民化運動盛にして、國語常用家庭の増加見るべきものあり。交通は其便良好と稱すべからざるも、新竹市を隔に控ふるを以て道路完備し自動車の運行宜しきを以て、管内貨客の搬出入に不便を感ずる事少し。本庄の地は往時山番(アマヤル)の狩獵場にして(大字鹿場は往時山番の鹿を追ひて馳驅せし地なり)、漢民族の當地方に入墾せしは、乾隆三十年代にあり、廣東人によりて開拓せられしも、現大字驛口の地は、同時代住民が隘を設けて、蕃害に備へたる地と云ふ。清領後、當地方は其の行政區劃なる竹北一堡に屬し、我が領臺後、其の行政區劃として用ひられ、大正九年十月一日地方制度改正に際し廢止せられ、同時に新竹

ロクエ

北一堡に屬せし鹿場庄以下十一庄(現大字)の地を以て六家庄を建て、新竹州新竹郡の管轄に歸せしめ現在に至る。

ロクカ

六箇村。新潟縣越後國中魚沼郡の東部。十日町の東南方約五軒の山の西北斜面を占め、信濃川の一小支流を西北へ源流す。村は略々三角形をなし、東南邊は山嶺を以て南魚沼郡鹽澤町に界す。農産・林業を産業とし、米・蕎麥・薪炭を主産とす。省線十日町線の十日町驛(約八軒を隔て、樹津峠を越えて上越線鹽澤驛へ約五軒なり。建武年間(新田義貞)の原が築城せしといふ城址あり。のち羽根川刑部長尾義景これを繼ぐ。中世以來は羽根川郷に屬す。村名は六部落を合せし故に起るといふ。

ロクカ

六塊厩。臺灣新竹州新竹郡東部の中部。安食町の南隣にて印旛沼の北岸にあり。南は沼を隔てて佐倉町・酒々井町と相對す。東・南・西の三方を印旛沼に圍まれ牛島状をなし、大部分丘陵地にて森林あり。沼の沿岸には平地ありて、畑地・水田をなし、米・麥を産し、養蠶・養鶏も盛なり。縣道は安食町及び西北方の木下町に通じ、木下町へはバスの便あり。對岸佐倉町との間に渡船の便あり。

ロクカ

六合村。千葉縣下總國印旛郡の中部。安食町の南隣にて印旛沼の北岸にあり。南は沼を隔てて佐倉町・酒々井町と相對す。東・南・西の三方を印旛沼に圍まれ牛島状をなし、大部分丘陵地にて森林あり。沼の沿岸には平地ありて、畑地・水田をなし、米・麥を産し、養蠶・養鶏も盛なり。縣道は安食町及び西北方の木下町に通じ、木下町へはバスの便あり。對岸佐倉町との間に渡船の便あり。

ロクカ

六合村。臺灣新竹州新竹郡東部の中部。安食町の南隣にて印旛沼の北岸にあり。南は沼を隔てて佐倉町・酒々井町と相對す。東・南・西の三方を印旛沼に圍まれ牛島状をなし、大部分丘陵地にて森林あり。沼の沿岸には平地ありて、畑地・水田をなし、米・麥を産し、養蠶・養鶏も盛なり。縣道は安食町及び西北方の木下町に通じ、木下町へはバスの便あり。對岸佐倉町との間に渡船の便あり。

ロクカ

六郷村。青森縣陸奥國北津輕郡の西南部。板柳町の北に接す。津輕平野に屬し全村概ね平坦にして水田拓け、五所川原は村の東部を北方に通ず。灌漑の便よし。村の産業は農業を主とし、米を産しまた苹果の産あり。省線五能線の鶴泊驛(大正七年設置)を置く。明治二十二年町村制施行の際、六部落を以て一村を建てし故に六郷村と名付く。

ロクカ

六郷村。青森縣陸奥國北津輕郡の西南部。板柳町の北に接す。津輕平野に屬し全村概ね平坦にして水田拓け、五所川原は村の東部を北方に通ず。灌漑の便よし。村の産業は農業を主とし、米を産しまた苹果の産あり。省線五能線の鶴泊驛(大正七年設置)を置く。明治二十二年町村制施行の際、六部落を以て一村を建てし故に六郷村と名付く。

ロクカ

は津野平野に属して平坦なり。村の生業は農業を主とし、華果・米の産あり。道路は村の西北部を南北に通じ、省線の便は北方の奥羽本線浪岡驛、西方の同線北常盤驛、西南方の黒石線黒石驛へ各約四軒、交通便利なり。

【六郷村】宮城縣陸前國名取郡の東北部。仙臺市の東南方約七軒。東は太平洋に面し、北は宮城郡、東南は開上町に接す。仙臺平野に属し、全村平坦にして、名取川は南境を東南に流れ、太平洋に注ぐ。海岸には貞山堤が南北に通じ、砂浜をなせり。村の生業は農業を主とし、米・麥の産多し。海岸には漁業行はる。道路は村の南部を西北に通じ、省線東北本線仙臺驛へは約八軒。また同線の長町驛へは約六軒あり。

【六郷町】秋田縣羽後國仙北郡の東南部。大曲町の東南に隣りし、東は若手郷に、東南は平鹿郡に接す。土地東西に長く、東南及び東境には黒森山(七六三米)をなせり。山地連りて西方に傾斜し、西半部は横手盆地に属して平坦なり。村の生業は農・商・工等に於て、米・大豆・清酒・清涼飲料水等を産す。羽州街道は村の西南部を斜断し、南方の省線奥羽本線横手驛及び西南方の同線飯詰驛へは各バスの便あり。明治二十四年町制を布く。出羽本庄城主六郷氏は此地に居して名を負へるもの。城内に六郷城址あり。元館といふ。六郷氏居せしも、慶長六年兵頭頭政来、徳川氏に報效する所ありて常陸國府

中へ移る。明治天皇には明治十四年、山形・秋田と北海道行幸の際この地に御小休遊ばされ、その地はいま明治天皇六郷御小休所附御膳水として指定史蹟なり。【諏訪神社】縣社。祭神、健甕名方命・八坂刀女命外八神。六郷二十数箇村の總鎮守。例祭、七月二十七日。(臺蓮寺)六郷にあり。淨土宗。池中山と號す。開山は圓覺智真。もと藤田派に属し、同派衰滅後は増上寺となる。明治二十九年大震にて潰滅せしか其後再建す。本尊阿彌陀佛(運慶の作)。(善證寺)眞宗本願寺派。寛喜年間草創。當初、本淨寺と稱せしが、のち善證寺と改むといふ。盛岡市三ツ割の本誓寺と兼起相等し。

【六郷村】山形縣羽前國南陽郡の東北部。米澤市の北方約五軒。北は東置賜郡に接す。面積五・九方軒。米澤盆地の南部に位し全村概ね平坦にして、鬼面川は村の東部を北流す。村の生業は農業を主とし、米・蕎麥・果實を産す。道路は村の略中部を南北に通す。西北方の省線米坂線中部驛へは約二軒あり。

【六郷村】茨城縣下總國北相馬郡の東南部。相馬町の南隣にて、西南の取手町にも近く、利根川・小貝川の中間區域の一部を占む。全村低地に於て水田多く、一部畑地をなし、農業行はれて米を主産し他に大豆・蕎麥を産す。陸前濱街道は取手町より來り、村の中央を東北に走りて相馬町に通じ、兩町へ自動車道の便あり。省

線常磐線また之に沿ふも、村内に驛なく相馬町の藤代驛に近し。

【六郷村】群馬縣上野國邑樂郡の中部。館林町の南隣にあり。南方約三軒の所を利根川東流し、全村平地にて西南隅に近藤沼あり。大部分畑地にて林を交へ、沼の東方には水田あり。農業行はれて蕎麥・米を産す。三條の縣道は館林町に通じ、また社線東武鐵道伊勢崎線は村の中央を北走し、村内に茂林寺前驛(昭和二年設置)を置く。大字青柳の地は戰國時代赤井山城守の居館の地とす。(富士嶽神社)大字小桑原に鎮座。祭神、木花開耶尼賣命。館林城主榊原・松平氏等歴代崇敬す。例祭、六月一日。(茂林寺)大字堀江にあり。曹洞宗。青龍山と號す。應仁二年赤井正光の開創、開山は大林正通。後柏原天皇より勅願所の輪旨を拜受す。現在末寺十八箇寺を統ふ。當寺所有の文福茶釜は古來有名なり。

【六郷村】群馬縣上野國群馬郡の南部。高崎市の西北隣にて、西南は碓氷郡と隣す。面積六・一八平方軒の小村なり。西南境を烏川に流れ殆ど平地にて、水田・畑地・桑園をなす。農業・養蠶行はれて、米・蕎麥を主産し、蕎麥の産もあり。二條の縣道が高崎市に通じ、省線信越線の北高崎驛に近し。

【六郷川】↓多摩川【六郷】東京市蒲田區の町名。大東京市實現以前は荏原郡に属せし町にて、八幡塚・小向・高知・鎌倉・出村・町屋・古

川の七大字より成る。現在の六郷町はこのうち八幡塚・小向の二大字の區域にて他の五大字は獨立して町となれり。古來東海道に属して、六郷川の北岸にあり、對岸との間に渡船あり。地味豊に果樹多く栽培さる。地名の起原は往古八幡宮に六供養料として寄進されし郷庄を六供郷と呼び、略して六郷となれりといふ。神靈矢口渡・四六郷は近き世よりの渡にて、その古は都より、東へ通ふ族人の廻るも遙か弓と弦、矢口の渡と聞えたる、その水上は調布や、さらす垣根の朝露を、つらめき留め玉川の、舟を浮べる流れより、知れぬ心の底深き膝栗毛・初中「それより六郷の渡をこえて萬年屋にて支度せんと腰をかける。川崎より神奈川へ二里半」箱根草「初下」斯て六郷村も過ぎて東の川端へいたる、先に見へたる同者みな「いゝぞ足んかけ行く。タイ／＼何かあるやうに大分人が走るぞ。ハ、ア船が出るのだ、さアいそがう／＼」つばい後れる牛道や一里違ふはぞうさもねへ、サア走さつし／＼と大急ぎに走り行くと、船はおし出したる所へかけ付

【六郷村】静岡縣遠江國小笠郡の東部。堀之内町に東隣し、北に河城村、東に樺原郡萩間村、南に横地村、西に加茂村あり。第三紀層より成る百米以下の丘陵地帯にして、之を開析せる牛瀧川に沿うて沖積地あり、若干の水田を見るも畑地・山林多く、茶畑も多く製茶盛なり。その

地はもと加茂郡の一部なり。

【六郷】愛知縣西春日井郡にありし村。大正十年に名古屋市に編入す。

【六郷】愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され福地村を置く。

【六郷】香川縣神多度郡にありし村。大正六年に丸龜市に編入す。

【六郷村】熊本縣肥後國鹿本郡の東北部。山鹿町の東々北約四軒にあり、來民町へは西南約一軒。東は菊池郡に界す。東北隅には東北方に聳ゆる八方ヶ嶽(一〇五二米)より續く約八〇〇米程度の山地が聳え、それより西南方へ續く連嶺は北境を隔りて中部の菊池川上支なる内田川の谷に終り、東部は其の南斜面地をなす。西境には西北より東南に連る丘陵ありて村境をなし、山麓は西南隅にて平野に接す、中央には内田川が南流して沿岸にやや低地あり、殊に南部の平地は廣くして附近の平野に連る。米・麥・蕎麥・木村・薪炭等の産物あり。社線鹿本鐵道の來民驛は、西南方約三軒にあり。村内に猿豆城址あり。隈部但馬守親水の築くところといふ。

【六郷】石川縣能登國珠洲郡の一角。猿豆城といふ。燈臺あり。明治十六年設置。明時白光、光建、源一丸。

【六十里越】六十里越(六十里越)會津若松方面より越後小出町方面に至る交通路。最高點は八六三米を算し、福島縣

南會津郡伊北村と新潟縣北魚沼郡入道村との境上に位す。東降すれば只見川河畔なる伊北村字只見に至り、ここにて沼田街道に合し、西降すれば入道村字穴澤より須原村を経て小出町に達す。この北段鬼面山(一四六五米)・淺草岳(一五八五米)の北方に八十里越の山路(最高點八四五米)同じく東西に通す。

【六所山】秋田縣青森とも書く。敦賀縣北東部。山鹿町の南西方約二〇軒に當り、福井縣丹生郡萩野村の西嶺。標高六九八米。山麓は火山岩より成り、山容笠を伏せたる如し。

【六所山】岡崎市の北東方約一五軒、愛知縣東加茂郡松平村の南嶺。標高六〇六米。山麓花崗岩より成る。北東方に砲塔山(六八四米)嶺き、南麓を聖母街道東西に通す。足助川は西方を南流して矢作川に合す。

【六郷村】滋賀縣近江國坂田郡の西部。長濱町の南に接し西は琵琶湖に面す。略中央に一三八米の殘丘屹立する外、概ね平坦にして沃田多し。農業を主生業とし米・麥を主産し、絹織物その他の工業類これに次ぐ。省線北陸本線は湖岸を南北に貫走し、田村驛(昭和六年設置)あり。二條の縣道また南北に貫走し、長濱町へはバスの便あり。

【多田寺】臨濟宗妙心寺派。寛仁二年源賢の開創といひ、もと天台宗。藥師如来像(木造)は國寶。

【六條町】福井縣越中郡足羽郡の西北部。足羽川の右岸に沿ひ、福井市の南に隣接す。東西に長き矩形をなし、西端僅かの丘陵を見る外は概ね平坦にして肥沃、水田多し。米の産額多く、また絹織物を初め、絹織物・清酒等の工業産る盛にして全生産額の八割を占む。省線北陸本線及び社線福武電氣共に西部を南走し後者の江瀧驛(大正十四年設置)を置く。縣道と國道また南北に貫走し、福井市・東郷村へバスの便あり。

【六條通】京都市の賀茂川の横。六條通以北五條通までの邊をいふ。關ヶ原役後石田三成・小西行長等を利せし所。出世登清・三ノ高小手に轉りつげ、六條河原に引出し、種々に榜問したりしは、なうなきけなうこそ見えにけれ、梶原親子が奉行にて、方一町に垣をゆひ、突棒刺又鐵の棒、兵具ひつしと鼓べしは、さながら修羅の獄卒が、八邊五邊の罪人を奇實にかぐる如くなり

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

【六條院町】岡山縣備前國淺江郡の西南部。寄島町の北に連り、東は金光町、西は里庄村、北は鴨方町に接す。面積一一・四八方軒。南境に山脈連なりて龍玉山(二九〇米)あり。城内に概ねその北斜面に属し、山地多きも北方に地勢ひらけ、北部に平野あり。東西山麓より北部平野にかけて耕地拓く。米・麥・蕎麥・粟・薄荷・酒類等の産あり。省線山陽本線は北部を東西に貫

に次いで重要な地位を占め、労役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主とする家畜・家禽多く一般家庭に副業として著しく飼育せらる。公学校二、同分教場一あり、庄役場を鹿草に置く。朴子・水上間道路は庄の中央を略東西に貫通し、乗合自動車便を有す。その他、鹿草を中心し太保・義竹・牛挑灣方面に通ずる道路完成し交通運輸に貢献する所からず。管内はもと鹿仔草を中心とし、その東北西三面に接する白嶺公潭嶺・下茄荖北嶺・大坵田西嶺・大嶺下嶺の各一部を合せしものにして、鹿仔草嶺は清の雍正十二年に建てられ、諸羅十七荘の一たりし鹿仔草嶺(今の鹿草)を中心とするより名づけられ、往時は鹿仔草と稱する樹木繁茂せしといふ。初め康熙二十四年十月、沈相安なる者、官許を得て開墾に着手し、季嬰なる者を管事として招佃拓地の事に當らしめ、鹿仔草を中心として其の歩を進めしが、同四十七年に至り、其の全部の開墾を圓の泉州府同安の人陳允捷・林興孫・陳國祥・陳立勳に譲與し、爾後この四墾首の分割招墾により、雍正の末年には、殆んど全嶺の開墾成れり。其他の部分も乾隆年代までに概し開墾せられ、龜佛山も亦清領當初に於ける諸羅十七荘の一なり。頂潭・下潭は續修臺灣府志に白嶺公潭街といへる地に相當す。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り地方制度の根本的改革と共に清領時代より存

續し來りし嶺は總て廢せられ、前記諸嶺に屬せし十八庄を十八大字に改め(鹿仔草を鹿草と改稱)之を一括して鹿草庄となり東石郡に編入せらる。

ロクタイ 六堆部落

現臺灣高雄州潮州郡を中心とする地方、即ち下淡水溪中流東岸には、六堆部落と稱する廣東人より成る大部あり。初め清の康熙廿年代に廣東人臺灣に渡來し、現臺南附近に拓殖せんとせしに、當時既に當地地方には福建人ありて其の餘地なく、僅に東門外一帶の地域に菜園を開きて生計を求めつありしが、下淡水溪東岸に未墾の大平原あるを聞き、大舉此地に移住し、康熙の末年に至りては遂に廣大なる一部を形成す。爾來二百數十年、人口増加し現在に至るも其の餘風を残す。康熙六十一年、朱一貴亂を作すや、本部居民は糾合して隊伍を整へ大に官軍の爲に功を樹てたり。また爾後、吳福生の亂、林爽文の亂等に六堆(先鋒堆・前堆・後堆・中堆・左堆・右堆)なる一種の自警團を組織して、自らを禦ぎ、また軍に隨ひて功あり、清帝の褒賞を賜ることも數度に及ぶ。現に當地方には廣東人多し。

ロクチヨリ 六張犁

臺北市の字名。六張犁炭礦あるを以て有名。その礦區は六張犁の外に臺北州の七星郡松山庄三張犁・同内湖庄後山・文山郡深坑庄城內坑などに跨る。主として日東鐵業會社の經營に係り、昭和十年には石炭八、〇三一題(この價額四萬四千餘圓)を

産出せり。

ロクテン 疎轉面

朝鮮慶尙北道安東郡の北部に位置し、郡邑安東の北方約一五軒に在り。西境に烽燧山(五七〇米)の聳ゆる外は著しきものなきも周縁山地に依り圍繞されし南北に狭長なる山間盆地を形成す。耕地は主として盆地床に發達し、水利乏しきを以て主として農業行はる。住民は農業を主とし傍ら養蠶・機械に從ふ。産物は大豆・大麦・小麦とし、其他、雜穀・麻布・棉花・煙草・莞草・繭等あり。山間僻地の地なるを以て道路の改修未だ行はれず境界に各々峴坂路ありて交通運輸不便なり。墾墾は盆地床と山麓との交界線に沿ひて分布す。

ロクノヘ 六戸村

青森縣陸奥國上北郡の東南部。三本木町の東約一〇軒。南は三戸郡に接す。面積八七・一方軒。村の北部は三本木臺地に屬して山林原野をなす所多く、南東また丘陵をなし、中南部は平坦にして奥入瀨川は東方に貫流し水田拓く。村の生業は農業を主に米・馬鈴薯・苹果等を産す。また所々に牧場ありて牧馬行はる。道路は村の中北部及び中南部を各東西に通じ、西方の三本木町へハスの便あり。省線東北本線古間木驛(明治二十七年設置)あり、社線十和田鐵道これより西方に分岐す。

ロクハラ 六原

省線東北本線の一驛(昭和十二年設置)。岩手縣盛岡郡金ヶ崎町にあり。

ロクハラ 六波羅

鹿麻産 臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛(明治四十三年設置)。臺南州嘉義郡竹崎庄鹿麻産にあり。

ロクマンタイ 六萬臺

江戸時代大阪の岡場所の一。いま天王寺區六萬臺町、四天王寺の北。浪花色八卦・六萬臺、勢曼、此所養蠶といふものを立にして、内に呼び物のあるも見へ、又外からもつれてくる尼寺のてうしなれど、折に少まきりたる有り、皆此あたりはしるゝとめかきす、心いつぱい女郎めかし、浪花今八卦・六萬臺前に格別相かわらず、平野邊より南の百姓綿の出来、はつばのすくみだめ、爰にて前行く事也。

ロクワ 六輪

愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され平和村を置く。

ロケツ 蘆月面

朝鮮黃海道信川郡の東北端に位置し、郡邑信川の北方約一〇軒にあり。東北境に月眉山(一六〇米)の聳立せる他は土地極めて低平にて謂ゆる安信平野の一部を成し、載寧江の支流西江これを灌溉し、水田よく發達す。住民の多数は農業者にして比較的自作農多く概して富裕なり。産物は米・大豆を主とし其他、栗・馬鈴薯等あり。また果樹の栽培は近年盛んとなり葡萄・杏等の産あり。道路は信川・安信街道は中央を縱貫し乗合自動車の便あり。

ロコ 呂湖

朝鮮咸鏡南道咸州郡西湖面の里名。總督府鐵道咸鏡本線の呂湖驛

(大正十二年設置)あり。

ロコク 蘆谷面

朝鮮江原道三陟郡の略中央に位置し、郡邑三陟の南方約一〇軒にあり。大白山脈に屬する、慶隆山(二六七米)西南境に聳立する他、幾多の峻嶺西境を劃し、城內山岳重疊し平地極めて乏し。産物は米・大豆・栗・稗・蕎麥・蕪菜・蜂蜜等あるに過ぎず。道路は内陸山中に位置せるを以て改修未だ行はれず、加ふるに何れも等外路線にして交通極めて不便なり。墾墾は散村型のもの多く戸口稀薄なり。ただ古自里は面の北部に位置し交通比較的便にして面事務所を置く。

ロサオ 社

臺灣花蓮港蘆花運都の番社。タツキリ溪の流域にあり、標高一三〇〇米の地、高砂族部落にしてアマル族タロコ番に屬す。戸數五四、人口二九一(昭和十二年末現在)。蘇花道路よりタロコ峽を経て至るを便とす。

ロシヨ 鷺洲庄

臺灣臺北州新莊郡の最東部。臺北市の西部に位す。西は五股庄・新莊街に面し、北及び西部は淡水河を隔て、臺北市に對し、南は淡水河の支流たる大料溪を隔て、板橋街に接す。地は即ち臺北西部平野に位置し管内一帶は肥沃なる平野にして、水田拓く。本庄は純然たる農村にして、住民の生業は農業なり。その主要産物は米・甘藷・大豆・落花生・香花農作物・蔬菜等にして、香花農作物の主なるものには、黄枝・茉莉・秀英あり、主として茶に香

を附するを目的とす。尙ほ本庄下の蔬菜の大部分は烏都臺北市に移出せらる。また柑類・芭蕉・龍眼・蕃茄類等の果實生産あり。特に本庄下の蜜柑は和尙洲蜜柑として、全島に著名なり。農家に於ては、副業として、水牛・黄牛・雜種牛・豚・鶏等を飼育する者多く、其の大部分は臺北市に輸出せらる。また本庄は淡水河に面するを以て、淡水魚の捕獲多く、鮑・鱒・鯉・鰱・蝦・蟹・貝類等數萬圓を漁獲す。工業に於ては、大規模のものなきも、副業としての手工業發達し、竹細工・下駄・蓆細工をなす者多し。大臺北市に接する本庄下に於ては商業に於て特に見るべきもの少し。金融機關としては信用組合を有す。教育施設に於ては、初等教育機關として、公學校四設けられ、なほ農村指導者養成のため農業専修學校もまた設置せらる。其の社會教化機關たる教化聯合會・青年團・國語講習所等は殆ど各部落に在りて、本島人の皇民化運動に從ふ。本庄の地は、俗に和尙洲の地にして、清領當時は其の行政區劃たる芝蘭二堡に屬せし地なり。もと淡水河と沙洲より形成されし地にして、草叢生ぜしを以て蘆洲の名あり。清の雍正初年に、八里坌(八里庄)に在りし漢民族は、觀音山脚を経て新莊に向ひ移植を企てしが、此地は其の中流として開かれ河上洲の名を以て呼ばれしが、乾隆の頃、いま新竹城隍廟の附屬なる者、官に請ひて、地の業産を以て關渡媽祖宮の油香

料に充つるの許可を得たり。是に於て地の人、附近の地を和尙洲と稱せしが、和尙洲の昔は河上洲の音に近似せしより、彼此混同して和尙洲なる新地名を成すに到れりと云ふ。芝蘭二堡は我が領臺後に其の行政區劃として用ひられしが、大正九年十月一日地方制度改正に際して廢止せられ、同時に興直隸下の二庄(現大字)及び芝蘭二堡下の五庄(現大字)を以て一庄を建て、鷺洲庄とし、臺北州新莊郡の管下に屬せしめたり。現大字和尙洲樓子厝は舊河頭なりしを以て舊港嘴の土名を存せしが、嘉慶年代これを聞き水邊に近きを以て樓屋を建て浸水を避けしよ地名出でたりと云ふ。本庄は臺北橋を以て臺北市と直に連絡し、また庄下に縱貫道路、其他大小道路施設せられ、自動車の運行盛なれば、交通甚だ便利なり。

魯城面 朝鮮忠清南道論山郡の北部に位置し、郡邑論山の北方約一〇軒に在り。東境に魯城山(三四三米)聳え、東北は山地を成せども、西南部は論山平野の一部を成し、地味肥沃にして農産豊かなり。住民の多数は農業に従事し、また論山邑・群山府等に運送業、其他労働者として出稼する者多し。農産物は米・小麦・大豆を主とし栗・蕎麥等あり、又白菜を始め其他の蔬菜・果・柿・苹果等の果物を産す。道路は面の東南に在る魯城を核として南は論山、北は公州に各一等道路を通じ定期乗合自動車便あり、其他の路線も亦此地

より東に西を北走して國境驛間に連絡し、域内に洪儀・九龍坪の兩驛(共に昭和四年設置)あり。また東南端の西水羅は雄基の東方約二八軒の海岸に在りて良泊を成し、管林署の貯木場あり、北鮮汽船寄航し交通運輸の便あり。東端は極めて砂なく鐵道開通により發達せる洪儀・九龍坪の交通繁盛、龍觀洞の面政の中心町、及び西水羅の明太魚・鱈の豐漁地としての漁港繁盛等を數ふるに過ぎず。西水羅はまた北鮮第一の昆布の名産地なり。附近に西水羅集落あり、慶興郡が都護府に昇格せし際、邊境防備の要塞として築かれたるもの、今は海の名所となる。(西水羅・東水羅) 面のほと中央にあり。西水羅は南北約八軒、東西約三軒に及び、南端の西浦項洞附近に於て僅に造山洞と相通じ、その幅約三〇米。水は洪儀相半ばす。南部に大磐入ありて東水羅をつくり水や深くして四米に達する處あり。西水羅は淺くして徒渉し得べし。東端は一〇〇米臺の狭き丘陵を隔てて豆滿江に接するを以て、江の漲溢する時はまた湖周に氾濫し、冬季は凍結す。牡蠣の繁殖頗る多く、また鱈・鮭・赤目鰯等生息す。湖岸に近く造山洞・龍觀洞・飯山洞・西浦項洞・扇浦洞等の集落ひらけ、三等道路これ等を繋ぐ。龍觀洞・飯山洞は何れも豆滿江を距てて張鼓峰・哈桑湖を近く望み、國境警備上重要な位置を占む。(龍觀洞) 雄基邑と西水羅との中間、北鮮驛九龍坪驛の南にある大湖。もと西水羅・東

の康熙・雍正年代まで、到る處に茂林叢樹鬱蒼として鹿鹿群をなせりといふ。乾隆二年粵人薛啓隆なる者、塾戸數百を率ち、庄内境の一部をなす南溪溪の河口即ち南溪港より上陸し、隘を設けて土蕃に壓迫を加へ、開墾に従事して、土蕃は拮据の力を失ひ、或は遷徙して遠く退き或は歸順して化に廻り、拓殖の業大に舉り、益々塾戸を招きて開拓を進めしが、閩粵兩籍民の來り應ずるもの多く、南端福興は主として閩人によりて開かれ、福建人の業を興せし地なるに因みて名づけしものなりといふ。爾後移住者日に多きを加へ、隨所に部落建設せられて今日の基礎となれり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし堡を廢せられ、清領時代より九庄、八里堡堡より三庄を割き計十二大字に改め(盧竹厝を盧竹と改稱)之を一括して盧竹庄となし、桃園郡に編入せられ、現在に至る。

**ロチク 路竹庄** 臺灣高雄州岡山郡の北部。東は阿蓮庄、西は湖内庄、南は岡山街・彌陀庄、北は臺南州新營郡歸仁庄・仁德庄に各々隣接す。富庄は早くより拓けたる純農村にして、住民の約八割は農業を生業とし、住民の生活程度は郡内の中位に在り。耕作地四千數十甲の内の三分の一は謂ゆる看天田にて水利の便なき爲め屢々旱害を被り居たりしに依り之が對策として、昭和八年度より州の計劃に基き、看天田改良灌漑事業を實施したる結果、其の大半改良されたり。現在本庄の農産物は米・甘蔗・甘藷が主なるものにして、その他、茶・胡麻・落花生・果實・蔬菜類を若干産出す。また畜産業は、農家經濟上重要な地位を占むるを以て、専ら畜畜類の改良、管理の改善に努め豚・水牛・黄牛・山羊・鶏・鴨・鶯・七鳥鳥等の飼育を爲し、其だ盛んなり。尙ほ薪炭材・木炭・竹材・竹筒等の林産物も産出す。本庄の工業にありては從來煉瓦燒を主とし、瓦燒・穀治・製菓・染布業等に從事す。商業は近時交通に恵まれ取引増加を示し、一般商戸も亦田舎商人の域を脱し、進々組織的に奮む傾向を示せり。産業組合は路竹購買販賣利用組合を有し、農村金融の潤滑を計りつゝあり。本庄の教育機關としては公學校一、分教場二を有し、昭和十一年兒童就學率は二九・九なり。尙ほ社會教化機關としては國語講習所六箇所を初めとして、簡易國語講習所・青年團・少年團等

の設置あり、昭和十一年部落振興の促進並にこの機關の聯絡統制を圖り、住民の國民意識調目的を以て、路竹住民風作興會を設立されたり。交通は縱貫道路及び縱貫鐵道が富庄の中央を貫通し、路竹驛(明治三十五年設置)を有し、縱貫道路には局營バスの便もありて、來往頻繁なり。而して高雄・臺南間の海岸道路は庄内字後郷の一部を貫通し、更に庄内路は各部落間に輻輳大なる頃道が四通八達し、富庄の交通状態は極めて便利良好なり。本庄一帯は明末の鄭氏時代及び清領時代の行政區劃たりし長治一團里の管後・一甲・新園・下坑、長治二團里の後郷、及び新里の下社・大社・牛路竹(路竹と改稱)・鴨母寮・北嶺寮・三爺埤の十一庄を以て、大正九年十月一日地方制度大改正に際し、十大字より成る現在の路竹庄を建てたり。(舊十一庄中の下社は改正前、既に該庄民殆ど全部大社に移住したるに依り、是等は現在十大字となれり)路竹に庄役場を置き、一時は天后宮廟を以て夫れに充用し居たれども、大正十二年十月一日新築され今日に至る。なほ富庄は古來文人を出すこと多かりしを以て個有文化の影響を受け、住民は概して優雅、敦朴なり。人口一四、三四人、(昭和十一年末調査)。

**ロチク 盧竹庄** 臺灣新竹州桃園郡の北部。南溪溪流域一帯の地を占む。東は龜山庄、西は大園庄及び中壢郡中壢街、南は桃園街と各々境を接し、北は大

牛臺北州下新莊郡林口庄と隣接して一部臺灣海峡に臨む。地勢は南東より北西に傾斜し、東端龜山庄より延び來れる坪頂の連丘を除く外は概ね平坦にして水田廣く展開し、南溪溪其他の小溪流之を灌溉す。純然たる農村にして田畑面積四千四百餘甲を有し、年農産總額の大部分は米によりて占められ、外に蔬菜・甘藷・茶・落花生・番瓜・西瓜・果物類の産出もたからず。畜産は農産に次で重きをなし、勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・山羊・鶏・鶯・鴨等の家畜・家禽類多く、一般家庭に於て副業的に著く飼育せらる。特に豚は古くより桃園豚の名を以て聞え、生産力旺盛なり。林業にては一般造林及び耕地防風林の造成着々行はれ、薪炭の産出もある産額多からず。農業専修學校一、公學校三を有す。庄役場は大園南溪下(普通南溪)と稱するは概ね當地を指すに置かれ、南端の桃園街より乗合自動車及び軌道(手押電車)の便あり。また桃園街より西隣大園庄の大園及び竹園に通ずる軌道又は乗合自動車も庄下の新興・大竹園・盧竹等の諸大字を通過し、利便を受けること少からず。庄の内、東北邊の一部即ち坑子・坑子口・坑子外の三大字がもと八里堡堡の地たりし外は總て桃園堡に屬し、當初は平埔蕃族タガヤン部族の一なるナムカム(南溪)社の存在せし所なり。明末の鄭氏時代に南溪(嶺)と稱せらるる地方の一部に開屯を見たるも久しからずして變廢せしもの如く、清

の康熙・雍正年代まで、到る處に茂林叢樹鬱蒼として鹿鹿群をなせりといふ。乾隆二年粵人薛啓隆なる者、塾戸數百を率ち、庄内境の一部をなす南溪溪の河口即ち南溪港より上陸し、隘を設けて土蕃に壓迫を加へ、開墾に従事して、土蕃は拮据の力を失ひ、或は遷徙して遠く退き或は歸順して化に廻り、拓殖の業大に舉り、益々塾戸を招きて開拓を進めしが、閩粵兩籍民の來り應ずるもの多く、南端福興は主として閩人によりて開かれ、福建人の業を興せし地なるに因みて名づけしものなりといふ。爾後移住者日に多きを加へ、隨所に部落建設せられて今日の基礎となれり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし堡を廢せられ、清領時代より九庄、八里堡堡より三庄を割き計十二大字に改め(盧竹厝を盧竹と改稱)之を一括して盧竹庄となし、桃園郡に編入せられ、現在に至る。

**ロチク 六角村** 佐賀縣肥前國杵島郡の中部。六角川の南岸に沿ひ武雄町の東約八軒にあり。東南部は白石町の北及び西を圍み、西北部は川を隔てて大町町に界す。村内地形平坦にして地味肥沃なる水田をなし、北境に沿ひて六角川が屈曲しつづ東流す。産物は米・麥・蕎麥等を出す。重要鐵山なる杵島炭礦の礦區は富村及び大町町・江北村・小城郡南多久村に跨る。杵島炭礦會社の經營にて、昭和十年には塊炭一九〇、八四六噸、粉炭三五四、七五〇噸、粗炭六五、九四〇噸(この總價額四九六萬餘圓)を産出し、同年六月末の鐵夫數は三、七〇五人、現に重要鐵山に列す。縣道東西南北に通じ中央を省線長崎本線貫して福治驛(白石町地内)に近し。

**ロツカ** 六ヶ所村 青森縣陸奥國上北郡の東北端。野邊地町の東北約一〇軒。北は下北郡に接し、東は太平洋に面す。面積二五・三四方軒の大村。下北半島の東斜面に屬し、地勢西部に高く東方に傾斜し、北部に月山(四一九米)、

西北部に御宿山(四九六米)聳ゆ。老部川は西端に發源して村の略ぼ中部を東南に流れ太平洋に注ぐ。南部は低溫にして湖沼多く、尾根沼・鷹架沼・布御沼・田面木沼・内沼等あり。村内は丘陵・山地多く海岸には平地南北に連りて砂浜をなせり。村の生業は農業を主とし、漁業はその副業にして、米・蕎麥・サヨリ等を産す。また所々に放牧場ありて牧馬行はる。道路は村の南部を東西に通じ、西方省線東北本線野邊地驛へは海岸より約二〇軒。西北方省線大橋驛横濱驛へは約一二軒。各バスあり。東北本線沼津驛より村の南部の字倉内へは小川原沼往復の發動機船の便あり。人口密度は一方軒に付三〇人なり。大字尾根は古く駒を産し尾根牧といふ。然しこれには異説ありて一に牡鹿部の地なりといふ。(田面木沼)小川原沼をその主とする湖沼群の一にて、小川原沼の北方に近く、土地の者は平沼と呼ぶ。東西に長く鴈形を呈し、別に南北に長く横沼と稱するもの西に連る。最深は東部に七米、横沼にて三・五米、横沼の北端に小流注入し、平沼の東端より流出し平沼部を横隔して小川原沼より高瀬川に注入す。淡水湖なるも、藤に海上高波の際に潮水の逆流を受けて鹽分を含むことあり。(諏訪神社)大字沼に鎮座。郷社。祭神、武身名方命。社傳によれば延暦廿一年の勸請なりと。例祭、七月十八日。

湖部の審社。後徳濃上流地方にある高砂族部落にしてアマヤル族に屬す。戸數三〇、人口一六〇(昭和十二年現在)。  
ロツキ 六龜庄ろつき 臺灣高雄州旗山郡一街五庄の一。郡下行政區域内の東北邊に位置し、下淡水溪本流の上流たる老濃溪に跨り一帶の山地を占めて、南北に細長き地形をなす。東及び北を蕃界によりて圍繞せらる。奥地に於て、西は甲仙・杉林・美濃の三庄に隣り、南は老濃溪を隔てて屏東郡の高樹庄に對す。山岳は東西より中央の老濃溪を挟みて各々南北に縱走し、西北に内英山、東北に美壠山・頭刺山等の高峰聳ゆ。平野の見ゆるべきもなく、老濃溪沿岸に僅かの平坦地散在するに過ぎず。故に耕地面積は狭隘にして且つ水利の便に乏しく、農産物は米を第一とし、甘藷・甘蔗の類位なるも生産高微々たり。會て庄内には六龜製糖株式會社あり、廣大なる土地を所有せしが、事業失敗してより庄内耕地の大部分を占むる同會社の所屬土地は荒蕪地と化し、庄の産業は一頓挫を來せり。然れども此等の土地は最近臺灣製糖株式會社の買取る所となり、前途に開發の曙光を認むるに至れり。小學校一、公學校一、同分教場二を有し、本島人學齡兒童の就學歩合四一%にて、なほ郡の平均に達せず。庄役場所在地六龜は現制度施行の際に六龜里を改稱せしものにして、庄の中央老濃溪西岸に位置し、旗山を東北に距ること三一軒、蕃界の咽喉部を扼し、郡警

察課分室を始め、マラリヤ防護事務所・專賣局出張所・京都帝國大學演習林等あり。蕃界出入の旅客多く、これがため内地人經營の旅館を有し、其他、消費市場並に水道の施設ありて地方の小邑たり。土曜日には發電所あり。庄内の住民は少數の内地人を除けば福建・廣東・平埔の三種族にして三者略ぼ同數なり。老濃溪の支流寶業溪中及び新開の部落にはラザウムの温泉湧出するも、交通不便にして未だ利用せらるるに至らず。交通は地勢の關係上、發達困難にして旗山・六龜間に乘合自動車を通ずると雖も、道路不完全なるため最近まで一部分は溪流中を運行する状態にて、雨期出水の際には運轉不能に陥ること稀ならずし、近年陸道工事完成を告げしより不便を軽減せられり。また六龜より北端寶業に至る道路は險峻にて従來幸じて自動車を通ずる程度に過ぎざりしが、擴張改修せられ自動車も運行し得るに至れり。庄内一般に山水風物に富む。管内は南端部の新成がもと港西上里に屬せしを除けば爾餘は總て楠梓仙溪東里の一部にて、當初は高山蕃クオアイ族の分布區域に係り、次いで鄭氏時代に漢族の爲に曾文溪上流域を逐はれし四社蕃(平埔族)の徒居する所となり、清領後更に漢族の移植を見たるより終に漢蕃雜住の基を開けり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし里を

廢され、前記二里より五庄を割きて五大字に改め(六龜里を六龜と改稱、之を一括して六龜庄となし、屏東郡に編入せられしが、昭和七年十二月更に旗山郡の管轄に變更せられたり)。  
ロツキヤク 六脚庄ろつきやく 臺灣臺南州東石郡一街六庄中の一。郡の北部に位置し、北港・朴子二溪間に介在す。東は太保庄及び嘉義郡新港庄、西は東石庄に接し、南は朴子溪を隔てて朴子街に、北は北港溪を隔てて北港郡下の水林庄及び北港街と相對す。土地概ね平坦にして僅に臺厝寮・竹子脚方面に季節風によりて形成せられたる小砂丘の點在するに過ぎず。田畑廣く展開し純農村を形成す。然れども灌溉の便何ほ不十分に農耕地は看天田及び佃多し。甘蔗を主とし、甘藷・陳稻・水稲これに次ぎ、落花生と共に庄の主要農産物たり。畜産は農産に次ぐ重要な地位を占め、勞役用の水牛・黄牛を管外より搬入するも、豚・鶏を主とする家畜・家禽類は概ね副業として一般家庭に普く飼育せられ、管内の需要を充たす外、嘉義方面に搬出せらるるものも尠からず。蒜頭に明治製糖の工場あり、工業は之を除けば總て規模小にして殆ど見るべきものなし。小學校一、公學校三、同分教場一を有し、庄役場を蒜頭に置く。交通機關少く、大小の道路縱横に開設せられたるも雨期には交通社絶することあり、交通便ならず。管内はもと總て大糖郷西端に屬し、初めて拓殖の緒

に就きしは早く明の末代にありて、鄭氏の據臺後、開屯の時分には大半既に開墾せられしといふ。當初開の泉州府同安の人陳德輝・陳士政等が北港溪を潤り南岸に今の竹子脚の部落を建てたるを、此地方に於ける漢族の足跡の及びたる最初とし、爾後、鄭氏時代を経て清の雍正年代に至り概ね開墾せられたり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に及び、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし里を廢せられ、同里より十七庄を割きて十七大字に改め(六脚庄を六脚と改稱)之を一括して六脚庄となし、東石郡に編入せられ現在に至る。

夜格子として、祖家の二階窓の竹格子をいふ、寶曆の頃までは兩三軒残りありしが今はなし、此邊を六軒町といふは、元文寛保の頃まで女郎屋六軒ありし心中重井筒・中月ばばや、わたり初めして中橋や、六軒町の小夜格子、唐の器の目ばく、色の徳に障障あり、向ひ兩側輝かす、軒の燈火目印に、昨日も今日も明日の夜も、重井筒の釣瓶籠。  
ロツコ 六甲庄ろつこ 兵庫縣武庫郡にありし村。昭和四年に本村を廢し、一部を御影町に、他を神戸市に編入す。  
【六甲山】 臺灣臺南州曾文郡一街四庄中の一。郡の東北部一帯を占む。東は新化郡楠西庄に、西は本郡下の下營庄に、北は新營郡柳營庄に、南は官田庄に各相隣接す。地形は東西に狭長にして、地勢は東中に山を負ひ、西に向ひて傾斜し、西半に農耕地多し。本庄下産物の主なるものは農業・畜産業・水産業等となす。農業に於ては米を主とし、甘蔗・甘藷・落花生等を産し其の價格約七十萬圓に達す。其他、龍眼・柑橘類・芭蕉・檳榔等若干の果實生産あり。本庄に於ける畜産は農家に於て副業的に營むところのものにして、牛・豚・羊・家禽を主とし、特に豚は其の飼育數多く、牛は主として農耕地役に使役せらる。海に面するなほ本庄下の水産は、庄下各地に設けられたる貯水池に於ける淡水魚の養殖にして、鯉・鯽・

鯉魚等を捕獲し、年約五千圓の漁獲高を有す。工業の重要なものは粗摺及び精米・製菓・製粉・製糖・醬油等なるも盛なりと云ふを得ず。商業に於ては僅に庄下住民を相手とする小賣商あるのみ。金融機關には一の信用組合を有するのみなるも、近年農村の活況を呈すると共に、資金の運用甚だ圓滑なり。教育狀況に於て本庄を見るに、庄下に初等機關たる公學校一を有し、また教會教化機關として青年團・婦人會・國語講習所等あり、特に近時は國語常用家庭の増加を旨として當局的活動盛なり。交通に於ては縱貫線が本庄の西部を南北に貫通し、庄下に林風營驛を設け、また縱貫道路は是と並行し、是以を根幹とする大小道路四通八達するを以て交通の便甚だ良好なり。従つて管内貨客の搬出入に不便を感ずる事殆どなし。本庄の地は明末に鄭氏據臺せし時、建てられし開化里に屬し、清初はを以て堡名となしたり。明末鄭氏の時代既に拓殖の緒に就き、永曆二十年(清康熙五年)鄭氏の部將林風なる者、現大字林風營の地を根據地として鎮營を設け、周圍なる現大字龜子港・港子頭・中社・青埔等の地に開屯したりと云ふ。清領後福建泉州の人黃捷高は林風の開屯せし地域に於て、魁首として招撫拓成し、殆ど同時に、漳州人蔡五常、蔡玉崑は現大字水林林・二甲・七甲に拓成を告げたり。留來漢人の渡來定住する者多く、農を營

みて、古くより農業地として名聲を博せり。我が領臺後赤山堡は其の行政區劃として用ひられたるも、大正九年十月一日地方制度改正に際し、本堡下の十三庄(現大字)と善化里東堡下の二庄(現大字)の地を以て新制による六甲庄を立て、臺南州曾文郡の管下に歸せしめたり。  
ロツコ 鹿港街ろつこ 臺灣臺南州彰化郡一街六庄中の一。郡の西部中央に位置して西は臺灣海峡に臨み、北は線西庄、東は和美・秀水二庄、南は福興庄にそれぞれ境を接す。土地總て平坦、丘陵なく、地味肥沃なるに加へて灌溉水利の便に恵まれ、西南隅の市街地及び沿岸帯を除けば、その他は總て純然たる農村を形成し、海岸浮置地の鹽分改良に伴ひ農耕地面積は著しく擴大せられ農産豐富なり。米・甘蔗・甘藷を主要なる農作物とし、他に蔬菜・落花生等あり、何れも生産額多し。畜産は農産に次ぐ重要な地位を占め、勞役用の水牛・黄牛を除き豚・鶏を主とし、家畜・家禽類多く、一般家庭に副業として普く飼育せられ、農家經濟の有力なる一支柱をなす。水産業も亦當地方の重要な産業の一にて、沿岸帯には牛農牛漁の村落散在し、海洋漁業及び養殖漁業行はれ、牡蠣その他各種魚類の産多く、海埔厝には州立水産試験場あり。同試験場の近くには海水ブリーディング。古來製鹽業盛にして西南隅に鹽田開け、大和・鹿港兩製鹽會社の經營に係り、共に天日製鹽をなす。また特

ロツケン 六軒町ろつけん 大阪の町名。江戸時代、島之内にありし鹽師屋町の舊名。今南區玉屋町附近。南水邊遊鳥之内六軒町といふは、鹽師屋町(今の玉屋町)なり。重井筒の戲文中の巻に、月は早渡りぞめて中橋や、六軒町の小けんぼり。  
ロツケンマチ 六軒町ろつけんまち 大阪の町名。江戸時代、島之内にありし鹽師屋町の舊名。今南區玉屋町附近。南水邊遊鳥之内六軒町といふは、鹽師屋町(今の玉屋町)なり。重井筒の戲文中の巻に、月は早渡りぞめて中橋や、六軒町の小けんぼり。

ロツケ——ロツコ

ロツケ——ロツコ

ロツケ——ロツコ

産たる綿香・蜜餞の製造は有名にて全島に其の名を知らる。市街は最近まで純支那式市街の典型として史的價値に富み、その特異の存在を誇りしが、今や市區の大改正成りて全く面目を一新し、諸種産業の發達に伴ひ、且つ漁港設置の待望と共に更生の意氣鬱勃たるものあり。小学校一、公學校五、同分教場一あり、夙に文化の發達せし關係上、教育の普及状態比較的良好なり。市街には各種商店軒を並べ商業は活況を呈す。都警察課分室、街役場、福興庄役場、郵便局、税關支署、水上警察派出所等の官公衙のほか、小公學校、彰化銀行支店、信用組合、消費市場、公會堂等あり。東方の秀水庄を経て彰化市との間に大日本製糖の社線及び指定道路あり、後者は兼合自動車の便を有す。また東南福興・埔鹽・溪湖・坡心等の街庄を經由して員林に至る明治製糖の社線を通ず。北方は和美を経て練西に至る重要道路を有し、兼合自動車の便あり。管内はもと總て馬芝嶺に屬し、鹿港の港口は早く明末鄭氏の時代より漢族の寄港上陸地として開かれ、清領となりたる後各地漸次開拓せられ、對岸との貿易頻繁を加ふる共に港としての鹿港は、中部臺灣の吞吐港として、また臺灣三大港口の一として殷盛を極め、之に伴ひて市街の隆昌を來せり。最初市街の形成せられしは土名、北橋頭の邊にして當初は鹿仔港街と呼び現模未だ大ならざりしが、雍正九年港口が島内貿易港に指定せらるる

と同時に、新に港を設け(嘉慶十四年大甲に移す)たる結果、漸く市區を擴大せられ、乾隆初年頃には通稱米市街を中心として街津の増建を見、同廿九年に成りし臺灣府志(續修)には「鹿仔港街、水陸輻湊、米穀聚處」といへり。同四十九年、對岸泉州(蚶江)との通商を開かるるに至り商賈の移住益々多く、船舶の出入愈々繁く、同五十三年には彰化縣城を當地に移すべしとの議を有司により建てらるるに至れり。此議は遂に行はれずして止みしと雖も、鹿港海防同知を彰化より此の地に移駐し(鹿港海防同知は四十九年の開港と共に設け、北路理番同知これを兼ね彰化に駐せり)、且つ水師遊擊の在營をも安平より移せり。蓋し鹿港街の全盛は、此の時代以後、道光年間(在りしが如く、道光十二年に成りし彰化縣志に「街衢廣闊、皆有大街、泉廈郊商居多、舟車輻湊、百貨充溢、豪自郡城(今の臺南)内外、各處貨市、富以鹿港爲最、港中街名甚多、總以鹿港港之」と見ゆ。而して街名を鹿港(仔の字を省く)と呼ぶるに至りしも此頃(在りしもの如く、此の全盛の時代に於ける人口の總數十萬を算しといふ。土砂は漸次堆積し終に港口を全く埋没して大船の出入不能に陥り、街勢漸く衰微して昔日の面影を留めざるに至れり。明治二十八年帝國領事館數次行政上の變遷を経て現制度施行前までは鹿港支廳の所在地たりしが、大正九年十月

制度改正に依り、清領時代より存続し來りし馬芝嶺を廢せられ、同堡に屬せし一街十庄を計十一大字に改め、之を一括して鹿港街となし彰化郡に編入せられ、同時に支廳を廢せられ新に都警察課を設置せり。(鹿港)鹿港街西南部にあり。もと漢族によりて鹿仔港と呼ばれ、和蘭宣教師ウレンダインは(Graham of Nantai Dunge)と記せり。而して乾隆四十九年に於ける水師遊擊軍の「請設鹿港正口疏」には鹿港と記し、同五十五年に於ける勅建天后宮碑記には鹿仔港とあるに徴すれば、此頃には鹿仔港及び仔字を省ける鹿港の地名の兩存せしもの如く、道光十二年に成りし彰化縣志には、港名として鹿仔港、街名として鹿港と見え、爾後港名・街名共に鹿港に一定せり。本港は明末鄭氏時代に既に漢族の上陸地となり、彰化(初め牛車線と稱す)地方との交通ありしもの如く、降りて清領の後、雍正九年には島内貿易港として開かれ、乾隆四十九年には更に對岸泉州との間に通商を開けり。當時は市街を隔つること僅か數町の處にあり、港底も淺からず、巨大なる支那形船舶の出入自在にして臺灣三大港口の一に算へられ、一府(臺灣府の臺江)・二廳(即ち鹿港)・三縣(淡水港内の板橋)の稱ありき。然るに爾後、濁水溪の氾濫により其の流砂沖積し、成年代より港底漸次埋没せられ、現時に於ては全く港たるの形質を失ひ、僅に小型或克船により對岸との間に青果・乾魚・構

寸・砂糖の輸出、苧麻布・石材・陶磁器の輸入が微々として行はるるに過ぎず。されば本港は今後漁港として更生すべく期待せらる。

**ウツコゴエアリマ** 六甲越有馬鐵道(ウツコ) 私設鐵道。神戸市にあり。土橋驛より清水驛を経て六甲山驛に至る一・七軒にして清水驛一六甲山驛は鋼索鐵道なり。省線とは非連帯にして動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

**ウツコミチ** 六甲道(ウツコ) 省線。東海道本線の一驛(昭和九年設置)。神戸市灘區深田町にあり。

**ウツビヤク** 六百山 日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。上高地の東嶺にして、長野縣南安曇郡安曇村に屬す。標高二四五〇米。梓川は北方より來り、北麓より西麓に廻流して南流す。南麓には霞澤岳連峰として穂高連峯對峙し、西方は梓川の彼岸に幾層の噴煙を仰ぐ。秋日には紅葉美しく、上高地の美を増すこと大なり。\*上高地

**ウツホンスキ** 六本杉山 九州山脈の一峯。熊本縣八代郡八代町の東方約二〇軒に當り、同郡栗木村・河俣村と球磨郡五木村との境上に峙つ。標高一四九米、山麓秩父古生層より成る。

**ウツド** 蘆洞(ウツド) 朝鮮總督府鐵道咸鏡本線の一驛(大正十三年設置)。咸鏡北道吉州郡徳山面にあり。

【蘆洞面】

朝鮮平安北道龜城郡の略中央に位置し、郡邑龜城の西南方約一〇軒にあり。西部は山地を成せども東部は極めて低平にして南盆地の大部を占め、地味肥沃にして水利の便よく郡中屈指の米産地を成す。住民の大部分は農業に従事し、また嶺山日稼労働に従事する者尠からず。産物は米を第一とし質・量共に市場に著はれ、その他粟・稗・大小豆・玉蜀黍・蕎麥・大麻等あり。西部の豊山洞附近は金鐵多く、郡内の天摩面・沙器面等と共に龜城金山礦區を成し其の面積二四〇五萬坪、古河礦業會社の經營に屬する著名の金山にて、事變下の生産額に増加し活況を呈す。棄落は散村型態のもの多く、集村としては雪溪洞・靑龍洞・白石洞(鶴汀)等を數ふるに過ぎず。面事務所を鶴汀に置く。

【蘆洞面】

朝鮮全羅南道寶城郡の西端に位置し、郡邑寶城の西に隣接す。西境に碧玉山(四七九米)聳ゆるも、其他は著しきものなく、東部には南北に狭長なる低地横ばり、また中部は丘陵面並に其の斜面よく開拓されて畑作農業卓著す。氣候また概ね温暖にて農産豊かなり。住民は農業を主とし、傍ら養蠶業をなす者逐年増加の傾向にあり。産物には米・大豆を主とし、棉花・煙草・藥草・蜂蜜及び諸種の竹細工品・綿布・蔴席あり、また鳴鳳金山その他より金銀を出すこと多し。鐵道慶全西部線は域内の東部を南北に縱貫し、鳴鳳驛(昭和五年設置)及び廣谷驛

【蘆嶺山脈】

朝鮮西南部の山脈。西南朝鮮の諸山脈の走向の特色を代表せる山脈にて、全羅北道の東北境より南西に向ひ道の南部を斜走し、本は全羅南北兩道の境界山地となり、雲光・咸平郡に達し海に没す。本山脈は大部分花崗岩より成り、割裂の結果、準平原化されて老年期の地象を呈し、脈中高峻なる山峯芝しく、母岳山(七九四米)等がやや顯著なる殘丘なり。全羅南北境界にある蘆嶺(二七六米)は古來重要な交通路をなし、國道木浦街道を通じ、鐵道湖南本線もまた本峠を通過す。蘆嶺を境とし最も特色づくものは嶺南の地理的景觀の變化にて、溫暖なる氣候と肥沃なる地味と水豊富なる稻田の景、嶺北に見えざる竹叢、樹木に圍まれし農家等、全く内地農村の景觀なり。

【蘆嶺山脈】

朝鮮慶尙北道連城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位置し、東南部に延慶山の裾延び來り、東北境に金鴨山(四八八米)聳え、域内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物には米・大豆・棉花・花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蔴席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもバスありて

【蘆洞面】

【蘆洞面】

【蘆洞面】

【蘆洞面】

ち、郡廳を論山面旭町に置く。聚落の發達著しく、人口約一五萬、一方耕人口密度は二五三人(昭和十年)にして、各郡中稠密なること第一なり。湖南綠豆溪驛より約八軒の鶴龍山は峻峯にして、鶴谷深く老樹に富み、山中に甲寺・東鶴寺、その他の古刹あり。山南の新都内は李朝太宗松都(開城)より遷都せんとして、工事を起せしが、舟運の不利の一事を以て中止せし地と傳へられ、今なほ四大門の遺蹟あり。論山邑を距る東南三・五軒の恩津には般若山灌燭寺あり、境内の石佛彌勒は今を去る約一千年前、高麗高宗十九年に高僧慧明の建立にかかり、身丈二七米弱、胸圍一四米弱、耳長二・七米強の大佛にて湖南巨物の一と稱さる。本郡は李朝時代の恩津郡・連山郡の各一圓と、魯城郡・石城郡の各一部とを大正三年三月に合併して論山郡と名づけ、今日に至りしものとす。

【論山面】朝鮮忠清南道論山郡の略中央に位置し、大田府の西南方約四〇軒にあり。論山平野の一部を成し、沃野相連り郡中に於ける代表的未發生産地帯を形成す。北部には論山川西流し頗る灌溉水利の便に富む。農産物は米及び大豆を主とし、其他雜穀・蔬菜・栗・柿・栗等あり。鐵道湖南本線は略中央を横斷し、西北部に論山驛(明治四十四年設置)あり、論山邑の關門を成し、道路は論山を基點として北は公州、南は木浦に各一等道路、東方大田、西方蔚山・江陰に各三等道路、其

他の路線放射狀に出で、實に四通八達の要衝にして、商業發展を極む。なほ論山川により江津を経て蔚山まで舟楫の便あり。市場は邑内には二箇所ありて、陰曆三・八の日に開き、その取引額甚だ多く、湖南に於ける有数の未發集散地なり。郡廳・未發検査所・殖産銀行支店等あり。また精米所・酒造工場等あり、特に清酒は量に於ては馬山・平壤に及ばざれど品質優秀を以て聞ゆ。

【論地】省線古江西線の一驛(大正九年設置)。鹿兒島縣肝屬郡高山村にあり。

【山】臺灣花蓮港廳花蓮支廳の山。臺灣中央山脈の東側、馬太鞍溪の上流にあり、標高二九四七・五米を有す。

【崙背庄】臺灣臺南州虎尾郡二街四庄の中の一にて郡の西北部に位置す。東は二崙庄に接し、西は臺灣海峡に面し、北は臺中州下の北斗郡大城庄に、南は郡下の海口・土庫兩庄にそれぞれ隣接す。管内は概ね平坦なるも、西部海岸に面する地方には臺灣特有の砂丘多し、庄下住民の約七割強は斯業に従事す。往昔、本庄地方は北部庄境を流る濁水溪の氾濫に依りて水害を被る事多く、不毛の地多かりしも我が領臺後、治水工事の進捗と、嘉南大圳の完全により灌溉・排水の便良好となり、良田を多く有するに至り農業著しく發達せり。主産とすると

こは米にて、其他、甘蔗・甘藷は重要なものなり。また海岸砂質地には落花生を多産す。また豆類・蔬菜類を若干出すも其の額大ならず。柑桔・文旦・斗柚等の園藝作物も重要産物をなす。畜産は主として農家に於て副業的に營まれるものにして、牛・黄牛・豚・家禽の飼育多く特に豚は本島住民の最も好むところにして、農家に於ける副業中最有利なる事業なり。東に西螺街、南に虎尾街の郡下商業都市を控ふる本庄下の商工業は、其盛を上記二街に奪はるるを以て、特に摘記すべきものなきも、近年農村の活況を呈すると共に、煉瓦・瓦・製糖工業の如きは漸次好況に向ひつつあり。金融機關には一の信用組合を有するのみなり。教育狀況を見るに、初等教育機關に公學校を有し、また社會教化機關として青年團・婦人會・國語講習所等設けられ、その活動盛なり。本庄管轄地域は、清領當時康熙六十年代に建てられたる布嶼寮(ボースト)及び海豐港地方の一部を合したる地域にして、布嶼寮地方一帯は、平埔蕃族(ロツア部族)に屬するツァジカン(貓兒干)社即ち南社の所在地にして、該蕃人に依り地名をボーストと稱せられしに基きて堡名出で、布嶼寮は之に宛てたる近管譯字なりと云ふ。本堡は乾隆年間稟字を削りて布嶼と改め、東西の二堡に分ちしが、我が領臺後、合して布嶼の一堡となす。乾隆九年の巡臺御史六十七の臺灣審社采風圖考に「南社、貓兒干二社其祖

興化人、渡海遭颶風、船破漂流到臺、娶蕃婦爲妻云々」の記事を以て漢民族の本地方に始めて渡來居住せし事情を察し得べく、現大字興化層はその最初に定住せし所なりと云ふ。海豐港堡は光緒十四年港字を削り海豐堡と改めたり。本堡の開拓が緒に就きしは雍正年間にして、乾隆三十九年拓成の後、現大字警察・施厝寮・雷寮・許厝寮の地漸次その中心地區をなすに到れり。我が領臺後、布嶼寮・海豐堡は共に其行政區劃として用ひられしが、大正九年地方制度改正に際して廢止せられ、布嶼寮下の十庄(現大字)、海豐堡下の六庄(現大字)の地を合して、崙背庄を建て現在に到る。

ワ

ワイカン 倭館面

北道漆谷郡の西南部に位置し、大邱府の西北約二五軒にあり。洛東江の左岸に沿ひ南北に長き地を占め、東南に錦舞驛(二六八米)を據する外著しきものなく、小丘陵起伏す。耕地は河岸の低地及び丘陵の緩斜面に拓け、農産豊かなり。住民は概ね淳朴にして勤勉、農を主業とす。農産物には米・大豆・蕎麥及び若干の人参等あり。製紙・陶器の製造も行はれまた無煙炭を出す。鐵道京釜本線は面の略中央を横斷し倭館驛(明治三十八年設置)あり。洛東江通航の終點として發達せる河港にして、水陸交通の要衝を占め、道路も亦此地を起點として、東南大邱府、西北金泉邑へ各一等道路を通ずる外、北方仁同、東方多富院及び西南方星州に各三等道路を通じ車馬の往來、貨物の集散盛にして市況頗る活氣を呈す。邑内には漆谷郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。舊倭館は驛の北方約二軒を距る洛東江岸にあり、江邊に突出せる山を磨城山と呼び、文祿の役に小西行長が星州の敵軍と對陣し一時駐屯せりと傳へよりて世人これを倭館と名づく。

【限府町】熊本縣肥後國菊池郡の中央西偏。菊池川と其支流迫間川と

ワイカ—ワイヨ

に挟まり、熊本縣民町の東々南方五軒餘にあり、東北は小丘陵をなし、西南は地形低平にして附近の平野に連る。東境より東南境にかけては菊池川が、西北境より西境にかけては迫間川がそれぞれ村境に沿ひて西南流す。西部に市街地發達するも附近は皆農家にして、商賣は農村向きの物品を取扱ふ。主産物は米にして特産物には名栗松風・椎茸等あり。道路よく發達し東北より西南方(熊本市へ至る)へ分岐する縣道ありて自動車の便よく、また社線菊池電氣鐵道東北走して本町の西南部に入り來り終點限府驛あり。古くは和名抄、菊池郡日理郷の地にして、大字瓦はその遺稱とす。舊名限府といひしが、正平の末年、菊池武政は此處に限府城を置き、爾來、天文十九年即ち義武の時に至るまで累代の居城なりしより、限府と稱し、のち限府と改めたり。城内には史蹟多く征西將軍(懐良、良成兩親王)御在所なる内裏尾を始めとし、同將軍御手植の將軍木、同將軍の月見殿地等あり。(限府城)一に守山城といふ。いま本丸・天主臺・二ノ丸等の址を存し、また城址の東・南・西三面に半月狀に配置せられたる菊池十八外城と稱せられし十八箇所の出城址あり。(菊池神社)限府に鎮座。別格官幣社。祭神、菊池武時・同武重・同武光以下殉難將士之靈。朝廷、菊池氏累代の精忠を慕し、その祭祀を命ぜらる。依りて明治三年に菊池城

址に社殿を造營せしをその創建とす。傳菊池能運像一幅は國寶なり。例祭、五月五日。秋祭十月十五日。(正觀寺)限府にあり。臨濟宗南禪寺派。熊耳山と號す。興國五年、菊池肥後守武光の創建にて、開山を圓覺寺秀山の法弟大方とす。當時、國內屈指の巨刹なりしも菊池氏の滅亡して大友氏代りて領するや寺領沒收に遭ひ衰頹す。寛永年中に再興、京都南禪寺に屬す。本尊地藏菩薩(傳運像作)。(東福寺)天台宗。興國年中に菊池武光の創建にて、往時、菊池五山のひと稱せられし名刹にして、五寺中、いま存するもの當寺のみ。

【淮陽郡】朝鮮江原道二十一部の一。道の北部に位し、東北は通川郡、東は高城郡、西は平康郡、南は楊口郡・金化郡等に接し、北は咸鏡南道安邊郡と界す。東西に長く六〇軒に餘り、南北は平均三〇軒前後あり、面積一九〇〇方軒にして、實に大府府の面積の一・〇五倍に當るも總人口八萬餘に過ぎず、道中に於て驛驛部に次ぎ入標稀薄なり。東北境に大白山脈の主脈走りて南動山(一〇三六米)・雲山(一一三二米)・錦繡峰(一一一三米)等連り東境に至りて金剛山となり、ここに東海の絶頂をつくる。西北境には風流山(一〇二四米)・鐵嶺(最高點六八五米)、南境には馬嶺(最高點六九七米)・舊嶺(最高點二四四米)・白鳥山(一一〇九米)、西境には白岩山(一一一〇米)等聳え、中

部にも鐵馬嶺(一〇四七米)・白鹿山(一一二四米)等聳る。北漢江は東北部山地に發源し始め山脈に並行して北西に蛇曲流したる後、南流に轉じ、金化郡・楊口郡の境にて金剛山に發する支流を容る。鐵嶺西南方一帯の高原地帯は、本郡の産業の主體たる農業の中心をなし、科學的經營による大農場拓がれ、また牧馬・牧羊行はる。農産物は粟その他の雜穀最も多く、また米・麥・馬鈴薯・大小豆・大麻・葉煙草等あり、養蠶・牧羊・養蜂行はれ、工業には麻布多し。また金銀・タンゲステン等の礦産あり、安豐金山・鐵嶺金山は著る。東部の内金剛探勝のためには社線金剛山電鐵通じ末驛里・内金剛等の驛設けられ、この兩驛は何れも金剛山探勝の根據地をなす。道路は中部を京城・元山間の一等道路南北に貫き、途中南部の新安上里より東北方の楸地嶺を踰えて日本海岸の通川邑に至る二等道路を設ち、國道に沿ふ淮陽より西方の京元輪洗浦驛へ道路通じ、之等に何れもバス通ずるを以て、交通・運輸は近年漸く便を加ふるに至れり。

つて緩傾斜し、北西部は稍低平と成り耕地能く発達す。北東江は西境に沿うて南流す。産物は小麦を主とし、大豆これに次ぐ。其他麻及び蜂蜜等あり。礦物には亞鉛・タンクステン・硫化鐵等あり。道路は西北部の津陽を中心として北方元山、南方金城・金化に一等道路を通じ、南部の新安よりは東北方の通川に二等道路を通じ、また西方の京元津洗浦驛へも道路を通じ、何れもバスの便ありて交通は比較的便なり。葉落は北部に密に南部に疎なり。津陽は漢江左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

ワカ 和歌浦

【和賀郡】 岩手縣十三郡の一。陸中國の西部。西は秋田縣に、北は岩手郡・神宮郡、東は上閉伊郡、南は江刺郡・鷹巣郡に隣接す。面積一、一八三・三〇方軒。郡の西部は奥羽山脈の東斜面に、中部は北上平野、東部は北上山地に屬し、西境には北より和賀嶽(一四四〇米)・藥師嶽(一一二四米)・甲山(一〇二〇米)・鹿ノ子山(九三三米)・眞妻嶽(一〇六〇米)・女神山(九五六米)・割倉山(七七一米)・白木峠(六〇二米)・三森山(一一二〇米)等連りて東方に傾斜し、西南境には三界山(一三八一米)・經塚山(一三七三米)・駒ヶ嶽(一一三〇米)連る。和賀川は西北境に發源して郡の西部を南流し、ついで流路を東に變じ、北方より本内川・尻平川、南方より夏川等を合して東流し、北上川

に合す。北上川は平野の東縁を南流す。東境には北より熊鷹山(四二七米)・三郎塚山(六六八米)・砥森山(六七〇米)・登石川は東南方より來りて丘陵起伏し、西方北上川との間に丘陵起伏し、西境は石川は東南方より來りて丘陵の間を屈曲しつつ西北に流れ、北上川に合す。中部平野及び河川の沿岸には耕地拓け、米・麥・大豆・粟・稗・小豆等を産し、東部山地には木炭・木材・馬等を産す。西部山地には銅鐵等の埋藏多く、土畑湖沼山、仙人山等はその代表嶺山なり。陸羽街道は平野の東部を南北に通じ、黒澤尻町より西方横手町(秋田縣)へ平和街道分岐す。陸羽街道に略並行して省線東北本線通じ、黒澤尻驛あり。同驛より西方横手町に省線横濱線分岐す。日本後紀、弘仁二年紀に和賀郡名始めて見ゆ。延長式・和名抄には郡名見えず、東鑑にまた郡名あり。或は和賀に作り、また誤りて知我とも作る。明治十三年四月分ちて東西二郡とせしが、明治三十年再び舊に復す。

ワカ 和賀

【和賀川】 岩手縣の中央を東流する北上川の一支流。秋田縣境和賀嶽の東側に發源し、眞妻山脈の東方に沿うて南流し、大高附近より急に東流し峡谷を穿ちつつ南流し、黒澤尻附近にて北上川に入る。流量一〇三軒。その上流に皆て川舟斷層を生じ、眞妻山脈西麓の千屋斷層と共に明治二十九年の陸羽大地震を起せり。

ワカ 若木村

佐賀縣肥前郡若木村の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

て、南は秩父郡に、西は川を隔てて群馬縣多野郡石町等に隣す。全村山地にて東境は約五九〇米あり。西方に傾斜して西境を北流する神流川の谷に臨む。山地一帯森林多し。中部及び北部の川沿ひに稍平地ありて養蠶・農業行はれ、麥を産す。縣道は中部を西走して石町町に通じ、また東隣本泉村を経て東北方の兒玉町に通す。山地は一般に交通不便なり。此地は武藏七黨兒玉黨の一なる若泉氏の起りし地とす。延元二年北畠顯家卿鎌倉を攻落して上洛する事となり、白川關を立ちて利根川左岸に至る。此時、長井齋藤別當實水及び其弟豊後次郎は顯家卿に従ひ來りしが、實水、敵に先んじて渡河すべきを大將に進言す。大將これを容れたるが何時も先陣を破る部井十郎・高木三郎が既に先陣たる所にては高名ならすと二三町ばかり上なる瀬を渡りけるが、逆巻く波に遂に溺れて行齋知れずなれり。されど人々ば流石に齋藤別當實水がその勇々しと賞讃せし由、太平記に見ゆ。かの長井實水は本村の附近の人に於て、其子孫、長井豊後守政實及び長井右衛門尉信實など、また此附近に住せし如く傳へらる。

ワカ 若江

【若江(郡)】 河内國(大阪府)の古郡名。續紀、養老四年紀に郡名見ゆ。和名抄は和加衣と註し弓削・刑部・新治・巨麻・川俣・錦部の六郷及び餘戸一を管す。明

治二十九年に河内國を南・北・中の三郡に分ちし時、中河内郡に入る。【若江村】 大阪府河内國中河内郡の中央西北偏。布施市の東隣なり。地形低平にして一望沃野をなし西部に東南流する河川あり。米・麥・野菜其他の農産多く、また工業頗多し。縣道は中央を縱走して八尾町へ通じ、布施市・大阪府へはバスを通す。古くは和名抄、若江郡錦部郷の内とす。姓氏錄にも若江造と見え、若江郡の舊邑たるを知る。足利氏の時、守護高山義深、其家臣遊佐氏を守護代として此地に城を築らしむ。寛正元年、高山政長・義就家督を争ふ時、義就當城に入りて、遊佐國助に倚る。のち政長は當城を攻めて陥る。文明元年九月、義就入京するに及び城その有に歸す。天文の末、三好長慶の子義長この城に居る。永祿四年松永久秀、義長を殺して義就を立つ。備前三軒氏この城に在り。天正元年七月、足利義昭、織田信長に放たれて此地に追はれ、のち毛利氏に倚る。同五年十月、久秀、信長に滅ぼされ、城また廢す。元和元年、大阪夏の役、この地の若江堤に於て西軍の木村重成、東軍の井伊直孝と戦ひて遂に此地に戰死す。【若江神社】 大字若江南に鎮座。郷社。祭神、足伊彦命・息長帯姫命。式内社。例祭、十月十日。

ワカ 若木村

佐賀縣肥前郡若木村の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 若草山

佐賀縣肥前郡若草山の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 若栗村

佐賀縣肥前郡若栗村の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 吾國山

佐賀縣肥前郡吾國山の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 水戸市

佐賀縣肥前郡水戸市の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 黒部川

佐賀縣肥前郡黒部川の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 黒部川

佐賀縣肥前郡黒部川の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 黒部川

佐賀縣肥前郡黒部川の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 黒部川

佐賀縣肥前郡黒部川の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 黒部川

佐賀縣肥前郡黒部川の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 黒部川

佐賀縣肥前郡黒部川の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 黒部川

佐賀縣肥前郡黒部川の西北部。武藏町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカ 黒部川

若栗國一國及び教賀郡はこれを教賀縣の管下とす。既に明治十四年二月には福井縣を福井に置き若栗國及び越前國を管して以て今日に至る。【若栗灣】 日本海の若栗の國に面する灣。灣口は三八海里、奥行二〇海里、奥には小灣の出入多し。深さ一五〇米以内にて五〇—一〇〇米位の所多し。降水注入のため鹽分は日本海の三三・七%に比し約三一—三二%に過ぎず、水色は四號以下にて透明度一〇米内外。水温は冬季は一〇度位に冷却す。灣口を對馬海流が東流し、灣内はそのため大環流を形成し灣口にては東、灣奥にては西に流れ、灣口にては流速一時間一・五—二哩、灣奥にては時速〇・五—一哩程度なり。灣奥は著しく植物性浮遊生物に富み、底質は泥砂質にして細砂の區域には銅類、粗砂區には金頭・鐵、深度二〇—一五〇米内外の砂泥混合の海區には鐵・錳多く、二〇〇—三〇〇米の冷泥乃玉泥砂の海底には鱒・蟹多し。その他鱒・鰻・鰻魚等の迴遊魚多し。灣奥は出入多く山港に富み、しかも日本海岸より京阪地方への物資輸送に最も近く便利なる位置にあるため、教賀は昔より回送米を揚下する商港として榮え、現在シベリヤ・北鮮・滿洲等の交通盛なり。また小濱・宮津等は漁港にして近年その重要さは減少せるも、舞鶴は今なほ要港として主なる裏日本の領護なり。なほ小濱その他は京阪人の海水浴場として賑ひ、宮津灣奥の天橋立は日本三



景の一として古來有名なり。

【若狭高濱】 省線小濱線の一驛(大正十一年設置)。福井縣大飯郡高濱町にあり。

ワカサ 若櫻

【若櫻町】 鳥取縣因幡郡八頭郡の北東部。智頭町の北東に位し、北は丹比村に、西は八東村に、南は池田村に界し、東は兵庫縣に隣接す。面積一〇八・九一方軒。北東より西南に伸びたる長方形の區域をもつ。北端には扇ノ山、東端には陣鉢山等高原一千二百米の高峯聳え、東部は峻険なる地をなして西南に傾斜し、また西部にも數百米の山岳起伏し、兩山地の間に低平なる地を開き八東川北流す。流域は耕地よく開けて農業行はれ米麥を産す。山麓は桑畑をなして養蠶行はれ繭を産す。山腹は牧場をなし牛馬を飼育す。河の左岸平地に國道若櫻街道走り鳥取市と兵庫縣山崎を繋ぎ、省線若櫻線は若櫻(昭和五年設置)を置く。市街は河岸平地の街道に沿って開かれ物産の集散地として、街道の要衝地として古くよき主要なる都邑をなす。明治四十二年若櫻村・赤松村・菅野村の三村を廢し、その地域を以て若櫻町を建つ。古くは和名抄、八上郡若櫻郷の地にて、町名は蓋しその遺稱とす。山中の一驛にて近世は池田家の支封一萬五千石の別邸ありしところ。大

字小畑は吉野時代、小幡出羽守の居りし所の地あり、一に鬼が城といふ。起原未詳。天正三年、山中幸盛この城に據り、草薙三郎兵衛來り攻む。或は云ふ、矢部若狭守の草創にて十六代相繼し、天正に至りて廢絶す。羽柴秀吉の時、木下重賢城主たりしが、慶長五年、重賢は西軍に黨して除封せられ、山崎家盛に代る。元和三年、其子家治、備中成羽(後山城)に廢す。元禄九年正月、鳥取藩主池田吉泰、叔父清定に懇田一萬五千石を分封す。即ち此地に治し、因幡新田と稱し、子孫相繼ぎて明治維新に至り、改めて若櫻と云ふ。(若櫻神社) 字若櫻宿に鎮座。神社。國常立神を主神とし、伊弉冉神・譽田別神を合祀す。平師盛・名和長年の參拜したるを始め、領主山名・矢部・木下・山崎氏の崇敬あり。天正十五年再建せらる。江戸時代、藩主池田氏累代の崇敬篤く、社額一石三斗を有せり。もと松上大明神とも云ひ、若櫻村の氏神とせらる。例祭、五月一日。(西方寺) 大字若櫻にあり。淨土宗西山派。不遠山と號す。天文年中、俊空宗善の開創。もと四宗兼學無本寺にて海會院二堂と稱せり。慶長年中、山崎を現稱に改む。明治八年類焼にて全焼、同三十一年章空運文は本堂を再建す。本堂は阿彌陀如來(傳春日作)。

ワカサキ 若杉山

【若櫻線】 省線山陰線の一部。鳥取縣八頭郡にあり。省線因幡線の郡家驛より分岐し、東へ八東驛などを經て若櫻驛に終る。全長一九・二軒。

ワカサノ

【若狭野村】 兵庫縣播磨國赤穂郡の中央東南隅。那波町を距てて相生町の西北にあり。南境には約二〇〇米前後の丘陵東西に連り、西北部は三八三米の丘陵の東南斜面地をなし東北部にも小丘陵あり。中部は廣闊なる盆地をなす。産物は米・粟・蕎麥・小麥・蔬菜・花卉・櫻栗・繭・食用農産・果實・鶏卵・養蠶品等あり。山陽道及び省線山陽本線中央を横斷し、後者の那波驛は東方一・五軒、有年驛は西方約一・五軒にあり。古くは和名抄、赤穂郡八野郷の内とす。中世は矢野庄に屬す。明治天皇、明治十八年山陽道御巡幸の御り、此地にて御小休遊ばさる。(天清神社) 大字野々に鎮座。神社。祭神、天忍穗耳命・菅原道實。慶應四年社殿再建。例祭、十月十日。

岐し、省線北陸本線石動驛及び省線中越線出町驛(何れも約三軒の道程なり。古くは和名抄磯郡那波郷の内なるべし。大字水巻は盛衰記に見える水巻四郎・同小太郎の故里と稱せらる。(願稱寺) 大字西中にあり。眞宗本願寺派。藤原大納言實世の息、洞院少將定世の開創。

ワカサキ 若松

【若松市】 福井縣會津地方の中心都市。盆地の東南端に近く、北は北會津郡一貫村・町北村に、東は東山村に、南は門田村に、西は神指村に境し、東西約三・六軒、南北三軒、面積五・七五方軒。土地東より西に極めて緩く傾斜し、湯川南部より西南部を貫き、北流して末は日橋川(阿賀川の上支)に入る。東方には磐梯山を仰ぎ北西方には四時雪を頂く飯盛山を望む。松平氏二十三萬石の舊城下町にて明治戊辰の戦蹟として史上に著る。中央部は人家郷比するも其他には所々に空地あり、田畑あり、樹木繁茂せる所ありて田園都市の觀あり。大町・七日町・一ノ町・甲賀町・榮町等は最も繁華なり。省線磐梯線は東北本線の郡山より來り北郊町北村石堂に會津若松驛(明治三十二年設置)を置き、これより分岐する會津線は市内七日町に七日町驛(昭和九年設置)を、村木町に西若松驛(大正十五年設置)を設け、西若松驛より一西方柳津に、一は南方島に通ず。また縣道は東北へ

ワカサキ 若田

【若田】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に片岡郡若田郷あり、和加多と訓す。その地はいま碓氷郡に入り八幡村・豊岡村の邊に當る。八幡村の大字若田は郷名の遺稱なり。

米。山上に大祖神社あり、また弘法大師獨鈷木の遺跡殘る。山は老杉茂り合ひ山姿森嚴なり。山中杉の森林は美しく樹下の羊齒類や蕨科植物も珍し。山は夏季涼しく、山腹にはキャンセンガに過する地城多く、西側の若杉栗園、北側の荒田等には避暑地としての設備あり。この山には北西麓の徳業線徳業驛より約一時間半にて達頂し得らる。山名の由来並びに大祖神社に就きては勢門村を見よ。

ワカサキ 若園

【若園】 愛知縣磐海郡にありし村。明治三十九年本村外三村を廢しその區域を以て高岡村を建つ。

ワカサキ 若田

【若田】 愛知縣郡田郡にありし村。明治三十九年本村外一町五村の區域を以て古知野町を置く。

ワカサキ 若槻村

【若槻村】 長野縣信濃國上水内郡の東部。長野市の北東に接す。村は飯綱山(九一七米)の東麓にあり、善光寺平の北縁をなす。村の北部は即ち山地にして三登山(九二三米)・磐山(七四四米)あり。南は千曲川の舊氾濫原にして平地あり。村の中央を北國街道がかり長野より高田に連す。即ち交通上の要地

ワカノウラ 和歌浦

【和歌浦】 和歌山市和歌浦町の海岸一帯に互る名勝地。片男浪と通稱する約二軒半の砂嘴ありて一灣を劃す。灣の北岸に小島あり、妹背山と稱す。多寶塔・觀海閣あり湯を引て名草山の紀三井寺と對し風光頗る明麗。陸地に向ひて三斷橋を架す。橋の西方に鹽釜神社・東照宮・玉津島神社・梵供山等あり。神龜の昔、聖武天皇この地に幸し給ひ、弱濱を改め明光浦と御名命あらせらる。明治二十七年公園とし和歌公園といふ。この地古くより霞・萩・月・雪・藻・濱木綿・みるめ等の歌枕の名所として知らる。萬葉・六「若浦に鹽みち來れば濱をなみ葉邊をきしてたづ鳴き渡る。山邊赤人」同・一二「衣袖の首若の浦の愛子地まなく時なし吾が戀ふらくは」

ワカノハマ 弱濱

【弱濱】 和歌山縣和歌浦町の和歌浦の舊名。續紀、聖武天皇の神龜元年に天皇紀伊和歌浦に幸し給ひ、海を望むの好景を賞し、弱濱を改め明光浦となすと見ゆ。

ワカバヤシ 若林村

【若林村】 富山縣越中郡西礪波郡の中。石動町の東南方約三軒に當り、東南は東礪波郡出町に隣接す。全村平坦肥沃なる礪波平野を占め、流水の發達により灌漑便にして水田多し。米を主産し柿の特産あり。また製菓業も行はる。縣道四方より來りて本村内に交

ワカトチ 若杉山

【若杉山】 飛騨山脈の一峯。木曾御岳の西方一軒餘に當り、岐阜縣益田郡小坂町の南東山嶺。標高一五九八米。北麓を西流する河内川と西麓を北流する大洞川とは北西麓にて合流し、小坂川となりて益田川に落つ。

ワカトネ 若舎人

【若舎人】 中世、常陸國(茨城縣)行方郡現原郷の一部を割きて稱せし郷名。いま現原村の中に當り、詠りてワカトネと云ふ。

ワカト 若カマ

【若カマ】 愛知縣磐海郡にありし村。明治三十九年に外二箇村と共に合併して赤羽根村を置く。

ワカト 若カマ

【若カマ】 愛知縣磐海郡にありし村。明治三十九年に外二箇村と共に合併して赤羽根村を置く。

生産額 (昭和十年)	
種別	産額(千圓)
農産	99
工業	7,787
畜産	17
水産	7
計	7,910

萬圓)・木製品(一三五萬圓)等これに次ぎその他織物・醬油・織製品等あり。その會津木綿は地質堅牢にして實用向に歡迎せられ、酒・醬油醸造用の樽袋また特産品たり。木製品中の履物は會津桐とよばれ、共にその名高し。されど工業の多くは尙ほ家内工業の域を脱せざる状態にあるは、郡山・福島等の縣内の諸都市に比して遜色ある點なり。此地古くは墨川と稱し草名氏の據りし處、文祿年中蒲生氏郷の領地となりて若松と改め、寛永年中松平(保科)正之入國以來會津藩の城下として榮えしが、明治維新の際、藩主岩保徳川幕府の恢復を策し、官軍の討伐をう

けて城陥り、兵燹のため市街多く灰燼に歸せり。其後、漸次恢復して繁榮今日に及ぶ。明治二年若松縣置かれ、同四年その第一大區となり、同九年福島縣に入るや北會津郡に屬し上町・下町の二戸長役場區域に分る。同二十二年合して若松町となり、同三十二年市制を布く。〔若松城〕指定史蹟。一に鶴ヶ城といふ。市の南部にあり湯川を控ゆ。五徳元年輩名直盛榮き、黒川城と稱し子孫在城せしが天正十七年伊達政宗に攻めせらる。後豊臣秀吉これを蒲生氏郷に與ふ、文祿元年氏郷大いに改修を加へ、内外に郭を築き濠を掘り本丸に七重天守閣を起し、若松城と改稱し府城の觀備はる。慶長三年上杉景勝これに代りしも關ヶ原戦後に滅封されて米澤に移り蒲生秀行復封す。寛永年中、加藤嘉明ここに封ぜられ、蘭人の設計に因り北と西に兩出丸を加へ天守閣を五層に改む。のち松平正之山形より入都し子孫相承けしが、明治戊辰の役に官軍の攻伐をうけ開城す。明治七年建物は全部破棄されしも本丸・帶郭・北出丸・西出丸の濠・石垣・城門等は尙ほ整然遺存し、結構雄大、全国屈指の名城たりし當年の壯觀を偲ばしむ。城址はいま公園となり市民遊樂の地たり。日清日露兩役の忠魂碑建てり。〔日新館址〕榮町四丁目にあり。舊城址の西出丸に沿ふ。松平正之が桂林寺町に設けし士民共學所に始り、容顔これを改革してここに優令を完成せし藩學なりしも明治戊辰の兵火

に焼かれ、今は天文臺址と苑池を遺す。〔靈雲園神社〕靈雲町に鎮座。縣社。保食神・稚産靈神・天照大神を祭る。式内社。嵯峨天皇弘仁二年の創建、靈雲榮勳の神として名あり。〔諏訪神社〕榮町西分に鎮座。縣社。祭神、健甕名方命・譽田別命。永仁二年信州諏訪社より勧請。累代の城主・町民の崇敬敬かりし社。毎年七月に行はるる祭典は盛大なり。〔宗英寺〕天宮寺町にあり。瑞雲山と號す。永享三年、會津城主盧名盛政堂宇を創し瑞雲庵と號せしを以て當寺の遺蹟とす。天文年間火災に罹り、堂宇・舊記は灰燼に歸し天正元年盧名盛氏これの中興す。寺寶中、盧名盛氏坐像(木造)一軀は國寶。〔山鹿素行誕生地〕西榮町一之町通にあり。大正十五年の建碑に、山鹿素行先生誕生地碑と刻せり。〔蒲生氏郷墓〕榮町興徳寺境内にあり。方形の積石塚上に五輪塔を建つ。文祿四年乙未二月云々の銘あり。京都紫野大徳寺内より分骨して葬りしものなり。〔戊辰役戦死者官修墓〕大町名子屋町通の境内にあり。中央にある官軍諸道軍政野茂の墓碑をばじめ、周圍には薩長土肥その他諸藩士の墓あり。〔戊辰役東軍戦死者墓〕七日町阿彌陀寺境内にあり。方形の墓域に家老萱野長修の墓碑、會津藩戦死者三千餘名の霊牌殿あり。〔會津松平氏庭園〕指定名勝。徒之町松平家控邸内にあり。世に御藥園と云ふ。東山の眺を取入れ、風致に富む小庭園と稱せらる。その如は

支那の古事に學び藩主自ら歌を執りて民の勞苦を察せしものと云ふ。附近には縣立孵化場ありて鱒・鯉等を孵化し、會津の河川に放流す。〔若松(縣)〕明治二年五月も酒井忠實の封地(若代國)に置きし縣。三年二月には勢城國白石に置ける按察使府の隸下となる。四年十一月若松縣を廢して更に若松縣を若松に置き若代國の會津・耶麻・大沼・河沼の四郡を管す。明治九年八月福島縣に併合す。〔若松村〕茨城縣常陸國鹿島郡の東南部。利根川下流の東岸にて、東は鹿島灘に臨む。西は利根川を隔てて千葉縣香取郡と相對す。大部分は平地にして近年開拓せられ水田・畑地よく拓げ、農業を主とし米・麥・甘藷を主産し、特産物としては西瓜・スイートメロン・落花生・南瓜等あり。海岸は單調なる砂濱をなし、砂丘よく發達す。縣道は川沿ひに縱走し、他は村道通す。利根川一帯には水運の便多し。古くは松浦郡と稱せられし地とす。近年の開拓に係り、村内には砂丘多く常陸の砂山と稱せらる。〔若松村〕三重縣伊勢國河島郡の東北部。神戸町の東南凡そ二軒、白子町の北方約二軒に位し、東は伊勢海に臨む。全村地形平坦にして一望沃野をなす。現在戸數八五〇戸中、農業を營むもの三〇〇戸、水産業に従事するもの一六〇戸、商業は一二〇戸、工業一二〇戸、其他一五〇戸にして産物は農産(二一萬圓)・水産(一

藤ノ木・中谷・持川等の聚落ありて附近には小低地あり、北岸には西部に妙見崎(遠見ノ鼻)、中部に八幡崎等が突出し響灘の急流岩を噛むも、またそれより小岬角に擁せらるる地には砂濱ありて之に沿ひて安屋・小竹・小石等の聚落發達す。市街は半島の東端部の平坦地にして、もとの若松・修多羅の二大字を中心に發展す。もと荒蕪たる一漁村にて藩政時代黒田氏が資木の船積場として利用せられし處、筑豊炭田の開発に伴ひ明治二十一年頃よりその天恵の良港は石炭の積出地となり、同二十四年筑豊興業鐵道會社により若松・直方間の線路開通してより急激に繁榮し、また明治二十三年以來若松築港會社の數次の港内の浚渫、海岸地の埋立工事により水深約六米、延長約二七〇米の若松埠頭完成し、四千噸級以上の汽船の出入錠禁自由となる。この間明治三十七年輸出品は石炭・鐵材・鋼材、輸入品は鐵・鐵礦に限る特別輸出港となりしが同三十八年輸出品の種目を増加され、更に大正六年輸出品に關する制限は完全に撤廢せらる。かくて貿易は年と共に隆盛となり、昭和九年には數量一七五四萬圓、價額四九、八七六萬圓に達し、全國港灣中出貨量は第一位、入貨量は第四位出入貨物合計は第二位、價額に於ては大阪・神戸・横濱・東京・門司に次ぎて第六位を占むるに至れり。而して主要貿易品は石炭と鐵及び之に附隨する原料並に材料にして之等のみにて數量は八八%強、價

貿易數量各港順位 (昭和九年)

港名	出貨(千噸)	入貨	計
大阪	6,488	16,587	23,075
若松	11,446	6,098	17,544
横濱	4,883	9,260	14,151
神戸	4,785	8,859	13,644
門司	5,096	5,272	10,143
下關	2,229	2,808	5,037

貿易價額各港順位 (昭和九年)

港名	出貨(千圓)	入貨	計
大阪	1,909,965	1,779,316	3,689,281
若松	1,455,436	1,307,515	2,762,951
横濱	857,561	788,201	1,645,762
東京	260,040	888,902	1,148,942
門司	404,481	443,772	848,253
若松	349,209	149,549	498,758
前館	200,169	284,152	484,321

額は七五%を示し、本港は石炭の港、鐵の港の特異性を發揮せり。本港の特殊貨物たる石炭の積込機械、高架棧橋及び之に伴ふ繫船岸壁等は主として鐵道省の施設する處なるも、近時對岸の戸畑驛構内に貝島及び三菱の自家用石炭積込機各一基設けられ、本港は帆船、戸畑は汽船と石炭荷役は區分せらる。本港の作業能力

生産額 (昭和十年)

種別	價額(千圓)
農産	880
畜産	271
林産	110
水産	296
手工	41,705

は一日二萬二千五百噸を有し、一年間の作業実績は大體本港二、戸畑一の割合を示す。本港は石炭積出港として起り、始は純然たる港市なりしも、明治四十五年上水道を敷設し、また海陸連絡設備完成せり各種の工業急激に勃興し、機械器具(二五三萬圓)・植物性油(七〇三萬圓)・肥料豆粕(六〇六萬圓)・牧畜子(五七八萬圓)をはじめ、雷管・石鹼・造船などの工業は總額四一七〇萬圓を超え、また一大工業都市となれり。若松驛(明治二十四年開業)を起點とする鐵道筑豊本線はもと筑豊鐵道會社により直方まで敷設せられ、爾來路線を延長し筑豊炭田の各所に連絡し、後明治三十九年九州鐵道會社と合併し、更に國有に歸せらるるのにて、現在若松驛構内は八十餘、延長三六・六軒に達し、一日實に九十列車を運轉する盛況を呈す。市内には二島驛(明治三十二年開業)の設けあり。その外縣道には若松・廣屋、臨田・折尾、臨田・廣屋、臨田・若松、折尾・若松等の諸驛ありて多くはバスの經營行はる。また海上には對岸戸畑市との間及び八幡市の枝光・前田との間に渡船あり、戸畑市とは特に往復頻繁を極め交通便利なり。(梅

四萬圓)を主とし、工業は醸造(二五萬圓)を主とす。社稷參宮急行電鐵伊勢線は中央を縱貫し伊勢若松驛(大正六年設置)を置き、同驛よりは一支線を西方へ分つ。村内に千世時港あり、内務省指定港灣たり。また千世時航空燈臺もあり。和名抄に河曲郡深田郷とあるは蓋し此の地なるべし。海濱は若の松原といひ、一説に、古歌に有名なる吾の松原も此地を指せるものといふ。大字南若松の惠花山は、元久元年、伊勢平氏の餘黨三浦盛時の據りし處にして、平賀朝雅に攻め滅ばさる。〔若松〕鳥取縣日野郡多里村大字新屋の字。此地に格魯鐵礦の産を以て有名なる若松鐵山あり(多里村参照)。〔若松市〕福岡縣北部の開港、兼工業都市。謂ゆる北九州工業地帯に屬す。遠賀郡廣屋町を貫きて響灘に注ぐ遠賀川口の右岸より東方に突出して洞海を抱く遠賀半島の地を占め、南西、即ち地頭郡は折尾町に接し、南東は洞海を隔てて八幡市に、東は洞海の門口を挟みて戸畑市に對し、北は響灘に面す。東西約一三軒、南北最も廣き部分にて約八軒、面積五六方軒餘、人口約七、四萬。この半島は曾ては遠賀島とよばれ本陸と離れりしが、後に半島となりしものにて今も江川は西方遠賀川に通じ一運河をなす。中部は一帯の丘陵地にしてその東端の高塔・金比羅の山々より西方は石峰山・白山等の諸峰に連り山嶺は工字形をなし、南面には

ノ木炭礦)筑豊炭田の北部を占むる石炭山。鐵礦は若松市及び遠賀郡水巻村・同廣屋町に跨りて一六五萬餘坪。日本炭礦會社の經營にかかり、昭和十年には塊炭六二、二〇三噸、粉炭五四、六二〇噸、粗炭五、七八〇噸(この總價額六〇萬餘圓)を産出し、同年六月末の積込數六二七人、現に重要礦山に列す。(高尾炭礦)筑豊炭田の北部を占むる石炭山。鐵礦は若松市及び遠賀郡水巻村・同折尾町に跨りて二二五萬餘坪、日本炭礦會社の經營に係り、昭和十年には塊炭三二、八一八噸、粉炭四八、三〇一噸、粗炭二八、〇四一噸(この總價額約四六萬圓餘)を産出し、同年六月末の積込數四五〇人、現に重要礦山に列す。(金比羅山)若松驛の北中軒。山上は公園となり戸畑・八幡の市街を指呼し得べく海陸の展望に富む。〔小石海岸〕市の北部海岸にて後に松粕繁る山地を負ひ前は響灘に面し、前方に六連島・藍島等を望み眺望絶佳なり。〔若松瀬戸〕長崎縣南松浦郡(五島列島)中通島・若松島間の水路。〔若松島〕肥前國五島列島の一。中通島の西に位し、狭水道を以て相隔つ。之を若松瀬戸と稱し、北門に串島、南門に中島・野島・葛島等あり。潮流甚だ強く、且つ暗礁あるを以て、船舶の通航困難なり。島は東西約六軒、南北約一〇軒。周圍七七軒。いま若松・日島二村に分る。人家は海濱の狭き所に群在す。郵便局あり。屬島は東に沖中島・中島、南に田之

子島、西北に日ノ島・有福島等あり。本島の東部及び西部は低く、東岸には若松浦、南岸は大井浦・龍井原浦あり。共に碇泊に適す。島の北西部は分裂して一深入湖を成し、更に三小澳に分る。皆小船の碇泊に適す。湖浦を最良とす。瀧河原浦と奈留島との間を瀧河原浦といふ。地質は東部及び西部は第三紀に属する砂岩または頁岩より成り、北部より中央を経て南、日塔に連る山脈は約三五〇米を超ゆる所あり。岩石は中島・日ノ島より此島の北南脈は石英岩より成り、彩色は白色にして、少しく緑色を帯ぶるものあり。

【若松村】長崎縣肥前國南松浦郡の中部。

五島列島中央の若松島のほぼ東半と對岸中通島の南西、中央分水嶺以西と其間に散在する幾多の島々を其の管轄となす。若松島は殆ど中生層より成り、中通島の部分は石英岩より成り、何れも高度は高からず、丘陵性山地にして全島殆んど潤葉樹を以て蔽はる。若松島の天神山、中通島の天王山・雄岳・築地ヶ岳などは其の主なるものとす。一般に五島列島は標式的沈降海岸にして、山麓は直ちに海に迫りて半島・岬となり、殆ど平地を缺き入江・灣澳が鑿齒狀に出入して複雑を極む。殊に山脈の主軸は略ぼ南北に走り、之に並行して斷層谷發達し、のち隔没沈水して湖となり湖戸となる。若松島と中通島の間は若松瀬戸はその好例なり。入江の奥には小嶺地あり、その主なるも

のは若松浦・男鹿ノ浦・神ノ浦・土井ノ浦・笛吹浦・宿ノ浦・妻ノ浦等なり。若松瀬戸は北に大串崎長く突出するあり、中に下中島・野島等を挟み且つ左右より岬・半島・灣澳に錯亂し、五島の瀬戸中最も地形複雑なり。全村殆ど平地を見ず、従つて居民の生業は主に漁業とす。沿岸は我國に於ける有数の漁場、灣澳の繁華はその根據地となる。陸上交通路は地形の關係上發達せず、僅に灣澳の繁華相互間を結ぶ小徑が山地を越え所々に通するのみ。然し繁華相互間の交通は發動機船または小舟を以て自由に往來する事を得。福江・長崎・佐世保方面との往來は此等の舟にて奈留島または奈良尾・岩瀬浦に出で、沿岸汽船に移乘す。

ワカミコ 若神子村 山梨縣甲斐國北巨摩郡の中部。

西は釜無川の急流を以て武川村、東は玉川の急流を境に多摩・穂足・兩村に接し、四邊要衝の地を占む。北・西は八ヶ嶽の山裾の傾斜地にして東部玉川に沿ひ多少の田地開く。農・蠶を主業とし、米・蕎麥を主産す。東部を佐久往還北走し、西部を信州往還及び省線中央本線貫走し、後者の穴山驛へ約六軒。甲府市へはバスの便もあり、古くは多摩庄の内にして、一に若神子にも作れり。國志に據れば天正十年甲信の土寇蜂起の際、北條氏直此地に本陣を置くとす。また傳ふるところに據れば村内に新羅三郎義光の城址ありとす。【諏訪神社】大字若神子に鎮座。社祭、祭神、健甕名方外一

ワカミヤ 若宮

【若宮村】 福島縣岩代國河沼郡の南部。坂下町の西南に隣り、南は大沼郡に隣接す。地勢西部に高く、西境は約四〇〇米にして東方に傾斜し、村の西半部は山地をなすも、東半部は會津盆地に屬して平坦なり。鶴沼川は東境を北流す。村の生業は農業を主とし、米・蕎麥・大豆・蕎麥等を産す。道路は村の東部を南北に通じ、省線會津線村内を走り若宮驛（昭和九年設置）を置く。

【若宮村】 福岡縣筑前國鞍手郡の中央西偏。

直方市の西方一軒餘にあり、南部は丘陵地にして北偏は臺地狀をなす。遠賀川支流の犬鳴川は中央を東流し沿岸に平野發達せり。田畑よく拓けて米・蕎麥・蕎麥を産す。古くは和名抄、鞍手郡金生郷の地にして、大字金生は其遺稱とす。もと京都の佐々木八幡の神領にして、東鑑に鞍手領とある地なり。【若宮八幡宮】大字米原に鎮座。社祭、祭神、應神天皇・神功皇后外二柱。養老年間創立。例祭二月十日・八月十六日。

ワカモリ 若森(縣) 明治二年二月

常陸知縣事の職を嗣ぎて新治郡若森に置きし縣。四年十一月廢して新治縣に入る。

ワカヤナギ 若柳

【若柳村】 岩手縣陸中國瀧澤郡の西部。本澤町の西方約一三軒。西は秋田縣、西境に延び、果無山脈より笠塔山（一〇五〇米）・虎ヶ峯（七九〇米）等、西方に連り、この間に日高川西流してまた紀伊水道に注ぐ。果無山脈以南には東境の十津川をはじめ古座川・日置川・富田川等いづれも略南流して無野澤に注ぎ、無野川・古座川は東流をなすを以て著はる。要するに縣の大部分は山地をなしそれ等の山嶺の高度は一千—一千三百米を保ち、且つ山頂部には高野山をはじめ平坦部を有するもの少からず。紀伊山脈が皆て準平原面をなし、その後若返りの隆起をなせしを證す。されば河川の下方浸蝕はかなり活潑に行はれ大斷層谷を流る。北部の紀ノ川を除けばいづれも曲流蛇行し、その間にまた峽谷をつくるも少からず。されば紀ノ川筋以外には平地極めて少く河川の谷と沿岸に狭少のものあるのみ。海岸は地質時代より幾多の隆起と陥没とを繰返したる結果、複雑なる水平的段階をなし、特に西岸にはヤス式海岸を見る。ために紀伊水道沿岸には加太・和歌浦・下津・湯淺・由良・比井・南岸には田邊・周見・串本・太地・勝浦等の小灣を擁し、中には天然の良港をなすものもあるも、多くは後背地を缺くため、港灣としての發達を期待し得ざるは惜しむべし。河港にも和歌山・箕島（有田港）、御坊（日高港）、新宮等あるも、いづれも盛ならず。【氣候】本縣は本州島の最南部に位置すること、南と西の二帯は海に面すること、南海岸に近く暖流黒潮の東流

ワカヤ——ワカヤ

要害村を若柳村と改むとの記録あり。文治五年に葛西氏の領地となり、天正十九年に伊達氏の所領となり、直支配地として一家鹽森氏管領したり。

ワカヤマ 若山村 石川縣能登國珠洲郡の中部。

北は西海村、東は直村に、南は上戸村・飯田町に、西は町野村・風至郡）に接す。村の中部を若山川東流し、その流域は土地平坦にして部落は此川に沿うて發達す。米の産あり。飯田町より金澤市に至る縣道は若山川に沿うて走り町野村に越ゆる所に八太郎峠（二二四米）あり。古くは和名抄、珠洲郡若徳郷の内にして、中世は庄名と呼ばれ若山庄と稱せり。【古麻志比古神社】大字經念に鎮座。社祭、祭神、日子坐玉命。式内社。開化天皇御宇の創建と云ふ。例祭、四月十七日。

ワカヤマ 和歌山

【和歌山縣】 近畿地方の南部。【境域】紀伊半島の南西部、紀伊國の大部を占め北は和泉山脈によりて大阪府（和泉國泉南郡・河内國南河内郡）に接し、東は奈良縣（大和國吉野郡・宇智郡）・三重縣（紀伊國南牟婁郡）に接し、南は徳島府の太平洋に面し、西はその一支なる紀伊水道を隔て、徳島縣に向ひまた紀淡海峡を狭みて兵庫縣淡路島と相對す。面積四七二三方軒。福岡縣に次ぎ、京都府に優り全國道府縣中の第三十位に居り、また昭和十一年推計人口は八七一、一〇〇人、一方軒の密度は一八四人にて全國の平均數に

すること等によりて、一般に南國的氣候を有し、氣温は奈良縣との境界なる山岳地帯最も低く南海岸地方に近くに従つて高し。特に日置より潮岬を経て勝浦・新宮に至る南岸、即ち大邊路沿岸は北に山を負ひて冬季の北西氣流風を遮り、夏は海風によりて暑氣緩和せられ最も温暖の地帯となす。即ち潮岬に於ける氣温は一月七・一度、八月二六度にして、冬は鹿兒島（七・二度）・宮崎（六・九度）に類し、夏も京都・岐阜より低く淡路・沼津（二五・九度）に似たり。されば濱木綿・リウゼンタイ・オホネニワタリ・檜樹等の熱帯植物の生育するを見る。たゞ西北部紀伊水道は冬季の北西季節風に直面するため南岸地方に比すればや、低く、夏も却つて高温なり。即ち和歌山にては一月四・九度、八月二六・九度を示し、廣島・新居濱等の瀬戸内地方に近きものあり。降水量は西より東するに従ひて多く特に東南部に著しく和歌山は一五五〇耗なるに潮岬は二六六五耗、新宮にては三三〇〇耗内外を測り、我國の最多雨地の一たり。かく氣温高く降雨多きため山地は森林繁茂し木ノ國と稱せらる。【産業】①農業。氣候温暖多雨の上に地味肥沃にして農業上天恵豊かなれども地形上耕地に乏しく、たゞ北部紀ノ川地溝帯に東西にやや廣き沖積地あるも、其他には河川の谷と海岸の段丘面に狭少のものあるのみ。耕地面積は四九六一町歩にして總面積の僅に一〇％餘に過ぎず。然るに農家

	大正十四年	昭和五年	昭和十年
農産物	49,238	28,745	34,358
畜産物	1,917	1,736	1,927
森林産物	23,806	9,352	16,095
工業	922	1,022	1,730
水産物	13,640	7,978	7,178
工計	173,333	118,389	173,015
計	262,856	167,222	234,303

戸数は専・副業を合して約七八、四〇〇戸、一戸當りの耕地は田三反九畝歩、畑二反四畝歩、計六段三畝歩にして全国平均の一町七畝歩に比すれば、頗る狭小なり。農産物には米(一七〇〇萬圓)・柑橘(四八三萬圓)・繭(三三九萬圓)・麥(二五六萬圓)・除蟲菊(八二萬圓)・大根(六五萬圓)・甘藷(五六萬圓)等を主なるものとす。計三四三五萬圓に達するも、主食物の米も自給自足の域に達せず、たゞ柑橘は古く栽培され「神の暗いのに白帆が見ゆるあれは紀の國蜜柑船」の俗語と共に夙く江戸市民の歡迎をうけられるものにて、有田郡を主とし海草郡加茂谷、那賀郡の紀ノ川沿岸に多く産出され米に次ぐ重要農産物なり。また除蟲菊は縣の特産にて明治二十年有田郡保田村に栽培したるを嚆矢とし有田・日高兩郡を主要産地とし、縣の産額は全国中の第四位を占む。(2)林業。古來木の國とよばれ、全面積の

糸	47,253
織物	34,862
染料(除染)	15,389
メリヤス	14,618
織物	6,812
酒	6,219
製革	5,654
除蟲菊製品	5,286
箱	3,610
菓子	3,259
紙	2,910
洋器	2,730
機械	2,559

七〇%に當る廣大の林地を擁し、杉・檜は東西本妻・日高・有田・伊都の諸郡に産し、薪炭用の赤松は伊都・那賀・海草三郡の大部、有田・日高・東西本妻の各郡の山地に、建築材・薪炭材となる黒松は海草・有田・日高・東西本妻の諸郡の沿海に自生するもの多く、外に松根皮・松根葉等もある交通なほ不便にして、運搬の便開けざるは遺憾なり。(3)水産物。海岸線四九七軒の長きに達すると海岸に近き黒潮の流れに富むと、時勢の運送に伴ふ漁具・漁法の改良と、養殖の普及とにより沿岸漁業は榮え、また遠洋漁業に出漁するもの増加し年と共に盛況を呈す。(4)工業。工業は縣下第一の生業にしてその産額は實に一七、三〇〇萬圓の巨額に達し、綿糸・織物・染料・メリヤス・指物・酒・製革・除蟲菊製品等を主要工業とす。これ等の大部分は和歌山・新宮・海南の三市にて生産せらるるものにかゝり、特に紀州本島の稱呼を以て全國に名聲を馳せたる綿糸の生産は我國第一に位し、織物も全額として第十一位を占む。また染料(除染)は京都府に次

ぎて第二位にあり、漆器は海南・新宮二市と有田郡湯淺町にて生産せられ、特に海南市に多く黒江塗の名を以て著され、産額は静岡・愛知・京都・石川・福島に次ぎ全國中第六位に居る。(5)交通。山地多く陸上交通は一般になほ便利ならず。和歌山市を中心と大阪・大和・淡路・高野・龍神・熊野等の六街道あり。この外縣内主要地よりは自動車を通ずるを程度とし道路幅員の擴張を行ひつゝあり、乗合自動車營業これに從ひて勃興し次第に交通の便を益しつつあり。鐵道省線は和歌山より起る紀勢西線は南岸周參見に達し、紀勢中線は新宮・串本間を運轉し遠からずして紀勢線の全通を見んとす。また和歌山線は紀ノ川筋を東に走り野河・橋本・磯田等を経て奈良縣に出で、社線と和歌山線は和歌山より那賀郡貴志に達し、有田便鐵道は湯淺町より御靈村に至り、その外電車には和歌山と大阪を繋ぐものに南海鐵道本線と阪和電線あり、和歌山・加太間に加太電線、海南市・那賀郡小川村間に野上電線、和歌山・海南市及び新和歌浦間に合同電線の電車運轉し、また南海鐵道高野線は大阪市より紀

ひ股懸なる商業區をなし、その北方紀ノ川邊の宇治、城東の新町は工場地域、城西の湯は紀ノ川に沿ひ吉野高野より紀ノ川によりて木材の集散地にしてまた製材行はれ、城南の吹上・雄賀は土地や高畑に學校等多く、その西の砂山には兵營置かる。官公衙には縣廳・地方裁判所・大阪地方專賣局販賣所・歩兵第三十二旅團司令部・歩兵第六十一聯隊等、また高等商業學校をはじめ、男女の各種中等學校設けらる。市は縣下交通上の要衝にして大阪・大和・淡路・高野・龍神・熊野六街道の起點をなし、鐵道には省線と和歌山線と和歌山線(明治三十一年設置)を起點とし、紀勢西線これより岐れて、市内に東和歌山線(大正十三年設置)を設け、また社線には大阪市に繋がる南海鐵道本線・阪和電線、加太町に至る加太電線、貴志に至る和歌山鐵道等ありて、みな本市にその起終驛を置き、合同電鐵は市内を貫きて南方海南市に通ず。市は縣下第一の工業都市にして明治初年全國都市に對して製造を開始し、紀州本島の名を博せる綿糸(三一〇〇萬圓)を第一に、染料(一五〇〇萬圓)・メリヤス(一、〇〇〇萬圓)・製革(五六〇萬圓)・建具(四四〇萬圓)・清酒(二二〇萬圓)・藥品(二二〇萬圓)・菓子類(二二〇萬圓)・機械類(二〇〇萬圓)等の生産あり、また木材の本場にして挽角・貫・榿木・板・榿丸等の製材盛に行はれ、その産額また二二〇萬圓に達す(以上昭和

十年の統計による)。農産には麥・大豆・甘藷・野菜等(一二〇萬圓)あるも工業産額に比すれば云ふに足らず。この地は古く若山と稱する寒村なりしが、天正十三年、豊臣秀吉紀泉兩郡を攻めし與父弟秀長に與ふ。秀長よりて築城を始め和歌山城と稱す。のち淺野氏を経て元和五年徳川家康の第十子頼宣入國し都市の面目完備するに至る。明治維新後、一時衰へしも市民の努力により舊態に復し工業の勃興と共に駭々として發展し、大正十年藩村の一部を、昭和二年に雄賀村・宮村を、同八年に鳴神・宮前・岡町・中之島・四箇郷・雄賀時・和歌浦町の七ヶ町村を併合、今の市域に擴大す。此間、紀ノ川改修の功始ど成り築港の實現も近き將來に期待せらる。(和歌山城)指定史蹟。市の略中央部、虎伏山上にあり一に竹垣城といふ。天正十三年豊臣秀吉が羽柴秀長を紀伊和泉に封じし時、藤堂高虎は羽田一庵を普請奉行として吹上の峯に築城せしめ、翌十四年秀長の城代桑山修理亮重晴により和歌山城と稱せり。のち淺野幸長と徳川頼宣相繼いで入城、元和七年と寛永六年兩度の大修により規模漸く整ふ。弘化三年藩雷し天守多門櫓一部焼失、當時幕府の制として天守再興は許さざりしが、特に請うて翌四年九月再興に着手十一月新初式を行ひ、嘉永二年十一月上棟、同三年六月一日御家堅御清祿の儀を行ふ即ち現在のものなり。斯く再建年代比較的新しきも概ね舊形によりし

ものにて、天守多門櫓の一部を完存するものとして城郭建築の規模見べき好個の資料なり。上層よりは和歌山平野一帯より、西に四國・淡路の山々、沼島・沖の島々、北に和泉山脈、南に長岑山脈を望み、展望闊大。城址はいま和歌山公園の一部となり、舊二ノ丸址には商品陳列所・工業試験所・圖書館あり、舊砂ノ丸址はグラウンドとなる。(鳴神貝塚)指定史蹟。鳴神町にあり。蛤・牡蠣等の貝殻の外、多数の土器・石器・鉄骨類が含まれ近畿地方の縄文式土器出土の貝塚として屈指の遺跡。(西濱の根上り松)指定天然記念物。西濱にあり。海濱の砂丘に生ずる黒松の根の高く現はれたるもの、幹の大なるもの数株あり。根上りの松として代表的なり。(日前・國懸神社)秋月町に鎮座。官幣大社。祭神は日前太神・國懸大神。例祭、九月二十六日。垂仁天皇御代に毛見村領ノ宮より遷祀す。今の社殿は大正十四年の造営。(刺田比古神社)片岡町岡山の東麓に鎮座。縣社。俗に岡宮といふ。社寶の徳川吉宗寄進の絲巻拵太刀は國寶。(東照宮)和歌浦に鎮座。縣社。徳川家康を祭る。元和七年藩祖徳川頼宣の創建。大正四年頼宣を祭りし南龍神社をも合祀せり。例祭、五月十七日、和歌祭とて頗る賑ふ。(天満宮)東照宮西隣の山麓にあり。現存社殿は慶長年間淺野幸長の再建にかゝる。本殿は桁行五間堂間二間、單層、屋根入母屋造繪皮葺、正面向井上に千鳥破風を設け、

伊見峠を経て、高野山下の九度山町に達し、こゝに高野山電線に連絡して高野町に至る。海上は大阪・神戸・名古屋間の定期船の縣内沿岸各港に寄航するあり、また和歌浦港と徳島縣小松島港間を神戸・大阪を經由して連絡する汽船の便あり。(清草)紀伊國の和歌山には徳川親藩の一あり、新宮・田邊には國老居りしが、明治維新後は新宮・田邊が藩所に列し藩と稱せしが、明治四年七月、一般に廢藩置縣の際、和歌山・新宮・田邊の三縣となる。尋いで同年十一月、以上の三縣を廢し更に和歌山縣を和歌山に置き、紀伊國の大部を管して今日に至る。(和歌山市)和歌山縣の首都邑。縣の北西部、紀ノ川下流左岸のアルタに位し、北は川を隔てて海草郡の湯・野時・捕見・有功・直川の諸村に對し、東南に西和佐・岡崎・三田・紀三井寺の町村を繞らし、西は紀淡海峽、南西はその支河和歌浦灣に臨む。東西約七・八軒、南北約九・四軒、面積三二・六方軒餘、人口約一八萬。和歌山城址のある虎伏山より南方の岡山・愛宕山・林葉山に連る砂丘の丘阜ある外は一般に平坦にして北半はやや南東より西北に傾斜す。東方和佐村より来る瀧層川(和歌川)は北部に於て一部は城深によりて西方紀ノ川に通じ、一部は市の中部を南下して和歌浦に注ぐ。元和五年に徳川頼宣入國以來、五十五萬五千石、御三家の一城下として繁榮せし處。市街はその城下を中心に發達し、城北は内町とい

郡に發し高田驛・吉野日驛・橋本驛・和歌山驛を経て和歌山市驛に終る。全長八九・三軒。外に大和二見驛より分岐し川崎驛に終る。一・五軒の貨物専用線あり。途中、高田驛にて省線橋本驛・社線大阪電氣に、吉野日驛にて社線大阪電氣に、橋本驛にて社線南海鐵道に、紀伊中ノ島驛にて社線阪和電氣に、和歌山市驛にて省線紀勢西線に、和歌山市驛にて社線南海鐵道・同加太電氣に各々接続す。

【和歌山鐵道】 弘設鐵道。和歌山縣の北部にあり。省線紀勢西線の東和歌山驛より分岐し、日南宮驛・吉野・西山日驛等を経て貴志驛に至る。省線と連帯運輸し、動力は蒸氣・ガソリン、軌間は一〇六七米とす。

ワカヤマト 若倭 能登國(石川縣)の古地名。和名抄に珠洲郡若倭郷見ゆ。中世には歌けてワカヤマトといひ若山莊と稱す。其地いま若山村・飯田町・直村・正院村の邊に當るか。

ワカラ 輪韓河・和河羅河 ↓木津川(山城國) 徳島縣阿波國美馬郡の東部。吉野川左岸の地を占め、吹吹町の北に位し、東は江原町に、西は岩倉村に界す。面積五・九四方軒。北は一〇〇米餘の丘陵並びに南に低下し、その先に河成段丘を作り、更に南は吉野川北岸の沖積平地を占む。北部山地を切つて淡路南下し空谷をなして吉野川に合す。平地は農業盛にて米・蕎麥を産す。殊に蕎麥の産

行はる。 【飯上池】 大和國(奈良縣)の古地名。書紀、推古天皇の二十一年十二月この池を作ると見ゆ。大和志に池は葛上郡井戸村に當り、いま南葛城郡葛城村大字井戸なりとあり。

ワキガミノロ 掖上室山 大和國(奈良縣)の古地名。書紀、履中天皇の三年冬十一月、天皇營余市磯池に船を泛べて遊宴し給ふ。時に櫻花御臺に落つ。怪しみて此の時花の所在を捜さしめ之を掖上室山に得たり。天皇喜び給ひて宮名となし、營余磯宮といふ。この山はいま葛城郡秋津村大字室山にあり。

ワキサワ 和木澤村 福島縣岩代國安達郡の南部。本宮町の東に隣り、南は田村郡に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、東北部に岩角山(三三七米)聳え、村内概ね丘陵をなす。阿武隈川は村の西境を北流す。米・蕎麥・粟・粟藁・薪炭を産す。道路には村の中部を東西に通ずるもの、及び南部を東南に通ずるものあり。西方の省線東北本線本宮驛、東北方の小預町及び東南方の田村郡三春町へは各バスの便あり。大字和田は古名岩津野といふ。天正十三年伊達政宗の、仙道の大家と本宮高倉に對陣の際、此地より河を隘えて本宮に入りしこと成實記に見ゆ。

ワキノ 脇野町 新潟縣越後國三島郡の中央東部。西山丘陵の東山麓を占む。信濃川一支なる黒川に沿ひ、東は古志郡に界す。土地概ね平坦にして沃田開

ワキカ—ワキモ

は多し、山地は木炭を産したる牧牛を營む。市街は段丘上に開かれ、こゝを通りて東西に撫養街道通過す。市街には酒の製造業もまた盛の集散地なり。省線徳島本線は對岸穴吹町を通過し各方面にバスを通過す。古くは和名抄、美馬郡大島郷の内とす。古くは和名抄、美馬郡大島郷の内に於て嘗て郡役所を置かれたり。幕末の勤王家工藤剛太郎(贈從五位)は此地の人とす。【脇城】 大治四年十二月、藤原成成は讃岐守となり、其子章隆ここに據り子孫土家となり。文明中、其裔仲房は伊豫に去り、後三好長慶の屬とす。天正中、長曾我部元親の屬城となる。同十二年、秀吉の四國を伐たんとするや、此城に長曾我部新右衛門尉を置きて守らしむ。既にして四月、羽柴秀長・宇喜多秀次等の兵來り諸城を抜くに及び脇城もた風を望んで退散す。同十三年、蜂須賀家政は阿波に封ぜらるるや、稻田植元をして守らしむ。阿波九城の一たり、寛永年中に廢す。【八幡神社】 大字猪尻に御座。郷社。祭神、息長足媛命外二神。式内社。【最明寺】 猪尻にあり。古義直言宗。思沙門天立像(木造)一軀は藤原期作にて國寶なり。

ワキノサワ 脇ノ澤村 省線大船渡線の一驛(昭和八年設置)。岩手縣氣仙郡米澤村にあり。

ワキノサワ 脇野澤村 青森縣陸奥國下北郡の西南端。下北半島の西南端に位し、西は平館海峡、南は陸奥灣に面す。村内概ね丘陵をなし、脇野澤川は西北境に發源し、村の略中部を南東南に流る。海岸には山地迫り断崖をなす所多く、西北に大崎、西南に北海岬・牛頭崎等の突出あり。村の生業は水産業・農業・林業等にして、鮭・鱈・鱈干・同較鮎等の水産物、米・木材を産す。道路は村の南部を東方に通じ、東方大崎町へは約三四軒、自動車と定期船の便あり。南方青森市へは頻りに定期船通ふ。

ワキノタ 脇野田 新潟縣中頸城郡和田村の大字。省線信越本線の脇野田驛(大正十年設置)あり。

米を産し、また養蠶も行はる。山陽本線及び縣道は村の東部を南北に走り、バスは岩國町に通ず。古くは和名抄、玖珂郡石國郷の内に當る。明治三十二年に小瀬川村の大字和木・瀬田・關ヶ谷を以て本村を建つ。

ワキカタ 脇方 省線京極線の一驛(大正九年設置)。北海道釧路國釧路郡東俱知安村にあり。

ワキガハタ 脇ヶ畑村 滋賀縣近江國犬上郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し、彦根市の南部より約七軒東にあり。東部は山脈を越えて岐阜縣養老郡と界す。東境には鈴鹿山脈が西北より東南の方向に連り、南境より西境にかけては、之より西方へ並び更に西北方へ連る山嶺ありて村境を限り、中部は南境の高室山より北へ山地が狭がり、北境に鍋尻山を起し、一帯に高嶺にして低地乏し。主生業は木炭焼が行はれ薪炭材多し。未作行はるるも、村内の需要をみたすに足らず。山中の僻村なるため交通不便なり。古くは丹谷村と共に丹谷郷と稱せらる。美濃に通ずる間道ありて鳥津越といふ。即ち關ヶ原役に鳥津義弘の脱出してこの峠を越えし故に起ると云ふ。

ワキガミ 掖上 【掖上村】 奈良縣大和國南葛城郡の東北部。御所町の東南に隣り北と東は高市郡に接す。南境に國見山(二一九米)がそびえ北隅にも小丘あり。其他は地形低平にして東境に沿ひて曾我川が北流す。田畑

よく折けて米・蕎麥を産し實業の産額多し。中央には東西に縣道が通じて御所町へ走り、省線和歌山線は中央を西北より東南に貫き壺坂驛(明治二十九年設置)あり。和名抄に葛上郡桑原郷とあるはこの地に於て、即ち第五代孝昭天皇の皇居掖上池心宮のありし地とす。應神天皇の御宇、秦始皇の齋藤通王(弓月にも作る)百二十七縣の領姓を率ゐて歸化投住せし地とす。大字本馬の南、柏原に至る小丘を往古の噺問丘とす。一に國見山といひ神武天皇の三十一年、天皇この丘に登りて國狀を廻望し給ひし所。本馬は即ちホホマの轉訛せしものならん。大字茅原は修驗道の開祖役小角の故里なり。いま吉祥草院五條寺を存す。小角の開基と稱し其遺像を置く。【玉手丘上陵】 孝安天皇の御陵。大字玉手にあり。御陵形圓丘。御即位の百二年正月九日崩御。九月十三日奉葬。古事記に「御陵在玉手岡上(也)」といふのみにて陵を示さず。日本書紀は「玉手丘上陵」に葬るとありて、始めて陵名を擧ぐ。延喜諸陵式は書紀に従ひ陵名を掲げ、現在これを用ふ。延喜式によれば「兆城東西六町、南北六町、守戸五烟」にして、遠陵に葬す。中世は陵の所在不明に歸し、元祿以來處々檢討せられ、初め室村の一古墳を擬せし如くなるが、歴帝陵の一本及び大和志の現在の所を推して以來定説となり、幕末修陵の際に大いに修治を加へ、その竣工に當り慶應元年三月十二日、廣橋右衛門督を遣し修陵奉

を従すや、富山より光を發して賊軍の近づくを防ぎたりといふ。のち曾養倫牧、菩提寺三世の一翁芳純を請じて現宗に改む。本尊、千手十一面觀音。

ワキモト 脇元村 青森縣陸奥國北津輕郡の北部。津輕半島の西北部に位し東北は東津輕郡に接し、西は日本海に面す。東北境に四ツ瀧山(六七〇米)聳えて西南に傾斜し、北境には板割山(一七八米)聳ゆ。全村概ね山地をなし、磯松川は東北部に發源し、村の中部を西南に流る。海岸は平直にして砂浜をなす。米・木材・水産物を産す。道路は海岸を南北に通じ、南方の五所川原町へ約三四軒。社線津輕鐵道津輕中里驛へは約一八軒。各バスの便あり。

ワキモト 脇本村 秋田縣羽後國南秋田郡の西部。男鹿半島の南部に位し、東は船越町に、西は船川港町に接し、南は日本海に面す。西北境に寒風山(三五五米)聳え、東方に傾斜し、村の西部は山地をなすも、東部は平坦にして水田拓く。村の生業は農業を主とし、米を産す。他に石材(安山岩)・天草などの特産物あり。船川街道は村の南部を東南に通じ、男鹿街道はこれより分岐して村の東部を北に向ふ。省線船川線本驛(大正三年設置)を置く。本村附近に露出する砂質頁岩を脇本層と呼ぶ。上部は殆んど砂層を挟み塊狀砂質頁岩より成り、下部は薄き砂層を挟む。厚さ六〇〇米、下位は北浦層に、上位は鮎川層に接す。また

ワキミサキ 脇御村 長崎縣肥前國西彼杵郡の南部。長崎港外の野母半島の先端近く橋邊に面す。全村殆ど結晶片岩より成る丘陵地、海岸は脇御の砂嘴と其の先端の島とを見る他、平直にして山陽海に迫るの地形にて全く備地を缺く。これ半島に併行せる斷層線が存在により陥没せしもの、斷層海岸なり。脇御は一のトンボロ内の小嶺地、對岸の小島半島は沿岸汽船の寄港地、其間に通船の往來あり。半島との間の海峡には小島・中島あり、また里平瀬・甲ノ瀬・平瀬等の散在し強風に際しては航路自由ならず。殊に野母岬より半島近海に至る間は平時も波浪高く航海の難所たり。西方野母は野母灣奥に位する自然の備地にて長崎との間に毎日定期船を通ず。長崎へは陸路野母に出で、野母より乗船するか、又半島より海路による。陸路は縣道の他見るべきものなし。生業は半農半漁、特に漁業は樺島・野母と共に沿岸漁業行はれ多く長崎に送らる。脇御の集落は砂嘴上に建てられしもの、其の發生は漁村または交通的要素として起りし所ならん。また集落の附近に曾行基の開基による肥の御前開通山觀音禪寺あり、元亨釋書・體源抄等に記載す。遠近よりの參詣多く、村は之によつて世に著る。太宰管内志に云「風土記の浮穴郷は長崎以西の野母半島の地ならん」と其の沿革明ならず。(觀音寺)曹洞宗。開通山と號す。和銅二年に行基の草創と傳ふ。弘安四年に高麗兵の對馬

を従すや、富山より光を發して賊軍の近づくを防ぎたりといふ。のち曾養倫牧、菩提寺三世の一翁芳純を請じて現宗に改む。本尊、千手十一面觀音。

を従すや、富山より光を發して賊軍の近づくを防ぎたりといふ。のち曾養倫牧、菩提寺三世の一翁芳純を請じて現宗に改む。本尊、千手十一面觀音。

ワキカ—ワキモ

この附近より寒風石を出す。黒色緻密の安山岩にて、寒風火山の熔岩と其岩塊なり。土木用、墓石として用ひらる。村内に藤本城址あり。一に太平城といふ。元龜・天正の比、安東五郎傳季の居城す。天正年間、城介實季これを攻略す。城址は承應二年の海海、文化七年の大震等に海中に没せり。

ワキヤマ 脇山村

福岡縣筑前國早良郡の東南隅。北隅は福岡市の西南部に接し、東は筑紫郡に、南は佐賀縣神埼郡に界す。南境には香振山脈が西北より東に連りて縣界をなし、其中央に香振山(一〇五五米)聳ゆ。香振山より東北へ連る山嶺は東境に達し、更にこより東南に連りて郡界をなす山脈は西北部一帯と東南隅との分水嶺をなし、那賀川はここに發して東南流し約三軒先にて北折し福岡市を流れて博多灣に注ぐ。北隅に油山(五九二米)一帯の山地ありて西南へ傾斜す。中央北隅には平野開け西隅の内野村の低地に續く。産物には米・麥・繭・木村・薪炭等あり。福岡市へバスを通す。古くは和名抄、早良郡曾我郷の内とす。もと郷名と呼ばれ、脇山郷と稱したり。近くは大正天皇、大嘗會の主基齋田と定められし地なり。

ワク 和久

丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡和久郷あり、中世には和久莊といふ。其地いま福知山市の南部に當り、同市の大字に和久寺・和久市等の和久は郷名の遺稱を語るものなり。

ワケ 和具村

三重縣志摩國志摩郡の南部。御座半島の中央に位し北は英虞灣に南は太平洋に面す。地形は臺地狀の丘陵地にて南岸は單調にして岩礁多く北岸は稍々屈曲多し。主部落は南岸にあり。漁業を主産業とし沿岸漁業最も盛にて遠洋漁業これに次ぎまた養殖漁業(七萬圓)も行はる。産物は鮫・鰯・鰯・鰯・海産類等にして年額十六萬四千圓を産し、特産物に眞珠玉ありて六十七萬五千圓を出す。英虞灣北岸なる社線志摩電氣鐵道の賢島驛へ巡航船の便あり。

ワクツ 涌津村

岩手縣陸奥國西磐井郡の南部。若柳町(宮城縣)の東北約七軒。西南は宮城縣に接す。陸奥平野の北部なる迫川低地帯の北邊をなし、村の中部に雷神森ありて丘陵南北に連り、迫川一支の夏川は西境を南流し、北上川一支の金流川は東境を東南に流れ、各沿岸に耕地拓く。米・麥・大豆を産す。道路は東部を東南に通じ、西北方の東北本線花泉驛へバスの便あり。古くは和名抄、磐井郡仲村郷の内なり。

ワクヤ 涌谷町

宮城縣陸奥國遠田郡の略中部。小牛田町の東に隣り、東南は桃生郡に接す。陸奥平野の中部なる大崎平野の東部に位し、東南部に花勝山の麓ゆるほか全村概ね平坦にて江合川は北部を東南に流る。米・麥・繭等の産あり。道路は北部を東南より西北に通す。省線石巻線の涌谷驛(大正元年設置)を置く。古くは和名抄、小牛田郡牛甘郷の内とす。

【和氣(郡)】伊豫國(愛媛縣)の古郡名。日本靈異記には伊豫別郡とあり、天平十九年法隆寺資財帳に和氣郡名見ゆ。中世また和介部にも作る。和名抄は和計と註し、高尾・吉原・飯原・大内の四郷を管す。明治三十三年に附近の數郡と共に温泉郡に合す。

【和氣村】愛媛縣伊豫國温泉郡の西部。松山市の西北方約五軒に位し、南西は三津濱町に、東は堀江・洞見二村に界し、北は堀江灣に面す。西部には一〇〇米餘の丘陵南北に起伏して中央に傾斜し、東は松山平野の北部を占め低平肥沃なる平地をなす。北岸は單調なる砂海岸をなす。中央に入江あり。平地は耕地よく拓けて農業盛なり、米作を第一とし麥を産す。堀江村より縣道來りて中央を東北より西南に貫通して三津濱町に至る。省線豫讃本線は中央を南北に縱貫し、伊豫和氣驛(昭和二年設置)を置く。三津濱町へバスを通す。古くは或は和名抄、和氣郡吉原郷の内か。(勝岡八幡神社)大字大山寺に鎮座。郷社。祭神、小千御子外四神。例祭、十月五日。(大山寺)大字大山寺にあり。新義眞言宗智山派。護持院と號す。當寺は四國通路第五十二番の札所にして、用明天皇の御宇、豊後の眞野長者が觀音の靈驗を得て創立し、天平勝寶元年、行基菩薩、聖武天皇の勅を奉じ、十一面觀世音立像・四天王像を彫刻して納む。のち後三條・堀川・鳥羽・崇徳・近衛・後白河の帝みな同形の十一面觀世音

と馬場谷地村と稱す。天正十九年伊達氏の一門眞理元宗、眞理郡よりこの地に移り、慶長十九年その子安藏定宗、姓伊達氏を賜はり、其孫、安藏重宗に至り二萬二千餘石を食む。爾來子孫相繼ぐ。

【和倉町】石川縣能登國鹿島郡の中部。七尾灣西側に臨む。七尾町の北西約一〇軒にして七尾灣西・南兩灣を分つ石崎半島の西半を占め、尖端に和倉温泉あり。背後に低き丘陵を負ひ前面に能登島の翠巒を望み静波寄する處、風光明媚を以て知らる。西南部灣頭には低地も開け水田あり。米を主産し、建具の特産あり。省線七尾線は略中央を東西に貫き和倉驛(大正十四年設置)を石崎村の地に置き、田鶴濱驛(昭和三年設置)を町内に置く。また七尾町・鳥屋村より縣道來り更に灣岸を北走して穴水・宇出津等へ通す。七尾町よりはバスの便あり。海上舟運の便多し。昭和九年に鑛村・田鶴濱村・赤蔵村を合して和倉町を建つ。(和倉温泉)無色透明の食鹽泉にして療養並に行樂向。もと涌浦と呼び約千二百年前、平城天皇の御代、圓山、藥師嶽の西溪湯谷より湯が湧き、これが天正年間、地震のため閉塞されて海中に轉じ、のち海を埋め温泉場の面目を呈するに至る。

【和氣】美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に勝田郡和氣郷あり、中世は和介莊、また和氣莊にも作る。その地はいま南和氣村・北和氣村に互る邊をいふ。

ワケ—ワサ

ワケ 和氣

岡山縣十九郡の一。備前國の東南隅。瀬戸内海に南面し、前面海上の鹿久居島・鴻島その他の小島を含み、東は兵庫縣、北は美作國に界す。西は吉井川を以て赤磐郡に、西南は邑久郡に隣接す。面積三七三・八八方軒。人口四八二・二八。香登・伊部・片上・日生・三石・和氣の六町及び十二箇村より成る。吉井川西境を南流し、一支流は郡中を西に貫流して之に合し、沿岸に廣潤なる平地を有す。南部また海岸平野を存し、共に耕地多し。北部に山脈東西に連りて妙見山(五一九米)等聳えて地勢高く、東境にまた山地縱走す。船坂峠を以て古來兵庫縣との唯一の交通路となせり。地勢東北部より西南方に傾斜す。和氣町は西境吉井川の本支流流域に發達し、三石町は船坂峠の西麓に存す。共に古來美作・播磨・備前・備中國間の交通路として榮えし地なり。片上・伊部・日生・香登は何れも海岸に相連れり。片上町は片上灣に臨み、片上線を以て山陽本線との連絡を有し、物貨集散の要港市たり。一般に農業盛んにして米・麥・繭・柿・梨・薄荷及び酒類等の産多し。東北山地は山林地に屬し、木炭を産す。山田村には辨柄製造會社あり。三石町は煉瓦・磁石製造、伊部町は伊部機(備前機)の産地として知らる。省線山陽本線は船坂峠より郡の中央を東西に貫通し、三石・吉永・和氣驛を置き、また社線片上鐵道は片上驛・清水

平野面には農業盛にて、米・麥・菜種・粟・粟・柿を産す。交通路は北部に中仙道が東西に通じ、東呂久の渡より此地を通り西赤坂宿に至る。本村は鎌倉時代は津布良開發御厨と云はれ、神風抄にその名見ゆ。此の地域は河川に挟まれ低湿地たりしが漸次開發されし事を知るべく、開發とはこの干拓による開發を意味するものなるべし。開發は上開發と下開發に分れ各々新田を持ち、下開發はもと二木庄に屬す。曆應四年八月七日攝津郡頭親秀の讀狀に「後家分美濃國開發御厨云々」と見ゆ。大島は島地名にて開發當時に川島をなせしものと見え、郡村記には柳瀬庄とあり、攝津郡頭親秀讀狀には「忠領能直分美濃國柳瀬庄云々(瀬瀬大島)」と記す。大字の津は古くは津不良または津布良とも書き、神風抄にも「美濃國津布良開發御厨(内宮)但建久以後神領」と記し、東鑑にも「建久三年十二月十四日壬子一條前實門書狀參着、云々、美濃國小泉御厨津津不良領云々」と見ゆ。江戸時代は何れも大垣藩領たり。(八幡神社)大字上開發に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。例祭、十月十五日。

【和佐村】和歌山縣紀伊國海草郡の東部。和歌山市の東約一軒にあり、東部は那賀郡に界す。南部には小丘あり、東南隅は城ヶ峯(二五五米)の山地なり。中部・北部は平野にして北境を紀ノ川が西流す。低地は耕地よく拓け柑橘の産多く繭・米等も出し林産・工産もあり。中

立像を納む。以上六編は國寶たり。のち寶類せしが、加藤嘉明・松山城主松平家の歸依厚く、以て明治維新に至る。仁王門・本堂も國寶。詠歌「たいさん(登れば汗のいでけれど後の世おもへば何の苦もなし)。(圓明寺)大字和氣鎮にあり。新義眞言宗智山派。須賀山正智院と號し、四國八十八ヶ所第五十三番札所たり。寺傳に、天平年間、行基の草創して自作彌陀如來像を安置し勸願所と定めらる。後ち空海諸國巡錫の途、來りて當寺を再興すといふ。文政年間、東大寺遷座は當山に掛錫して八宗綱要を著すと傳ふ。爾來兵火相踏ぎて一山概ね烏有に歸せしが、寛永十年、須賀重久は現地に寺宇を再興す。同十三年、御室宮一品覺深親王は令旨を賜ひて仁和寺末となり、須賀山正智院の號を下賜せらる。文政九年總法務宮より令水堂金剛院の下文あり、明治四十二年、堂宇を改修し、同四十二年現狀に歸す。御詠歌「來迎の彌陀の光の圓明寺でりそふ影は夜な夜なの月」。

【和合村】岐阜縣美濃國安八郡の東部。大垣市の東北二軒。西濃平野の中部に位し、北は揖斐川の支流が東に揖斐川の本流(呂久川とも云はる)が南流し、高度は低し。水害も多く、輪中地域にありて大垣輪中の内たり。産業は

【和氣(郡)】伊豫國(愛媛縣)の古郡名。日本靈異記には伊豫別郡とあり、天平十九年法隆寺資財帳に和氣郡名見ゆ。中世また和介部にも作る。和名抄は和計と註し、高尾・吉原・飯原・大内の四郷を管す。明治三十三年に附近の數郡と共に温泉郡に合す。

部・北部には東西に縣道が走り之等と交又して南北に通ずる縣道ありてマスの便あり。省神和歌山線は北部を横断し布屋驛(明治三十二年設置)あり。和佐は古く庄名に呼ばれた。南山巡狩録に正平六年、紀伊國布屋郷地頭職を二見太左衛門大夫に下し賜ふと見ゆる布屋郷は大宇布屋にして、書紀、安閑天皇二年の條に「置紀國經海屯倉」とある經海もこの地とす。(福宜嶺山)大字福宜に本據を有す。鐵道は富村と東山東村とに跨りて三六萬餘坪、鐵道は鋼酸化鐵にして、昭和十年には鋼鐵四三七延(價額一萬四千餘圓)を産出し、同年六月末の鐵道敷は四一人、現に重要鐵道に列し、福宜鐵業會社の採行に係る。

ワサ 和射

阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に那賀郡和射郷あり、諸本調を缺くも高山寺本に射讀んで左の如しとあるによりワサと調す。いま立江町・羽ノ浦町・坂野村の地に當るか。

ワサ 和佐

和歌山縣日高郡丹生村の大字。省線紀勢西線の和佐驛(昭和五年設置)を置く。

ワサタ 種田村

大分縣豊後國大分郡の中部。大分川の南岸に沿ひ、大分市の西南に接す。南部の中央は細く南へ突出して東種田村と野津原村との間に侵入す。西部は山地の東北斜面をなし、高燥地なり。南部の侵入地には中央に靈山(五九六米)が聳ゆ。東北にも稍々丘陵あり。北境に沿ひて大分川が屈曲しつゝ、

東々北流し、沿岸に平野開け殊に東中に廣し。その一支流は南部を貫きて東北流し東境に出でて之に沿ひ更に屈曲しつゝ、東北して大分川に合す。沿岸平野よく發達す。田畑よく拓けて米・麥・蕎麥を産しまた木炭を出す。大分市より直入郡竹田町方面に至る縣道が本村を貫き、中部にて之より分れて西走し玖珠郡玖珠町方面へ至るものあり。省線久大本線南大分驛・買來驛・向之原驛は共に遠からず。古くは和名抄、大分郡種田郷の地なり。中世は種田庄と稱す。

ワサミ 和野見・和射美

美濃國(岐阜縣)の古地名。書紀、天武紀に和野の地名見え、高市皇子不破關に至りて此の地に屯して軍を置すとあり。其の地詳かならず。不破郡關ヶ原町の中なるべし。和射美原・和射見野は此の地を云ひしものにて、萬葉・一「わかみ」子が笠の借手の和射見野に吾は入りぬと妹に告げこそ」とあり。

ワシ 鷺

【鷺ヶ岳】一に伊地知山・伊地知山とも云ふ。福井市の北東方約一六軒、福井縣大野郡北郷村と吉田郡淨法寺村との境上に峙つ、標高七六九米。北頭龍川は南麓を西流し、これに沿ひて勝山街道と京和電燈越前電氣線と並び通す。川を隔てて南方に大佛寺山(八〇八米)對峙す。この地は如時佛の據りし所と傳ふ。

諏訪湖の北東方約一〇軒、長野縣諏訪郡下諏訪町と、小縣郡和田村との境上に峙つ。北西方に和田峠(最高點一五三二米)續き南東方に霧ヶ峰連り、霧ヶ峰との中間に霧ヶ池あり。南東斜面一帯は冬季スキーゲレンデとして名高し。和田峠より霧ヶ峰・霧ヶ峯を経て上諏訪町に下るか或はこの反対コースは冬季のスキーツアー・春秋のハイキングコースとして好適なり。

ワシ 和地

愛知縣瀧美郡にありし村。明治三十九年に外二箇村と共に廢され、伊良湖村を置く。

ワシアイモリ 鷺合森

田村(岩手縣)

ワシウ 鷺羽山

岡山縣児島郡下津井町の東に、南方海上に突出する牛島狀臺地にして、全山花崗岩より成り、風化水蝕作用により山骨露出し赤褐色を呈し奇岩點々として屹立す。巨岩に老松を配せる鍾秀峰を以て最高となすが、山上一帯は四圍の展望廣大にて、南方遙に讃岐富士を始め四圍の連山を望み、海上に瀬居島・與島・岩島・釜島を收むる景観は屋島・新開島の展望に比肩すべく、新興の勝地として近年夥しく探勝者を迎ふるに至る、いま一帯は指定名勝たり。鷺羽山の東南に延びる久須美峠に抱かれたる大滝・小滝の兩海岸は好海水浴場として賑ふ。西羽山麓には旅館あり。下津井鐵道・自動車または下津井港より船にて達す。

高知縣土佐國安藝郡の西南部。安藝町の西方約一〇軒にあり、西は西分・馬ノ上の二村に界し、北は香美郡に隣接し、南は土佐郡に面す。東北部は高取數百米の山脈南北に走りて西南に傾斜して低下し、その西部に南流する和食川下流の沖積平野開く。平野は肥沃にして平坦なれば農業盛に行はれ、米・蕎麥の産多し、また麥・蔬菜の栽培も行はる。水産業も行はれ鰯・鯉等の漁獲多し。馬ノ上嶺山の鐵道は富村及び馬ノ上村・赤野村に跨る。同鐵道の鐵道は全銀鋼なるが、現在のところ振はず。海岸に並行して縣道と社線高知鐵道が東西に貫通し、西南隅に和食驛(昭和六年設置)あり。また分れて北に走る縣道あり。海は土佐灣沿岸汽船の寄航地なり。和名抄に安藝郡和食郷あり、和之岐と註す。元祿檢田帳には和食郷とあり。その地いま本村を初め西分・赤野・馬ノ上諸村に互り、本村はその本庄たり。長曾我部元親の安藝國征伐の時はこの地を擄りし。

ワシキ 和食村

海線・一〇・六五〇・右田村八丈夫の云へらく、今用ふる神樂の十二座など云へる舞は、土師の舞とし大方百五十年計も前方に出て來にけるなり、と云へり。土師といへるは、武州幸手宿のわきに、土師の宮あり、そこにて始まる也。

ワシベツ 鷺別

北海道釧路國別郡輕原村の大字。省線室蘭本線の鷺別驛(明治三十四年設置)あり。

ワシマ 輪島町

石川縣能登國鳳至郡の北海濱。能登半島北部に於ける首邑にて背後に丘陵を負ひ河原田・風雨兩河の合して海に注ぐ。西側には輪島岬海上に突出し小海を抱く。町は商工業盛なる地域と漁業を營む部落とに分れ、古來堅牢を以て世に名高き輪島塗の産地にして其の産額は年三百萬圓に達す。原料の漆はもとこの地方に産せしが、今日に加賀・越前・大阪・奥羽或は支那等より求められたる製法のみ尙傳へらる。之に次いで水産類多く町内海士町は北方海上の輪島(輪島町に屬す)に渡る海士の部落なり。また養蠶・牧畜・林業も行はれ、素麩・糠餅子等の名物もあり。省線七尾線(終點輪島驛(昭和七年設置)あり、七尾・富來・飯田各町より縣道來り穴水・門前その他へパスの便あり。海上舟航の便あるも冬季は北西風に妨げらるる多し。近年港は築港工事が施され第二期工事を終り、第三期の工事が着手に努力しつゝあれば完成の曉は益々隆盛を見るべし。此地は古くは和名抄、鳳至郡小屋郷の内

ワシキ 鷺敷町

徳島縣阿波國那賀郡の中部。北は加茂谷村に、東は桑野村・新野町に、南は延野村に界し、西は相生村及び勝浦郡に接す。面積三〇方軒余。四國山脈東部の山中を占め、北には大龍寺山その他數百米の高峰聳立し、東西兩部にも連峰並走し山岳廣く蟠居して中央に傾斜し高燥狀をなす。那賀川中流南方よりこの中央低地を屈曲しつゝ北流し流域に耕地を拓く。東部は荒地をなす所多く北西部は森林繁茂す。耕地は米・蕎麥を産し山地よりは木村・木炭を出す。東方より來る縣道は中央平地の主要市街和食を通りてその西方より南走す。自動車の便あり。明治四十一年町制を布く。古くは和名抄、那賀郡山代郷の内なるべく、また一に和食にも作れり。(野子神社)大字和食に鐵座。郷社。祭神、天照大神外二神。例祭、十月十日。

ワシキ 鷺津町

靜岡縣遠江國濱名郡の南西部。東に新居町、南には白須賀町・新所村あり、東北は濱名湖に面す。町域の南部は百米以下の第三紀層より成る丘陵地にして、南方は遠州灘の海蝕により傾動地塊を呈す。北流する必從谷により開析され、南北に續く沖積地あり。濱名湖岸に於ける養魚・蘭草等の

ワシキ 鷺塚

愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村外二村を廢して旭村を置く。

ワシキ 鷺取

參河國(愛知縣)の古地名。和名抄に碧海郡鷺取郷あり、和之止利と註す。延喜兵部省式に參河國鳥捕驛々馬十疋、傳馬五疋と見ゆるは此の地にして郷にして驛を兼ねるものなり。而して鳥捕は鳥捕の驛にして郷名鷺取と同意義なるべし。その地いま三河國碧海郡矢作町より上郷村に互る地をいふか。而

とす。中世、大屋庄小屋ノ海といひ長谷部信連この庄を賜はる由、東鑑・盛衰記に見ゆ。舊郡役所のありし所。(船倉島)本町の屬島。周圍僅に六軒、輝石安山岩より成る孤島にて地は頗る平坦、最高丘も海拔僅に二米に過ぎず、しかし一箇の火口狀の窪地ありて不思議にも淡水に恵まる。島の附近一帶の淺瀬には海藻繁茂し魚族も豊富なれども、冬季は氣候酷烈にて漁業不可能なり。その爲夏季のみ海士が半島より渡り、ここに始めて棄落世界が始り、冬季はまた無人島となり怒濤の眞つ只中に放棄せらる。春も終りに近づき北海の波やや鎮まる頃、海士の男女約七百人は輪島町の海士町を文字通り空虚にし、其家族は勿論、財産・饗祭・學校・僧侶諸共同舟し島に移住す。従來八十八夜の頃島渡り行はれ、二十十日を過ぎれば歸來せるものなるが、近年風の漁獲盛になりし關係上、その漁期の終る六月上旬渡海し十月下旬に引上ぐ。(重藏神社) 縣社。祭神、天冬衣命・大國主命。一説に式内風至比古神社に充つ。舊稱、重藏大權現・重藏宮。例祭、八月二十三日。(住吉神社) 大字風至町に鎮座。郷社。祭神、底筒男神外二神。式内社。文徳天皇仁壽年度、正六位上叙位叙任、後醍醐天皇永徳に至るまで數度叙位、從三位に進む。例祭、八月廿四日。

**ワシマキ 鷺巻村** 新潟縣越後國中蒲原郡の西部。白根島の北端を占め河口川・信濃川の合流點に面す。南北に細長く東西を大郷村・根岸村に挟まれ、數條の分流村内を北流す。土地一般に低濕にして米を主産する外、果樹の栽培盛にして越後梨の特産地なり。また花卉の栽培も行はる。信濃川の舟楫により新潟市へ通ずる外村道にて白根町へ通じ、また對岸の西蒲原郡黒崎村より新潟市へパスの便あり。

**ワシヨ** 和順 朝鮮全羅南道一府二十一郡一島の一。道のほぼ中央に位し、北は潭陽郡・光山郡、東は谷城郡・順天郡、西は羅州郡、南は寶城郡・長興郡に接す。面積七八八方軒餘、道内第四位の大都なり。東北一帯は山地にして白鶴山(八〇四米)・龜城山(五七三米)・無等山(一六七米)等々、一股東境を南に走り順天郡界に母后山(九一九米)を起し、龜城山・無等山また南方に支脈を連ぬ。南部にも廣き山地蟠り南境に斗峰山(六三〇米)・鳳尾山(五〇六米)、その北西方に華鶴山(六一四米)等あり。これ等兩山地は中央部に於て相連り雙巖山(五四五米)・天雲山(六〇二米)など屹立す。之に反して西北部は概れ低く、中部以西の水を聚めて砥不江が西流する處にやや廣き平地のみあり。また東部の諸水は開羅川となり山地間を蜿蜒して南流し、城外に出でて寶城江となり末は津津江に入る。砥不江流域には水田よく拓けて米を多産する外、農産物に大豆・豆類・棉花・大麻・薄荷等あり。其他煙草・藥材・蜂蜜・竹器・麻布等を出し、鑛産には石炭・金銀等あり。殊に石炭は同羅面・東面等に於て採掘される無煙炭にして近時の開發にかかる。砥不江に沿ひて鐵道慶全西部線通じ北より順南・和順・萬水・綾州・春陽・笠橋・梨陽・道林の諸驛あり。和順・寶城間の二等道路ほぼ之に並走する外、北部には光州より來り和順・同羅を連れて順天に至る二等道路通す。行政上、十三箇面に分ち、郡廳を和順面に置く。本部は大正三年、もと綾州・同羅の二郡を併合して新設せらる。

**ワシヨ** 和昌面 朝鮮平安北道渭原郡の略中央に位置し、郡邑渭原の東南方約一五方軒にあり。蓋馬嶺岩臺地の西北縁を成し西境に祭堂徳山・白姑徳山(一一八六米)等聳え、北境には楓峰(一三五五米)・白岩山(九八八米)等の峻嶺相連り、これ等四嶺山地の水は漢江を形成して流入蛇曲流し、東より來る渭原江に合して後城外に峡谷を造りて流出す。沿岸美事なる段丘の發達を見、耕地は概れ段丘面上に決定す。産業は何れも振はず隨つて生計困難なる者尠からず。産物は米産なく黍・大小豆を主とし燕麥・馬鈴薯・蜂蜜及び硯石等あり。道路は面邑大安湖を基點として北西方渭原、東南方廣川に通じパスの便あれども、其他は何れも等外路線にして途中觀崎・坂路多く交通・運輸困難なり。

**ワシヨ—ワタ**

**ワシヨ—ワタ** 和尙洲 日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。槍ヶ岳の北西約八軒に當り、東側は長野縣北安曇郡平村に、西側は富山縣上新川郡大山村に屬す。標高二九二四・二米。西斜面は黒部川の源流地にして、東斜面は高瀬川支流湯俣川の水源地なり。陸地測量部發行二十萬分一帝國地圖に鷺羽岳とあるは三俣連嶺岳にして、鷺羽岳はその北東約一軒に位す。山頂は南北に稍長く、南東面に火口湖鷺羽ノ池あり。池は周圍約三三〇米、清冽なる水を湛ふ。この山へは南方三俣

連嶺岳乃北西方野口五郎岳より縦走して登高す。三俣連嶺岳との中間鞍部に三俣連嶺の小屋あり、小屋より鷺羽山頂迄約一時間なり。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワシヨ—ワタ** 和尙洲 日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。槍ヶ岳の北西約八軒に當り、東側は長野縣北安曇郡平村に、西側は富山縣上新川郡大山村に屬す。標高二九二四・二米。西斜面は黒部川の源流地にして、東斜面は高瀬川支流湯俣川の水源地なり。陸地測量部發行二十萬分一帝國地圖に鷺羽岳とあるは三俣連嶺岳にして、鷺羽岳はその北東約一軒に位す。山頂は南北に稍長く、南東面に火口湖鷺羽ノ池あり。池は周圍約三三〇米、清冽なる水を湛ふ。この山へは南方三俣

**ワセタ 早稲田** 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の南部。江戸川の西岸にて、吉川町の東南隣にあり。東は川を隔てて千葉縣葛飾郡流山町と相對す。全村低地に於て殆ど沼田をなす。農業行はれて米を主産し、麥の産も多少あり。縣道縱横に通じ、吉川町及び西方凡そ六軒の北足立郡草加町等に通す。また對岸流山町との間には渡船の便あり。大字草房は松浦久左衛門幸房の開發に係るを以てこの名ありといふ。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワシヨ—ワタ** 和尙洲 日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。槍ヶ岳の北西約八軒に當り、東側は長野縣北安曇郡平村に、西側は富山縣上新川郡大山村に屬す。標高二九二四・二米。西斜面は黒部川の源流地にして、東斜面は高瀬川支流湯俣川の水源地なり。陸地測量部發行二十萬分一帝國地圖に鷺羽岳とあるは三俣連嶺岳にして、鷺羽岳はその北東約一軒に位す。山頂は南北に稍長く、南東面に火口湖鷺羽ノ池あり。池は周圍約三三〇米、清冽なる水を湛ふ。この山へは南方三俣

**ワセタ 早稲田** 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の南部。江戸川の西岸にて、吉川町の東南隣にあり。東は川を隔てて千葉縣葛飾郡流山町と相對す。全村低地に於て殆ど沼田をなす。農業行はれて米を主産し、麥の産も多少あり。縣道縱横に通じ、吉川町及び西方凡そ六軒の北足立郡草加町等に通す。また對岸流山町との間には渡船の便あり。大字草房は松浦久左衛門幸房の開發に係るを以てこの名ありといふ。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワシヨ—ワタ** 和尙洲 日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。槍ヶ岳の北西約八軒に當り、東側は長野縣北安曇郡平村に、西側は富山縣上新川郡大山村に屬す。標高二九二四・二米。西斜面は黒部川の源流地にして、東斜面は高瀬川支流湯俣川の水源地なり。陸地測量部發行二十萬分一帝國地圖に鷺羽岳とあるは三俣連嶺岳にして、鷺羽岳はその北東約一軒に位す。山頂は南北に稍長く、南東面に火口湖鷺羽ノ池あり。池は周圍約三三〇米、清冽なる水を湛ふ。この山へは南方三俣

**ワセタ 早稲田** 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の南部。江戸川の西岸にて、吉川町の東南隣にあり。東は川を隔てて千葉縣葛飾郡流山町と相對す。全村低地に於て殆ど沼田をなす。農業行はれて米を主産し、麥の産も多少あり。縣道縱横に通じ、吉川町及び西方凡そ六軒の北足立郡草加町等に通す。また對岸流山町との間には渡船の便あり。大字草房は松浦久左衛門幸房の開發に係るを以てこの名ありといふ。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワシヨ—ワタ** 和尙洲 日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。槍ヶ岳の北西約八軒に當り、東側は長野縣北安曇郡平村に、西側は富山縣上新川郡大山村に屬す。標高二九二四・二米。西斜面は黒部川の源流地にして、東斜面は高瀬川支流湯俣川の水源地なり。陸地測量部發行二十萬分一帝國地圖に鷺羽岳とあるは三俣連嶺岳にして、鷺羽岳はその北東約一軒に位す。山頂は南北に稍長く、南東面に火口湖鷺羽ノ池あり。池は周圍約三三〇米、清冽なる水を湛ふ。この山へは南方三俣

**ワセタ 早稲田** 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の南部。江戸川の西岸にて、吉川町の東南隣にあり。東は川を隔てて千葉縣葛飾郡流山町と相對す。全村低地に於て殆ど沼田をなす。農業行はれて米を主産し、麥の産も多少あり。縣道縱横に通じ、吉川町及び西方凡そ六軒の北足立郡草加町等に通す。また對岸流山町との間には渡船の便あり。大字草房は松浦久左衛門幸房の開發に係るを以てこの名ありといふ。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワシヨ—ワタ** 和尙洲 日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。槍ヶ岳の北西約八軒に當り、東側は長野縣北安曇郡平村に、西側は富山縣上新川郡大山村に屬す。標高二九二四・二米。西斜面は黒部川の源流地にして、東斜面は高瀬川支流湯俣川の水源地なり。陸地測量部發行二十萬分一帝國地圖に鷺羽岳とあるは三俣連嶺岳にして、鷺羽岳はその北東約一軒に位す。山頂は南北に稍長く、南東面に火口湖鷺羽ノ池あり。池は周圍約三三〇米、清冽なる水を湛ふ。この山へは南方三俣

**ワセタ 早稲田** 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の南部。江戸川の西岸にて、吉川町の東南隣にあり。東は川を隔てて千葉縣葛飾郡流山町と相對す。全村低地に於て殆ど沼田をなす。農業行はれて米を主産し、麥の産も多少あり。縣道縱横に通じ、吉川町及び西方凡そ六軒の北足立郡草加町等に通す。また對岸流山町との間には渡船の便あり。大字草房は松浦久左衛門幸房の開發に係るを以てこの名ありといふ。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。

**ワタ** 和太 愛知縣(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郷あり、その地いま石巻村邊に當るか。



【和田町】秋田縣羽後國河邊郡の中部。秋田市の東南約一、二軒。地勢東部及び東南部に高く、西方に傾斜し、西境また丘陵連りて東方に傾斜す。岩見川は村の西部を西南に貫流し、沿岸に耕地拓く。村の生業は農を主とし、米・木炭を産す。羽州街道は村の南部を東西に貫通す。省線奥羽本線和田驛(明治三十六年設置)あり。昭和十年町制を施す。古くは和名抄、秋田郡成相郷の内なるべし。一に式田宮崎といひ豊島家の領地なり。城内の八幡宮は豊島城主水森中勳請すと傳へ、また館址あり。相州三浦平氏和田氏の族類の居りし處といふも、履歴詳かならず。明治天皇、明治十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際この地にて御小休遊ばさる。(八幡神社)字和田に鎮座。郷社。祭神、仁徳天皇。正平二十年本郡豊島の城主某の創建と傳ふ。領主佐竹氏の崇敬篤く、寶永二年再建すと云ふ。例祭、陰曆四月五日。

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方を南北に通す。省線奥羽本線置賜驛へは約五軒あり。(高房神社)大字元和田に鎮座。郷社。祭神、武甕槌命外一神。光仁天皇御宇の創建。例祭、七月二十九日。

【和田村】新潟縣越後國中頸城郡の中部。北は高田市の南に新井町に接するその中間地帯を占め、東境を荒川、西境を矢代川共に北流し本村北端にて合流す。頸城平野の一部なる肥沃なる田地多く灌漑の便よく良質の米を多く産す。米作を主とする純農村にして、冬は雪深く畜工品等の副業に専念す。西部を南北に省線信越本線及び北國街道並走し前者の湯野田驛(大正十年設置)を置く。また高田・新井兩驛間にバスの便あり。(明治天皇石澤御小休所)指定史蹟。大字石澤字善中にあり。明治十一年、北陸東海運幸の際九月十一日御小休所となりし御假家の址にて、址地には大正二年十月建設に係る明治天皇御足跡之碑と題する碑あり。

【和田村】長野縣信濃國小縣郡の西南端。北は武石村、東は大門村、南は諏訪郡下諏訪町・四賀村、西は東筑摩郡入山邊村に接す。千曲川の支流依田川の上流にして東北に開く溪谷の村なり。西南には茶臼山(二〇〇六米)、三峰山(一八八七米)、東山(一九二五米)聳えて諏訪盆地・松本平の斜面との分水嶺をなし、北部には物見山(一九八五米)ありて全體として地勢東北に傾斜す。村の中央を中山道通じ、岩村田より下諏訪に佐久・諏訪兩盆地を連絡す。中山道は村の西南境にて和田峠(一五三一米)を越し、關所の舊址あり。村は山地多く耕地僅に依田川の溪流に沿うて存す。耕地面積四七五・三町(田二〇〇町、畑二五七町、うち桑畑二五町)、全面積に對する耕地率五・一%、山村的特色を示す。養蠶は本村農業經營の主體となるも、製炭および製紙を行ふ林業が主要産業なり。村は上和田・下和田の部落を中心とし、和田峠の嶺頂に近く小亭あり鮮屋と言ふ。和田峠五里八町の間宿次なき坂峠の東西に茶屋一軒宛作り、東西

部を南北に通す。省線奥羽本線置賜驛へは約五軒あり。(高房神社)大字元和田に鎮座。郷社。祭神、武甕槌命外一神。光仁天皇御宇の創建。例祭、七月二十九日。

【和田村】千葉縣下總國印旛郡の南部。北は佐倉町・酒々井町、東より南は八街町と隣す。全村丘陵地にて森林多く、北部を西流する小波の附近のみ狭き低地に於て沼田をなす。農業行はれて米を主産し、藁・麥の産も亦多し。縣道は東部を縦走し、北は酒々井町、南は八街町に通ず。省線總武本線また之に沿ふも村内には驛なく、酒々井町内の南酒々井驛に近し。古くは和名抄、印旛郡餘戶郡の地にして、大字天邊はその遺稱とす。

【和田村】福井縣若狹國大飯郡の中部。高濱町の東に接し、若狹河に臨む。南境には北西に東東北へ連る丘陵ありて南境を劃し北へ傾斜す。西北岸には平野稍々發達し此處より一牛島が東北方へ嶺を擡げて突出し小濱川の西部を劃す。牛島の西南端は本村の所属地にて西方へ傾斜面をなし北岸は断崖を呈し、南は小濱川の西南隅の一支流をなす。牛島頭部の北岸に主部落あり。水産・農産を主とし林産もあり。海岸に沿ひて丹波街道及び省線小濱線が東西に走り後者の若狹和田驛(大正十四年設置)あり。自動車の往來もあり。古くは和名抄、大飯郡木津郷の

【和田村】長野縣信濃國東置賜郡の西南端。北は武石村、東は大門村、南は諏訪郡下諏訪町・四賀村、西は東筑摩郡入山邊村に接す。千曲川の支流依田川の上流にして東北に開く溪谷の村なり。西南には茶臼山(二〇〇六米)、三峰山(一八八七米)、東山(一九二五米)聳えて諏訪盆地・松本平の斜面との分水嶺をなし、北部には物見山(一九八五米)ありて全體として地勢東北に傾斜す。村の中央を中山道通じ、岩村田より下諏訪に佐久・諏訪兩盆地を連絡す。中山道は村の西南境にて和田峠(一五三一米)を越し、關所の舊址あり。村は山地多く耕地僅に依田川の溪流に沿うて存す。耕地面積四七五・三町(田二〇〇町、畑二五七町、うち桑畑二五町)、全面積に對する耕地率五・一%、山村的特色を示す。養蠶は本村農業經營の主體となるも、製炭および製紙を行ふ林業が主要産業なり。村は上和田・下和田の部落を中心とし、和田峠の嶺頂に近く小亭あり鮮屋と言ふ。和田峠五里八町の間宿次なき坂峠の東西に茶屋一軒宛作り、東西

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

【和田村】山形縣羽前國東置賜郡の東南端。米澤市の東北約一、二軒。北に高島町、東に福島縣、南に南置賜郡に隣接す。面積五九・六九方軒。東境に豪士山(一〇二二米)、東南境に駒ヶ岳(一〇六一米)聳え、村の北・東・南の三境は山地連りて中央に傾斜し、天王川の一支流東境に發源し村の中部を西流して天王川に合流す。沿岸扇形盆地をなせり。村の生業は農を主とし、米・藁を産し、また牧畜行はる。松茸の産もあり。道路は村の西方

す。海岸は平直なる砂灘をなして松林廣く。産物には米・柑橘・蕎麥及び木産・畜産・工業等あり。縣道は東西に走りて西隣の三尾村と御坊町とを結ぶもの、御坊より之と並行して西走し來り、中部にて北折し志賀村に入るもの等あり。御坊町へはバスを通ず。〔御時神社〕郷社。祭神、天照大神・猿田彦大神外二神。例祭、十月十六日。

【和田村】鳥取縣伯耆國西伯郡の西部。夜見ヶ濱半島の中部にあり、西北は大笹津村、西は崎津村に、東南は富益村に界し、東は美保灣に面す。日野川デルタの西北方に延びたる一大砂嘴の東岸中央を占め、全村低平肥沃なる地をなす。海岸は單調にて砂防松林あり。西境に並行して米川流れ、灌漑の便よく農業盛なり。水田よく開け、また養蠶業盛なり。境街道と省線線は中央部を並行して縦貫し兼落發達す。往時この邊は切戸にして海水通ぜしが、のち閉塞して新田を墾き村落を成せりといふ。

【和田村】鳥取縣石見國那賀郡の東端。濱田町の東南約二五軒の山中に存し、東は邑智郡、南は都川村、西は今市村に接す。面積二二・一四平方軒。地形略々方形をなし、四周を山地に圍繞さる。南境に於て地勢最も高峻、稍々北方に傾くも海拔五〇〇米を下る事なし。東境山地に江川の一支流發して北流し、河谷に耕地存す。兼落は中央部に多く、附近山間の窪地に耕地拓く。村の周圍は概れ山林地

なり。米・麥・蕎麥・木炭・酒類等を産す。省線山陰本線濱田驛にバスの便あり。

【和田村】廣島縣備後國雙三郡の東部。三次町の東方に十日市町を挟みて相對し東北は比婆郡に界す。東南は三良坂町、西南は田幸・神杉二村に隣接す。面積二一・九五平方軒。海拔三〇〇米に近き山地が西北・東北部を蔽ひて山林地をなすも、馬洗川西境を流れ、上下川南境を西流して之に合流す。兩山地の中央より流域にかけて平地展開し、耕地大いに拓く。米・麥・蕎麥等の農産盛かにして、また酒類・木炭等を産す。省線備前線下和知驛(大正十二年設置)を有す。古くは和名抄、三郷郡三谷郷の地にして、中世和知郷と稱す。土家知和氏に即ちここに據りしものとす。和知氏は三谷郡の郡主にして、武藏より移り住すといふ。

【和田村】山口縣周防國大島郡の東部。屋代島の東部に在り、北は油田村、西は森野村に接す。北及び南は瀬戸内海に面し、北方前面に浮島と對す。西北は安藝多島海なり。面積五・七七平方軒。地形東西に長く南北に短く、村内は東西に連る山地を以て蔽はれ、海岸に稍々平地を有す。氣候温暖にして播種栽培に適するを以て、山麓より海岸にかけて田畑多く米・麥・柑橘類の産多し。また水産物・蠶物・繭等を産す。縣道は久賀町に通じ森町へはバスの便あり。〔筏八幡宮〕大字厨子に鎮座。郷社。應神天皇・神功皇后・仲哀天皇を主神とし、相殿に天照皇大神

等七柱を祀る。當地方の守護職橋四郎の鎮祭に係るといふ。もと領主より除地一石五斗を寄せらる。例祭九月十五日。

【和田村】山口縣周防國佐波郡の東端。東及び南は都濃郡に界し、北は串村、西は島地村に接す。面積四一・〇九平方軒。千石岳(六三〇米)の南麓に在り、地形南北に伸び、東西に短し。山地四周を繞りて村内地勢概れ海拔三〇〇米以上の地を以て占めらるるも、佐波川は千石岳の麓に發して南流し山間に稍々河谷低地を開く。西南境島地村に注ぐ流域附近に耕地多し。他の大部は山林地に屬す。米・麥・蕎麥・木炭・牛・馬等の産あり。道路を以て山陽道に連し、省線山陽本線戸田驛・福川驛にバスの便を有す。

【和田村】徳島縣那賀郡の東部。那賀郡の東北端に突出せる嶺。幅東西一・五軒、北西に突出せること約二軒の砂嘴にて内側に小松島灣を抱き、灣内に小松島・赤石の二港あり。本砂嘴は那賀川の排出する砂土が沿岸潮流のため運ばれ、堆積して構成せるものにて扇形型をなし、外側潮流のため平滑なる曲線砂嘴となり、海拔六十七米、松林内側の緩傾斜地帯に洲端の半農半漁の兼落、和田島の農業部落あり。

【和田村】香川県讃岐國三豊郡の最西南端。北は豊濱町に、東は五郷村に界し、南は伊豫國に隣接し、西は瀬戸内海に面す。東南部には高取四五百米の山嶺連互して北に傾斜し、北は三豊平野の南部

の地を占め土地平坦にして肥沃なり。海岸は單調なる砂灘海岸をなす。中央部山麓に用水池あり。農業は粟にして米・麥を産し、また特産物として梨・葡萄・蜜柑・柿等の果實及び除蟲菊・薄荷等あり。國道は海岸に並行して走り省線備前本線また之に並びて縦貫し箕浦驛(大正五年設置)を設く。古くは姫江郷の内とす。〔國祐寺〕本門法華宗。雲風山。永祿五年、土佐國吾川郡城主大平伊賀守國祐に破れ、各地を轉々當地に來り當寺を創建す。當初、光明毘盧舍那寺といひ眞言宗なりしが、天正六年本宗に改め現寺號に改む。本尊、十界勸請曼荼羅。

【和田村】高知縣土佐國幡豆郡の西南部。南は宿毛町に接し、西は南宇和郡に隣接す。轉多山地の西端を占め、高取三十四百米の山岳聳居して西北に高度を増し麓山に至る。東南には白鳥山あり、東北隅より松田川風流しつづつ中央部に向ひ流れ宿毛町に至り、南部にて西方より來る窪川に入る。河川の流域は耕地多く拓けて農業行はれ米・繭の産特に多し。山地は林産豊富にてまた好牧場地をなし牛・豚の飼育盛なり。宿毛町より分岐して北上する縣道は何れも河岸を利用して開け、一は西方南宇和郡に、一は北隣に、一は山地を横切りて中村町に至る。〔正八幡宮〕大字二ノ宮に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姫命。古來當村の内川原高田部落の産土神たり。領主長曾我部氏の崇敬あり。例祭、七月

十一日、十月廿一日。〔八坂神社〕大字和田に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊。例祭、七月廿八日・十月十八日。

【和田村】大分縣豊前國下毛郡の東北部。中津市の東に隣りて、北は周防灘に臨む。全村地形低平にして水田に富む。米・麥の産多し、また水産もあり。南隅を掠めて日向街道が過ぎ中部は縣道が横斷し、その南に省線日豊本線が東西に走りて大貞驛(四方約〇・五軒)に近く、街道にはバスの往來繁く交通至便なり。古くは和名抄、下毛郡野仲郷の内とす。中世は野仲氏の治下とす。大字田尻に間々崎なる砂嘴あり。豊前志によれば、萬葉集に出づる下毛郡分間崎は萬間崎の誤にして蓋し此處ならんといふ。

【ワタウチ 綿内村】長野縣信濃國上高井郡の西南部。信濃川の東岸に位置し長野市と須坂・松代の二町よりほぼ同距離にあり約七軒にて達す。東北は井上・高市郡の二村、西南は保科・川田の二村に接す。善光寺平の東南縁部にありて、東南は山地にして明徳山(二九四米)・太郎山(九九七米)あり。これら山地の善光寺平に臨む部分は急崖をなし須坂・松代間層崖なり。斷層崖はいま可成り侵蝕による開析が行はれ、開析の入りが生じ、山新田・清水・大柳等の兼落はその侵蝕谷底に發達せるものなり。而して之も一小扇狀地を形成し、扇頂の部分は畑に利用され、その末端は地下水の湧水と用水とによりて水田化し、鳥・森・岩崎の部

落あり。千曲川沿岸は其の砂礫層の氾濫原にして桑畑化す。村内には須坂町・松代町に通ずる社線長野電鐵道通じ、綿内驛(大正十一年設置)を設く。耕地面積五三・一町にして、全面積に對する耕地率三五・〇、畑三六八町、その中、桑畑三一五町、養蠶村の特色を示し、田は一六三町なり。村の東南なる斷層崖上に春山あり。春山城と稱し綿打氏の居城址なり。古く綿打に作る。甲陽軍鑑に信州先方案、綿内三十騎と録し、千曲新抄に村上氏の一黨綿打、永祿二年族誅せらる。〔小内神社〕大字森に鎮座。郷社。祭神、可美摩遲命、外二神。式内社。例祭、八月廿六日。〔蓮臺寺(九品院)〕新義眞言宗智山派。一に九品院ともいふ。天平年間、泰澄の開創。九品佛中尊、阿彌陀如來坐像(木造、鎌倉初期作)一軀は國寶。

【ワタウチ 綿打村】群馬縣上野國新田郡の西部。蕨本町の南隣に、東南は木崎町と隣す。西は佐波郡に接す。南方約四・五軒の所を利根川東流し、全村平地にて南部は水田をなし、他は畑地をなす。農業・養蠶行はれて米・麥・繭を産す。縣道は中央を横走り來て太田町、西は佐波郡伊勢崎町に通じ、又これと交又して縱走するものは、北は蕨本町、西南は佐波郡境町に通じ、何れもバスの便あり。また東南隣の木崎町にも縣道を通じ、社線東武鐵道伊勢崎線木崎驛に近し。岩松文書、新田庄内庶子方社領寺相分注文の中に、綿打郷、綿打九郎知行、

青根郷、長樂寺領」とあり、青根は大字大根がことなり。また嘉應二年注文にも「わたうちの郷、田五町五反」と見ゆ。新田系圖に義重の四男、里見四郎義俊の子、五郎義清始めて田中と稱すと見ゆ。或は大宇田中に居せしものか。また同じく新田系圖に岩松遠江太郎時登の三男、長氏を金井三郎と稱すと云ふ、大字金井に屬せしものならん。

【ワタオカ 和田岡村】静岡縣遠江國小笠郡の北部。袋井町(磐田郡)の北東三軒、東に原谷村・櫻木村、東南に曾我村、西に磐田郡久野村・周智郡宇刈村あり。村域は辨財天川の支流なる原野谷川の沖積地に西北の一部は高度百米以下の丘陵地なり。米・麥・西瓜・茶等を産す。古くは和名抄、佐野郡邑代郷の内とす。大字各和はまた客輪に作り、戰國時代、今川の一族この地に各(客輪)氏を稱せしが、永祿年中に滅ぶ。

【ワタスカ 綿塚村】山梨縣甲斐國東山梨郡の南部。笛吹川一支の重川左岸に在り。面積〇・五九平方軒。村内平地にして農産を主とし、繭・米を主産す。勝沼町・加納岩町に縣道を通じ省線中央本線日下部驛へ約三軒なり。いま山村・休息村・小佐手村と共に組合村を成し、休息村に役場を置く。村名は此地もと繭の栽培盛なりしに因るといふ。

【ワタセ 渡瀬】省線鹿兒島本線の一驛(明治二十四年設置)。福岡縣三池郡高

田村にあり。

【ワタツ 渡津村】鳥取縣石見國那賀郡の東北部。江川の河口東岸に在り、北及び西南は川を以て江津町に界し、東北は淺利村に接す。面積三・六三平方軒。西境を江川北流し、北は海岸砂丘に連りて、村内地勢概れ砂灘の平坦地なるも、東方に一〇〇米の丘陵聳る。砂地多く耕作振はさるも、人口稠密にて村落多く、農家の副業盛なり。米・麥・繭・鰯・清酒・醬油・鯛・鰯・魚・木炭等を産す。省線山陰本線江津驛に近く交通便なり。古くは和名抄、應神郡津道郷の内とす。古くは萬葉集にもその名見ゆ。萬葉・二石見の海：鰯魚とり、海邊をさして、和多豆の、菟磯の上に。

【ワタナベ 渡戸】延喜式越後國の條に見ゆる地名。↓寺泊町(新潟縣)

【ワタナベ 渡邊】福岡縣筑前國石城郡の東南部。小名濱町の西方約九軒。湯本町の南方約五軒。阿武隈山地の東斜面に屬し、地勢西北部に高く、東南方に傾斜し、全村概れ丘陵をなす。釜戸川に傾斜し、發源し、村の中部を東南に流れ、沿岸に耕地拓く。米・麥・大豆・繭等の産あり。陸前濱街道は東部を南北に通じ、北方湯本町、南方植田町へはバスの便あり。東方省線常磐線泉驛へは約三軒あり。和名抄に筑前郡津浦郷とあるは此地なり。明治戊辰の役、東軍この地に壘を築きて據りしが、六月二十八日終に潰走すといふ。

【中釜戸のツダレメヤ】指定天然記念物。大字中釜戸字旗田にあり。地上一米の幹圍約三米、枝條屈曲し傘状を呈す。ヤマモミザの枝重となれるものにて植物學上有益なるものなり。【諏訪神社】大字中釜戸に鎮座。神社。祭神、健甕那方命。本殿・幣殿・拜殿・神輿庫・社務所等を具ふ。

【渡邊橋】昔、難波の渡邊にありし橋。渡邊に即ちいま大阪市内を流る大川の天満・天神二橋の間の南岸、八軒屋邊を稱せしもの。橋は此處より對岸に架けらる。いま堂島川にも同名の橋あるも、之は近世の架橋にしてたゞ名稱を襲へるに過ぎず。この橋は楠木正成が六波羅勢を破り、また正行が山名・細川勢を破りし事にて名高し。廢橋の期不詳。

ワタノハ 渡波町 宮城縣陸前國牡鹿郡の西部。石巻市の東に接し、西南は石巻灣、東北は萬石浦に面す。石巻灣・萬石浦間は細き水路によりて通じ、町は西北部と東南部に分たる。前者の北部には丘陵ありて南方に傾斜し、南部は平坦にして石巻灣と萬石浦の沿岸は砂濱をなす。東南部は緩峻丘陵地をなして西北方に傾斜し、西部の石巻灣岸は山地迫りて並崎・尾崎等の突出あり。町の生業は水産業・農業を主とし、水産物と米・麥・蕎麥を産す。また東北部に鹽田あり、北日本唯一のものとして稱せらる。名産に萬石浦の牡蠣あり。道路は町の略中部を東西に通じ、東南は牡鹿半島の先端部に至る。

社線全山軌道の渡波驛あり。

ワタホリ 和田堀 東京府豊多摩郡にありし町。昭和七年に東京市に編入し外三町と共に杉並區を建つ。

ワタマエ 渡前村 山形縣羽前國東田川郡の略中部。西南は赤川を隔て鶴岡市に、東は藤島町に隣接す。庄内平野に屬し、全村概ね平坦にして、水田拓け、赤川は西南境を、藤島川は東境を各北流す。村の生業は農業を主とし米の産多く、また蕎麥を出す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、鶴岡市と藤島町へは各自動車の便あり。省線羽越本線藤島驛(大正七年設置)を置く。出羽國分寺は或は此地にありしが、(六所神社)大字上藤島字六所如に鎮座。神社。祭神、大己貴命外二神。延暦年中の創建ならん。例祭、五月一日。

ワタムキ 綿向山 鈴鹿山脈西方支脈の一峯。日野岳とも稱す。滋賀縣甲賀郡越前村と蒲生郡市原・西大路の三村境上に峙つ。標高一一一〇米。東麓は南乞岳(二二三八米)を経て主脈峯の御在所山(二二二〇米)に連る。昔は伊吹・靈仙・比良と共に江州四高山の一と數へられ、近隣の修験者は山上ヶ岳に擬してこの山に信仰登山をなせり。山上に綿向大明神あり、天孫日命を祀り、明神初詣の地として尊崇せられ、毎年四月の例祭には迎へ詣りと稱し、氏子大擧して登山する風あり。山頂附近に銀明水湧く。山頂よりは全江州を一瞬に眺め、風光絶頂第一と稱

せらる。登山は多く西方の近江織道日野驛下車、それより西大路村字音羽・西明寺を経て行ふ。

ワタムツ 度津 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に寶飯郡度津郷あり、和多無郡と訓ず。今の寶飯郡小坂井町・御津町の邊に當る。延喜式の度津驛とは此地にして然る言へるなり。

ワタヤマ 和田山町 兵衛縣但馬國朝來郡の東北部。朝來川に跨り竹田町の東北に接し、東南部は斐瀬町に界す。西北部は養父郡に隣る。西隅には大藏部山(約六〇〇米)聳えて東方へ山脚を下す。南部には三五二米の孤丘あり。東北部にも五〇〇米程度の丘陵あり。朝來川は西部山地の麓に流れて中部を東北流し、中央にて東南方より西北流し来る支流を合し西北折して養父郡に入る。沿岸には平野發達せり。産物は米・蕎麥・麥類、及び醬油・肥料・蠶絲・木製品・製菓・製糖・瓦及び鴉羽等なり。山陰道及び省線山陰本線が東部を通過し、和田山驛(明治三十九年設置)は大藏村にあり、これより分岐する省線但馬線は縣道と共に西南走す。もと牧田村と稱せしが、昭和五年和田山町と改む。農林省防疫調査所中國支所の所在地たり。和名抄に朝來郡牧田郷とあるは蓋しこの地とす。大田文には牧田郷四十三町八反、地頭牧田又太郎光盛と見ゆ。(赤澤神社)郷社。祭神、赤澤足尾命。式内社なり。例祭、九月十五日。

ワタラ 渡良村 長崎縣壱岐國壱岐郡の西部。渡良半島を主體とし、附近に散在する大島・長島・原島の三島と、若干の小島とを其の區轄とす。地形は壱岐島中、水平肢節の最も發達せる部分にて、全城玄武岩より成り臺地狀を呈するも、海岸は沈降性にして、灣澳深く入込み、岬・半島交錯し地形複雑なり。然し良嶺地少く南部の渡良浦や著る。渡良半島と大島との間は霧嶺瀬戸にして、之を出づれば風濤狂なる玄海灘なり。附近の海岸は沈降と波浪激により断崖をなす所多く、戸屋崎・奈良崎等その例なり。特に北方及び西方面に多きは同方向の季節風の卓越するに因る。玄武岩の臺地は開折されたる準平原狀をなして耕され、畑地を見るも、地形の關係上水田少し。交通路は十分ならず、郡の首邑武生水より渡良浦に至るものか其の主干道とす。海路の往來比較的由りなり。養飯にても漁業盛なる地方にて若邊・勝本等に次ぐ本島の漁舟的繁盛なり。鮑・雲丹の罐詰製造所を有する事は注目すべく、村全體として農業村なり。本村は石田郡物部郷の地、延喜式物部布禰社鎮座す。其の開發古きを物語る。海東諸國記に臥多羅浦百餘戸とある臥多羅浦は此地ならん。

ワタライ 度會 三重縣一五郡の一。伊勢國の南部、縣の東南部に位し東北偏に宇治山田市の北・西・南の三面を圍み、東は志摩國志摩郡に隣る。東北部は宮川及び五

十鈴川の中流以下を含み伊勢平野の南端を占めて伊勢海に面し、南部一帯は幅を擴げて熊野灘に臨む。西南方より蜿蜒と連り来る大臺ヶ原の連嶺は西南境より東部の中央を斷續しつつ東北に延び、東端は志摩郡に入りて志摩半島となる。宇治山田市の東北境には本郡との間に朝熊山(四七八米)一帯の山脈あり。肢脈は各方面に擴りて南は海に没し風曲多きリヤス式海岸型を呈しその東にある五ヶ所所、中央の體相湖・奈屋浦・古ヶ津浦・方座浦等を初め入江・灣・岬等頗る複雑に出入し附近には島嶼・岩礁等散在し断崖をなす海岸もあり、東北部は伊勢平野南端の地にして、東に宇治山田市を圍み、宮川及び五十鈴川の流域なり。所々に小丘あれど、概して地形平坦なり。海岸は砂濱をなし、謂ゆる白砂青松の景勝地をなす所多く、海岸平野の東南端のまきに紀伊山地が海に没せんとする所に接して二見浦の勝地あり。五十鈴川は宇治山田市の東南部に發して北流し、本郡の東北隅を流れ、下流にて二條に分れ、一は西北に向ひて宮川の河口と相接し、一は東北に流れて二見町より伊勢海に注ぐ。宮川は多氣郡内の臺高山脈に發して東北流し、本郡の西南部に發して東北に流る大内山川の水と合して北境の中央に流れて東北に流れ、下流に至りて本郡内に流れ入りて山脈の末端の丘陵の間を屈曲しつつ東流し、附近の支流を集めて伊勢平野に出で宇治山田市の西境を極めて東北

に向ひ、河口は五十鈴川河口と相接して共に幾多の分流をつくりテラマの發達著し。伊勢平野及び河川流域の低地は田畑よく拓けて米・蕎麥・茶等の農産物あり。また農家は鶏を飼養し鶏卵の産あり。海岸は水産物に富み水産養殖も行はる。山地は森林資源豊かにして木材・木炭を産しまた畜産・工業・礦産あり。郡内は神社町・大津町・田丸町・二見町・小俣町の五町外二十八箇村を含み、郡の平均人口密度は一三六人、最も多き大津町の一〇五二人。東北部は宇治山田市を中心とする交通よく發達し參宮道を初め和歌山より来る別街道、鳥羽町より来る街道等の集中點をなし、省線參宮線及び社線參宮急行電線(桑名・大神宮前間、標井・宇治山田間)等集り、前者は更に延びて鳥羽町に至る。他に宇治山田市の山田町と宇治町とを結ぶ國道及び電車が東北隅を通過し途中朝熊山へ登山電車を分つ。西南部には大内山川の河谷に沿ひて省線紀勢東線が通過す。伊勢海岸及び熊野海岸には近海便所あり。もと渡邊・度津・度合等に作る。皇大神宮・豐受大神宮鎮座の地。續紀文武紀に度合・度會と二條に見ゆ。和名抄に度會に作り和多良比と註し、宇治・田部・城田・湯田・伊藤・高向・箕曲・沼木・繼橋・二見・伊氣・陽田・藤家の十三郷を管す。度會は書紀重仁紀の渡邊宮の所在地にて同書神功紀に度津縣と見ゆ。國郡制定の時度會・多氣二郡となり、後に多氣郡より更

ワタラ 渡良村 長崎縣壱岐國壱岐郡の西部。渡良半島を主體とし、附近に散在する大島・長島・原島の三島と、若干の小島とを其の區轄とす。地形は壱岐島中、水平肢節の最も發達せる部分にて、全城玄武岩より成り臺地狀を呈するも、海岸は沈降性にして、灣澳深く入込み、岬・半島交錯し地形複雑なり。然し良嶺地少く南部の渡良浦や著る。渡良半島と大島との間は霧嶺瀬戸にして、之を出づれば風濤狂なる玄海灘なり。附近の海岸は沈降と波浪激により断崖をなす所多く、戸屋崎・奈良崎等その例なり。特に北方及び西方面に多きは同方向の季節風の卓越するに因る。玄武岩の臺地は開折されたる準平原狀をなして耕され、畑地を見るも、地形の關係上水田少し。交通路は十分ならず、郡の首邑武生水より渡良浦に至るものか其の主干道とす。海路の往來比較的由りなり。養飯にても漁業盛なる地方にて若邊・勝本等に次ぐ本島の漁舟的繁盛なり。鮑・雲丹の罐詰製造所を有する事は注目すべく、村全體として農業村なり。本村は石田郡物部郷の地、延喜式物部布禰社鎮座す。其の開發古きを物語る。海東諸國記に臥多羅浦百餘戸とある臥多羅浦は此地ならん。

ワタラセ 渡良瀬川 利根川の一支流。栃木縣上都賀郡足尾山中に發し、群馬縣勢多・山田の兩郡を経て栃木縣足利郡に入り、栃木・群馬の兩縣界及び埼玉・茨城の兩縣界を経て利根川に注ぐ。流程一〇九軒。上流より大間間附近迄は峡谷にて殊に高津戸は勝景を以て名高し平野に出でては大間間に大扇狀地をつくり、更に足尾山塊と金山分嶺丘陵との間の斷層線に沿ひ桐生・足利兩地方を過ぎ、藤岡町附近にて赤麻沼に注ぎ、利根中流の小湖群地方に達す。足尾の鎮毒が農作物に有害なるを認めて田中正造が農民救済のため奮起せる足尾瀆毒事件はこの渡良瀬川下流域なり。この川のうち、足尾山塊より發して桐生・足利・佐野地方を通る支流及び本流の分流は染色・晒布・摺絲用水車等に利用さる。省線足尾線は渡良瀬川の谷を通り足尾山と平野地方を連ね、上流の分水點和尾崎には日光清瀧へ、また半月峠には中禪寺湖畔への連絡路あり。

ワタリ 和多里 愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年他の一町三箇村を廢し小牧町を置く。

ワタリ 日理 陸奥國(磐城・宮城縣)の古地名。和名抄に日理郡日理郷あり、郡家の所在地とす。日理は即ち濟または渡にて渡津の義なり。住名を用ひ、二字となして日理といふ。されば附近に河川または湖沼

あるを常とす。此地は阿武隈川の南岸に...

【日理(郡)】下徳國(千葉縣)の古地名。和名...

【日理】越中國(富山縣)の古地名。和名...

【日理】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名...

【日理】豊後國(大分縣)の古地名。和名...

【日理】宮城縣(宮城縣)の古地名。和名...

【日理】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名...

【日理】豊後國(大分縣)の古地名。和名...

【日理】宮城縣(宮城縣)の古地名。和名...

【日理】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名...

米・深山(二八七米)・地蔵森(三三八...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

和名抄に安達郡日理郷あり、今その地信...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

は渡村の西部を南北に貫通す。江戸末期...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

境をなして北流す。西北部に耕地拓く。...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

【日理】延喜兵部省式の信濃國の條に見...

ワツコ—ワトマ

勇知郡・波海郡(共に大正十三年設置)・
稚内郡(大正十一年設置)・稚内港(昭
和三年設置)を置き、省線北見線も通じ
て曲淵・沼川・樺岡・幕別・聲間の五郡
(共に大正十一年設置)を置き宗谷本線の
稚内港線に終る。町名の稚内はアイヌ語
Yanui wakka nai より轉訛せるもの、
原語は即ちヤム(冷き)ワツカ(水)ナイ
(澤)の意なり。また、ノシヤップはアイ
ヌ語 Kotchap より轉訛せるもの、原義
は下顎にて、下顎の如き岬の意なりとい
ふ。此地は宗谷場所の勢力範囲にて、宗
谷には天明三年場所が開かれ、場所請負
人は村山傳兵衛たり。されど當時和人の
居住許されず、而して此地に和人が住居
するに至りしは恐らく安政年間を測るこ
となかるべし。明治二十一年に郡役所・
警察署・戸長役場等を宗谷村よりこの地
に移し、同三十三年戸長役場を廢して宗
谷村と分村し、同時に一般町村制を施行
す。樺太と相對し交通の要衝地として發
展し、今や都市的形態を帯ぶるに至る。
いま宗谷支廳・區裁判所・稅務署・運輸
事務所・警務署及び農事試験場等置か
る。「聲間貝塚」聲間郡の東半軒、稚内
町大字稚内村字聲間にあり。鐵道線路に
近く、聲間川沿岸堤防敷地に貝層露出。
貝塚と共に聲穴址も若干あり人骨・土器
破片等出土す。「タサナル聲穴群」稚内
郡の東南約二軒、稚内町大字稚内村字ウ
エンナイにあり。牧場内の丸山丘陵上に
存し、聲穴址二十餘箇を算し、土器破片・

石斧等多數散布す。「北門神社」大字稚
内村に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神・
武甕槌神・事代主神。天明五年能登の人
村山傳兵衛の創祀に係り、明治二十九年
現今の地に奉遷す。
ワツコト 和琴 ↓弟子屈村(北海道
釧路國)
ワツサム 和寒村 北海道天鹽國上
川支廳上川郡の中部。天鹽國の南端に位
し、士別町の南に連る。西北は釧路村、
東は上士別村、西は空知支廳と界す。面
積二二三・九方町。三周を山脈に圍繞せ
られ村内概ね四百米内外の山地をなして
中央に傾斜し、和寒川北流す。沿岸に和
寒原野あり。諸川の上流山間低地と和寒
原野の南部地方に耕地大に拓く。米・馬
鈴薯・除蟲菊・亞麻・大豆・燕麥等を産
し、また製粉・製糖業行はる。天鹽・石
狩國境温泉谷はまた好適なるスキー
場なり。省線宗谷本線は温泉場附近より
和寒市街地を北走し、鹽狩(大正十三
年設置)和寒(明治三十二年設置)の二驛
を有す。大正四年釧路村より分村し、二
級町村制を施行す。「鹽狩温泉」鹽狩郡
附近にあり。泉質酸性の冷温泉。加熱浴
用。
ワツトク 和徳
【和徳村】青森縣陸奥國中津輕郡の東部。
弘前市の東北に隣り、東北は平川を隔て
て南津輕郡に接す。津輕平野の南部に位
し、西境には岩木川北流し、平川は東境
及び北境をなして西北に流れ、岩木川に

合す。全村平坦にして水路縱横に通じ、
農耕に適せり。村の生業は農業を主とし
米・苹果の産多し。道路は村の東部を南
北に通じ、北方北津輕郡板柳町(はバス
の便あり。省線奥羽本線撫子驛(昭和
十年設置)を置く。
【和徳】青森縣弘前市の町名。城内に省
線奥羽本線の和徳驛(昭和十年設置)・弘
前驛(明治二十七年設置)を置く。
ワド 和土村 埼玉縣武蔵國南埼玉郡
の西部。岩槻町の南隣にて、綾瀬川と元
荒川とに挟る。西南は綾瀬川を隔てて北
足立郡と相對す。西南境を綾瀬川、東北
境を元荒川東南に流れ、全村平地にして
綾瀬川附近には水田あり。他は畑地をな
す。農業行はれて米を主産し、甘藷・麥の
産も多し。縣道は岩槻町及び東南方越々
谷町に通じバスの便あり。社線東武鐵道
の武里驛は東方約三軒にあり。もと社線
武州鐵道の宿久保驛ありしが營業廢止。
ワド一 和道面 朝鮮京畿道楊州
郡の東部。北漢江の右岸に位置し、京
城府の東方約二五軒にあり。西境には天
摩山(八二二米)・栢峰(六〇〇米)等聳え
て西境を劃し、漸次東方北漢江に向ひて
傾斜す。之等山地に發源せる諸流は城内
を灌溉し、東流して合流す。耕地は之等
溪谷の間に點在するに過ぎず。農産物の
主なるものは米・小麥・大豆・落花生・
粟等にして、副業として養蠶・飼畜等あ
り。林産は木炭・薪炭等に過ぎざれども
粟の産額は年額一〇〇石を超え郡中の

首位にあり。道路は京城より来る二等道
路面の略中部を横斷して、東北方加平を
經て春川に通じ乗合自動車の便ある他、
江岸の九岩里は河港を成し上流は春川、
下流は京城府と舟楫の便ありて交通・運
輸極めて便なり。
ワドマリ 和泊村 鹿兒島縣大隅國
大島郡の南部。奄美大島の南西に位す。
西南諸島の一島をなす沖永良部島の東
部を占め、西は知名村に接す。三方は東
支那海に面す。東部は半島狀に突出し、
割合低山性にて西部の島の中心に近き程
高度を増し、中部には越山(一八八米)あ
りて此の地に凹窪地多し。半島部東北端
は國頭崎と呼ばれ、北岸及び半島部は斷
崖を以つて海に臨む。半島部は緩やかな
傾斜をなすも、その斜面には池多し。半
島部海岸には松樹林見られ、低丘陵地城
は殆ど畑にして主として、甘藷・甘藷が
栽培され一部分は水田耕作も見らる。村
民は漁業に従事する者も多く、棄落は海
岸より少し内陸に發達し、集村をなす。
交通路は首邑和泊より放射狀に發達し低
夷なる丘陵面を走る。海上交通は大島及
び沖繩より和泊港と連絡さる。本島は屋
久島の永良部に對しては沖の稱を用ひ、
明人の書には野刺普に作れり。和泊は本
島の首邑にて南東岸に位し、小港をなし
いま警察署・郵便局等を置く。「高千穂
神社」大字和泊に鎮座。郷社。祭神、天
津日高日子火通彥尊。例祭、十月十九
日。

ワニ 和珥

【和珥池】書紀、仁徳天皇の十三年に見
ゆる池。其の位置詳かならざるも、いま
大阪府河内國南河内郡喜志村の邊にあり
しものならんといふ。
【和珥池】書紀、推古天皇の二十一年に
作られたる池の一。大和志と和珥池は奈
良縣添上郡池田村にあり、一名光臺寺池
と見ゆ。池田村はいま帶解町の大字。
【和珥坂】大和國(奈良縣)の古地名。書
紀、神武紀の神武天皇中州平定の際に和
珥坂の名見ゆ。和珥はいま添上郡樺本町
の大字に和珥として古名を存するも、和
珥は廣く名稱にして奈良盆地の北部に互
り、和珥坂は或は山城に越ゆる一坂路を
稱せしものなるべし。

ワニ 和邇村 滋賀縣近江國滋賀郡の
中部。堅田町の北方約一軒にありて東は
琵琶湖に臨み、東南より西北に稍長し。
西北境に比良山脈の權現山(九九五米)・
龍仙山(七五一米)聳えて東南方へ傾斜し
山麓は臺地狀をなす。和邇川は南部を東
流し、河口附近は湖中へ三角形の尖塔狀
に突出す。湖岸は平直にして平野あり。
産物には米・麥・藁・糞肥用作物・桑葉・
菜種・茶等の農産物及び鰻・林産・林産
製造物を産したる水産あり。縣道及び社
線江若鐵道は東部を縱走し後者の和邇驛
(大正十三年設置)あり。和邇庄と呼ばれ
し地とす。和邇郡小野原の居邑にして、
いま大字に小野あり。また延喜長部省式
に和邇傳馬五疋とあるもの蓋しこの地と

す。「小野妹子墓」小野堂の宮唐白山と
呼ぶ丘陵の頂上景勝の地にあり。板石に
て造られし細長き石室露出し、里俗に妹
子さんの墓、または山の神といひ、推古
天皇の御代に隋に使せし小野妹子の墓と
傳ふ。いと石室は破壊せらる。「小野
神社」大字小野に鎮座。郷社。祭神、
天足彦國押人命・米能嶋大田原命。式内
名神大社。例祭、九月五日。(天皇神社)
大字和邇中に鎮座。村社。祭神、素戔鳴
命。本殿は國寶。例祭、八月八日。(慶專
寺)大字南嶺にあり。眞宗本願寺派。寛
弘年間、恵心院源信の開創。もと山門三
千坊といひしも、應永年中に全く廢却。應
仁二年再興、天正年間焼亡の歴史を有し
貞享二年に再建のもの現存す。(西岸寺)
大字和邇中にあり。淨土宗。草創明治革
不詳。阿彌陀如来立像(木造)一軀は國寶
(鎌倉期作)。(上品寺)大字小野にあり。
天台宗眞盛派。小野山三昧院と號す。承
和十四年小野原の創建。元龜の兵亂に焼
亡せしが天正十六年周成堂宇を再建す。
ワニウラ 鰻浦 ↓豊崎村(長崎縣)
ワニシ 輪西 北海道釧路支廳室蘭郡
にありし村。大正七年に室蘭市に入り、
その町名となる。省線室蘭本線の輪西驛
(昭和三年設置)を置く。
ワニノタケスキ 和珥武録坂
大和國(奈良縣)の古地名。書紀、崇神天
皇の十年武埴安彦叛す。天皇大彥及び彦
國尊を遣してこれを討たしめ給ひし時、
忌賣を此の坂の上に置くと見ゆ。その地

いま詳かならざるも、古事記崇神天皇の
段には丸瀨坂とあるを以て見れば和珥坂
と同じ所か。※和珥坂
ワニツカ 鰻ノ塚山 九州山脈
の一峯。都城市の北東方約二〇軒、宮崎
縣北諸郡三股村・南那珂郡北郷村・宮
崎郡田野村の境上に聳つ。標高一一九
米。山上部には調葉樹・風類多く、北東
方に宮崎市と太平洋を望み、南西方は雪
ヶ峯(八五三米)・御岳(九五二米)を見下
し、その彼方都城盆地の上に霧島群峯を
望み、眺望廣闊なり。登山は北麓の日豊
本線田野驛より田野村字築地原・黒草等
を経て行ふ。
ワニフチ 鰻淵村 島根縣出雲國葦
川郡の北端。大社町の東北に連り、日本
海に北面す。東は西田村、西は鶴鷺村、
南は越後村と接す。面積二〇・七九平方
軒。鼻高山(七三六米)東南境に聳え、南
境に山地連りて高峻なるも稍北方海岸に
降る。小川は東部と西部に北流して河岸
に小耕地存す。河内と流域に葉落あり、
漁業また行はる。村内の大部は山林に蔽
はる。米・麥・藁・用材・木炭・銅・錫・
茶等の産あり。大社町へは自動車通ず。
古くは和名抄、出雲郡宇賀郷の地とす。
【鰻淵山】本村の大字河下を流るる河
下川の河口を廻ること凡そ二軒半の地點
にあり。鐵區七萬餘坪、その地質は泥板
岩・砂岩・凝灰岩と之を貫く安山岩とよ
り成り、鐵床は黒鐵床にして黒鐵・磁
鐵とともに大地にして泥板岩の層理面に

沿うて脈絡し、走向一八〇—二五〇度傾
斜し北西に平均五五度とす。昭和十年の
産額は銀銅鉛鐵二、一六六萬、銀銅鐵
四九萬(この總價額六萬餘圓)にして同年
六月末の礦夫數は五十六人なり。當礦山
は明治初年頃は松江藩主の豫行なりきと
いふ。その後豫行者は轉々し、遂に休山
となりし處、昭和九年再開し同十年重要
礦山に列したるものなり。「鰻淵寺」天
台宗。俗稱、鰻山。出雲の古瓦刹。推古
二年智奉創建。寺名は智奉過つて花血を
瀆に沈めしに鰻出でてこれを拵げしに起
ると。毛利元就像等は國寶。
ワニベ 丸部 陸奥國(福島縣磐城國)
の古地名。和名抄に磐城郡丸部郷あり、
その地今の石城郡玉川村・鹿島村の邊な
るべし。
ワニラ 和爾良 愛知縣東春日井郡
にありし村。明治三十九年他の一箇村と
共に廢し鳥居松村を置く。
ワノ一 和納村 新潟縣越後國
西蒲原郡の中央南部。吉田町の北、巻町
の南にて兩町の間を占む。西境を北流
する西川を初め數條の分流により灌溉の
便よく全村肥沃なる水田開く。米産額多
く酒造業も行はれ酒杜氏に出稼ぐ者多し
地方なり。省線越後線は村内を南北に貫
走し和納驛(大正元年設置)を置く。縣道
は東西・南北に通じ村内に交錯し、間瀬
港・巻・吉田兩町へバスの便あり。一説に
この地は古事記垂仁帝の條に見ゆる和那
美之水門ならんといふ。「楞嚴寺」曹洞

ワニ—ワノ一

宗にして本尊神如來。佛頂山と號す。應和三年村上天皇の皇子桃井親王の草創たり。天曆九年親王は後の姫を避けて、私かに京洛を去りて越後に出で、此地に住し給ひ、應和三年薨去あらせらる。御墓は封土東西二間一尺、南北一間四尺、高さ一尺三寸の五輪塔にて中央に衣冠の人物を刻す。但し石膚被せて其形體明かならず。親王嘗て「さき浪やつつら折なる道の邊に都かくれの山標かな」の一首を詠じ給ふ。寺は親王の舊址桃井御所を佛堂としたるものにて、寺號は親王常行佛頂萬行首楞嚴を讀誦し給ひしに因む。

ワノナ 委奴國

上古九州地方の一國。後漢光武帝の時彼の國と交通す。天明四年筑前國那珂郡志賀島の中より發見せし漢委奴國王と刻せる金印は、その時彼より受けしものと想像さる。その地城に就ては伊弉縣の地とし、筑前國怡土郡、または同國宗像郡怡土郡となすものあるも、委奴國は倭の奴(備)國にして、前國那珂郡の邊とするを妥當とす。後漢書「光武中元二年、倭奴國奉貢賀賀、使人自稱大夫、倭之補南界也。光武賜以印綬。」とあり。國・奴國。

ワノナ 和美庄

臺灣臺中州彰化郡一街六庄中の一。彰化市の西北に隣り、東北は大肚溪を隔てて大甲郡大肚庄に對し、西は鹿港街に、西北は線西庄、南端は秀水庄と各々境を相接す。土地總て平坦にして丘陵なく、地味肥沃なるに加へて水利の便に恵まれ、農耕地廣く展開し、純

然たる農村を形成す。米・甘蔗・甘藷の生産額莫大にして農産地額の大部分を占め、蔬菜・落花生亦尠からず。畜産は農業に次いで經濟上主要なる地位を占め、勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主とす。家畜・家禽類多く、一般家庭に於て副業として若く飼育せらる。工業は製糖を第一とし、中寮に大日本製糖の彰化製糖所あり、その他、製糖精米の小工業各地に散在し、婦女子の家内手工業として帽子編成なり。公學校本校二、分教場三を有し、社會教化機關として國語講習所各主要部落に設置せられ、その活躍注目に値す。大日本製糖の社線は西南彰化より東に中寮・和美・柑子井の各大字を貫きて西北線西に達す。彰化・鹿港・線西各地との間にそれぞれ道路開け、乗合自動車の便あり。管内はもと東南部が線東部、西北部が線西部に屬し、和美は制度改正前和美縣と稱せり。清の康熙の中葉、彰化地方に次いで開拓され、爾後移住者漸増して隨所に部落建設せられ今日の基礎となれり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし堡を廢せられ、前記二堡に屬せし十一庄を十一大字に改め(和美縣和美と改稱)之を一括して和美庄となし、庄役場を和美を置く。

ワノナ 和深村

和歌山縣紀伊國西牟婁郡の東南部。紀伊半島の南岸に位し、東方の串本町と西方の周見町との中間

ワノナ 和間村

大分縣豐前國宇佐郡の東北部。寄瀨川河口の西岸に位し、周防灘に臨み、西は長洲町に接す。全村地形低平、東端に沿ひて寄瀨川が東北流し、北西部・西南部には湖沼散在す。海岸は砂地が廣く、中央より約一軒の一砂嘴が東方へ突き、田畑よく拓げ米・麥その他農産多し。縣道は中央を横斷して長洲町及び東方一軒の西國東郡高田町へパスを通じ、省線日豊本線は西北より東南に通過し西端近くに豊前長洲驛あり。古く長洲町の地と共に和間と稱せられ、此濱にて年々宇佐八幡宮の放生會を施行せられたり。肥前風土記に景行天皇西征の時、宇佐の濱の行宮に御座すと見ゆるは此地ならん。また東鑑、文治元年二月の

ワノナ 和良

和良市(和良) 岐阜縣美濃國郡上郡の南部。岐阜市の東北方約四〇軒。北は奥明方村に、東より南にかけて東村、西は西和良村・口明方村に接す。美濃山地の中部に位し、南部には古生層より成る和良嶺(七一五米)・黒嶺(七九四米)が聳ゆ。北部鹿倉より鹿倉川が古生層山地を開闢して南流し、南部に小盆地を作り東折して和良川となり南折し、更に東南方へ峽谷をなして馬瀬川に合流す。この軒曲曲折の流路は構造線に關係ある如くに思はる。南端より北は鬼谷川發し武儀郡に至る。産業は山間僻地なれば振はず。主として林業に依存し、木炭は郡上炭の名を以て移出され、其他椎茸・山葵の産あり。川の流域には僅に耕地あるのみ。交通路も谷にのみ決定され、主として馬瀬川の谷に出で、西方の八幡(通流)に出過ぎず。鐵道の便悪く、高山嶺金山驛に出づるを便とす。本村は西和良村と共に和名抄に見ゆる郡上郡和良郷の地に於て中世も和良郷と稱され、江戸時代は郡上藩に屬し、のち幕領たり。大字宮地の地山城址は宮地と野尻の境山にあり、天正の頃、稻葉

ワノナ 和良

條に、參河守範頼防州より豊後國葦原浦に渡ると録す。いま豊後に葦原浦なく、また當時の形情より推すに或は宇佐郡へ着船せしものにて、葦原浦と云ふも必定和間濱にあらずや。(和間神社) 大字松崎に鎮座。祭神、八幡大神外七柱。創建年代不詳。例祭、十一月十七日。

土佐守の居城たり。(大山椒魚棲息地) 指定天然記念物。和良川の流域にして本村及び西和良村に亘る。大山椒魚は本郷稀有の動物にて本土の西南地方即ち美濃より中国・九州の高地溪流中に棲息す。太古地質時代には歐洲にも棲息し化石となり發見さるるも、現今は地球上本郷及び支那地方に生存するのみ。兩棲類中最大の有尾類動物として本郷産のもの特に世界的に有名なり。近時濫獲の結果その蕃殖を著し減少の傾向あり。和良川支流の水域は其の北限地なり。

ワノナ 和良

美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に郡上郡和良郷あり、その地今の郡上郡西和良村・口明方村の邊か。

ワノナ 葦科川

靜岡縣安倍郡にある川。源を志太郡界の七ツ峯に發し葦科谷を東南流し靜岡市の西に於て安倍川に入る。流程約三六軒。東鑑・十六夜日記などに合流以後の安倍川をも葦科川と稱せしもの如し。

ワノナ 蕨町

埼玉縣武蔵國北足立郡の南部。川口市の西隣にして北は浦和市に近し。南方約二・五軒の所を荒川東流し、全町平地にて水田多く、一部は畑地をなす。農産物は米を主産し、麥の産もあり。織物業行はれて綿織物の産多し。中山道は西部を北走して浦和市に通じ、主要業務はこれに沿ひて發達す。またこれより分岐する縣道は川口市等に通じてバスの便多く、交通便なり。省線東北本線は東部を西北に走りて蕨驛(明治

二十六年設置)を置く。古くは和名抄、足立郡大里郷の内ならんか。傳ふるところに據れば吉野時代に遠川左衛門佐義行なる者にこの地に來り住し、爾來相繼いで居ると。天正十八年徳川氏關東を領せしよりその直轄となる。町名は古くは蕨火に作り、延享年中より蕨宿と稱す。天正中の三學院朱印には蕨郷と書し、正保中の田圃簿には蕨町と載す。江戸時代より中山道の一宿驛として榮えたり。明治天皇には長くも明治元年・同三年及び同十一年の三度この地に御小休遊ばされたり。江戸末期の染織家にして且つ機織家たりし高橋新五郎(贈從五位)は此地の人とす。

ワノナ 蕨岡

山形縣羽後國飽海郡の北部。酒田市の東北約一二軒。土地東北より西南に長き氣狀をなし長さ約一五軒。面積三三・三六方軒。鳥海山の南麓に屬し、東北端は海拔約一三〇〇米にして、東端に風來山(八五八米)、中部に丸森(二五〇米)・天狗森(二四一米)あり。西南方に傾斜し、東北部は山地をなすも、西南部は庄内平野に屬して平坦なり。月光川は村の北境を西南に流る。米・蕎麥・木炭等を産す。道路は村の西南部を略南北に通じ、西北方羽越本線遊佐驛(約四軒)自働車の便あり。明治二十三年一町村を合併す。村内に安倍貞任の墓と傳ふるものありて、往々古器を得る事あり。(大物忌神社) 大字杉澤に鎮座。國幣中社。

ワノナ 蕨岡

北は東牟婁郡に界す。全村到るところ山居地をなし殊に四周に高く山嶺を繞らす。北境の東部には西ノ峯山(三八五米)・鹿山・東谷山等が聳えて南へ數條の支脈を延ばす。北境の西部には冷水山(四〇八米)・藤根山(三八三米)・洞山(五一五米)等連り、西境には大山(五四四米)・清水山(四九〇米)等屹立し、共に東南方へ傾斜す。古座川の一支流が西北部を東に貫き、清水山に發して東北流する河川と合して東北折し東牟婁郡三尾川村に入る。海岸に備前大の低地帯をなし、部落散在す。産物には米・蕎麥・林産・水産・工業等あり。海岸に沿ひて縣道が東西に走り中部にて一縣道が北走し古座川支流の河岸に出でて三尾川村に入る。

ワラ—ワルサ 和間村

大分縣豐前國宇佐郡の東北部。寄瀨川河口の西岸に位し、周防灘に臨み、西は長洲町に接す。全村地形低平、東端に沿ひて寄瀨川が東北流し、北西部・西南部には湖沼散在す。海岸は砂地が廣く、中央より約一軒の一砂嘴が東方へ突き、田畑よく拓げ米・麥その他農産多し。縣道は中央を横斷して長洲町及び東方一軒の西國東郡高田町へパスを通じ、省線日豊本線は西北より東南に通過し西端近くに豊前長洲驛あり。古く長洲町の地と共に和間と稱せられ、此濱にて年々宇佐八幡宮の放生會を施行せられたり。肥前風土記に景行天皇西征の時、宇佐の濱の行宮に御座すと見ゆるは此地ならん。また東鑑、文治元年二月の

ワラ—ワルサ 和良

和良市(和良) 岐阜縣美濃國郡上郡の南部。岐阜市の東北方約四〇軒。北は奥明方村に、東より南にかけて東村、西は西和良村・口明方村に接す。美濃山地の中部に位し、南部には古生層より成る和良嶺(七一五米)・黒嶺(七九四米)が聳ゆ。北部鹿倉より鹿倉川が古生層山地を開闢して南流し、南部に小盆地を作り東折して和良川となり南折し、更に東南方へ峽谷をなして馬瀬川に合流す。この軒曲曲折の流路は構造線に關係ある如くに思はる。南端より北は鬼谷川發し武儀郡に至る。産業は山間僻地なれば振はず。主として林業に依存し、木炭は郡上炭の名を以て移出され、其他椎茸・山葵の産あり。川の流域には僅に耕地あるのみ。交通路も谷にのみ決定され、主として馬瀬川の谷に出で、西方の八幡(通流)に出過ぎず。鐵道の便悪く、高山嶺金山驛に出づるを便とす。本村は西和良村と共に和名抄に見ゆる郡上郡和良郷の地に於て中世も和良郷と稱され、江戸時代は郡上藩に屬し、のち幕領たり。大字宮地の地山城址は宮地と野尻の境山にあり、天正の頃、稻葉

ワラ—ワルサ 和良

條に、參河守範頼防州より豊後國葦原浦に渡ると録す。いま豊後に葦原浦なく、また當時の形情より推すに或は宇佐郡へ着船せしものにて、葦原浦と云ふも必定和間濱にあらずや。(和間神社) 大字松崎に鎮座。祭神、八幡大神外七柱。創建年代不詳。例祭、十一月十七日。

ワラ—ワルサ 和良

和良市(和良) 岐阜縣美濃國郡上郡の南部。岐阜市の東北方約四〇軒。北は奥明方村に、東より南にかけて東村、西は西和良村・口明方村に接す。美濃山地の中部に位し、南部には古生層より成る和良嶺(七一五米)・黒嶺(七九四米)が聳ゆ。北部鹿倉より鹿倉川が古生層山地を開闢して南流し、南部に小盆地を作り東折して和良川となり南折し、更に東南方へ峽谷をなして馬瀬川に合流す。この軒曲曲折の流路は構造線に關係ある如くに思はる。南端より北は鬼谷川發し武儀郡に至る。産業は山間僻地なれば振はず。主として林業に依存し、木炭は郡上炭の名を以て移出され、其他椎茸・山葵の産あり。川の流域には僅に耕地あるのみ。交通路も谷にのみ決定され、主として馬瀬川の谷に出で、西方の八幡(通流)に出過ぎず。鐵道の便悪く、高山嶺金山驛に出づるを便とす。本村は西和良村と共に和名抄に見ゆる郡上郡和良郷の地に於て中世も和良郷と稱され、江戸時代は郡上藩に屬し、のち幕領たり。大字宮地の地山城址は宮地と野尻の境山にあり、天正の頃、稻葉

ワン—ワンリ

西方なる莞川中岳(三〇八三米)・莞川前岳(約三〇六〇米)に連る山は南アルプスに珍しき鐘尾根をなし、起伏凹凸甚し。登山は南東麓の奥西河内谷の溪水と、大井川との合流点に近き椈島より行かれ、奥西河内谷の左岸高地なる小石下(一六八六米)・巖段(二〇七三米)を經、千枚小屋に至り、千枚岳を越えて達頂す。頂上の北東直下には万助小屋あり。莞川前岳の北方の鹽見岳方面乃至南方の赤石岳方面へ縱走するも亦興味深きものとす。  
\*莞川岳

ワン 莞島 朝鮮全羅南道莞島郡の主島。古今島及び新智島の西方にある長さ約一五軒の大島にして、その東側に長直路の西港ありて北方の馬島海に通じ、南西側は横着水道を隔てて所安群島と相對す。島内樹木茂生し、中央に象鼻峰(六四四米)聳ゆ。島周は特に南半に於て屈曲に富み、その南東側、即ち長直路西港に入るべき水道口の西側に莞島港あり、沿岸航路船寄港す。道路は莞島港より東岸に沿うて西北端の院洞里に至る三等道路あり、バスを通じ、院洞里より渡船にて達島を經、對岸の本陸部なる海南半島に至る。島民は多く牛農半漁にて、漁業に従事する者比較的少きも、沿海には海苔の養殖盛に行はれ、製品は本浦を經て内地へ移出せらる。

ワント— 莞島 朝鮮全羅南道二府二十郡一島の一。道の西南海上に基布する莞島、古今島・新智島・助島・生島・平日島・金塔島・青山島・所安群島等を以て構成せられ、面積四〇一・七方軒あり。莞島は最大にて面積六二方軒に及ぶ。これ等の諸島中、古今・助島・平日の諸島は東西に並列し、北は馬島海及び狭き馬島水道を距てて本陸部の康津郡・長興郡と相對し、その南側に並ぶ莞島・新智島等の間は謂ゆる長直路の水道をなす。郡の島民の大部分は農業に従事する者最も多く、漁業者は比較的少し。主要農産物は麥・粟・大豆にして、灌漑用水に乏しきため水田はなく、殆ど畑作なり。漁業は多く内地よりの出漁者によりて行はれ、鱈・鱈・鱈・石首魚・太刀魚・海鼠・天草・海苔・和布等の漁獲あり。各島中汽船の寄航するものは莞島・所安島にして莞島は釜山を起點とする沿海航路線・所安島は木浦・濟州線とす。行政上、莞島・郡外・新智・古今・金日・青山・所安・蓮花の八面に分ち、郡廳は莞島面に置く。人口約九萬、一方軒密度二一九人(昭和十年)にして道平均(一八一人)に比し可なり稠密せり。

良鎮地をなし、沿海航路船寄港す。莞島邑は郡の政治的中心にして、郡廳・警察署・漁業組合聯合會出張所・光州地方法院出張所等あり。  
ワンリ 灣裡 ↓善化庄(臺灣臺中州)

ワンキョ— 灣橋 臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛(明治四十三年設置)。臺灣州嘉義郡竹崎庄灣橋にあり。

凡 例

一、現在の府縣市町村及び國郡は全部見出しとして出し、古地名及び山川岬灣浦島海洋湖沼も主なるものは見出しに出してある。  
一、大字・字・温泉・鑛山等は著名なものだけ見出しに出し、他は城砦・社寺・名勝史蹟・人物等々と共に當該市町村の項下に記述するを原則とした。但し鑛山の如き、其鑛區二村以上に互るものは、見出しを獨立させて記述したのものもある。

一、見出しは之を二部に分つ。即ち地名の發音その儘を片假名で表はして之を上部に置き、地名に當てられる漢字を下部に置く。若し見出しの片假名と歴史的假名遣との異るときは、漢字の下に歴史的假名遣を附した。

- 例 アイチ 愛知  
アイカワ 相川  
イチノミヤ 一宮  
【二宮町】 千葉縣……………  
【二宮村】 石川縣……………

一、同音同字の項目が二つ以上ある場合、その配列は北東に存在するものを先とし、順次南西へと並べた。

- 【二宮村】 山梨縣……………
- 【二宮村】 静岡縣……………
- 【二宮市】 愛知縣……………
- 【二宮村】 島根縣……………
- 【二宮村】 岡山縣……………

一、見出しの片假名の部分には語幹の部分だけを掲げた。即ち府縣國都市町村島山川沼潟灣岬等に對應する假名を省いた。

例 アツギ 厚木町

アズマダケ 東嶽村

イカサ 井笠鐵道

ウラカワ 浦川町

ウラシベツ 浦士別川

エニワ 惠庭岳

一、本辭典の見出しは表音を以てした。従てつ京城はケージョー、飯田橋はイーダバシ、井伊・渭井の如きものはイイと表現されてある。

イ	ゐ	ジ	ぢ	ヒョー	ひよう・ひやう・へう
エ	ゑ	ズ	ヅ	ホー	ほう・はふ・ほう・ほふ
オ	を	ソー	さう・さふ・そう	ミョー	めう・みやう・みよう
オー	あう・あふ・おう・わう	チエー	ちう・ちゆう・ちふ	モー	まう・もう
カ	くわ	チョー	てう・てふ・ちやう・ちよう	ユー	いう・いふ・ゆう
キエー	きう・きふ・きゆう	トー	とう・たう・たふ	ヨー	えう・えふ・よう・やう
キョー	けう・けふ・きやう・きよう	ニエー	にう・にふ・にゆう	リエー	りう・りふ・りゆう
コー	こう・こふ・かう・かふ・くわう	ニョー	によう・ねう・ねふ	リョー	りやう・りよう・れう・れふ
シェー	しう・しふ・しゆう	ノー	なう・なふ・のう	ロー	らう・らふ・ろう
ショー	せう・せふ・しやう・しよう	ヒエー	ひう・ひゆう		

一、項目の配列は、見出しの片假名の第一字目によつて先づ五十音順に配列し、第二字目以下これに倣ふ。同じ片假名にして漢字の異なる場合は、漢字の第一字目の總劃數によつて順序立て、劃數少なきものを先とした。(但し伊師・石の如き場合、伊の方石より劃數多きものを前に置くを原則とした。)

- イ 井島 ……………
- イ 伊島 ……………
- イーアイ 飯合川 ……………
- イーエ 飯戸岡 ……………
- イーオカ 飯岡 ……………
- イイ 渭爲・渭井 ……………
- イウ 意宇 ……………



イウチ 井内峠

イオー 硫黄

イオキ 伊尾木村

イエ 伊江

イオー 醫王山・夷王山

イオキ 伊福

イエキ 家城村

イオージ 醫王寺

イエジマ 家島町

イオージマ 伊王島村

アガタ 吾田村

.....

.....

アガタ 英太

.....

.....

アガタ 英田

一、見出し中、同音異字にして何れも使用する場合は、或は古名・別名なる場合は左の如くした。

例 ウジ 宇治・菟道・鶴路ウジ

エゾ 蝦夷・夷狄・夷

一、現存市町村にして古へ異字が用ひられたる場合は左の如く表現して置いた。

例 アオ 阿尾(英遠)村アオ

アオ 阿保(安保)町アオ

一、見出しの漢字の部分に縣郡町村の文字を附したるは現存のものに限る。現存しない町村及び郷庄里などは町村郷庄里等の文字を見出しから省いてある。(但し古縣・古郡名に限り相川(縣)・飽田(郡)の如くした。

一、記號

一、〔 〕 各々獨立項目ではあるが、語幹的部分の共通なものが、二つ以上ある場合、別に柱を立てこの括弧を以て見出しに代へた。

例 イナサ 引佐

〔引佐郡〕

〔引佐細江〕

〔 〕 各市町村の項下に記すべき記事ではあるが、文章上の錯綜を避くるため、城・社寺・名勝史蹟天然記念物等は上記の括弧を用ひて當該市町村の項末に附した。

例 イナズ 稻津村イナズ 岐阜縣美濃國土岐郡の東部.....〔八幡神社〕.....

引用文中、原文のまま、記載した場合、上記の括弧を用ひた。

例 〔今切〕靜岡縣濱名湖の切れて海に接する所.....好色一代男・二抱の人に際りて今切の女手形も人の.....

或る他の項目と聯關せしめて記述するを適當と認めた場合、その相手項目を見よの意味で上記の記號を用ひた。

例 イズサン 伊豆山イズサン ↓熱海市

當該項目が他の項目に關聯ある場合、その關聯項目を参照せよとの意味で上記の記號を用ひた。

例 〔妹背川〕大和國の妹山と背山との中を流る、吉野川のこと.....\*妹背山

編纂顧問・執筆諸家

(五十音順)

編纂顧問

執筆諸家

京都帝國大學名譽教授 文學博士 石橋五郎  
 東京文理科大學教授 文學博士 喜田貞吉  
 東京帝國大學名譽教授 文學博士 田中啓爾  
 東京帝國大學名譽教授 文學博士 辻善之助  
 東京帝國大學名譽教授 文學博士 脇水鐵五郎  
 東京帝國大學教授 文學博士 渡邊萬次郎  
 東京帝國大學助教授 文學博士 金田一京助  
 京都帝國大學名譽教授 文學博士 佐佐木信綱  
 文部省國寶鑑定官 文學博士 新村出  
 丸尾彰三郎  
 東京帝國博物館美術課長 文學博士 溝口禎次郎  
 東京帝國大學教授 文學博士 宮地直一  
 大正大學教授 文學博士 矢吹慶輝

名古屋高等商業學校教授 淡川康一  
 新潟高等學校教授 安藤祐專  
 西山專門學校教授・京都帝國大學囑託 井川定慶  
 京都帝國大學國史研究室 池田源太  
 京都帝國大學名譽教授 文學博士 石橋五郎  
 浦和女子師範學校教諭 磯崎優  
 內務省神社局考證課 梅田義彦  
 日本大學教授 大島延次郎  
 關谷大學講師 岡村精一  
 京都帝國大學教授 文學博士 織田武雄  
 奈良女子高等師範學校教授 澤瀉久孝  
 帷子二郎

東京文理科大學地理學教室 文學博士 喜田貞吉  
 上智大學講師 國島秀雄  
 內務省技師 國松久彌  
 京都帝國大學教授 小坂立夫  
 東京帝國博物館鑑定官 文學博士 小牧實繁  
 後藤守一  
 奈良女子高等師範學校教授 文學博士 佐佐木信綱  
 佐藤小吉  
 東京商科大學教授 佐藤弘  
 坂本哲朗  
 下村彦一  
 立石新吾  
 廣島高等師範學校教授 田中薰  
 臺北帝國大學講師 田中啓爾  
 東京文理科大學助教授 田中秀作  
 產根高等商業學校教授 田中館秀三  
 臺北帝國大學講師 小樽高等商業學校講師 田村剛  
 東京帝國大學講師 內務省技師 林學博士 田村剛

東京帝國大學史料編纂官 高柳光壽  
 臺北帝國大學助教授 丹桂之助  
 臺北帝國大學附屬圖書館 梁梁標  
 高松高等商業學校教授 寺田貞次  
 新潟高等學校教授 德重英助  
 臺北帝國大學教授 中村喜代三  
 臺北帝國大學文政學部 中村孝志  
 京都帝國大學教授 文學博士 西田直二郎  
 奈良女子高等師範學校教授 西田與四郎  
 山口高等商業學校教授 西山榮久  
 東京高等師範學校教授 花井重次  
 神戶市史編纂員 日置彌三郎  
 北海道帝國大學豫科教授 檜垣良一  
 長崎高等商業學校教授 伏見義夫  
 文部省維新史料編纂官 藤井甚太郎  
 第三高等學校教授 藤田元春  
 大阪高等學校教授 淵脇英雄  
 臺北帝國大學文政學部

東京文理科大學地理學教室	增	澤	淑
臺北帝國大學文政學部	榊	田	一
東京帝國大學史料編纂官補	松	本	盛
臺北帝國大學文政學部	松	本	周
內務省神戶局教務官	宮	本	延
	矢	尾	板
臺北帝國大學助教授	山	崎	麓
	山	本	由
東京文理科大學講師	吉	田	敬
東京帝國大學名譽教授	理學博士	吉	村
東北帝國大學教授	理學博士	協	水
	理學博士	渡	邊
	理學博士	萬	次
		郎	

## 日本地名大辭典の 最終の校了を見届けて

日本書房 澤田久雄

二十五年來の宿望、十年來の計畫を具現して、日本地名大辭典の第一卷を世に送つたのは、實に昨十二年十月のこと、時恰も聖友たちは「歡呼の聲に送られて」頻りに戰場に向ひつゝあつた。之よりさき私の先輩や友人の中には、私のこの處女出版に對して「この時勢に、この尨大な難事業、殊に戦争とは縁もゆかりもない地名辭典などは、先づ差控へた方がよからう」と忠告する者が多かつた。

然し私は考へた。此度の戦争は、日清、日露などの戦争とは違ふ。それ等の戦争は戰場に於ける勝敗で全體の勝負がついたのだ。然るに此度の戦争は、それだけで戦争が終るのではなくして、實に日本國民と中華國民とが眞の握手ができるまでは、戦争の繼續と看做すべきもの、從て國內も、それまでは戦時體勢でなければならぬ、否この東亞の安定に對して邪魔だてする者があれば、更に戦時體勢は繼續せられねばならぬ、と考へたのであつた。

されば、燈火は管制されても仕事を休んではならぬ如く、戦争によつて平和産業が萎縮するやうな事があつてはならぬし、また此様な状態をほんの一次的なものと観るに於ては、大いなる誤算を來すと思つた。

戦場にある人々に彈藥・食料其他を充分送るために、銃後にある人々は如何なる艱難をも忍ばねばならぬことは勿論ではあるが、戦場へ充分なものを送り、なほ且つ銃後の人々も充實した生活ができるならば、之を理想とせねばならぬ。歐洲大戦當時に於ける歐洲各國の難澁と、今日の我國民のそれとを比較するならば、今日の我が状態は、かなり理想に近いと云はざるを得ない。而してそれは、如何に我國が充實してゐるかの證據として、私は國民諸氏と共に同慶に堪えないが、然し戦争が長期に亙ることを念頭において、精神と肉體とを健全に保つ以外のものは、ぜひ節約せねばならぬこと勿論である。

とまれ、私は右のやうな考のもとに、また、戦場に於ける聖友たちの苦難を切實に偲ぶ此時代にあつてなら、如何なる難苦にも堪え得て、難業も亦果し得るであらうとの確信を以て、身に餘る大業を強て處女出版として選ぶこととなつた。而して當時の出版界は、或は萎縮では無かつたかも知れないが、事實新規の出版は殆んど見られなかつた。

かうした状態下に、大膽にも地名辭典といふ難業を成さうとするには、もう一つ見逃すことの出来ない原因があつた。それは地理歴史研究會の援助である。以前より同會では、さうした物の出現を欲してゐたさうで「さういふ方面の援助なら惜みなく力に成らう」との快諾、この快諾は、私が決心するのに與つて大いに力があつたし、私は一層力強く出發することも出來たし、また爾來絶大なる御後援を仰いだことであつた。

二

少しく私事に亙るが、私が地名辭典を出すに至つた経緯を茲に述べて、今は亡き叔父の靈への奉告を兼ねたいと思ふ。叔父は少年時代しか故郷に居なかつた。殊に未だよく啓けない頃の臺灣などに長く居たせいか、故郷を思慕すること甚だ深かつた。偶々叔父は病床に臥したが、遠隔の地に居たこと、て、多くの兄弟姉妹を持ちながら臨終前に走せ参じたものは、この甥一人であつた。

そして叔父は云ふのであつた。「郷土誌を編まうと思つたが、讀んだだけで終るところだ。自分の生活に直接關係のなささうなものは、感激なくしては出來ないものだ。お前も不幸にして幼い時から異郷に住んでゐるが、もし感激が持てるなら、この事業を繼承してくれ」と。かくて枕頭に積み上げられた資料は、越後・岩代國境の一山村や一河津の町のみに関するものとは到底思はれぬ大量であつた。聞けば「祖先の地は、身を置くに處なき敗慘の人々の隠れ場所として好適な處であつた。而して、その人々の先を尋ねようとすると、諸々方々に關聯を持ち、勿論國史も一通り調べなければならぬ、と云ふやうな譯で、遂にいろんな本を集めなければならぬ成つてね」とのことであつた。

叔父から繼承した資料は大震災の際、東京・日本橋の濱町で一冊も残さず焼いて了つた。が然し私は、叔父の臨終の志だけは、しつかりと抱き續けて來た。かうした關係でもあらうか、私は地理や歴史が好きで、大學乃至大學院時代には社會學を専攻して居ながら、とかく地歴を之に結びつけて研究する傾向があつた。

かくて、風土記以來、幾度か全日本の地誌編纂が試みられながら途中で挫折したことを知り、また明治維新の

直後、政府が必要に迫られて之を試みたが、その事業が困難なるため僅かに簡単な地誌提要を得るに止まつたことを知り、更に、發刊の辭に述べし如く現に甚だ必要なることを自ら感じて、己が郷土誌の念願は一大飛躍して、全日本の地誌編纂を志すに至つた。偶々平凡社の大百科事典の編纂を自分が主宰し、此種經驗を得るに及んで、愈々編纂方面にも確信を有するようになった。

私は、一方に於て平凡社の大百科事典全廿八卷、大辭典全廿六卷の編纂を主宰すると共に、他方ひそかに地名辭典の準備を進めて來た。そして「大辭典完成ののちには、地名辭典、次に人名辭典、次に國書解題と各々世に送り、之だけを完了したら編纂事業から足を洗はう。爾後は、母と祖母とに死別以來の念願——而も常に自分の聖職とし本願として研究考察し續けて來たもの——即ち人生社會に就て、しんみりと考察したいといふ念願を満喫することにしよう。」かう考へて居たのであつた。

然るに平凡社では、所期の目的たる大百科事典と大辭典とを完成したので、豫定通り辭典編纂局は解散することとなつた。茲に於て私は、獨立して日本書房を興し、その處女出版として日本地名大辭典を、世に送ることとなつた次第である。

### 三

地名辭典の編纂にあつては、編纂顧問の諸先生は元より、大先覺諸先生より有難き御叱正、懇篤なる御指導を戴いたが、その外に私個人に對して温き御鞭撻を戴いたことは、何物にも優る推進力であつた。最高の識者が自分のやつてゐる仕事に意義を認めて下さる——これほど大きな推進力が外にあらうか。「私は倒れるまでやりま

す」と御答へして邁進する以外、何事をも何物をも顧るに暇なかつた。

原稿執筆の諸先生に於かれては、恰も國家事業への参加の如き眞剣さを以て臨んで下された。例へば、原稿締切期日に遅れた時など、私として恐懼おく所を知らざる態の詭狀を寄せられる程であつた。こんな時には、自分の責任の重大を感じ、かの御氣持に報いまつるよう、かの御援助が無にならぬよう、どうしても完成せしめねばならぬと、肝に銘じたことである。最初の公約通り間違なく全卷を刊行し得たことは、諸先生のかうした眞剣な御援助の資たるは言を俟たない。以上諸先生の芳名は一々茲に列記すべきであるが、編纂顧問及び執筆諸家として別に掲載し、甚だ失禮であるが茲では省略さして戴く。

また此度は、中央及び地方の諸官衙並びに諸學校から非常な御厄介になつた。特に内務省地方局及び神社局、文部省宗教局には多大な御厄介になつた。例へば地方局などでは、朝九時から午后四時までを一日とし延日數にして幾百日を、廳舎内に席を興へて下さつたことであらう。其外にまた忙しい時局に、幾百回電話を以て種々な照會をしたことであらう。その度毎に一々調査の上回答を興へて下さつたのである。神社局、宗教局でもほゞ同様な御厄介になつた。いま全國の諸官衙諸學校及び種々な資料を賜つた郷土研究の諸氏へと共に、滿腔の謝意を茲に捧ぐ。

なほ編纂以外種々な意味に於て御鞭撻御援助を賜つた石川林益・下中彌三郎・田中館秀三・徳富蘇峰・戸田貞三・矢吹慶輝(順序不同多謝)の諸先生並びに、赤城源三郎・東興亮・井川定慶・石田松太郎・木村亥吉・佐久間鎮雄・川上胖・佐藤好・佐藤八平・佐藤行雄・島田利長・高橋永雄・中村喜代三・蜂屋勇・檜垣良一(順序不同多謝)の諸氏に、いま無量の感慨に打たれつ、深甚なる謝意を表す。また編輯以外に經驗なき私を助けて、調製・營

業等のことにつき御援助下された古巣平凡社の諸賢に感謝を捧ぐ。

次に、編輯者としては非常に神経質的な私を見捨てず、また頼まれたり雇はれたりでは、到底なし得ない無理な仕事に對し、終始私と共に地名辭典の完成に努力された編輯部の諸氏に「諸氏と共に——なるが故に、公約通り、また其他にも坐折なく、この難事業が完成致しました」の一言を以て感謝の辭に代へたいと思ふ。特に、少なからぬ若き部員の過言をば、事業そのものに免じて、寛容よく最初より最終まで、終日終夜長い間、御指導を賜はつた坂本哲朗先生(主として地理方面を御指導)と増澤淑先生(主として歴史方面を御指導)、また戦争のやうな混亂の中に、人の和をはかり、諸方の連絡をよく保ち、私と全く同一體となつて完成に導いた今關善藏・鎌田敬止・小池英三・中村英一・廣田謙三・森鮮朗並びに今は出征の途にある門田八十八の諸氏に感謝を捧ぐ。

#### 四

地名辭典の編纂にあつて、編纂顧問の諸先生より懇篤な御指導を戴き、且つ執筆の諸先生からは立派な原稿を戴いたにも拘らず、なほ瑕瑾に乏しくない。これは顧問並びに執筆の諸先生の過失にあらざるは勿論、編輯部諸氏の過失として責むるも當らず、編輯統轄者たると共に、實に事業經營の責任者たる私に、罪を歸せらるべきを天下に乞ふ。

辭典の上で、一村の説明が十五行乃至二十行に表はされてゐるものも、實は地理・歴史・神社・寺院等々、各々別々に専門の方々によつて記され、これを編輯部で綜合した、その結果である。然るに歴史的方面に概して變化なきも、市町村の現勢の如き、光陰と共に移る。されば、全市町村等の現勢を、一定時の状況を以て一貫せし

め、以て、變化極まりない物に對する、せめてもの價値づけをしようと思つた。以上の如き錯雜せる編輯、また時間的制限、更に重き經濟的制約のもと、非才な私としては、實は果し得たる最高の成果——而も明るみへ出して見れば、かなり瑕瑾のある、貧しき贈物ではあつた。

若し之を將來、正確にして有益な建物の土臺の、そのまた下の割栗石としてでも世に用ひられるならば、以て自らは瞑せんとするもの、されど顧問並びに執筆の諸先生には全く申譯なき次第と、今更に身に餘る難業に手を下せる自らの不覺を諸先生に謝するものである。但し之が絶えざる増訂は私の終生の責務として繼續する意志あることを茲に誓つて、せめてもの御寛恕を乞ふの手土産と思ふ。同時に將來、江湖諸賢の御叱正を切に念願して止まないものである。

昭和十三年十二月三日

製複許不



日本地名大辭典  
第 6 卷

昭和十二年十月二十六日初版發行  
昭和十四年三月十五日改定第二版發行

〔定價十五圓〕

編輯兼  
發行者 澤田久雄

東京市目黒區中目黒三ノ二九〇

印刷者 君島潔

東京市小石川區久堅町一〇八

發行所 日本書房

東京市目黒區中目黒三ノ二九〇  
電話東京三一七一〇番  
電傳大崎一三四二番

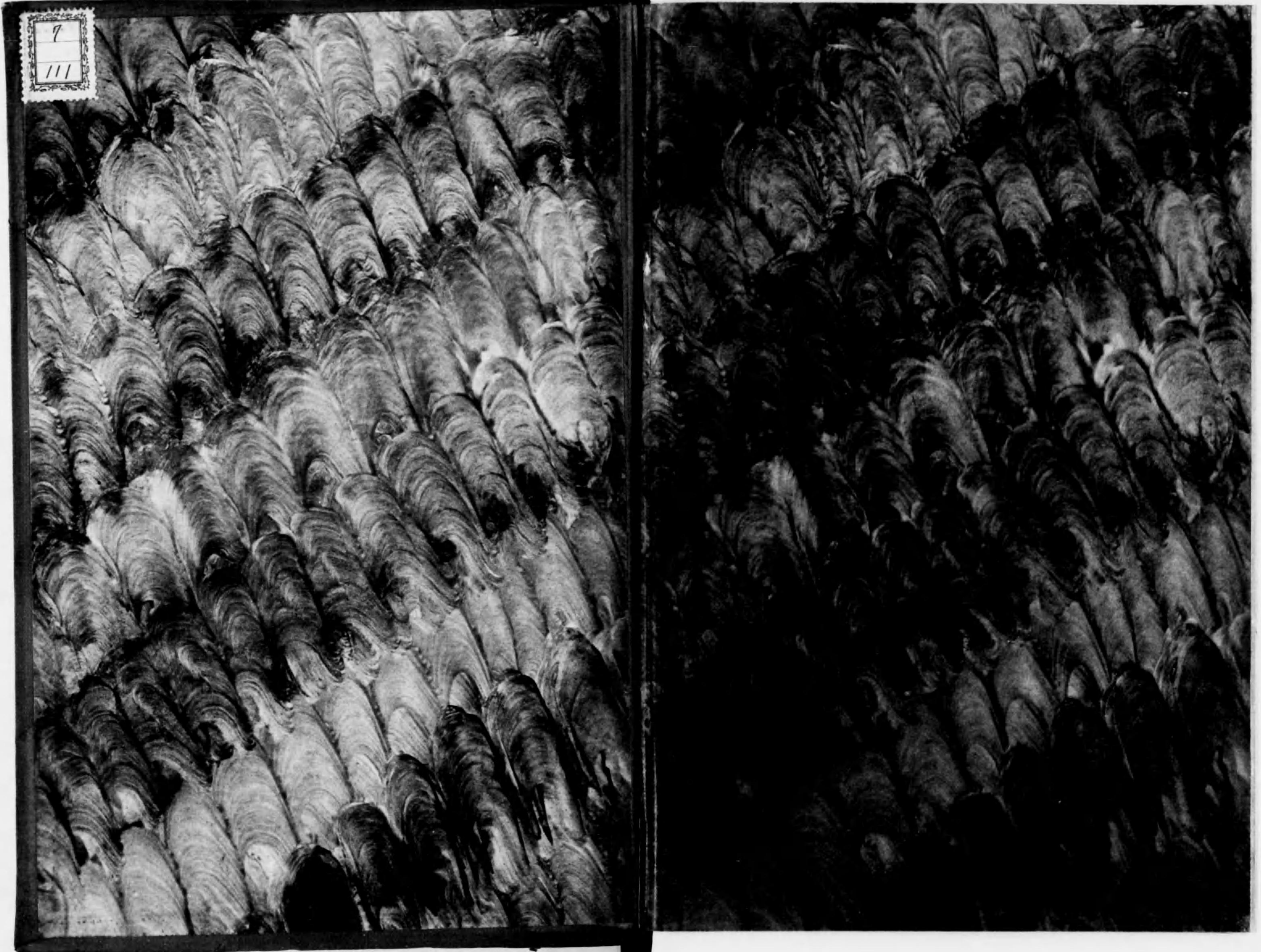
印刷所 共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町一〇八

製本所 村田文泉閣

東京市目黒區目黒三ノ二九〇番

7  
///





終

終